

令和7年度
男女共同参画に関する
市民・事業所意識調査
報告書

令和8年3月
小千谷市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査概要.....	1
3. 報告書の見方.....	1
第2章 調査結果の概要	3
第3章 市民アンケート調査結果	6
1. 回答者について.....	6
2. 男女の地位の平等について.....	11
3. 家庭生活・地域活動について.....	26
4. 男女の職業生活に対する考え方について.....	56
5. 男女の人権について.....	67
6. 男女共同参画社会の推進に関することについて.....	89
7. 自由記述.....	105
第4章 事業者アンケート調査結果	109
1. 事業所について.....	109
2. 女性の活躍推進に向けた取組について.....	112
3. 仕事と家庭の両立への支援について.....	115
4. 職場におけるハラスメントについて.....	124
5. 男女共同参画社会の推進に関することについて.....	125
6. 自由記述.....	126
資料編 アンケート調査票	127
1. 市民アンケート調査票	127
2. 事業者アンケート調査票.....	142

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

令和3年度に策定した「第5次おぢや男女共同参画プラン」が令和8年度末に期間終了を迎えるにあたり、計画の見直しに向けて今後の施策の基礎資料とするため、男女共同参画に関するアンケートを実施しました。

2. 調査概要

(1) 市民アンケート

調査対象：小千谷市内在住の令和7年10月1日現在で満18歳以上の男女

標本数：1,000人(住民基本台帳から無作為抽出)

調査方法：配布は郵送方式、回答は郵送方式及びWeb方式

調査期間：令和7年10月20日～令和7年11月14日

回収数：558件(回収率55.8%)

(2) 事業所アンケート

調査対象：小千谷市内の事業所

標本数：100社

調査方法：配布は郵送方式、回答は郵送方式及びWeb方式

調査期間：令和7年10月20日～令和7年11月14日

回収数：62件(回収率62.0%)

3. 報告書の見方

○回答結果の割合「%」は、小数点以下第2位で四捨五入したものです。このため、合計値が100.0%にならない場合があります。

○複数回答形式(2つ以上の選択肢を選ぶ形式)の場合、合計は100.0%を超えます。

○図表中の「不明」とは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

○図表中の「n」は、有効標本数(集計対象者総数)、あるいは分類別の該当対象者数を示しています。

○本文中の設問の選択肢について、文字数が多いものは簡略化している場合があります。

○調査結果における「前回調査」とは、現行計画策定時に実施した調査(令和2年10月実施)の結果になります。

○市民アンケートの一部の設問では、新潟県・全国の結果との比較を行っています。
新潟県・全国の調査の概要については、以下の通りです。

新潟県	「令和2年度男女平等社会づくりに向けた県民意識調査」 実施時期：令和2年8月 調査対象：令和2年4月1日現在で、新潟県に在住している満18歳以上の男女 有効回答数：989件
全国	「男女共同参画社会に関する世論調査」 実施時期：令和6年9月 調査対象：全国18歳以上の日本国籍を有する者 有効回答数：2,673件

第2章 調査結果の概要

1. 男女共同参画を取り巻く社会背景と市民意識の全体像

近年、少子高齢化の進行や共働き世帯の増加、働き方改革の推進などを背景に、性別にかかわらず多様な生き方や働き方を選択できる社会の実現が求められています。こうした社会潮流の中で、本調査からは、男女共同参画の必要性そのものについては、幅広い世代で一定の理解が進んでいることがうかがえます。一方で、その具体的な内容や実現のあり方については、性別や年代によって受け止め方に差があり、意識の多様化が進んでいる状況が明らかとなっています。

特に、若い世代では柔軟な価値観を前提に男女の役割を捉える傾向が見られる一方で、中高年層では従来の価値観との間で戸惑いや慎重な姿勢も見受けられます。男女共同参画を推進していく上では、こうした世代間・立場間の意識の違いを踏まえ、市民一人ひとりが自分事として理解しやすい形で施策を進めていくことが重要です。

2. 男女の地位の平等に関する認識

家庭、職場、地域社会、政治・経済活動などの各場面における男女の地位については、「平等である」と感じている人が一定数いる一方で、「男性の方が優遇されている」と感じている人も少なくありませんでした。特に、家庭や社会慣習、政治・経済分野では、女性や中高年層を中心に、男女間の不平等が依然として残っているとの認識が強く見られます。一方、男性では「平等」と捉える割合が比較的高い傾向にあり、同じ社会状況を見ていても、立場によって受け止め方に差があることがうかがえます。

一方で、前回調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」との認識は家庭、職場で減少しており、一定の改善傾向が認められます。さらに、新潟県・全国と比較すると、小千谷市は家庭・職場いずれの場面においても「男性の方が優遇されている」と感じる割合が低く、「平等」と感じる割合が高い傾向にあります。地域の特性を踏まえながら、引き続き意識啓発の取組を進めることが求められます。

事業所調査において、管理職に占める女性の割合は増加傾向にあります。しかし、依然として管理職の約8割を男性が占めており、女性管理職の登用はまだ限定的な状況にあります。

また、職場における女性の活用を困難にしている要因として最も多く挙げられたのは「家庭生活（家事、子育て、介護等）の負担を考慮する必要がある」であり、次いで「女性自身が昇進・昇格に消極的」、「時間外労働や深夜労働をさせにくい」の順となっています。これは個々の能力の問題ではなく、これまでの雇用慣行や家庭内役割分担の影響が複合的に作用していると考えられます。

これらの結果から、法制度の整備が一定程度進んでいる一方で、日常生活や慣習の中に残る無意識の思い込みや固定的な性別役割意識が、男女の地位の平等に対する認識の差につながっている可能性が示唆されます。今後は、制度面の充実とあわせて、意識啓発や学習の機会を通じた理解の深化が求められます。

3. 家庭生活・地域活動における役割分担の実態

家庭内における家事、子育て、介護などについては、「男女で平等に分担すべきである」と考える人が多数を占めています。しかし、実際の役割分担を見ると、掃除や洗濯、食事の準備、子育て、介護など多くの場面で、女性が主に担っている割合が高く、意識と実態との間に差があることが明らかとなっています。特に高齢世代では、家事や介護を女性が担う傾向が強く、世代間で役割分担の実態に違いが見られます。

一方、若い世代では、家事や子育てを平等に分担している割合が比較的高く、家庭内の役割分担に対する考え方が変化しつつあることもうかがえます。家庭生活や地域活動を持続可能なものとするためには、男女のどちらかに負担が偏らないよう、個々の家庭の事情に応じた柔軟な役割分担を支える環境づくりが重要です。

4. 就労・仕事と生活の両立に関する意識

仕事と家庭生活の両立については、多くの市民がその重要性を認識している一方で、実際には長時間労働や人手不足などにより、十分な両立が難しいと感じている実態が示されています。特に子育て世代や介護を担う世代では、時間的制約や心理的負担が大きく、働き方の柔軟性が強く求められています。事業所調査では、ワーク・ライフ・バランスへの取組について「法律で義務付けられた内容のみ取り組んでいる」が最多であり、「積極的に取り組んでいる」は約2割にとどまっています。育児・介護休業制度等の整備は一定程度進んでいるものの、積極的な実践には事業所間でばらつきがある状況です。

また、休業取得の課題として「代替要員の確保」が最も多く挙げられており、中小事業所における支援の必要性が示唆されます。今後は、テレワークやフレックスタイム制など多様な働き方の導入を促進するとともに、企業と行政が連携し、持続可能な両立支援体制を構築することが求められます。

5. 人権・暴力・生活上の困難に関する課題

DVや経済的困難、社会的孤立などに関する設問からは、一定割合の市民が生活上の困難を経験している実態が明らかとなっています。特に女性では、DVや経済的不安、子育てや介護による負担を感じている割合が高く、支援の必要性が強く示されています。

一方で、困難な状況にあっても「相談しなかった」とする回答も一定数見られ、支援制度や相談窓口が十分に活用されていない状況もうかがえます。これらの結果から、支援の充実だけでなく、安心して相談できる体制づくりや、制度の分かりやすい周知が重要な課題であるといえます。困難を抱える人が孤立せず、早期に支援につながる仕組みづくりが求められます。

6. 男女共同参画施策の認知状況と今後の方向性

男女共同参画に関する法律や市の計画については、「聞いたことはあるが内容は知らない」とする回答が多く、施策の認知や理解が十分とはいえない状況が明らかとなっています。一方で、今後市が力を入れるべき取組としては、子育てや介護を社会全体で支える仕組みの充実、男女共同参画に関する意識啓発や学習機会の提供、働き方の見直しなどが重視されています。

事業所においても、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍推進に関する取組は進みつつあるものの、積極的な実践には差があり、行政による支援や好事例の共有が求められます。これらの結

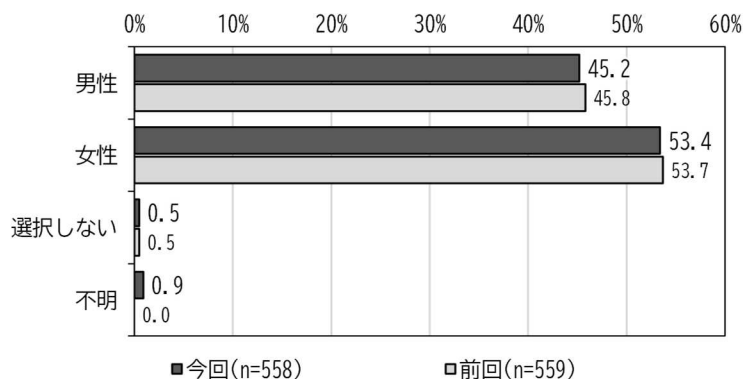
果から、男女共同参画は特定の人を対象とした施策ではなく、すべての市民が安心して生活し、能力を発揮できる社会を実現するための基盤であることが改めて示されています。今後は、制度整備と意識啓発を両輪とし、市民にとって身近で理解しやすい形で男女共同参画の推進を図っていくことが重要です。

第3章 市民アンケート調査結果

1. 回答者について

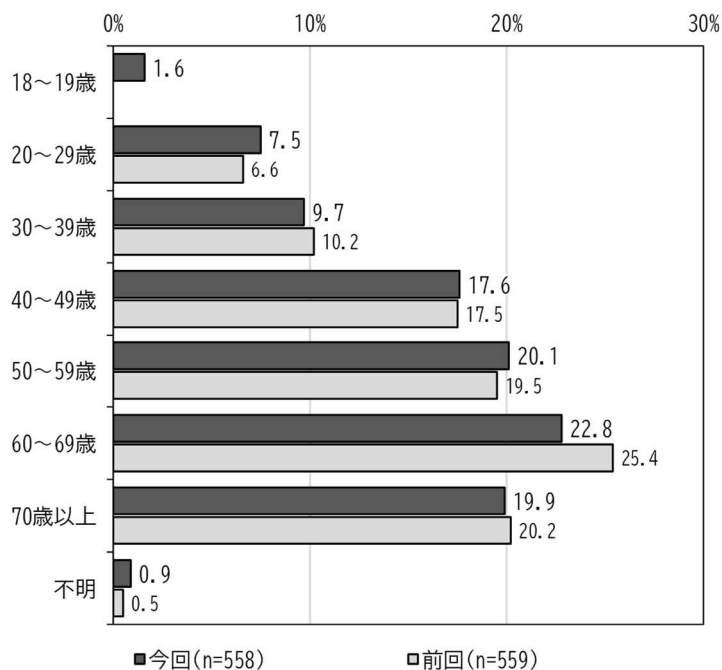
(1) あなたの性別をお知らせください。(○は1つだけ)

- 「女性」が53.4%で、「男性」の45.2%を上回っています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向になっています。



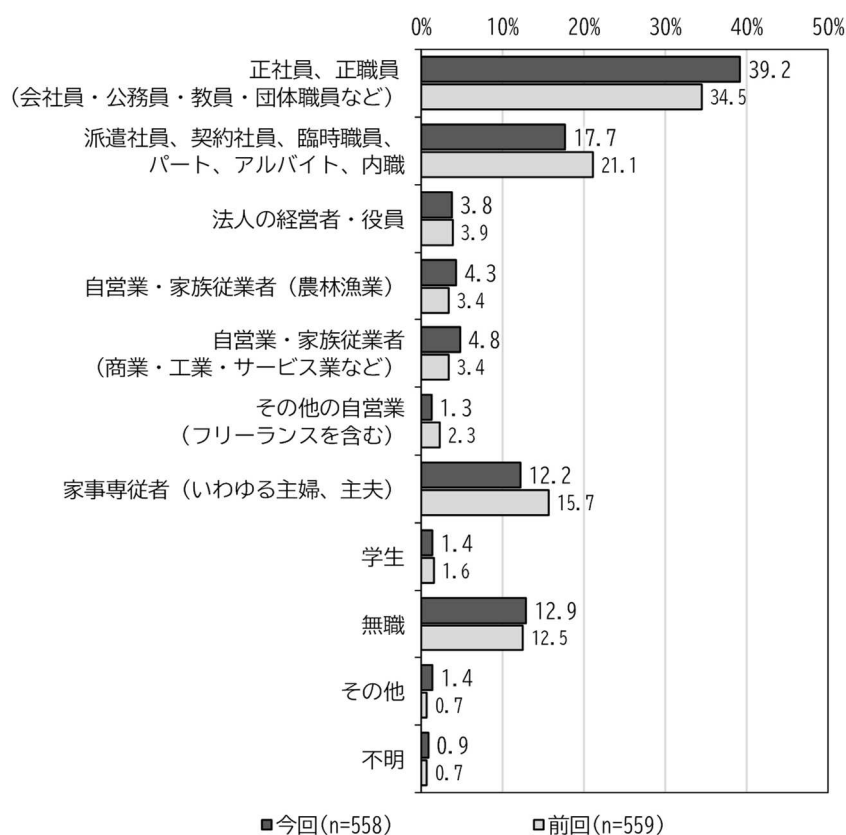
(2) あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つだけ)

- 「60～69歳」が22.8%で最も高く、次いで「50～59歳」が20.1%、「70歳以上」が19.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向になっています。



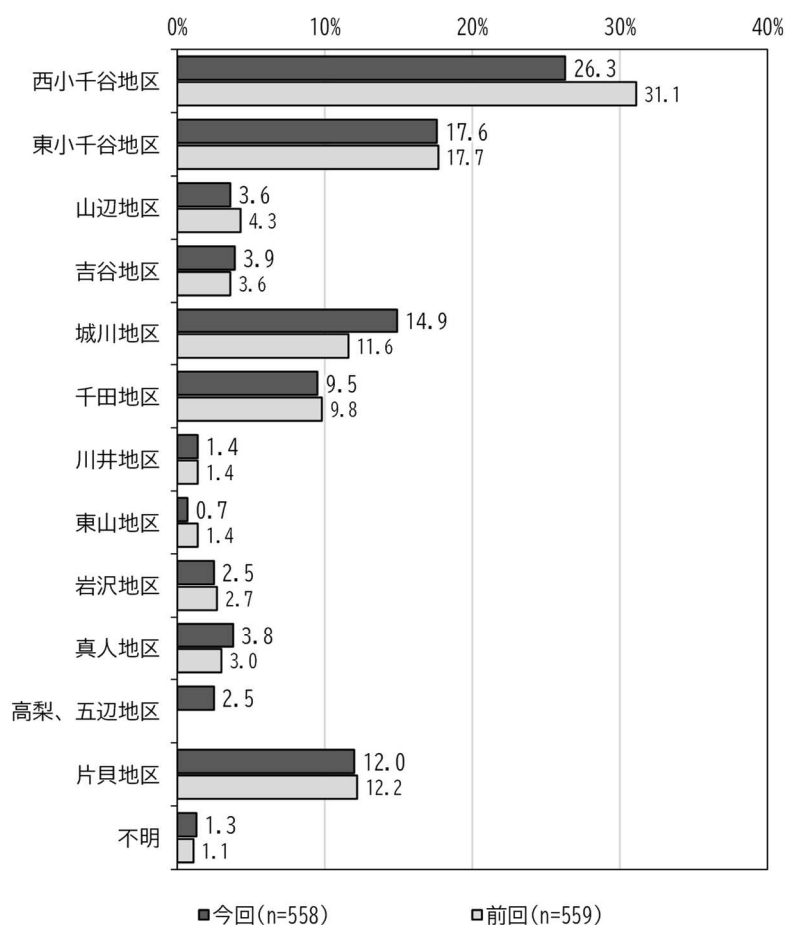
(3) あなたのご職業は何ですか。(○は1つだけ)

- 「正社員、正職員(会社員・公務員・教員・団体職員など)」が39.2%で最も高く、次いで「派遣社員、契約社員、臨時職員、パート、アルバイト、内職」が17.7%、「無職」が12.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向になっています。



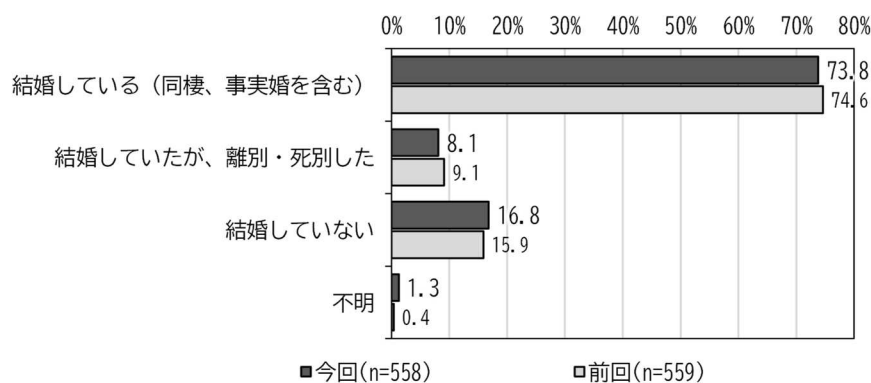
(4) あなたのお住まいの地域はどちらですか。(○は1つだけ)

- 「西小千谷地区」が26.3%で最も高く、次いで「東小千谷地区」が17.6%、「城川地区」が14.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向になっています。



(5) あなたは現在結婚されていますか。(○は1つだけ)

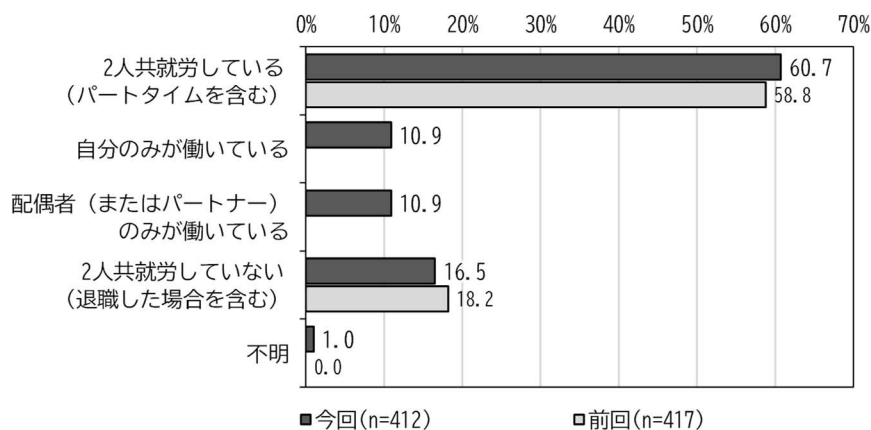
- 「結婚している(同棲、事実婚を含む)」が73.8%で最も高く、次いで「結婚していない」が16.8%、「結婚していたが、離別・死別した」が8.1%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向になっています。



(6) [(5)で「1. 結婚している（同棲、事実婚を含む）」とお答えになった方におたずねします。]

あなたと配偶者（またはパートナー）の就労状況は次のどれにあてはまりますか。（○は1つだけ）

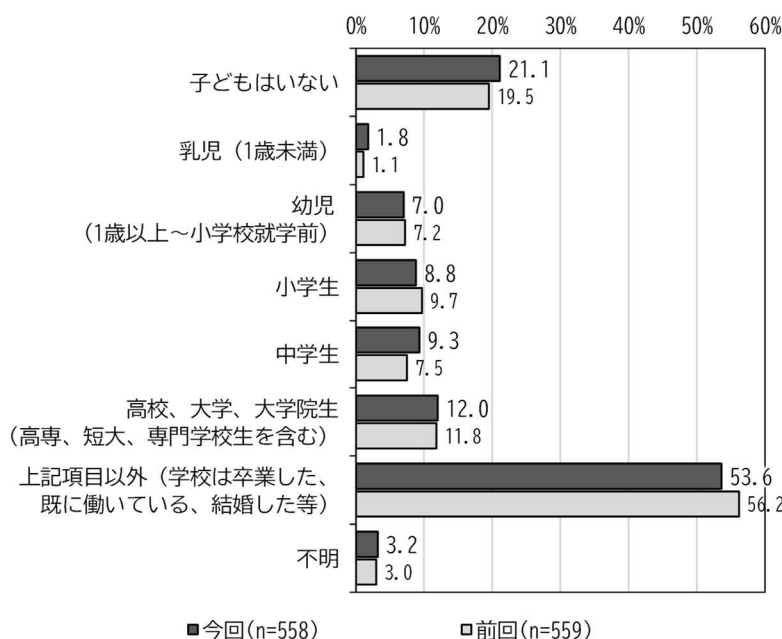
- 「2人共就労している（パートタイムを含む）」が60.7%で最も高く、次いで「2人共就労していない（退職した場合を含む）」が16.5%、「自分のみが働いている」「配偶者（またはパートナー）のみが働いている」が10.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、同じ選択肢の項目については、概ね同様の傾向になっています。



※前回調査では、「自分のみが働いている」、「配偶者（またはパートナー）のみが働いている」に代えて、「夫のみが働いている」（15.1%）及び「妻のみが働いている」（7.9%）を個別の選択肢として設定していた。これらはグラフに表示していないため、前回調査の合計値は100%とならない。

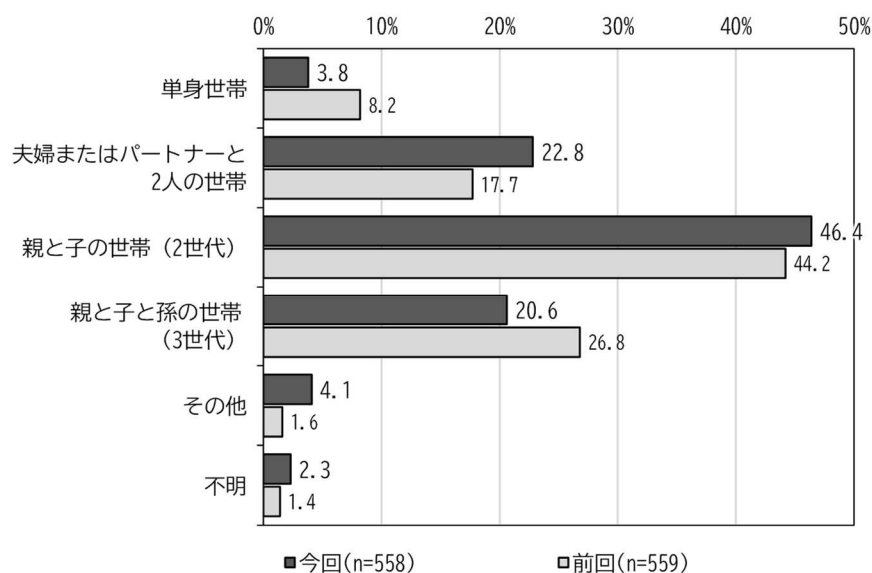
(7) あなたにはお子さんはいますか。（○はあてはまるものすべて）

- 「上記項目以外（学校は卒業した、既に働いている、結婚した等）」が53.6%で最も高く、次いで「子どもはいない」が21.1%、「高校、大学、大学院生（高専、短大、専門学校生を含む）」が12.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向になっています。



(8) あなたの現在の世帯構成（同居している方のみ）は、次のうちどれですか。
 (○は1つだけ)

- 「親と子の世帯(2世代)」が46.4%で最も高く、次いで「夫婦またはパートナーと2人の世帯」が22.8%、「親と子と孫の世帯(3世代)」が20.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、「夫婦またはパートナーと2人の世帯」が増加し、「親と子と孫の世帯(3世代)」が減少しています。



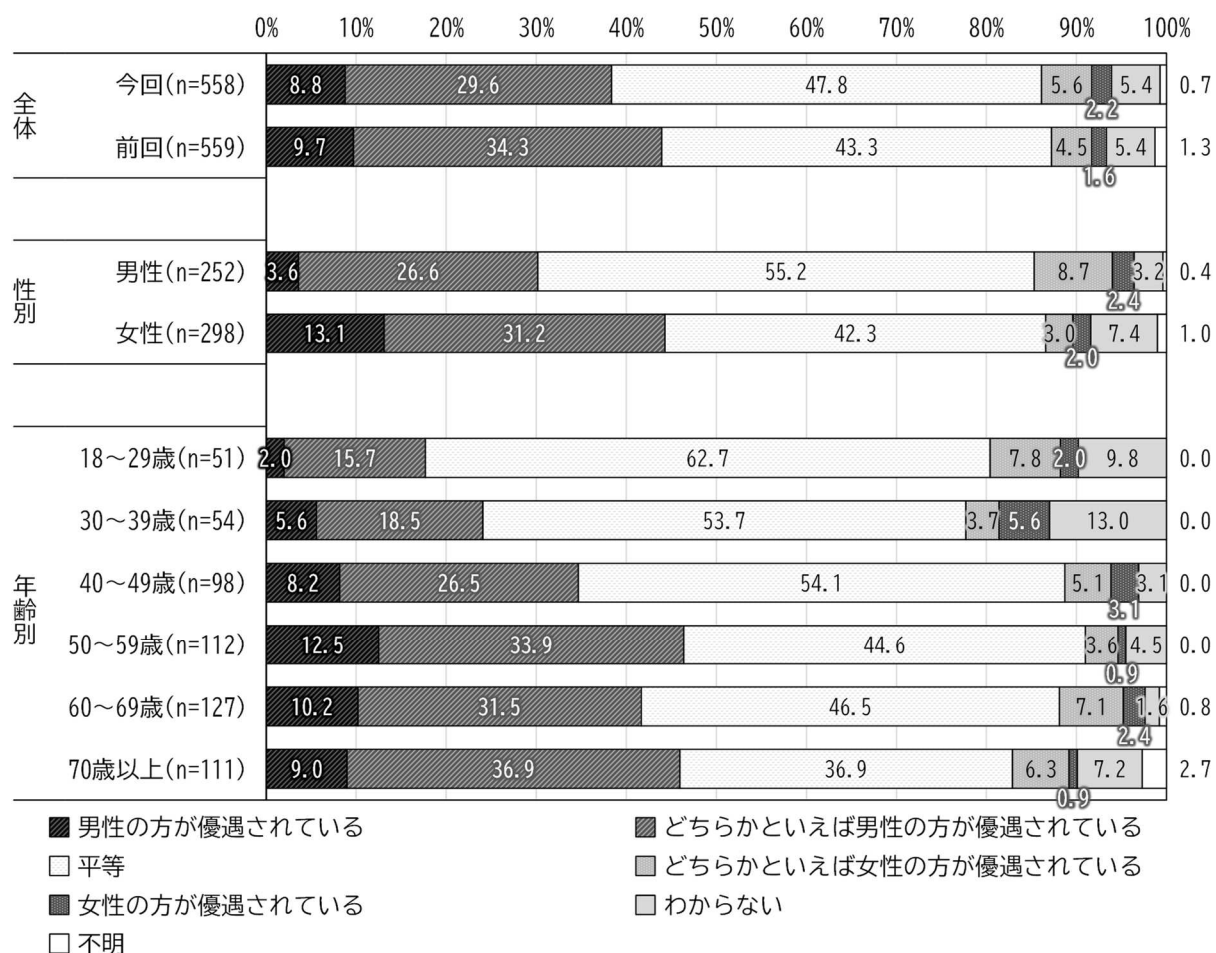
2. 男女の地位の平等について

問1 あなたは、(1)～(7)のような場面における男女の地位の平等について、どのように思いますか。それぞれ1つずつお選びください。

※ 分析にあたって、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計を『男性の方が優遇されている』、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」の合計を『女性の方が優遇されている』と表記します。

(1) 家庭の中で

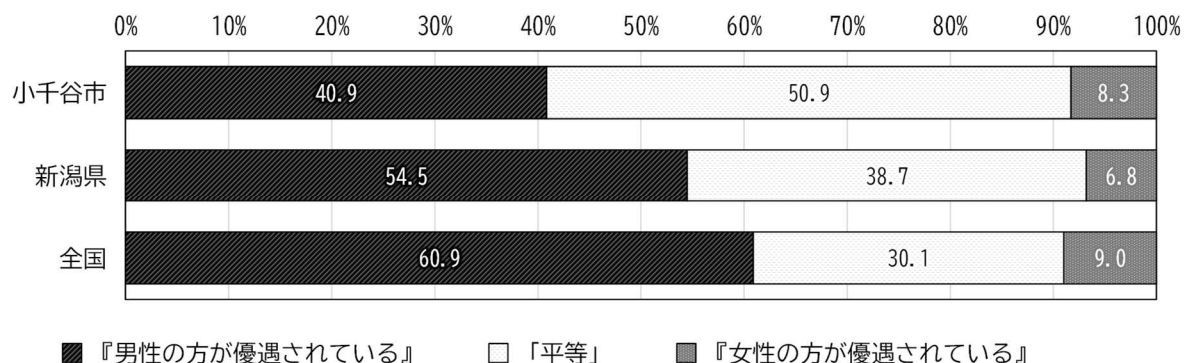
- 「平等」が47.8%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が29.6%、「男性の方が優遇されている」が8.8%となっています。
- 前回調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』が5.6ポイント減少しています。
- 性別で見ると、男性では「平等」が12.9ポイント高く、女性では『男性の方が優遇されている』が14.1ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、40歳代以上では、30歳代以下に比べて『男性の方が優遇されている』が高く、30～40%台となっています。



■新潟県・全国との比較■

※ 小千谷市:「わからない」「無回答」、新潟県「どちらとも言えない」「無回答」、全国「無回答」を除いて再集計

- 新潟県・全国と比較すると、小千谷市では新潟県・全国に比べ、『男性の方が優遇されている』が低く、『平等』が高くなっています。



■集計表

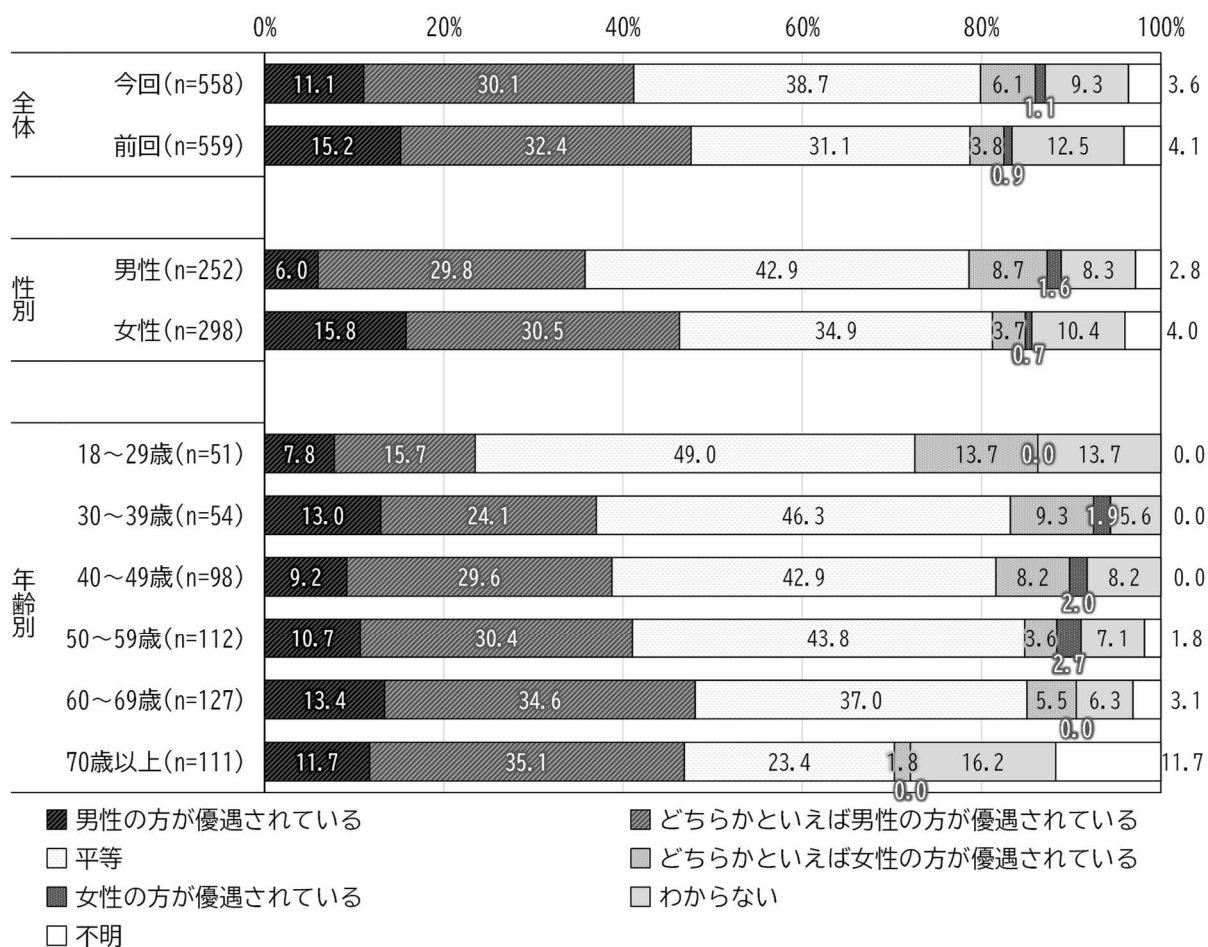
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
男性の方が優遇されている	49 8.8	9 3.6	39 13.1	1 33.3	1 2.0	3 5.6	8 8.2	14 12.5	13 10.2	10 9.0
どちらかといえば男性の方が優遇されている	165 29.6	67 26.6	93 31.2	2 66.7	8 15.7	10 18.5	26 26.5	38 33.9	40 31.5	41 36.9
平等	267 47.8	139 55.2	126 42.3	-	32 62.7	29 53.7	53 54.1	50 44.6	59 46.5	41 36.9
どちらかといえば女性の方が優遇されている	31 5.6	22 8.7	9 3.0	-	4 7.8	2 3.7	5 5.1	4 3.6	9 7.1	7 6.3
女性の方が優遇されている	12 2.2	6 2.4	6 2.0	-	1 2.0	3 5.6	3 3.1	1 0.9	3 2.4	1 0.9
わからない	30 5.4	8 3.2	22 7.4	-	5 9.8	7 13.0	3 3.1	5 4.5	2 1.6	8 7.2
不明	4 0.7	1 0.4	3 1.0	-	-	-	-	-	1 0.8	3 2.7

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

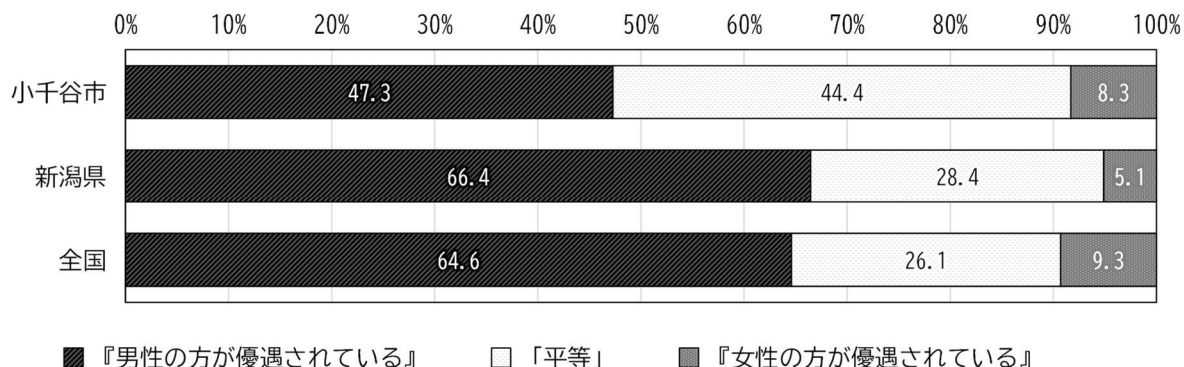
(2) 職場の中で

- 「平等」が38.7%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が30.1%、「男性の方が優遇されている」が11.1%となっています。
- 前回調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』が6.4ポイント減少し、「平等」が7.6ポイント増加しています。
- 性別で見ると、男性では「平等」が8.0ポイント高く、女性では『男性の方が優遇されている』が10.5ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以上では、20歳代以下に比べて『男性の方が優遇されている』が高く、30～40%台となっています。



■新潟県・全国との比較■

- 新潟県・全国と比較すると、小千谷市では新潟県・全国に比べ、『男性の方が優遇されている』が低く、『平等』が高くなっています。



■集計表

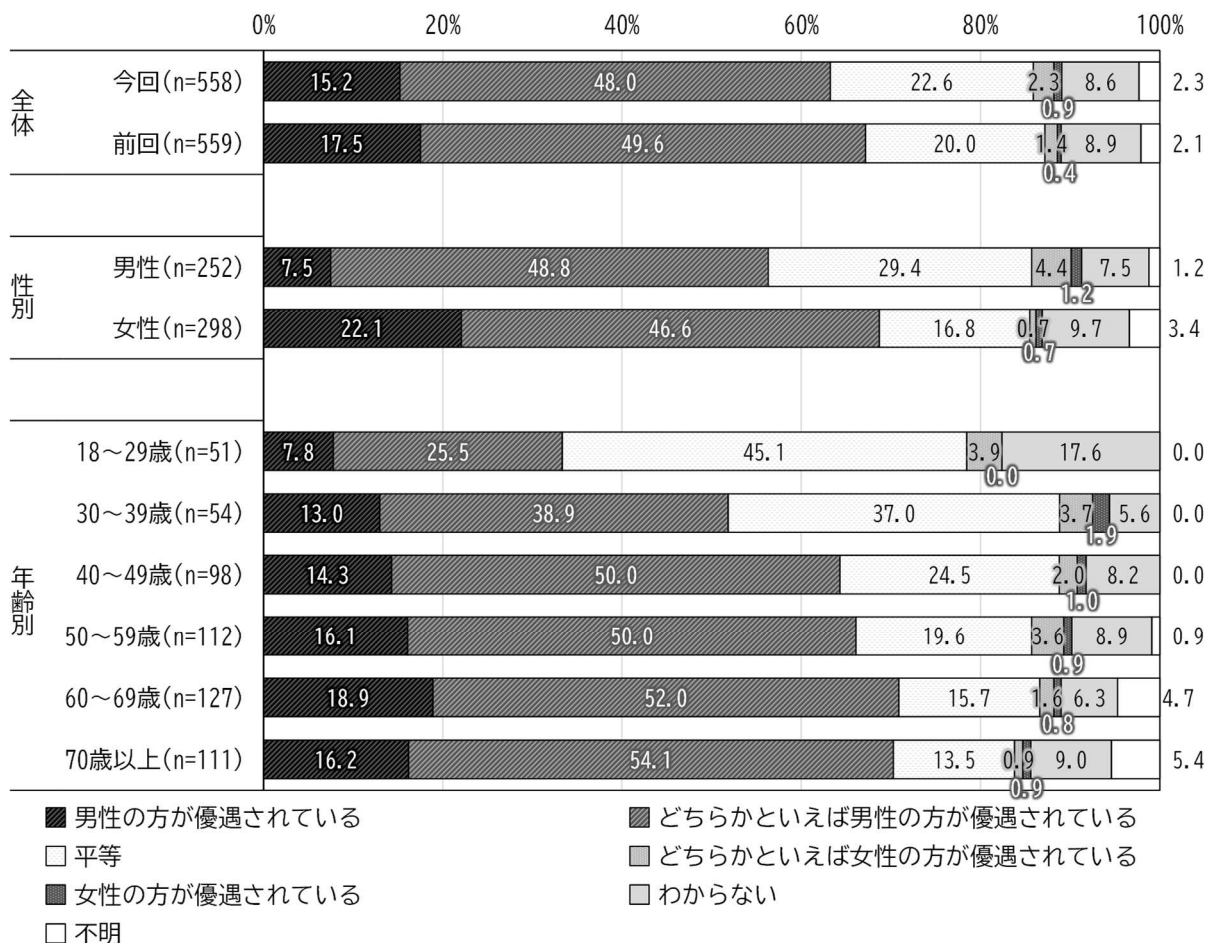
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
男性の方が優遇されている	62 11.1	15 6.0	47 15.8	-	4 7.8	7 13.0	9 9.2	12 10.7	17 13.4	13 11.7
どちらかといえば男性の方が優遇されている	168 30.1	75 29.8	91 30.5	1 33.3	8 15.7	13 24.1	29 29.6	34 30.4	44 34.6	39 35.1
平等	216 38.7	108 42.9	104 34.9	2 66.7	25 49.0	25 46.3	42 42.9	49 43.8	47 37.0	26 23.4
どちらかといえば女性の方が優遇されている	34 6.1	22 8.7	11 3.7	-	7 13.7	5 9.3	8 8.2	4 3.6	7 5.5	2 1.8
女性の方が優遇されている	6 1.1	4 1.6	2 0.7	-	-	1 1.9	2 2.0	3 2.7	-	-
わからない	52 9.3	21 8.3	31 10.4	-	7 13.7	3 5.6	8 8.2	8 7.1	8 6.3	18 16.2
不明	20 3.6	7 2.8	12 4.0	-	-	-	-	2 1.8	4 3.1	13 11.7

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

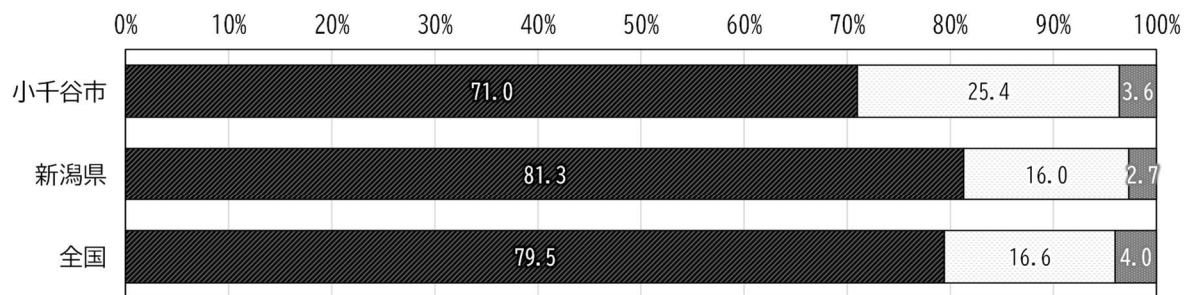
(3) 社会慣習（しきたり）について

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が48.0%で最も高く、次いで「平等」が22.6%、「男性の方が優遇されている」が15.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では「平等」が12.6ポイント高く、女性では『男性の方が優遇されている』が12.4ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、40歳代以上では、30歳代以下に比べて『男性の方が優遇されている』が高く、60～70%台となっています。



■新潟県・全国との比較■

- 新潟県・全国と比較すると、小千谷市では新潟県・全国に比べ、『男性の方が優遇されている』が低く、『平等』が高くなっています。



■ 『男性の方が優遇されている』 □ 「平等」 ■ 『女性の方が優遇されている』

■集計表

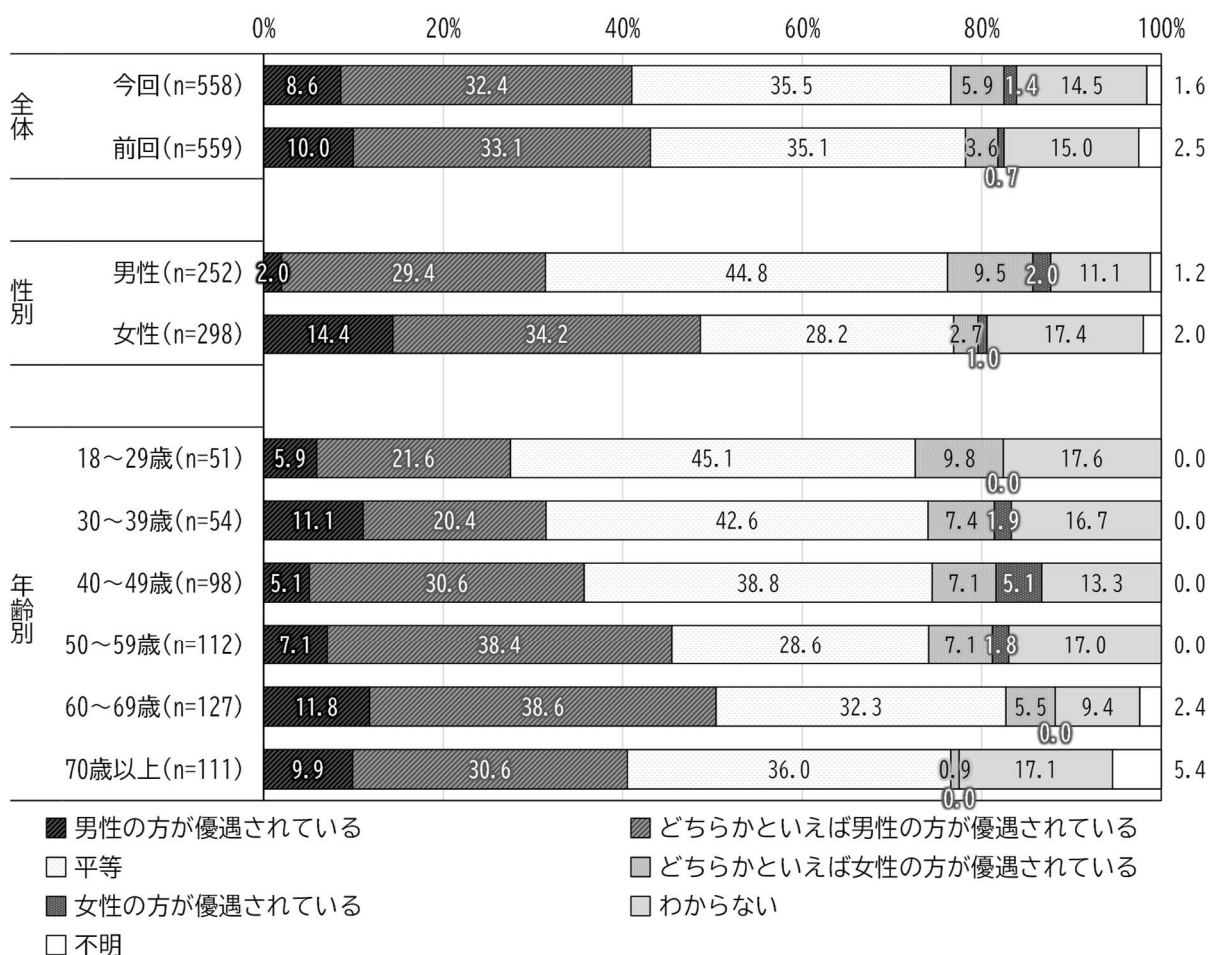
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
男性の方が優遇されている	85 15.2	19 7.5	66 22.1	-	4 7.8	7 13.0	14 14.3	18 16.1	24 18.9	18 16.2
どちらかといえば男性の方が優遇されている	268 48.0	123 48.8	139 46.6	3 100.0	13 25.5	21 38.9	49 50.0	56 50.0	66 52.0	60 54.1
平等	126 22.6	74 29.4	50 16.8	-	23 45.1	20 37.0	24 24.5	22 19.6	20 15.7	15 13.5
どちらかといえば女性の方が優遇されている	13 2.3	11 4.4	2 0.7	-	2 3.9	2 3.7	2 2.0	4 3.6	2 1.6	1 0.9
女性の方が優遇されている	5 0.9	3 1.2	2 0.7	-	-	1 1.9	1 1.0	1 0.9	1 0.8	1 0.9
わからない	48 8.6	19 7.5	29 9.7	-	9 17.6	3 5.6	8 8.2	10 8.9	8 6.3	10 9.0
不明	13 2.3	3 1.2	10 3.4	-	-	-	-	1 0.9	6 4.7	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

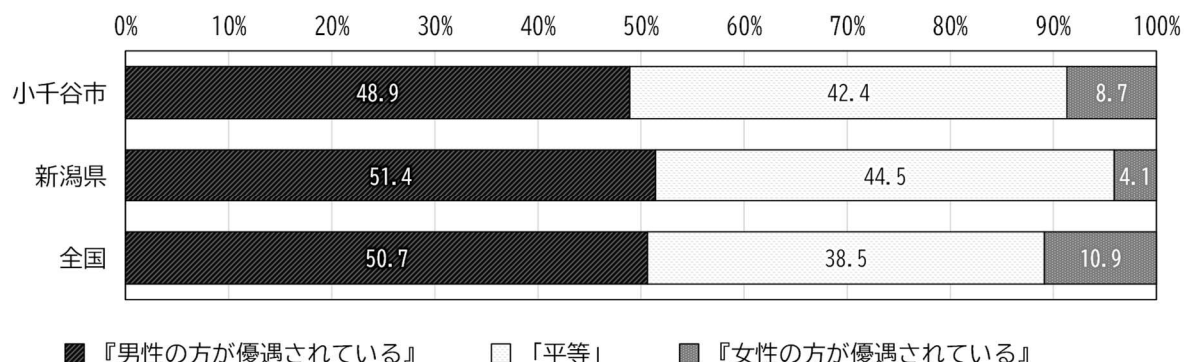
(4) 法律や制度面で

- 「平等」が35.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.4%、「わからない」が14.5%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別でみると、男性では「平等」が16.6ポイント高く、女性では『男性の方が優遇されている』が17.2ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、70歳以上を除いて、年齢が上がるほど『男性の方が優遇されている』が高くなっています。



■新潟県・全国との比較■

- 新潟県・全国と比較すると、概ね同様の傾向となっています。



■集計表

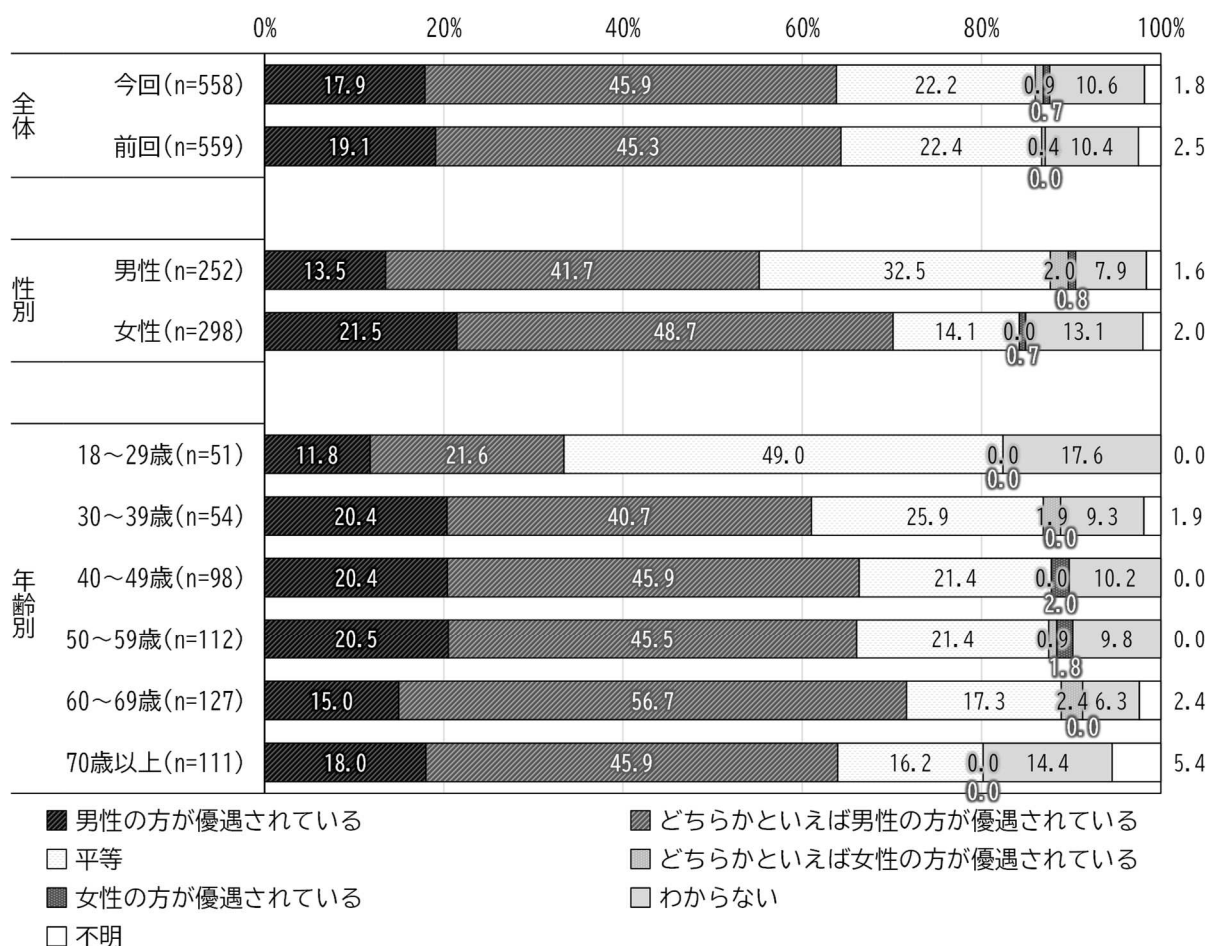
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
男性の方が優遇されている	48 8.6	5 2.0	43 14.4	-	3 5.9	6 11.1	5 5.1	8 7.1	15 11.8	11 9.9
どちらかといえば男性の方が優遇されている	181 32.4	74 29.4	102 34.2	2 66.7	11 21.6	11 20.4	30 30.6	43 38.4	49 38.6	34 30.6
平等	198 35.5	113 44.8	84 28.2	-	23 45.1	23 42.6	38 38.8	32 28.6	41 32.3	40 36.0
どちらかといえば女性の方が優遇されている	33 5.9	24 9.5	8 2.7	-	5 9.8	4 7.4	7 7.1	8 7.1	7 5.5	1 0.9
女性の方が優遇されている	8 1.4	5 2.0	3 1.0	-	-	1 1.9	5 5.1	2 1.8	-	-
わからない	81 14.5	28 11.1	52 17.4	1 33.3	9 17.6	9 16.7	13 13.3	19 17.0	12 9.4	19 17.1
不明	9 1.6	3 1.2	6 2.0	-	-	-	-	-	3 2.4	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

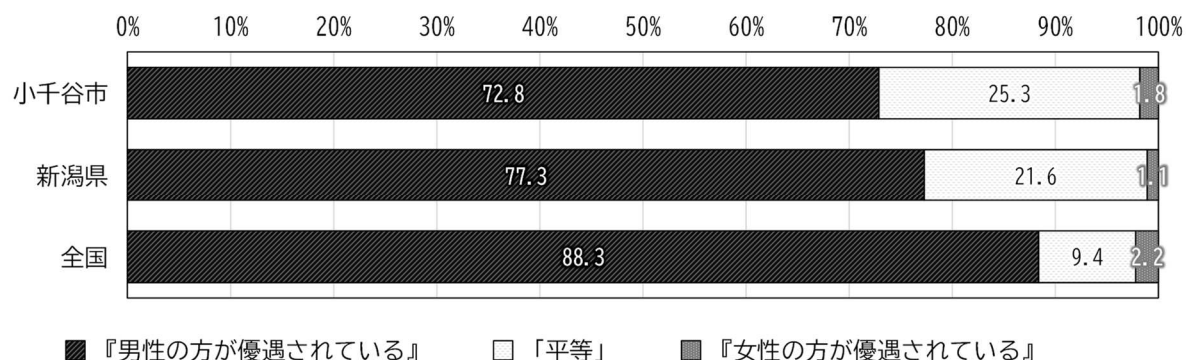
(5) 政治・経済活動の場で

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が45.9%で最も高く、次いで「平等」が22.2%、「男性の方が優遇されている」が17.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では「平等」が18.4ポイント高く、女性では『男性の方が優遇されている』が15.0ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以上では、20歳代以下に比べて『男性の方が優遇されている』が高く、60～70%台となっています。



■新潟県・全国との比較■

- 新潟県・全国と比較すると、小千谷市では新潟県・全国に比べ、『男性の方が優遇されている』が低く、『平等』が高くなっています。



■集計表

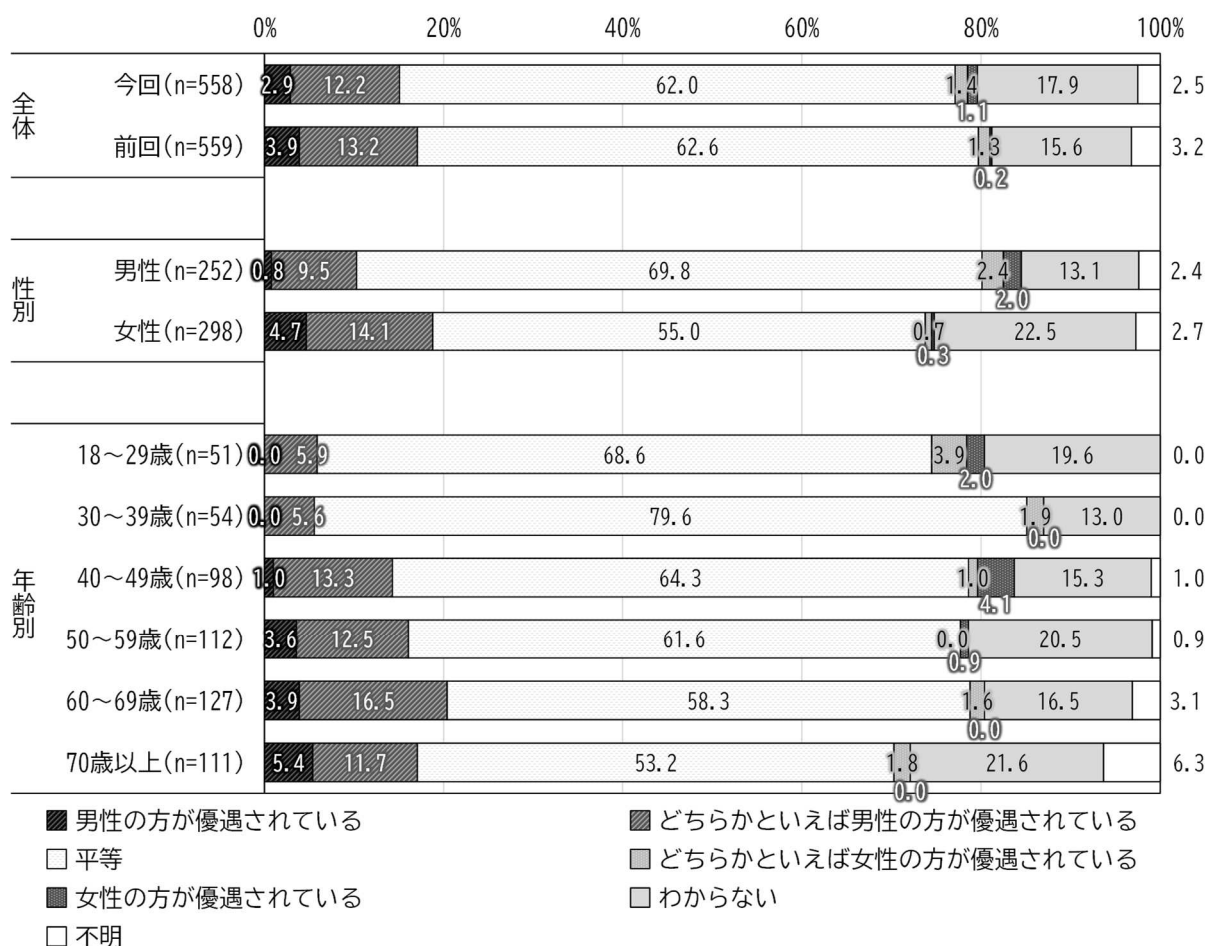
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
男性の方が優遇されている	100 17.9	34 13.5	64 21.5	1 33.3	6 11.8	11 20.4	20 20.4	23 20.5	19 15.0	20 18.0
どちらかといえば男性の方が優遇されている	256 45.9	105 41.7	145 48.7	2 66.7	11 21.6	22 40.7	45 45.9	51 45.5	72 56.7	51 45.9
平等	124 22.2	82 32.5	42 14.1	-	25 49.0	14 25.9	21 21.4	24 21.4	22 17.3	18 16.2
どちらかといえば女性の方が優遇されている	5 0.9	5 2.0	-	-	-	1 1.9	-	1 0.9	3 2.4	-
女性の方が優遇されている	4 0.7	2 0.8	2 0.7	-	-	-	2 2.0	2 1.8	-	-
わからない	59 10.6	20 7.9	39 13.1	-	9 17.6	5 9.3	10 10.2	11 9.8	8 6.3	16 14.4
不明	10 1.8	4 1.6	6 2.0	-	-	1 1.9	-	-	3 2.4	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

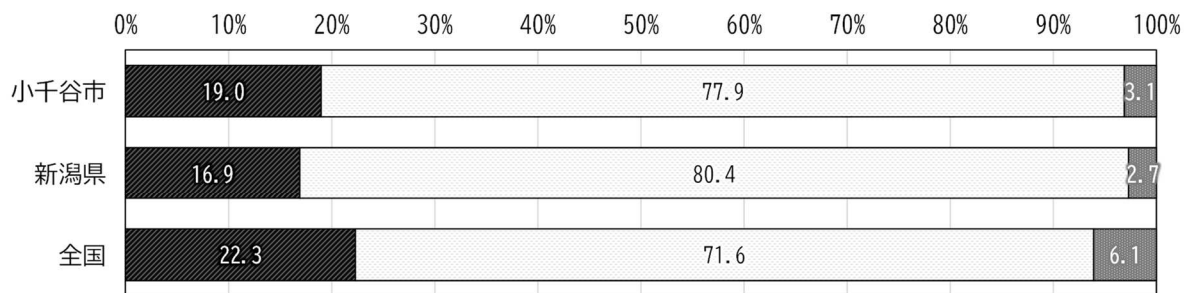
(6) 学校教育の場で

- 「平等」が62.0%で最も高く、次いで「わからない」が17.9%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が12.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では「平等」が14.8ポイント高く、女性では『男性の方が優遇されている』が8.5ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、40歳代以上では、30歳代以下に比べて『男性の方が優遇されている』が高く、10～20%台となっています。



■新潟県・全国との比較■

- 新潟県・全国と比較すると、小千谷市では全国に比べ、『男性の方が優遇されている』が低く、『平等』が高くなっています。



■ 『男性の方が優遇されている』 □ 『平等』 ■ 『女性の方が優遇されている』

■集計表

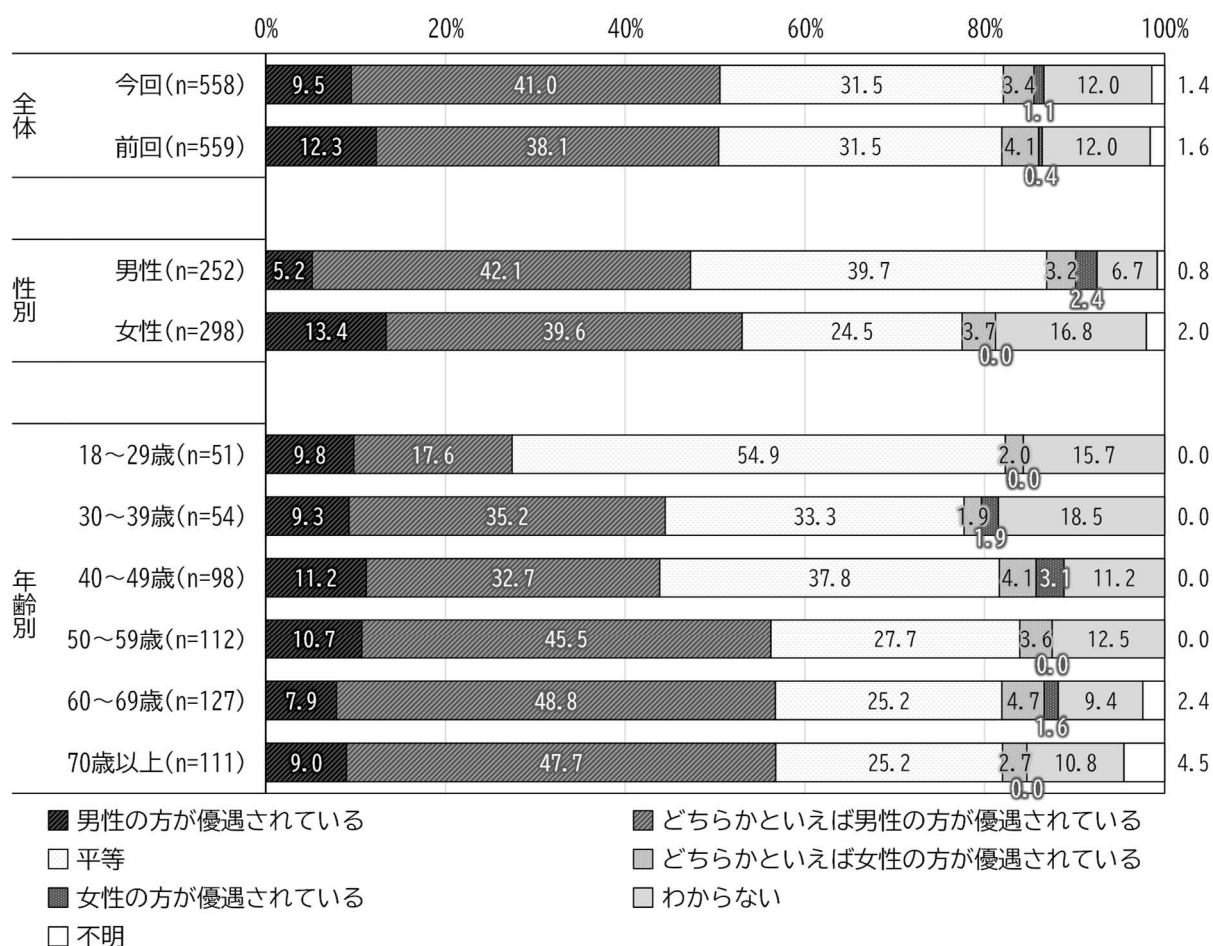
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
男性の方が優遇されている	16 2.9	2 0.8	14 4.7	-	-	-	1 1.0	4 3.6	5 3.9	6 5.4
どちらかといえば男性の方が優遇されている	68 12.2	24 9.5	42 14.1	1 33.3	3 5.9	3 5.6	13 13.3	14 12.5	21 16.5	13 11.7
平等	346 62.0	176 69.8	164 55.0	2 66.7	35 68.6	43 79.6	63 64.3	69 61.6	74 58.3	59 53.2
どちらかといえば女性の方が優遇されている	8 1.4	6 2.4	2 0.7	-	2 3.9	1 1.9	1 1.0	-	2 1.6	2 1.8
女性の方が優遇されている	6 1.1	5 2.0	1 0.3	-	1 2.0	-	4 4.1	1 0.9	-	-
わからない	100 17.9	33 13.1	67 22.5	-	10 19.6	7 13.0	15 15.3	23 20.5	21 16.5	24 21.6
不明	14 2.5	6 2.4	8 2.7	-	-	-	1 1.0	1 0.9	4 3.1	7 6.3

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

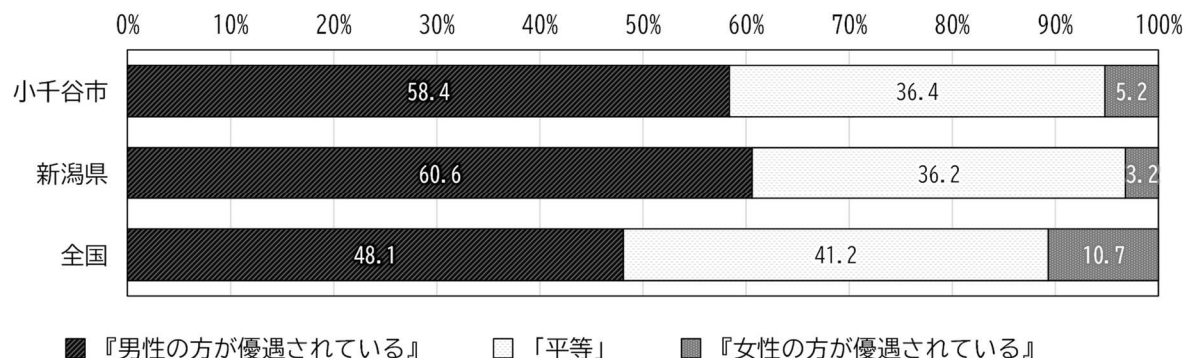
(7) 地域社会の中で

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が41.0%で最も高く、次いで「平等」が31.5%、「わからない」が12.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では「平等」が15.2ポイント高く、女性では「わからない」が10.1ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以上では、20歳代以下に比べて『男性の方が優遇されている』が高く、40～50%台となっています。



■新潟県・全国との比較■

- 新潟県・全国と比較すると、小千谷市では全国に比べ、『男性の方が優遇されている』が高く、『平等』が低くなっています。



■集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
男性の方が優遇されている	53 9.5	13 5.2	40 13.4	-	5 9.8	5 9.3	11 11.2	12 10.7	10 7.9	10 9.0
どちらかといえば男性の方が優遇されている	229 41.0	106 42.1	118 39.6	2 66.7	9 17.6	19 35.2	32 32.7	51 45.5	62 48.8	53 47.7
平等	176 31.5	100 39.7	73 24.5	1 33.3	28 54.9	18 33.3	37 37.8	31 27.7	32 25.2	28 25.2
どちらかといえば女性の方が優遇されている	19 3.4	8 3.2	11 3.7	-	1 2.0	1 1.9	4 4.1	4 3.6	6 4.7	3 2.7
女性の方が優遇されている	6 1.1	6 2.4	-	-	-	1 1.9	3 3.1	-	2 1.6	-
わからない	67 12.0	17 6.7	50 16.8	-	8 15.7	10 18.5	11 11.2	14 12.5	12 9.4	12 10.8
不明	8 1.4	2 0.8	6 2.0	-	-	-	-	-	3 2.4	5 4.5

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

問1 項目別の比較

「平等」の割合の比較

- 項目ごとの「平等」の割合を比較すると、「(6)学校教育の場で」が62.0%で最も高く、次いで「(1)家庭の中で」が47.8%、「(2)職場の中で」が38.7%となっています。
- 前回調査と比較すると、「(2)職場の中で」で特に増加しています。
- 男女間で比較すると、いずれも男性の方が高くなっており、特に「(5)政治・経済活動の場で」「(4)法律や制度面で」「(7)地域社会の中で」「(6)学校教育の場で」では10%半ばから10%台後半となっています。
- 新潟県・全国と比較すると、「(1)家庭の中で」「(2)職場の中で」「(3)社会慣習(しきたり)について」で新潟県・全国に比べて高く、さらに「(5)政治・経済活動の場で」「(6)学校教育の場で」で全国に比べて高くなっています。

	割合	前回調査との比較	男女間の差			新潟県・全国との比較	
			男性	女性	差(男性-女性)	新潟県	全国
(1) 家庭の中で	47.8	+4.50	55.2	42.3	+12.90	+12.20	+20.80
(2) 職場の中で	38.7	+7.60	42.9	34.9	+8.00	+16.00	+18.30
(3) 社会慣習(しきたり)について	22.6	+2.60	29.4	16.8	+12.60	+9.40	+8.80
(4) 法律や制度面で	35.5	+0.40	44.8	28.2	+16.60	-2.10	+3.90
(5) 政治・経済活動の場で	22.2	-0.20	32.5	14.1	+18.40	+3.70	+15.90
(6) 学校教育の場で	62.0	-0.60	69.8	55.0	+14.80	-2.50	+6.30
(7) 地域社会の中で	31.5	±0.00	39.7	24.5	+15.20	+0.20	-4.80

※ [前回調査との比較] では、差が5.0ポイント以上の箇所には■、-5.0ポイント以下の箇所には□の色付け

※ [男女間の差] では、差(男性-女性)が5.0ポイント以上の箇所には■、-5.0ポイント以下の箇所には□の色付け

※ [新潟県・全国との比較] では、新潟県・全国と比べて5.0ポイント以上高い箇所には■、5.0ポイント以上低い箇所には□の色付け

※新潟県・全国との比較については補正後の数値を採用

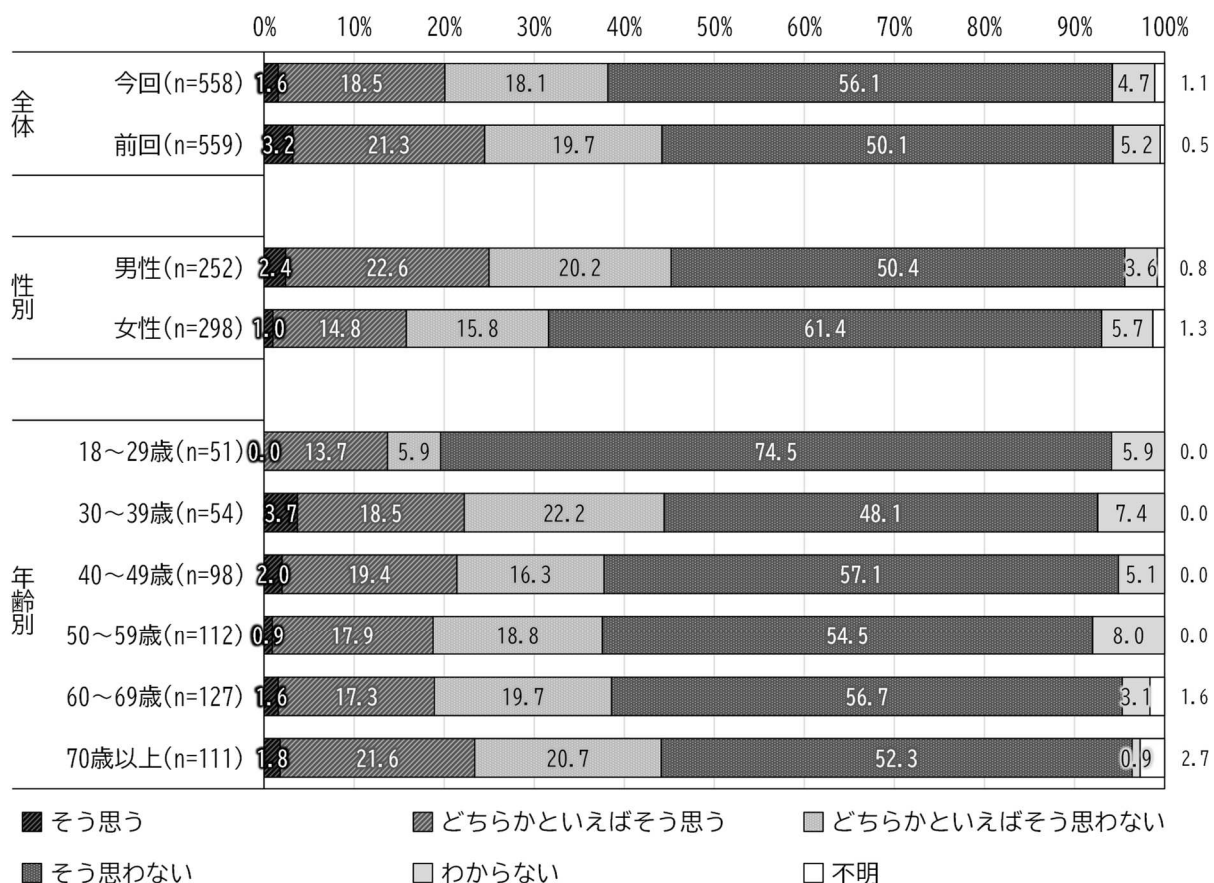
3. 家庭生活・地域活動について

問2 結婚や家庭生活などに関する(1)～(8)の考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれでしょうか。それぞれ1つずつお選びください。

※ 分析にあたって、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計を『思う』、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計を『思わない』と表記します。

(1) 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい

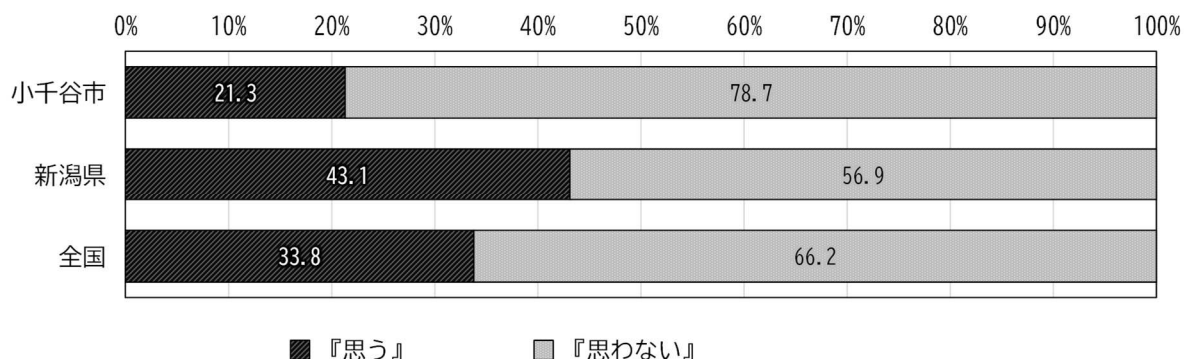
- 「そう思わない」が56.1%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が18.5%、「どちらかといえばそう思わない」が18.1%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では『思う』が9.2ポイント高く、女性では『思わない』が6.6ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以上では、20歳代以下に比べて『思う』が高く、10～20%台となっています。



■新潟県・全国との比較■

※ 小千谷市:「わからない」「無回答」、新潟県・全国「無回答」を除いて再集計

- 新潟県・全国と比較すると、小千谷市では新潟県・全国に比べ、『思う』が低く、『思わない』が高くなっています。



■集計表

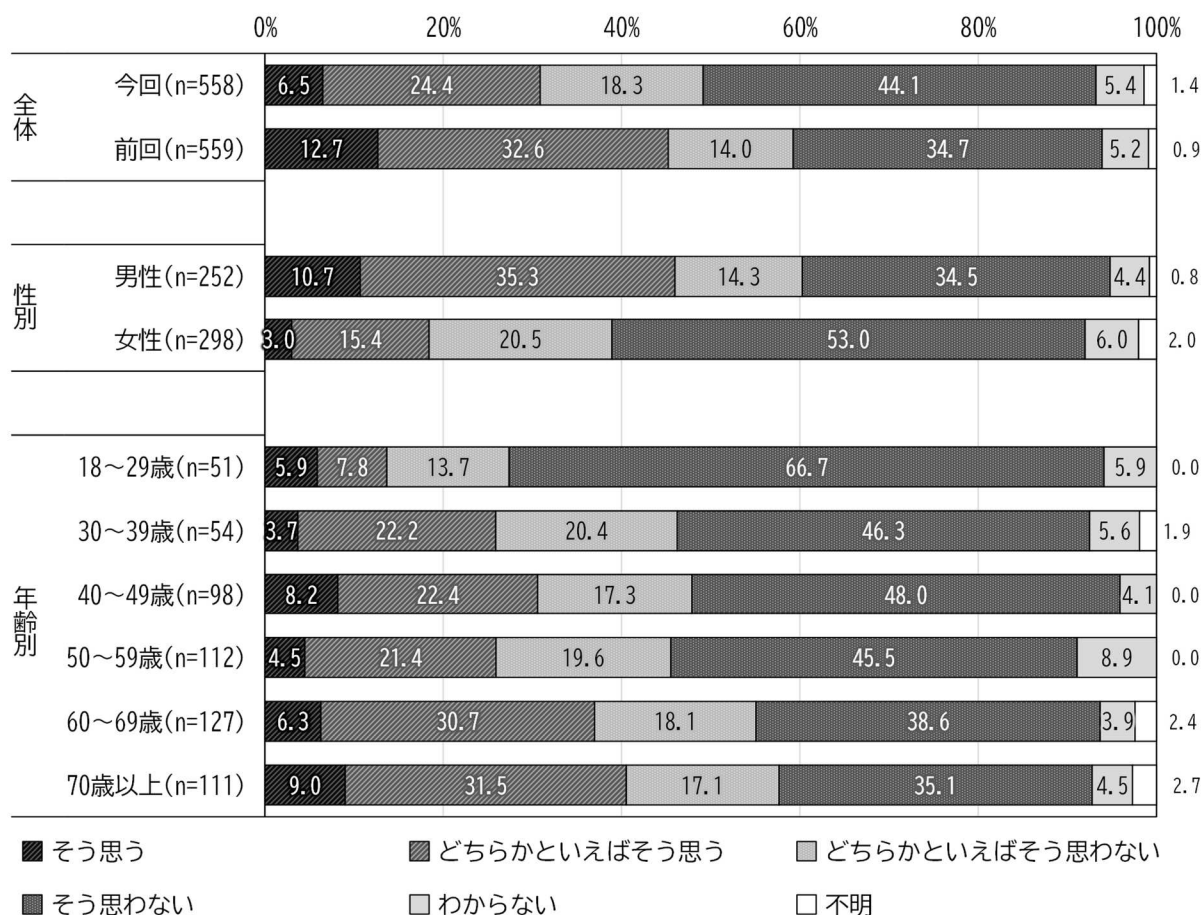
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
そう思う	9 1.6	6 2.4	3 1.0	-	-	2 3.7	2 2.0	1 0.9	2 1.6	2 1.8
どちらかといえばそう思う	103 18.5	57 22.6	44 14.8	1 33.3	7 13.7	10 18.5	19 19.4	20 17.9	22 17.3	24 21.6
どちらかといえばそう思わない	101 18.1	51 20.2	47 15.8	1 33.3	3 5.9	12 22.2	16 16.3	21 18.8	25 19.7	23 20.7
そう思わない	313 56.1	127 50.4	183 61.4	1 33.3	38 74.5	26 48.1	56 57.1	61 54.5	72 56.7	58 52.3
わからない	26 4.7	9 3.6	17 5.7	-	3 5.9	4 7.4	5 5.1	9 8.0	4 3.1	1 0.9
不明	6 1.1	2 0.8	4 1.3	-	-	-	-	-	2 1.6	3 2.7

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

(2) 男性は男らしく、女性は女らしくした方がよい

- 「そう思わない」が44.1%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が24.4%、「どちらかといえばそう思わない」が18.3%となっています。
- 前回調査と比較すると、『思わない』が13.7ポイント増加しています。
- 性別で見ると、男性では『思う』が27.6ポイント高く、女性では『思わない』が24.7ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、60歳代以上では、50歳代以下に比べて『思う』が高く、30～40%台となっています。



■集計表

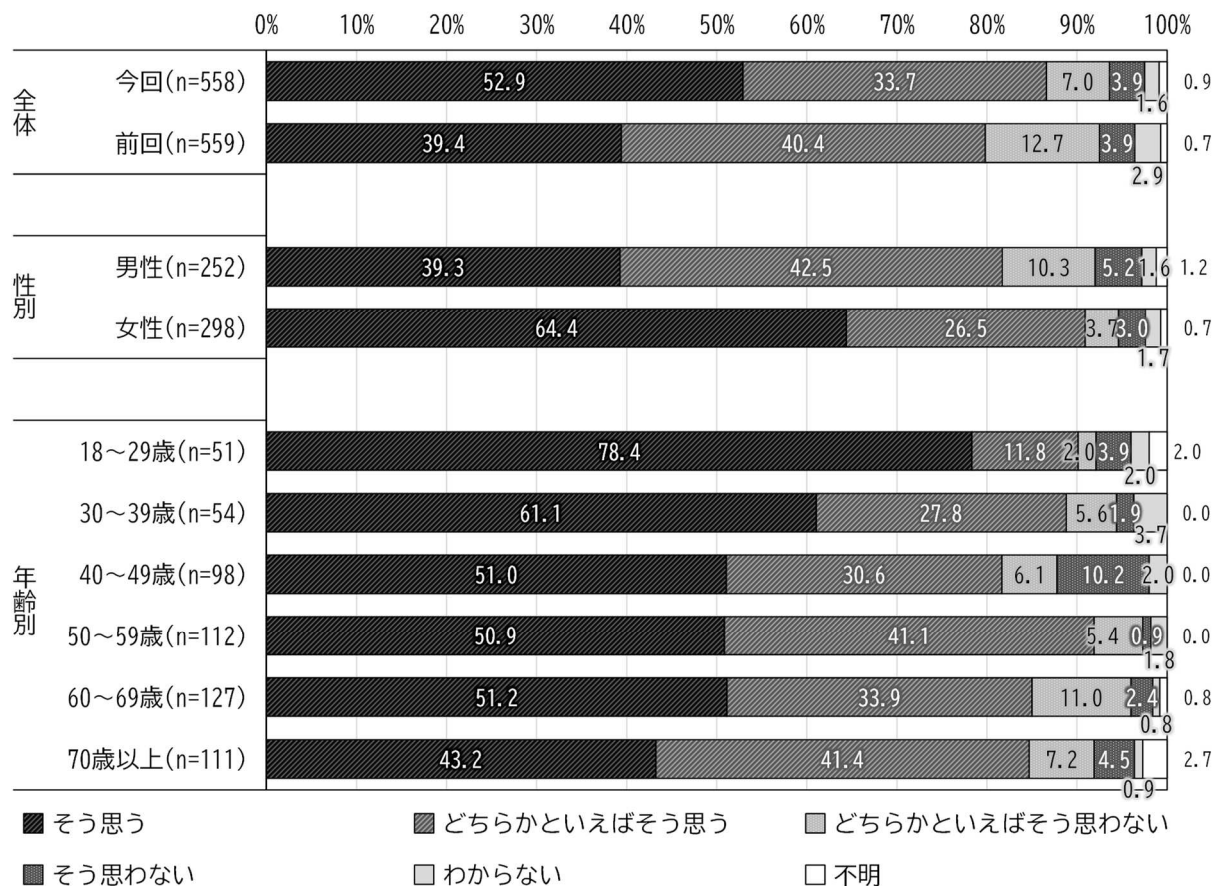
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
そう思う	36 6.5	27 10.7	9 3.0	-	3 5.9	2 3.7	8 8.2	5 4.5	8 6.3	10 9.0
どちらかといえばそう思う	136 24.4	89 35.3	46 15.4	-	4 7.8	12 22.2	22 22.4	24 21.4	39 30.7	35 31.5
どちらかといえばそう思わない	102 18.3	36 14.3	61 20.5	2 66.7	7 13.7	11 20.4	17 17.3	22 19.6	23 18.1	19 17.1
そう思わない	246 44.1	87 34.5	158 53.0	-	34 66.7	25 46.3	47 48.0	51 45.5	49 38.6	39 35.1
わからない	30 5.4	11 4.4	18 6.0	1 33.3	3 5.9	3 5.6	4 4.1	10 8.9	5 3.9	5 4.5
不明	8 1.4	2 0.8	6 2.0	-	-	1 1.9	-	-	3 2.4	3 2.7

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

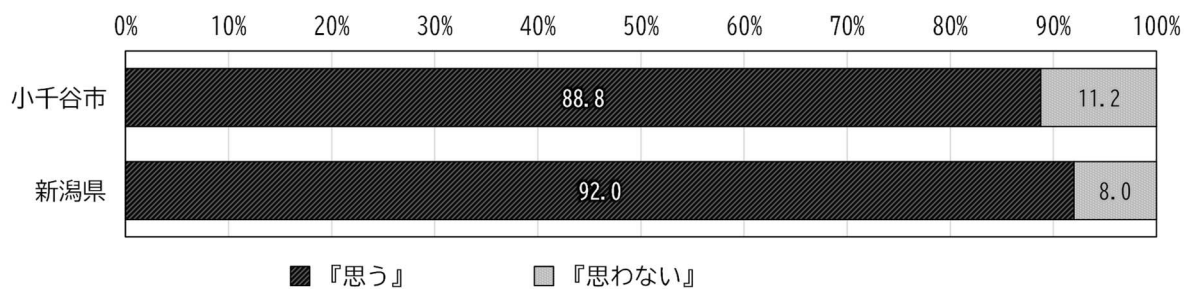
(3) 男性も女性も平等に家事、子育て、介護などをする方がよい

- 「そう思う」が52.9%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が33.7%、「どちらかといえばそう思わない」が7.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、『思う』が6.8ポイント増加しています。
- 性別で見ると、男性では『思わない』が8.8ポイント高く、女性では『思う』が9.1ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、40歳代では、『思う』が81.6%と、他の年代に比べてやや低くなっています。



■新潟県・全国との比較■

- 新潟県と比較すると、概ね同様の傾向となっています。



■集計表

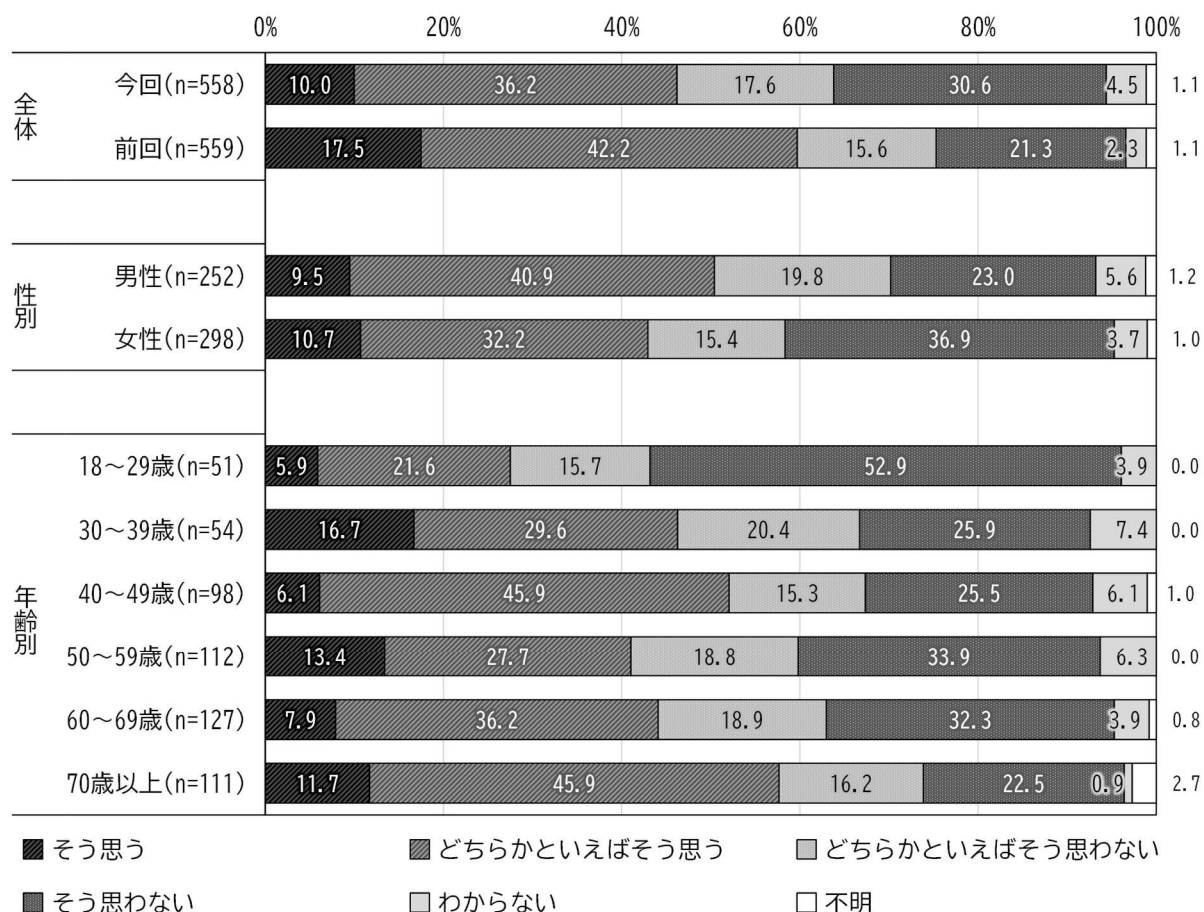
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
そう思う	295 52.9	99 39.3	192 64.4	1 33.3	40 78.4	33 61.1	50 51.0	57 50.9	65 51.2	48 43.2
どちらかといえばそう思う	188 33.7	107 42.5	79 26.5	1 33.3	6 11.8	15 27.8	30 30.6	46 41.1	43 33.9	46 41.4
どちらかといえばそう思わない	39 7.0	26 10.3	11 3.7	1 33.3	1 2.0	3 5.6	6 6.1	6 5.4	14 11.0	8 7.2
そう思わない	22 3.9	13 5.2	9 3.0	-	2 3.9	1 1.9	10 10.2	1 0.9	3 2.4	5 4.5
わからない	9 1.6	4 1.6	5 1.7	-	1 2.0	2 3.7	2 2.0	2 1.8	1 0.8	1 0.9
不明	5 0.9	3 1.2	2 0.7	-	1 2.0	-	-	-	1 0.8	3 2.7

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

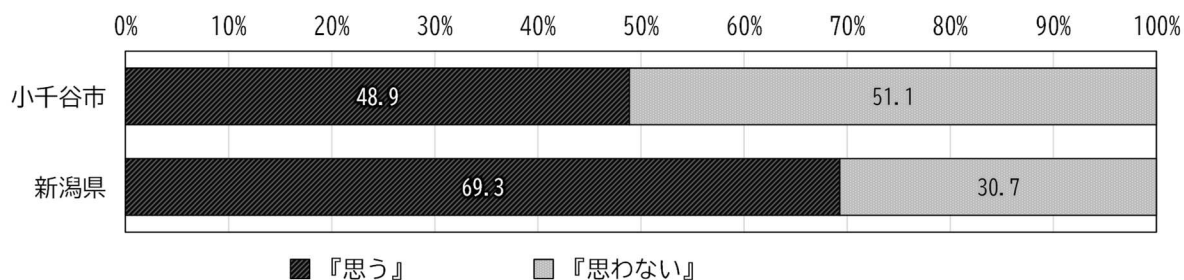
(4) 子どもが小さいときには母親が子育てに専念する方がよい

- 「どちらかといえばそう思う」が36.2%で最も高く、次いで「そう思わない」が30.6%、「どちらかといえばそう思わない」が17.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、『思う』が13.5ポイント減少し、『思わない』が11.3ポイント増加しています。
- 性別でみると、男性では『思う』が7.5ポイント高く、女性では『思わない』が9.5ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以上では、20歳代以下に比べて『思う』が高く、40～50%台となっています。



■新潟県・全国との比較■

- 新潟県と比較すると、小千谷市では『思う』が低く、『思わない』が高くなっています。



■集計表

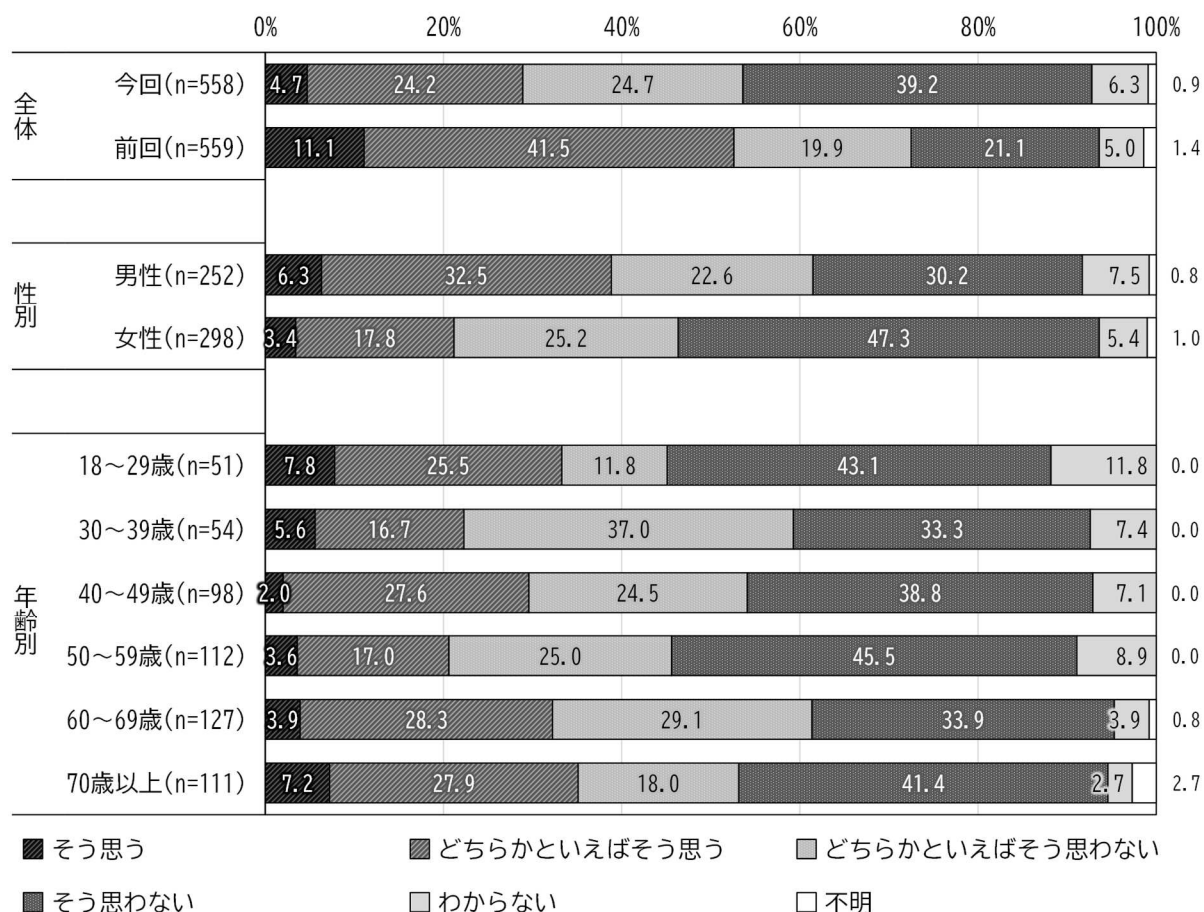
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
そう思う	56 10.0	24 9.5	32 10.7	-	3 5.9	9 16.7	6 6.1	15 13.4	10 7.9	13 11.7
どちらかといえばそう思う	202 36.2	103 40.9	96 32.2	1 33.3	11 21.6	16 29.6	45 45.9	31 27.7	46 36.2	51 45.9
どちらかといえば思わない	98 17.6	50 19.8	46 15.4	1 33.3	8 15.7	11 20.4	15 15.3	21 18.8	24 18.9	18 16.2
そう思わない	171 30.6	58 23.0	110 36.9	1 33.3	27 52.9	14 25.9	25 25.5	38 33.9	41 32.3	25 22.5
わからない	25 4.5	14 5.6	11 3.7	-	2 3.9	4 7.4	6 6.1	7 6.3	5 3.9	1 0.9
不明	6 1.1	3 1.2	3 1.0	-	-	-	1 1.0	-	1 0.8	3 2.7

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(5) 女性は仕事を持つのはよいが、家事、子育て、介護などをきちんとする方がよい

- 「そう思わない」が39.2%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が24.7%、「どちらかといえばそう思う」が24.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、『思う』が23.7ポイント減少し、『思わない』が22.9ポイント増加しています。
- 性別で見ると、男性では『思う』が17.6ポイント高く、女性では『思わない』が19.7ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代・50歳代では、他の年代に比べて『思わない』が高く、70%台となっています。



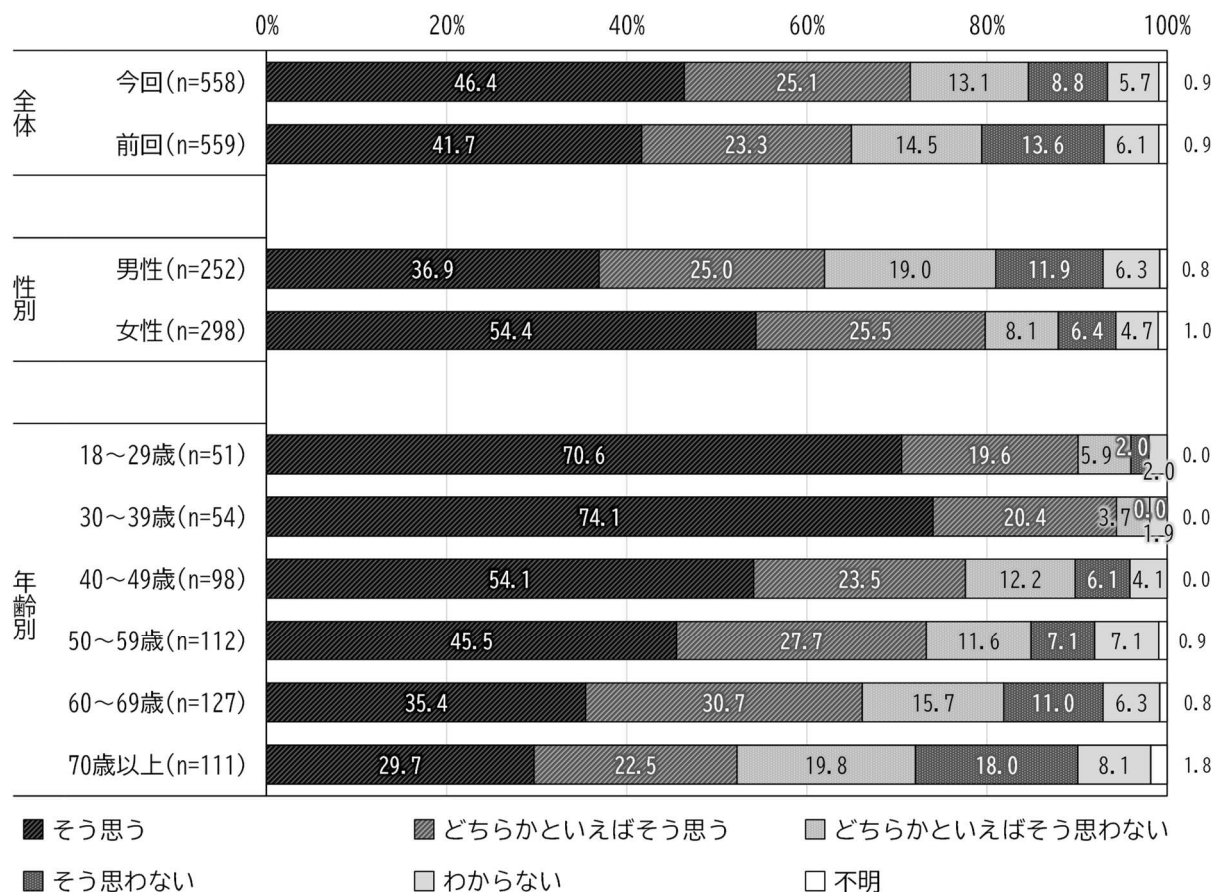
■ 集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別						
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111	
そう思う	26 4.7	16 6.3	10 3.4	-	4 7.8	3 5.6	2 2.0	4 3.6	5 3.9	8 7.2	
どちらかといえばそう思う	135 24.2	82 32.5	53 17.8	-	13 25.5	9 16.7	27 27.6	19 17.0	36 28.3	31 27.9	
どちらかといえばそう思わない	138 24.7	57 22.6	75 25.2	2 66.7	6 11.8	20 37.0	24 24.5	28 25.0	37 29.1	20 18.0	
そう思わない	219 39.2	76 30.2	141 47.3	1 33.3	22 43.1	18 33.3	38 38.8	51 45.5	43 33.9	46 41.4	
わからない	35 6.3	19 7.5	16 5.4	-	6 11.8	4 7.4	7 7.1	10 8.9	5 3.9	3 2.7	
不明	5 0.9	2 0.8	3 1.0	-	-	-	-	-	1 0.8	3 2.7	

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）
 ※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(6) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

- 「そう思う」が46.4%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が25.1%、「どちらかといえばそう思わない」が13.1%となっています。
- 前回調査と比較すると、『思う』が6.5ポイント増加し、『思わない』が6.2ポイント減少しています。
- 性別で見ると、男性では『思わない』が16.4ポイント高く、女性では『思う』が18.0ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年代が低いほど『思う』が高くなる傾向があります。



■集計表

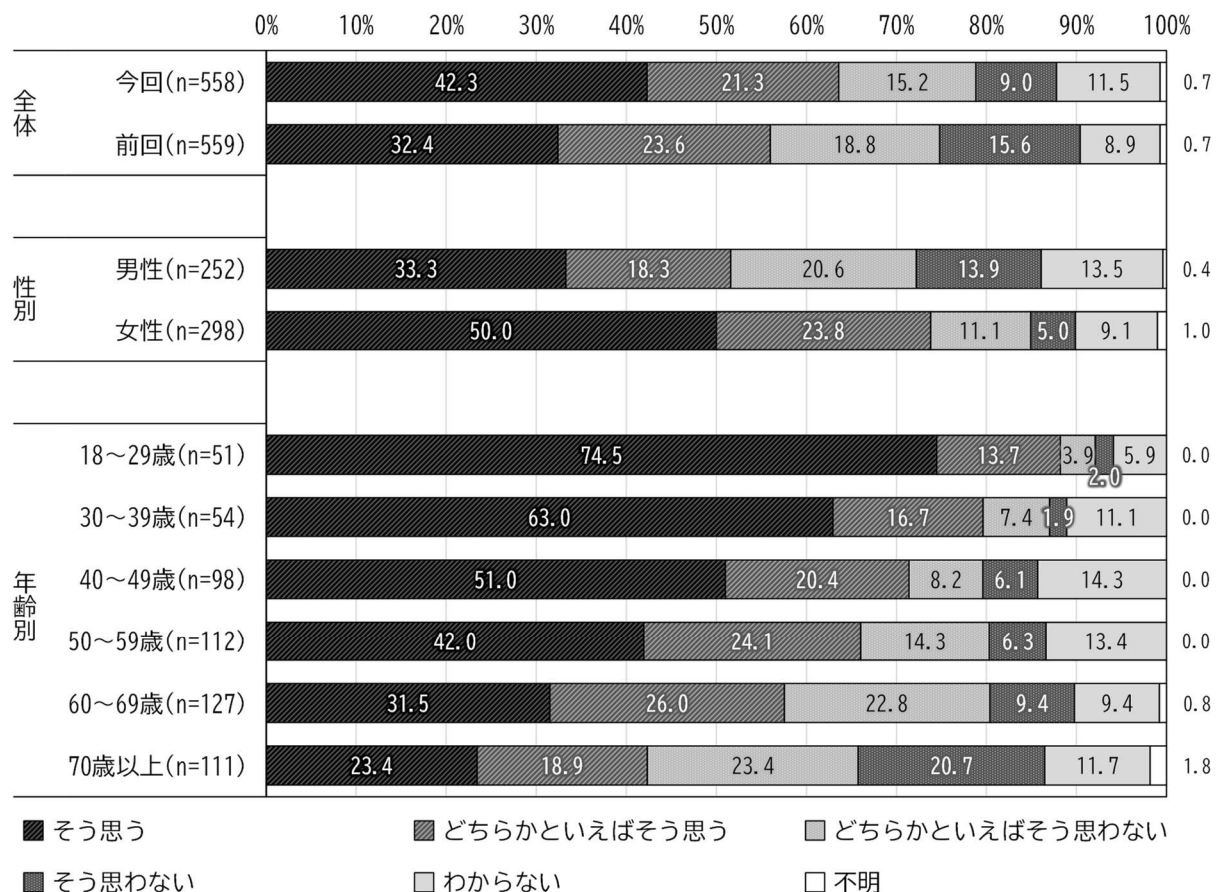
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
そう思う	259 46.4	93 36.9	162 54.4	2 66.7	36 70.6	40 74.1	53 54.1	51 45.5	45 35.4	33 29.7
どちらかといえばそう思う	140 25.1	63 25.0	76 25.5	-	10 19.6	11 20.4	23 23.5	31 27.7	39 30.7	25 22.5
どちらかといえばそう思わない	73 13.1	48 19.0	24 8.1	-	3 5.9	2 3.7	12 12.2	13 11.6	20 15.7	22 19.8
そう思わない	49 8.8	30 11.9	19 6.4	-	1 2.0	-	6 6.1	8 7.1	14 11.0	20 18.0
わからない	32 5.7	16 6.3	14 4.7	1 33.3	1 2.0	1 1.9	4 4.1	8 7.1	8 6.3	9 8.1
不明	5 0.9	2 0.8	3 1.0	-	-	-	-	1 0.9	1 0.8	2 1.8

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(7) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

- 「そう思う」が42.3%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が21.3%、「どちらかといえばそう思わない」が15.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、『思う』が7.6ポイント増加し、『思わない』が10.2ポイント減少しています。
- 性別で見ると、男性では『思わない』が18.4ポイント高く、女性では『思う』が22.2ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年代が低いほど『思う』が高くなる傾向があります。



■集計表

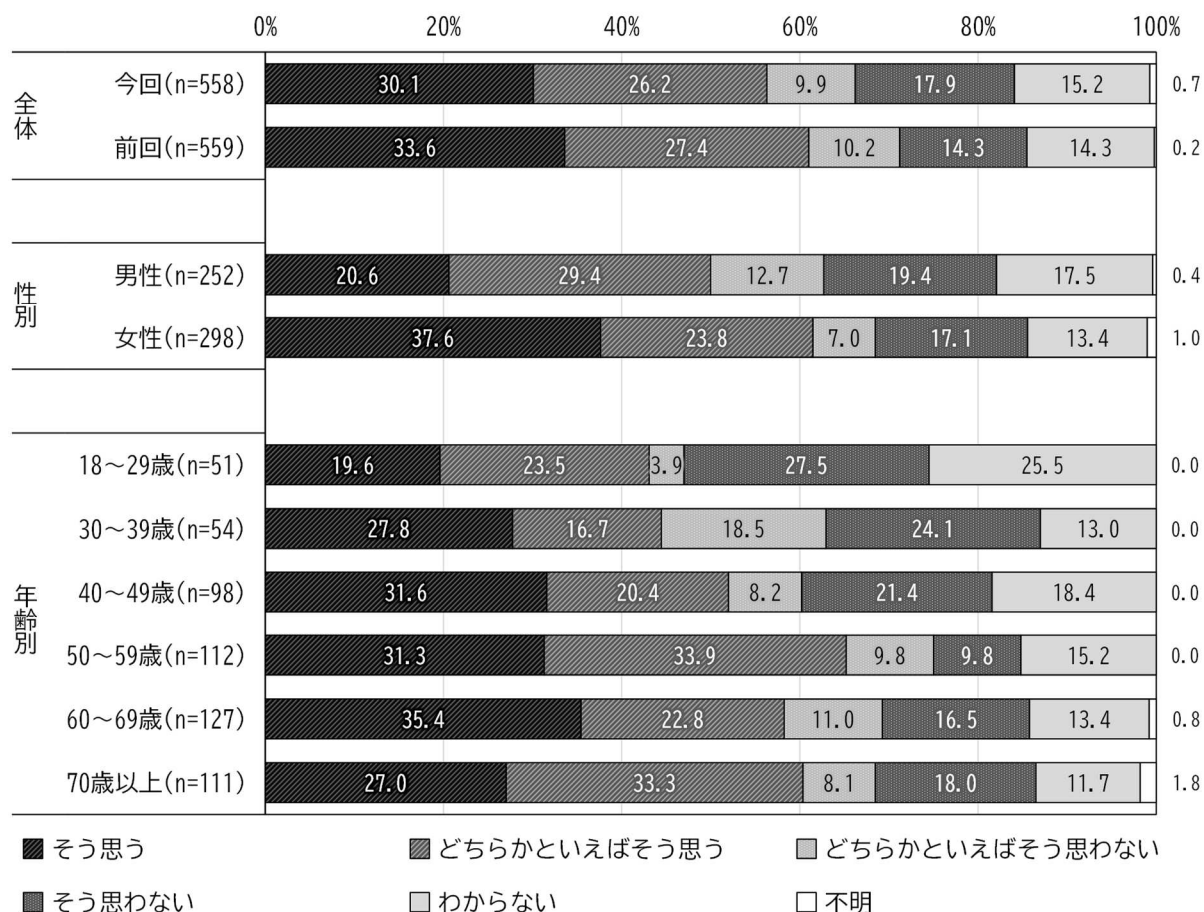
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別						
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
	n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
そう思う	236 42.3	84 33.3	149 50.0	2 66.7	38 74.5	34 63.0	50 51.0	47 42.0	40 31.5	26 23.4	
どちらかといえばそう思う	119 21.3	46 18.3	71 23.8	-	7 13.7	9 16.7	20 20.4	27 24.1	33 26.0	21 18.9	
どちらかといえばそう思わない	85 15.2	52 20.6	33 11.1	-	2 3.9	4 7.4	8 8.2	16 14.3	29 22.8	26 23.4	
そう思わない	50 9.0	35 13.9	15 5.0	-	1 2.0	1 1.9	6 6.1	7 6.3	12 9.4	23 20.7	
わからない	64 11.5	34 13.5	27 9.1	1 33.3	3 5.9	6 11.1	14 14.3	15 13.4	12 9.4	13 11.7	
不明	4 0.7	1 0.4	3 1.0	-	-	-	-	-	1 0.8	2 1.8	

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(8) 一般に、今の社会では離婚すると、女性の方が不利である

- 「そう思う」が30.1%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が26.2%、「そう思わない」が17.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では『思わない』が8.0ポイント高く、女性では『思う』が11.4ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、50歳代では、他の年代に比べて『思う』が高く、60%台後半となっています。



■集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
そう思う	168 30.1	52 20.6	112 37.6	1 33.3	10 19.6	15 27.8	31 31.6	35 31.3	45 35.4	30 27.0
どちらかといえばそう思う	146 26.2	74 29.4	71 23.8	-	12 23.5	9 16.7	20 20.4	38 33.9	29 22.8	37 33.3
どちらかといえばそう思わない	55 9.9	32 12.7	21 7.0	1 33.3	2 3.9	10 18.5	8 8.2	11 9.8	14 11.0	9 8.1
そう思わない	100 17.9	49 19.4	51 17.1	-	14 27.5	13 24.1	21 21.4	11 9.8	21 16.5	20 18.0
わからない	85 15.2	44 17.5	40 13.4	1 33.3	13 25.5	7 13.0	18 18.4	17 15.2	17 13.4	13 11.7
不明	4 0.7	1 0.4	3 1.0	-	-	-	-	-	1 0.8	2 1.8

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）
 ※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

問2 項目別の比較

『思う』の割合の比較

- 項目ごとの『思う』の割合を比較すると、「(3)男性も女性も平等に家事、子育て、介護などをする方がよい」が86.6%で最も高く、次いで「(6)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」が71.5%、「(7)結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」が63.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、「(7)結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」「(3)男性も女性も平等に家事、子育て、介護などをする方がよい」「(6)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」で特に増加しています。
- 男女間で比較すると、特に「(7)結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」「(6)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「(8)一般に、今の社会では離婚すると、女性の方が不利である」で女性が男性よりも高くなっています。

	割合	前回調査との比較	男女間の差		
			男性	女性	差(男性-女性)
(1) 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい	20.1	-4.40	25.0	15.8	+9.20
(2) 男性は男らしく、女性は女らしくした方がよい	30.9	-14.40	46.0	18.4	+27.60
(3) 男性も女性も平等に家事、子育て、介護などをする方がよい	86.6	+6.80	81.8	90.9	-9.10
(4) 子どもが小さいときには母親が子育てに専念する方がよい	46.2	-13.50	50.4	42.9	+7.50
(5) 女性は仕事を持つのはよいが、家事、子育て、介護などをきちんとする方がよい	28.9	-23.70	38.8	21.2	+17.60
(6) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	71.5	+6.50	61.9	79.9	-18.00
(7) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	63.6	+7.60	51.6	73.8	-22.20
(8) 一般に、今の社会では離婚すると、女性の方が不利である	56.3	-4.70	50.0	61.4	-11.40

※ [前回調査との比較] では、差が5.0ポイント以上の箇所には■、-5.0ポイント以下の箇所には■の色付け

※ [男女間の差] では、差(男性-女性)が5.0ポイント以上の箇所には■、-5.0ポイント以下の箇所には■の色付け

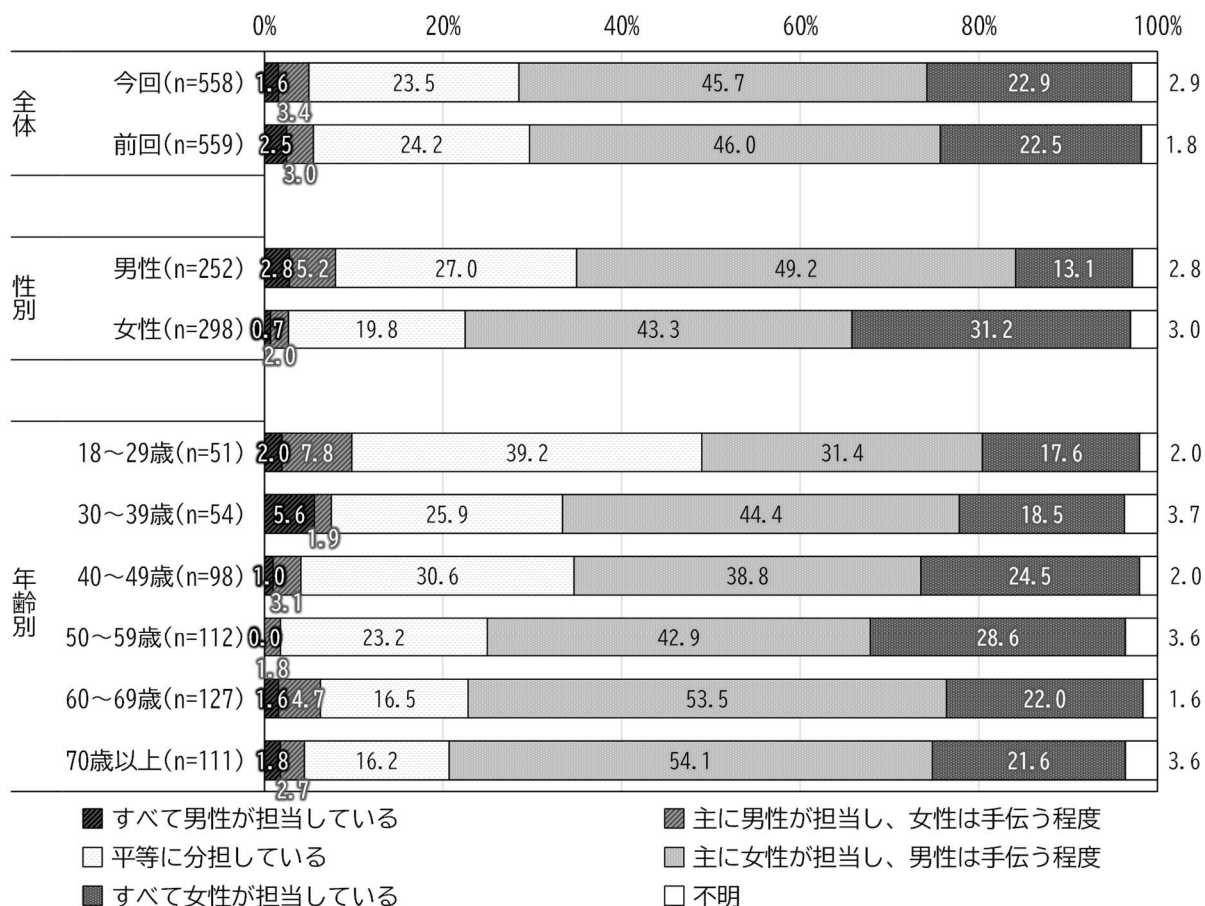
問3 家庭生活における役割分担について、以下の家事を主に誰が担当していますか。それぞれ1つずつお選びください。現在行っていない家事（子育てや介護をする状況にない方など）は、行うことになった場合を想定してお答えください。（単身世帯の方は回答不要です。）

※ 分析にあたって、「すべて男性が担当している」「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」の合計を『男性が担当』、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」「すべて女性が担当している」の合計を『女性が担当』と表記します。

※ 不明には回答不要の単身世帯の方も含まれています。

(1) 掃除

- 「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」が45.7%で最も高く、次いで「平等に分担している」が23.5%、「すべて女性が担当している」が22.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では、『男性が担当』が5.3ポイント、「平等に分担している」が7.2ポイント高く、女性では、『女性が担当』が12.2ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以下、60歳代では、それ以外の年代に比べて『男性が担当』が高く、10%前後となっています。



■集計表

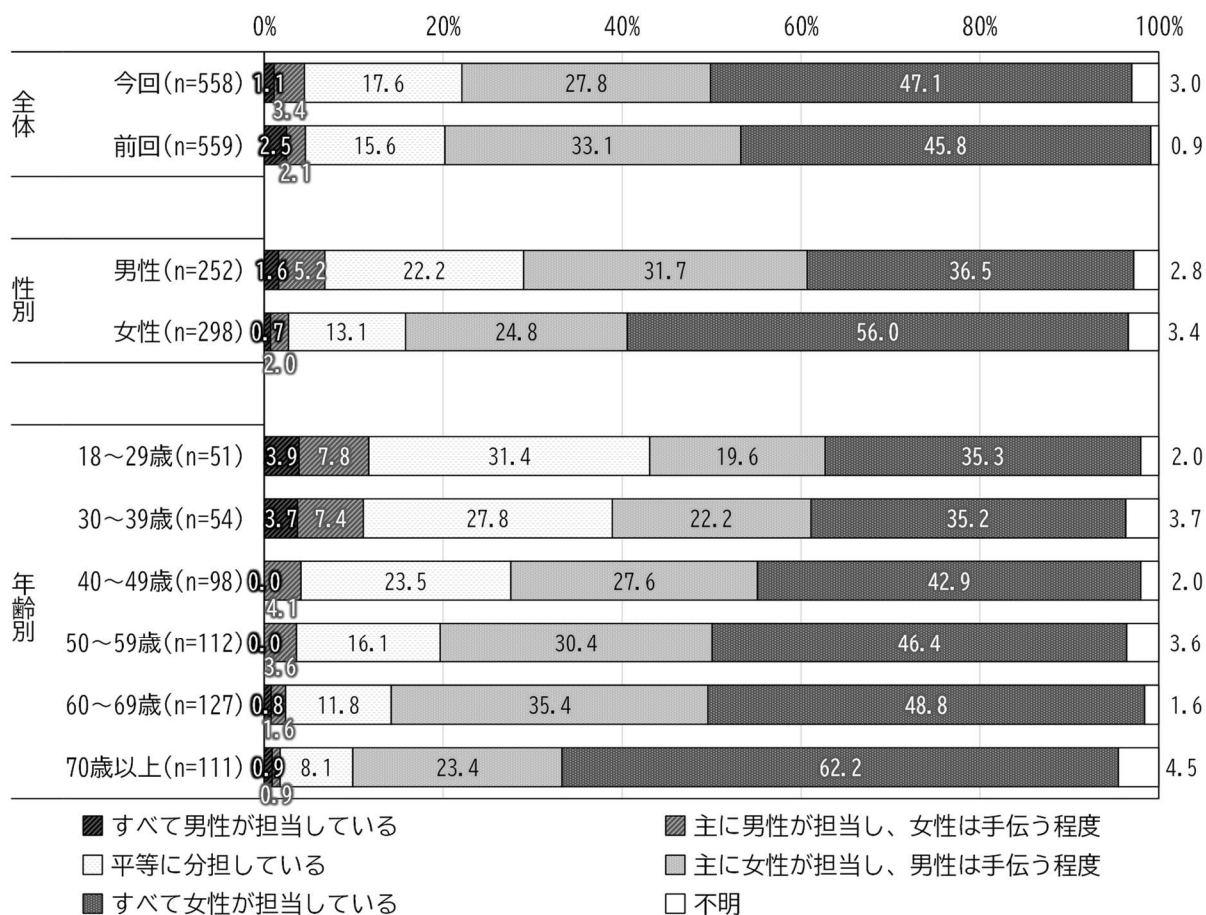
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
すべて男性が担当している	9 1.6	7 2.8	2 0.7	-	1 2.0	3 5.6	1 1.0	-	2 1.6	2 1.8
主に男性が担当し、女性は手伝う程度	19 3.4	13 5.2	6 2.0	-	4 7.8	1 1.9	3 3.1	2 1.8	6 4.7	3 2.7
平等に分担している	131 23.5	68 27.0	59 19.8	1 33.3	20 39.2	14 25.9	30 30.6	26 23.2	21 16.5	18 16.2
主に女性が担当し、男性は手伝う程度	255 45.7	124 49.2	129 43.3	1 33.3	16 31.4	24 44.4	38 38.8	48 42.9	68 53.5	60 54.1
すべて女性が担当している	128 22.9	33 13.1	93 31.2	1 33.3	9 17.6	10 18.5	24 24.5	32 28.6	28 22.0	24 21.6
不明	16 2.9	7 2.8	9 3.0	-	1 2.0	2 3.7	2 2.0	4 3.6	2 1.6	4 3.6

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

(2) 洗濯

- 「すべて女性が担当している」が47.1%で最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」が27.8%、「平等に分担している」が17.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では、『女性が担当』が12.6ポイント低く、「平等に分担している」が9.1ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年代があがるにつれて、『女性が担当』が高くなっています。



■ 集計表

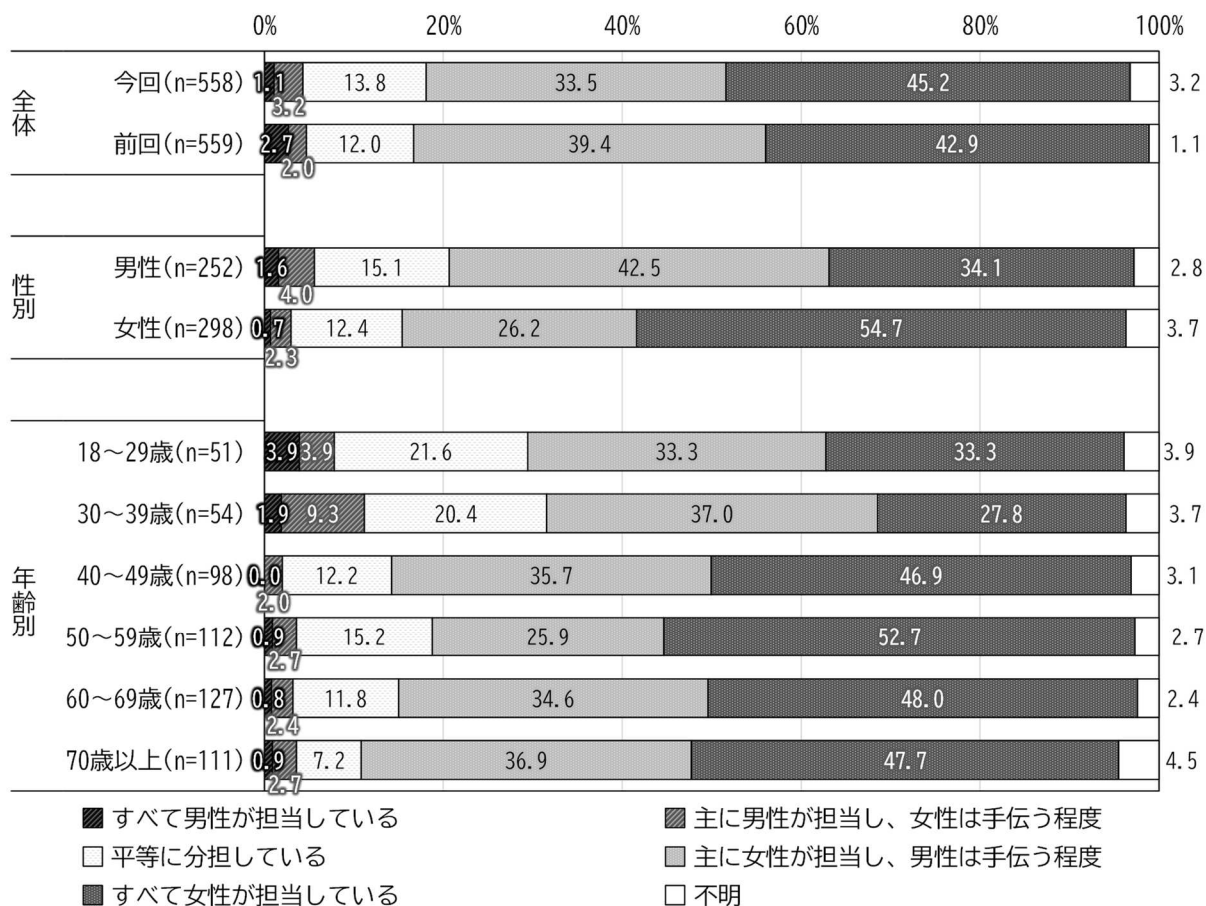
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
すべて男性が担当している	6	4	2	-	2	2	-	-	1	1
	1.1	1.6	0.7	-	3.9	3.7	-	-	0.8	0.9
主に男性が担当し、女性は手伝う程度	19	13	6	-	4	4	4	4	2	1
	3.4	5.2	2.0	-	7.8	7.4	4.1	3.6	1.6	0.9
平等に分担している	98	56	39	1	16	15	23	18	15	9
	17.6	22.2	13.1	33.3	31.4	27.8	23.5	16.1	11.8	8.1
主に女性が担当し、男性は手伝う程度	155	80	74	-	10	12	27	34	45	26
	27.8	31.7	24.8	-	19.6	22.2	27.6	30.4	35.4	23.4
すべて女性が担当している	263	92	167	2	18	19	42	52	62	69
	47.1	36.5	56.0	66.7	35.3	35.2	42.9	46.4	48.8	62.2
不明	17	7	10	-	1	2	2	4	2	5
	3.0	2.8	3.4	-	2.0	3.7	2.0	3.6	1.6	4.5

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(3) 食事のしたく

- 「すべて女性が担当している」が45.2%で最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」が33.5%、「平等に分担している」が13.8%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、概ね同様の傾向となっています。
- 年齢別にみると、30歳代以下では、40歳代以上に比べて『男性が担当』が高く、10%前後となっています。



■ 集計表

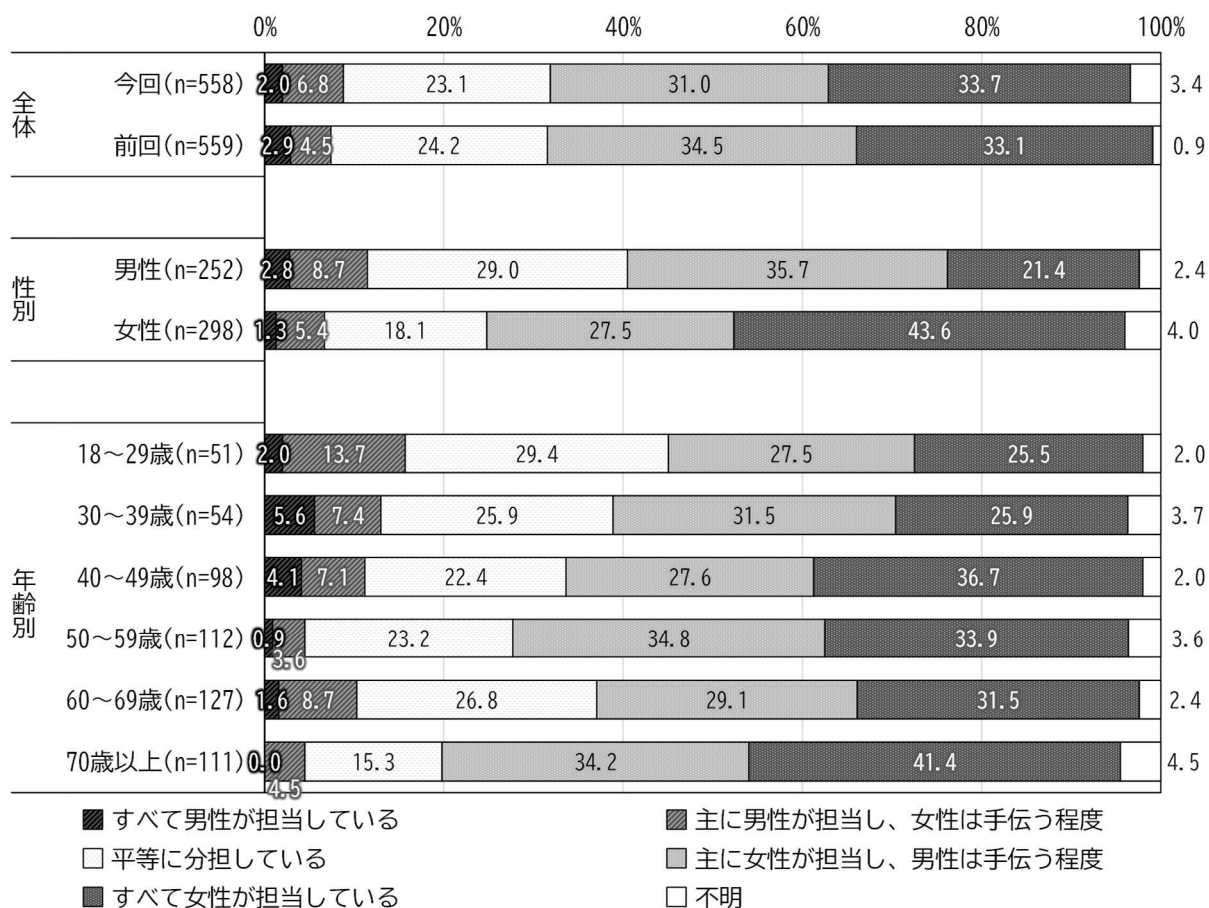
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別						
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
	n	558	252	298	3	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
すべて男性が担当している	6	4	2	-	2	1	-	1	1	1	
主に男性が担当し、女性は手伝う程度	18	10	7	-	2	5	2	3	3	3	
平等に分担している	77	38	37	-	11	11	12	17	15	8	
主に女性が担当し、男性は手伝う程度	187	107	78	1	17	20	35	29	44	41	
すべて女性が担当している	252	86	163	2	17	15	46	59	61	53	
不明	18	7	11	-	2	2	3	3	3	5	
		3.2	2.8	3.7	-	3.9	3.7	3.1	2.7	2.4	4.5

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(4) 食事の後片付け、食器洗い

- 「すべて女性が担当している」が33.7%で最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」が31.0%、「平等に分担している」が23.1%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では、「平等に分担している」が10.9ポイント高く、『女性が担当』が14.0ポイント低くなっています。
- 年齢別にみると、40歳代以下・60歳代では、他の年代に比べて『男性が担当』が高く、10%台となっています。



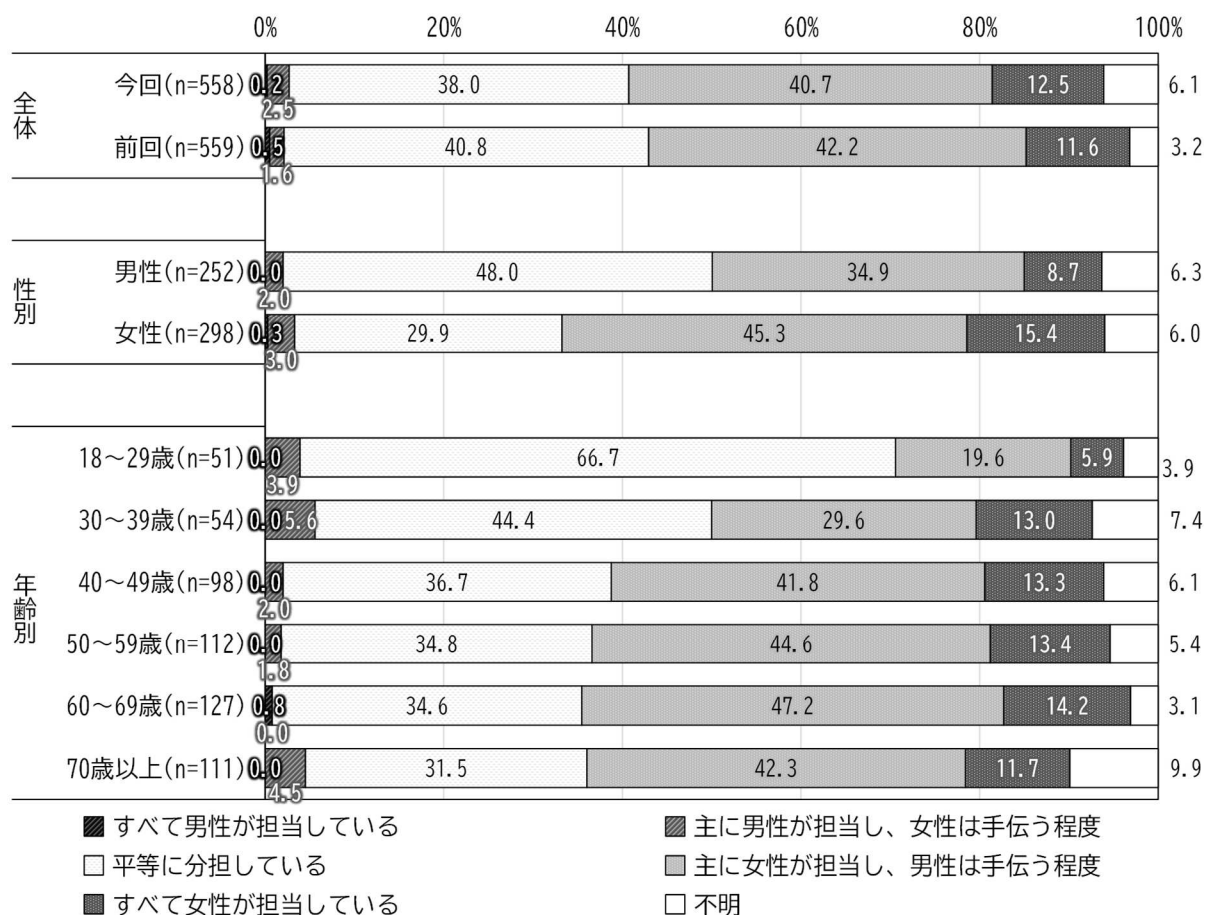
■ 集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
すべて男性が担当している	11 2.0	7 2.8	4 1.3	-	1 2.0	3 5.6	4 4.1	1 0.9	2 1.6	-
主に男性が担当し、女性は手伝う程度	38 6.8	22 8.7	16 5.4	-	7 13.7	4 7.4	7 7.1	4 3.6	11 8.7	5 4.5
平等に分担している	129 23.1	73 29.0	54 18.1	1 33.3	15 29.4	14 25.9	22 22.4	26 23.2	34 26.8	17 15.3
主に女性が担当し、男性は手伝う程度	173 31.0	90 35.7	82 27.5	-	14 27.5	17 31.5	27 27.6	39 34.8	37 29.1	38 34.2
すべて女性が担当している	188 33.7	54 21.4	130 43.6	2 66.7	13 25.5	14 25.9	36 36.7	38 33.9	40 31.5	46 41.4
不明	19 3.4	6 2.4	12 4.0	-	1 2.0	2 3.7	2 2.0	4 3.6	3 2.4	5 4.5

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）
 ※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(5) 子育て、子どものしつけや教育

- 「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」が40.7%で最も高く、次いで「平等に分担している」が38.0%、「すべて女性が担当している」が12.5%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では、「平等に分担している」が18.1ポイント高く、『女性が担当』が17.1ポイント低くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下では、30歳代以上に比べて「平等に分担している」が高く、60%台となっています。



■ 集計表

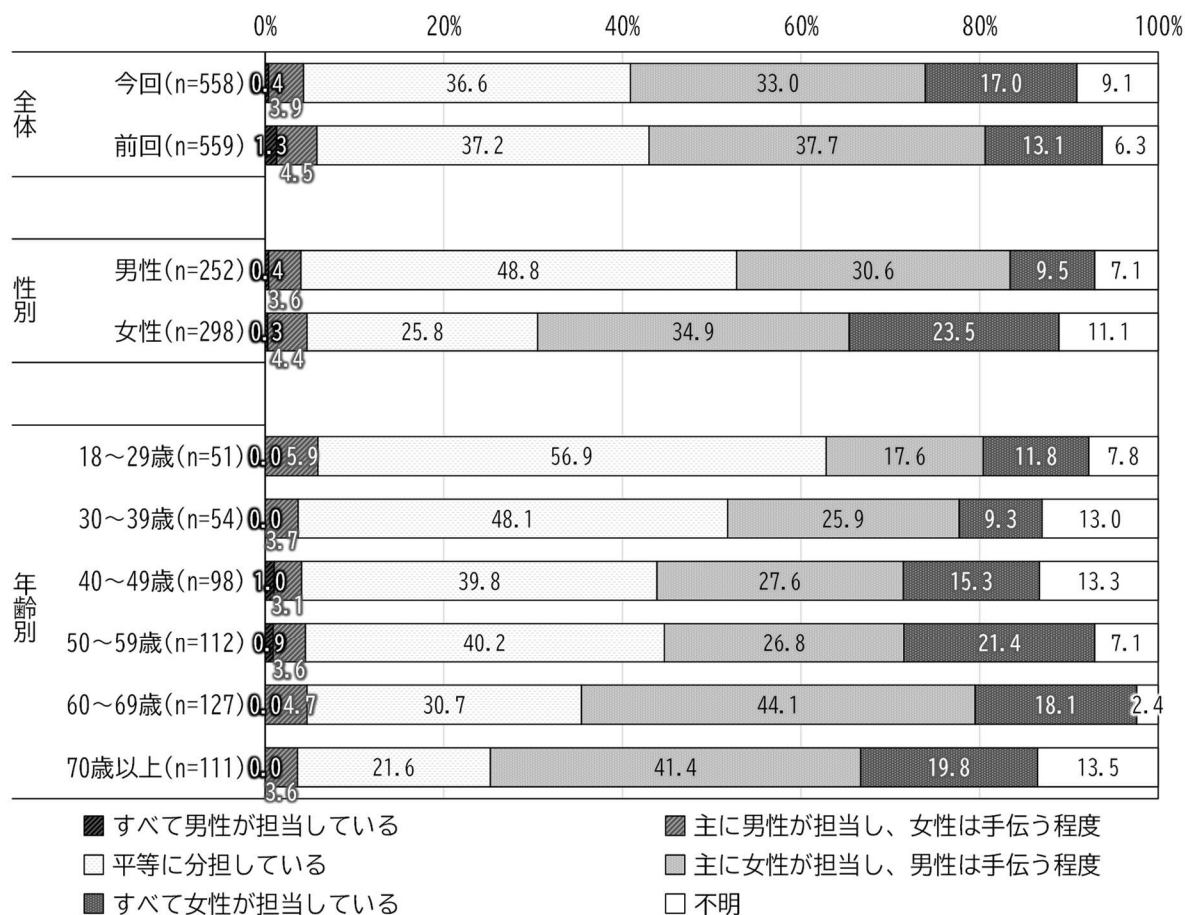
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
すべて男性が担当している	1 0.2	-	1 0.3	-	-	-	-	-	1 0.8	-
主に男性が担当し、女性は手伝う程度	14 2.5	5 2.0	9 3.0	-	2 3.9	3 5.6	2 2.0	2 1.8	-	5 4.5
平等に分担している	212 38.0	121 48.0	89 29.9	1 33.3	34 66.7	24 44.4	36 36.7	39 34.8	44 34.6	35 31.5
主に女性が担当し、男性は手伝う程度	227 40.7	88 34.9	135 45.3	1 33.3	10 19.6	16 29.6	41 41.8	50 44.6	60 47.2	47 42.3
すべて女性が担当している	70 12.5	22 8.7	46 15.4	1 33.3	3 5.9	7 13.0	13 13.3	15 13.4	18 14.2	13 11.7
不明	34 6.1	16 6.3	18 6.0	-	2 3.9	4 7.4	6 6.1	6 5.4	4 3.1	11 9.9

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(6) 家族の介護

- 「平等に分担している」が36.6%で最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」が33.0%、「すべて女性が担当している」が17.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では、「平等に分担している」が23.0ポイント高く、『女性が担当』が18.3ポイント低くなっています。
- 年齢別にみると、年代が下がるにつれて、「平等に分担している」が高くなっています。



■集計表

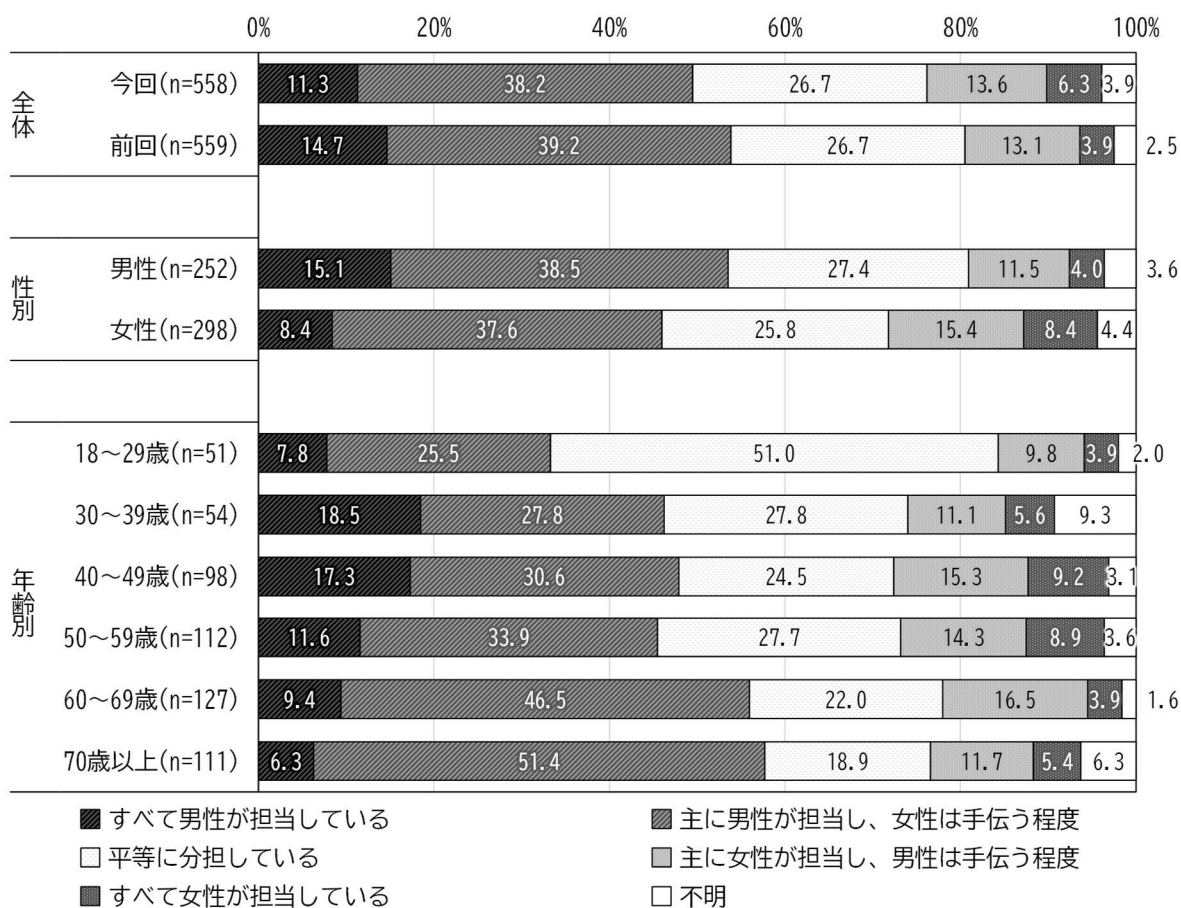
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
すべて男性が担当している	2 0.4	1 0.4	1 0.3	-	-	-	1 1.0	1 0.9	-	-
主に男性が担当し、女性は手伝う程度	22 3.9	9 3.6	13 4.4	-	3 5.9	2 3.7	3 3.1	4 3.6	6 4.7	4 3.6
平等に分担している	204 36.6	123 48.8	77 25.8	1 33.3	29 56.9	26 48.1	39 39.8	45 40.2	39 30.7	24 21.6
主に女性が担当し、男性は手伝う程度	184 33.0	77 30.6	104 34.9	1 33.3	9 17.6	14 25.9	27 27.6	30 26.8	56 44.1	46 41.4
すべて女性が担当している	95 17.0	24 9.5	70 23.5	1 33.3	6 11.8	5 9.3	15 15.3	24 21.4	23 18.1	22 19.8
不明	51 9.1	18 7.1	33 11.1	-	4 7.8	7 13.0	13 13.3	8 7.1	3 2.4	15 13.5

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(7) 住居や庭の維持、管理

- 「主に男性が担当し、女性は手伝える程度」が38.2%で最も高く、次いで「平等に分担している」が26.7%、「主に女性が担当し、男性は手伝える程度」が13.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では、『男性が担当』が7.6ポイント高く、『女性が担当』が8.3ポイント低くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下では、30歳代以上に比べて「平等に分担している」が高く、50%台となっています。



■集計表

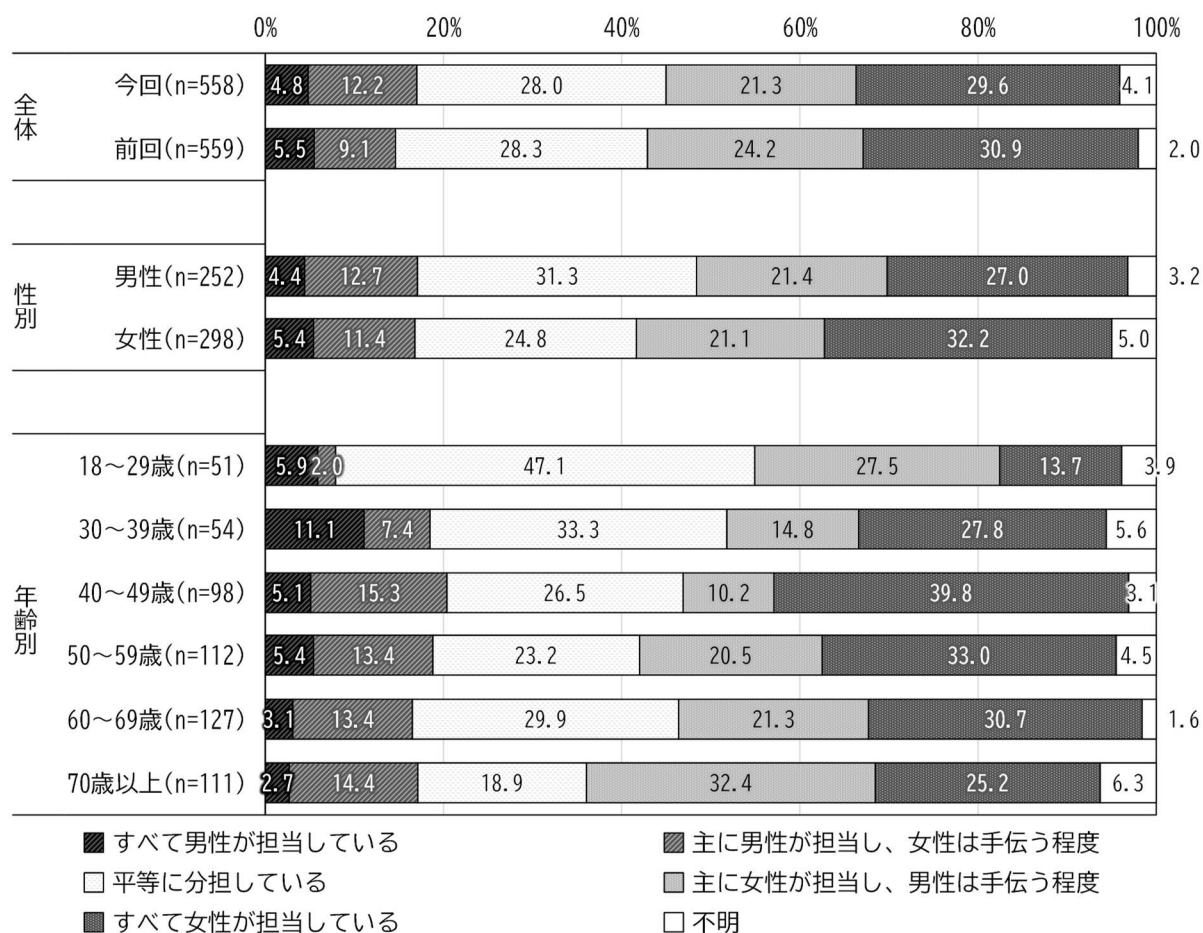
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別						
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111	
すべて男性が担当している	63 11.3	38 15.1	25 8.4	-	4 7.8	10 18.5	17 17.3	13 11.6	12 9.4	7 6.3	
主に男性が担当し、女性は手伝える程度	213 38.2	97 38.5	112 37.6	2 66.7	13 25.5	15 27.8	30 30.6	38 33.9	59 46.5	57 51.4	
平等に分担している	149 26.7	69 27.4	77 25.8	-	26 51.0	15 27.8	24 24.5	31 27.7	28 22.0	21 18.9	
主に女性が担当し、男性は手伝える程度	76 13.6	29 11.5	46 15.4	1 33.3	5 9.8	6 11.1	15 15.3	16 14.3	21 16.5	13 11.7	
すべて女性が担当している	35 6.3	10 4.0	25 8.4	-	2 3.9	3 5.6	9 9.2	10 8.9	5 3.9	6 5.4	
不明	22 3.9	9 3.6	13 4.4	-	1 2.0	5 9.3	3 3.1	4 3.6	2 1.6	7 6.3	

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(8) 家計の管理

- 「すべて女性が担当している」が29.6%で最も高く、次いで「平等に分担している」が28.0%、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」が21.3%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では、「平等に分担している」が6.5ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下では、30歳代以上に比べて「平等に分担している」が高く、40%台となっています。



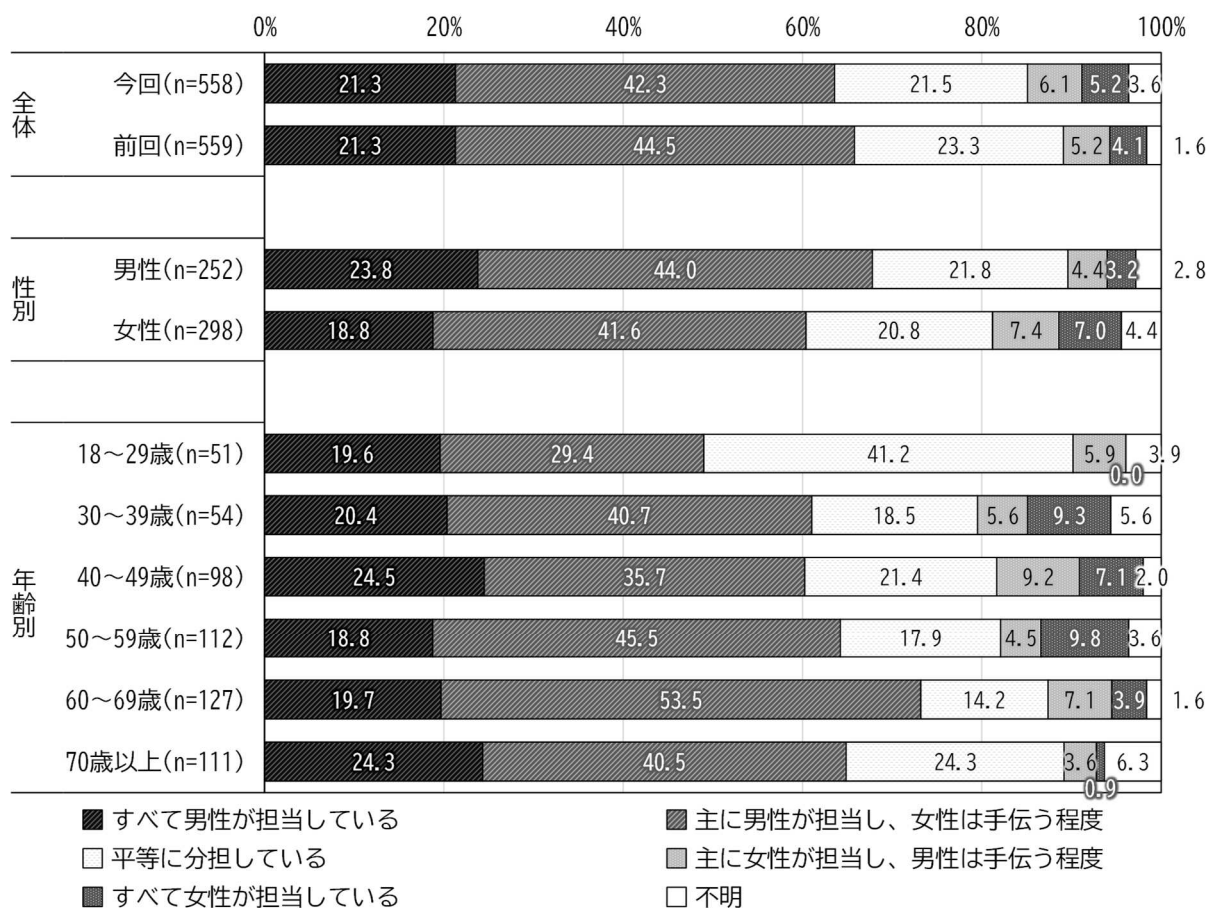
■ 集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別						
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111	
すべて男性が担当している	27 4.8	11 4.4	16 5.4	-	5.9	11.1	5.1	5.4	3.1	2.7	
主に男性が担当し、女性を手伝う程度	68 12.2	32 12.7	34 11.4	1 33.3	1 2.0	4 7.4	15 15.3	15 13.4	17 13.4	16 14.4	
平等に分担している	156 28.0	79 31.3	74 24.8	-	24 47.1	18 33.3	26 26.5	26 23.2	38 29.9	21 18.9	
主に女性が担当し、男性は手伝う程度	119 21.3	54 21.4	63 21.1	1 33.3	14 27.5	8 14.8	10 10.2	23 20.5	27 21.3	36 32.4	
すべて女性が担当している	165 29.6	68 27.0	96 32.2	1 33.3	7 13.7	15 27.8	39 39.8	37 33.0	39 30.7	28 25.2	
不明	23 4.1	8 3.2	15 5.0	-	2 3.9	3 5.6	3 3.1	5 4.5	2 1.6	7 6.3	

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）
 ※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(9) 町内会などの地域活動

- 「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」が42.3%で最も高く、次いで「平等に分担している」が21.5%、「すべて男性が担当している」が21.3%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では、『男性が担当』が7.4ポイント高く、『女性が担当』が6.8ポイント低くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下では、30歳代以上に比べて「平等に分担している」が高く、40%台となっています。



■集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
すべて男性が担当している	119 21.3	60 23.8	56 18.8	1 33.3	10 19.6	11 20.4	24 24.5	21 18.8	25 19.7	27 24.3
主に男性が担当し、女性は手伝う程度	236 42.3	111 44.0	124 41.6	1 33.3	15 29.4	22 40.7	35 35.7	51 45.5	68 53.5	45 40.5
平等に分担している	120 21.5	55 21.8	62 20.8	1 33.3	21 41.2	10 18.5	21 21.4	20 17.9	18 14.2	27 24.3
主に女性が担当し、男性は手伝う程度	34 6.1	11 4.4	22 7.4	-	3 5.9	3 5.6	9 9.2	5 4.5	9 7.1	4 3.6
すべて女性が担当している	29 5.2	8 3.2	21 7.0	-	-	5 9.3	7 7.1	11 9.8	5 3.9	1 0.9
不明	20 3.6	7 2.8	13 4.4	-	2 3.9	3 5.6	2 2.0	4 3.6	2 1.6	7 6.3

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

問3 項目別の比較

「平等に分担している」の割合の比較

- 項目ごとの「平等に分担している」の割合を比較すると、「(5)子育て、子どものしつけや教育」が38.0%で最も高く、次いで「(6)家族の介護」が36.6%、「(8)家計の管理」が28.0%となっています。
- 前回調査と比較すると各項目大きな差はありません。
- 男女間で比較すると、いずれも男性の方が高くなっており、特に「(6)家族の介護」「(5)子育て、子どものしつけや教育」では20%前後となっています。

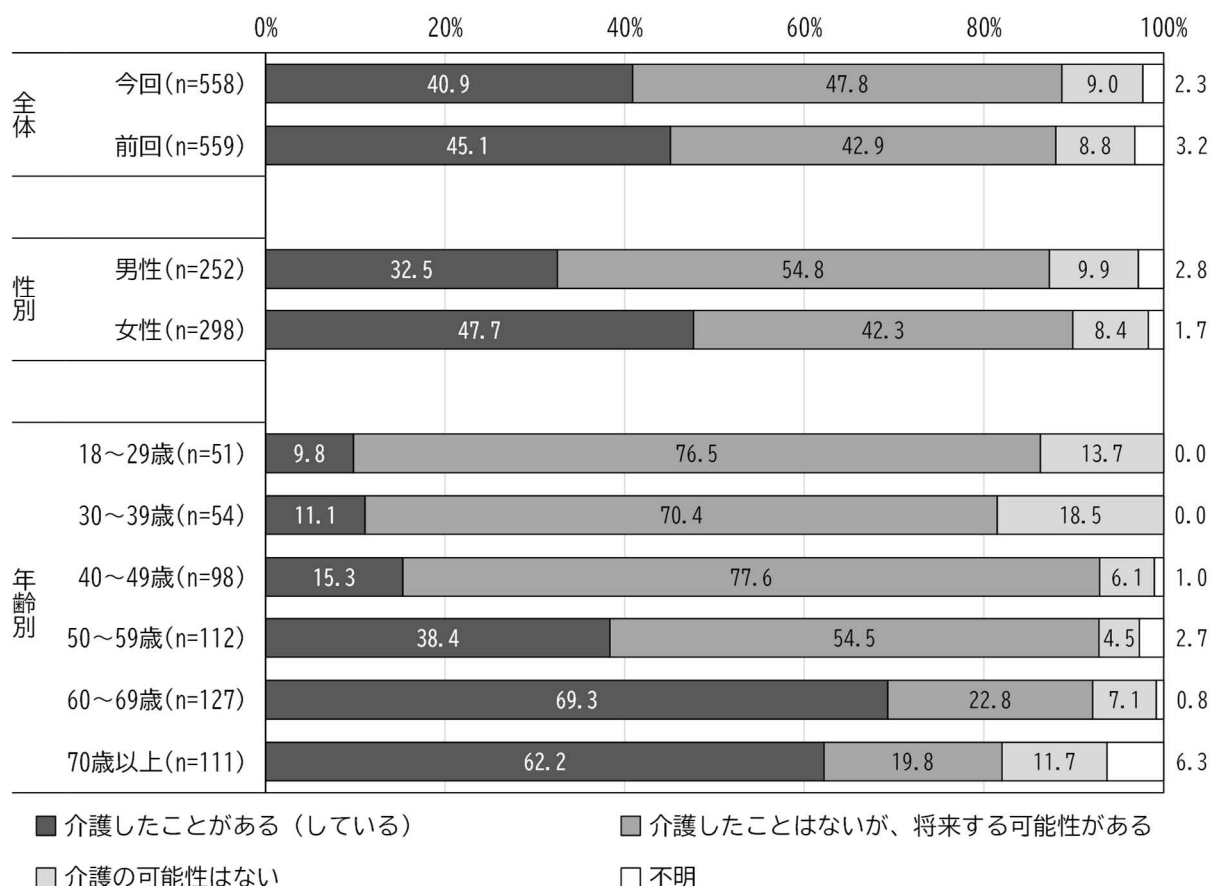
	割合	前回調査との比較	男女間の差		
			男性	女性	差（男性-女性）
(1) 掃除	23.5	-0.70	27.0	19.8	+7.20
(2) 洗濯	17.6	+2.00	22.2	13.1	+9.10
(3) 食事のしたく	13.8	+1.80	15.1	12.4	+2.70
(4) 食事の後片付け、食器洗い	23.1	-1.10	29.0	18.1	+10.90
(5) 子育て、子どものしつけや教育	38.0	-2.80	48.0	29.9	+18.10
(6) 家族の介護	36.6	-0.60	48.8	25.8	+23.00
(7) 住居や庭の維持、管理	26.7	±0.00	27.4	25.8	+1.60
(8) 家計の管理	28.0	-0.30	31.3	24.8	+6.50
(9) 町内会などの地域活動	21.5	-1.80	21.8	20.8	+1.00

※ [前回調査との比較] では、差が5.0ポイント以上の箇所には■、-5.0ポイント以下の箇所には■の色付け

※ [男女間の差] では、差（男性-女性）が5.0ポイント以上の箇所には■、-5.0ポイント以下の箇所には■の色付け

問4 配偶者（またはパートナー）やあなたの親、家族（同居・別居は問いません）を介護したことはありますか。1つだけお選びください。

- 「介護したことはないが、将来する可能性がある」が47.8%で最も高く、次いで「介護したことがある(している)」が40.9%、「介護の可能性はない」が9.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では「介護したことはないが、将来する可能性がある」が12.5ポイント高く、女性では「介護したことがある(している)」が15.2ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、50歳代以上では、40歳代以下に比べて「介護したことがある(している)」が高く、30～60%台となっています。



■ 集計表

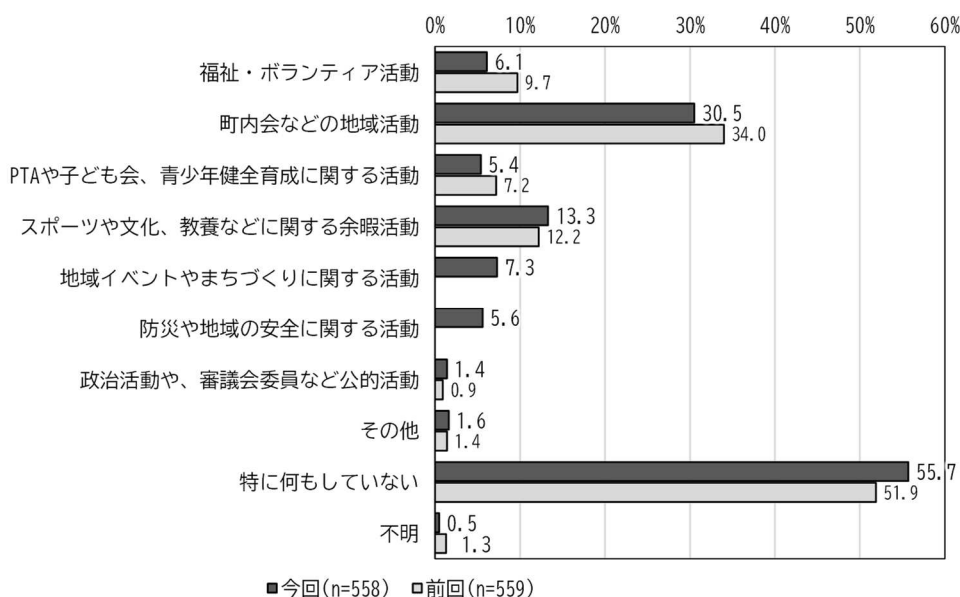
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
介護したことがある(している)	228 40.9	82 32.5	142 47.7	2 66.7	5 9.8	6 11.1	15 15.3	43 38.4	88 69.3	69 62.2
介護したことはないが、将来する可能性がある	267 47.8	138 54.8	126 42.3	1 33.3	39 76.5	38 70.4	76 77.6	61 54.5	29 22.8	22 19.8
介護の可能性はない	50 9.0	25 9.9	25 8.4	-	7 13.7	10 18.5	6 6.1	5 4.5	9 7.1	13 11.7
不明	13 2.3	7 2.8	5 1.7	-	-	-	1 1.0	3 2.7	1 0.8	7 6.3

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

問5 あなたは現在、仕事や学業以外に何か活動していることはありますか。次の中から、あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 「特に何もしていない」が55.7%で最も高く、次いで「町内会などの地域活動」が30.5%、「スポーツや文化、教養などに関する余暇活動」が13.3%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では「町内会などの地域活動」「防災や地域の安全に関する活動」が女性よりもそれぞれ25.6ポイント、11.2ポイント高く、女性では「特に何もしていない」が男性よりも17.0ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以下では「特に何もしていない」が60～70%台、70歳以上では「福祉・ボランティア活動」が10%台、「町内会などの地域活動」が40%台で、他の年代よりも高くなっています。



■ 集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
福祉・ボランティア活動	34 6.1	13 5.2	19 6.4	1 33.3	1 2.0	3 5.6	-	5 4.5	6 4.7	18 16.2
町内会などの地域活動	170 30.5	112 44.4	56 18.8	-	4 7.8	9 16.7	27 27.6	37 33.0	45 35.4	46 41.4
PTAや子ども会、青少年健全育成に関する活動	30 5.4	12 4.8	16 5.4	-	1 2.0	5 9.3	15 15.3	5 4.5	1 0.8	1 0.9
スポーツや文化、教養などに関する余暇活動	74 13.3	29 11.5	44 14.8	-	6 11.8	8 14.8	11 11.2	9 8.0	16 12.6	23 20.7
地域イベントやまちづくりに関する活動	41 7.3	25 9.9	14 4.7	-	4 7.8	3 5.6	4 4.1	7 6.3	8 6.3	13 11.7
防災や地域の安全に関する活動	31 5.6	29 11.5	1 0.3	-	1 2.0	2 3.7	4 4.1	7 6.3	6 4.7	10 9.0
政治活動や、審議会委員など公的活動	8 1.4	6 2.4	2 0.7	-	-	-	2 2.0	1 0.9	1 0.8	4 3.6
その他	9 1.6	4 1.6	5 1.7	-	-	-	2 2.0	-	3 2.4	4 3.6
特に何もしていない	311 55.7	117 46.4	189 63.4	2 66.7	39 76.5	36 66.7	56 57.1	64 57.1	65 51.2	48 43.2
不明	3 0.5	2 0.8	1 0.3	-	-	-	-	1 0.9	1 0.8	1 0.9

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

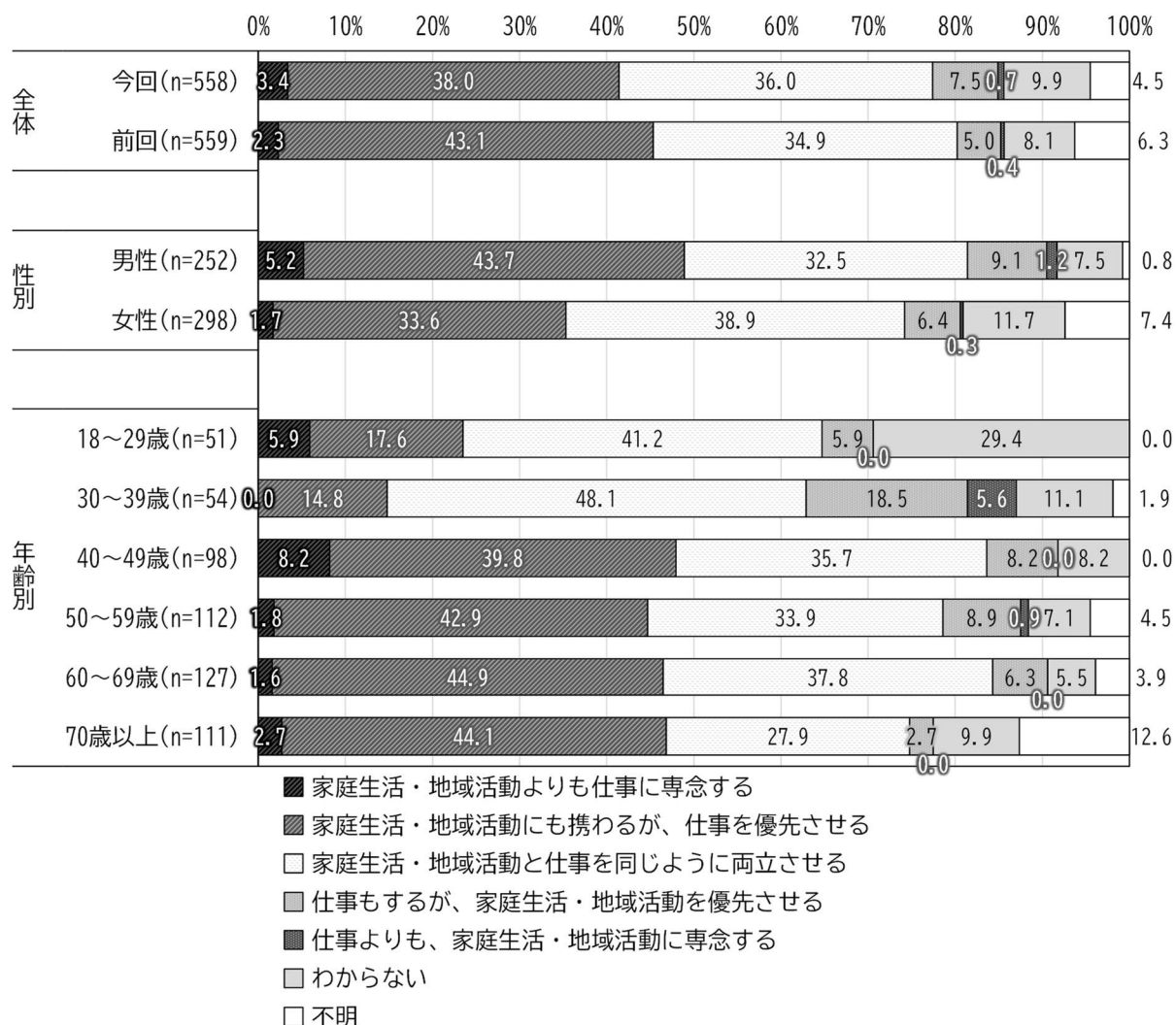
※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

問6 あなたは、仕事と家庭生活、地域活動の関係について、どのようなバランスが望ましいと思いますか。次の中からあてはまるものを男性、女性それぞれに1つずつお選びください。

※ 分析にあたって、「家庭生活・地域活動よりも仕事に専念する」「家庭生活・地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」の合計を『仕事に専念』、「仕事もするが、家庭生活・地域活動を優先させる」「仕事よりも、家庭生活・地域活動に専念する」の合計を『家庭生活・地域活動に専念』と表記します。

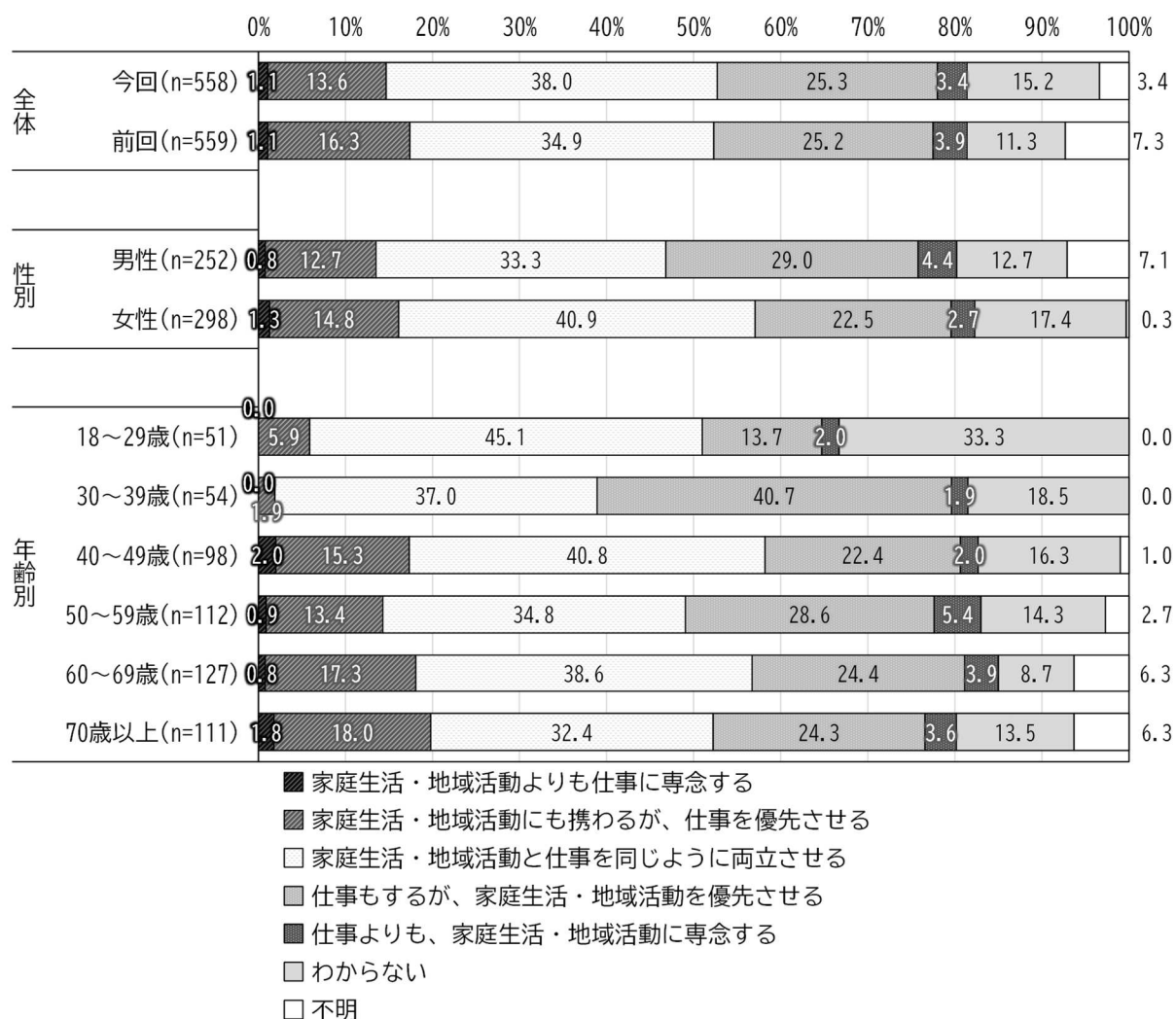
(1) 男性にとって望ましい仕事と家庭生活、地域活動の関係

- 「家庭生活・地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」が38.0%で最も高く、次いで「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」が36.0%、「わからない」が9.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では『仕事に専念』が13.6ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、40歳代以上では、30歳代以下に比べて『仕事に専念』が高く、40%台となっています。



(2) 女性にとって望ましい仕事と家庭生活、地域活動の関係

- 「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」が38.0%で最も高く、次いで「仕事もするが、家庭生活・地域活動を優先させる」が25.3%、「わからない」が15.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、女性では「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」が7.6ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、40歳代以上では、30歳代以下に比べて『仕事に専念』が高く、10%台となっています。



■集計表

(1) 男性にとって望ましい仕事と家庭生活、地域活動の関係

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別						
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111	
家庭生活・地域活動よりも仕事に専念する	19 3.4	13 5.2	5 1.7	-	3 5.9	-	8 8.2	2 1.8	2 1.6	3 2.7	
家庭生活・地域活動にも携わるが、仕事を優先させる	212 38.0	110 43.7	100 33.6	1 33.3	9 17.6	8 14.8	39 39.8	48 42.9	57 44.9	49 44.1	
家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる	201 36.0	82 32.5	116 38.9	1 33.3	21 41.2	26 48.1	35 35.7	38 33.9	48 37.8	31 27.9	
仕事もするが、家庭生活・地域活動を優先させる	42 7.5	23 9.1	19 6.4	-	3 5.9	10 18.5	8 8.2	10 8.9	8 6.3	3 2.7	
仕事よりも、家庭生活・地域活動に専念する	4 0.7	3 1.2	1 0.3	-	-	3 5.6	-	1 0.9	-	-	
わからない	55 9.9	19 7.5	35 11.7	1 33.3	15 29.4	6 11.1	8 8.2	8 7.1	7 5.5	11 9.9	
不明	25 4.5	2 0.8	22 7.4	-	-	1 1.9	-	5 4.5	5 3.9	14 12.6	

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

(2) 女性にとって望ましい仕事と家庭生活、地域活動の関係

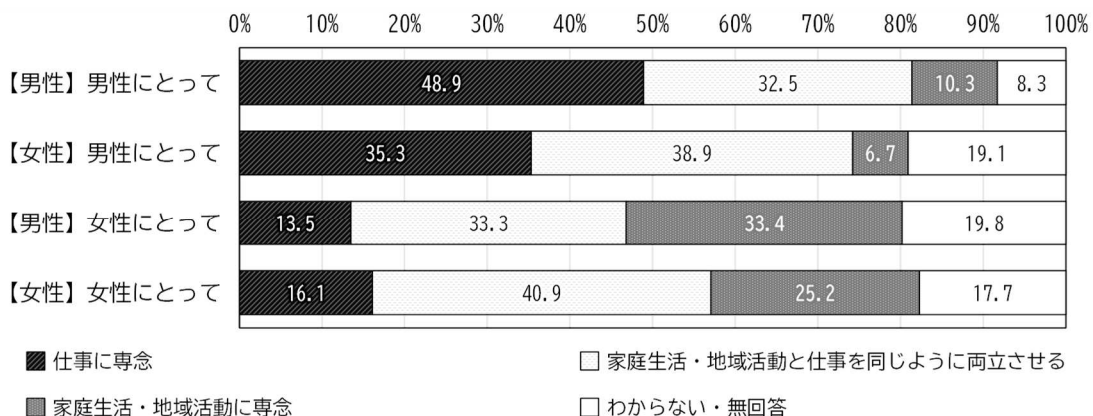
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別						
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111	
家庭生活・地域活動よりも仕事に専念する	6 1.1	2 0.8	4 1.3	-	-	-	2 2.0	1 0.9	1 0.8	2 1.8	
家庭生活・地域活動にも携わるが、仕事を優先させる	76 13.6	32 12.7	44 14.8	-	3 5.9	1 1.9	15 15.3	15 13.4	22 17.3	20 18.0	
家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる	212 38.0	84 33.3	122 40.9	1 33.3	23 45.1	20 37.0	40 40.8	39 34.8	49 38.6	36 32.4	
仕事もするが、家庭生活・地域活動を優先させる	141 25.3	73 29.0	67 22.5	1 33.3	7 13.7	22 40.7	22 22.4	32 28.6	31 24.4	27 24.3	
仕事よりも、家庭生活・地域活動に専念する	19 3.4	11 4.4	8 2.7	-	1 2.0	1 1.9	2 2.0	6 5.4	5 3.9	4 3.6	
わからない	85 15.2	32 12.7	52 17.4	1 33.3	17 33.3	10 18.5	16 16.3	16 14.3	11 8.7	15 13.5	
不明	19 3.4	18 7.1	1 0.3	-	-	-	1 1.0	3 2.7	8 6.3	7 6.3	

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

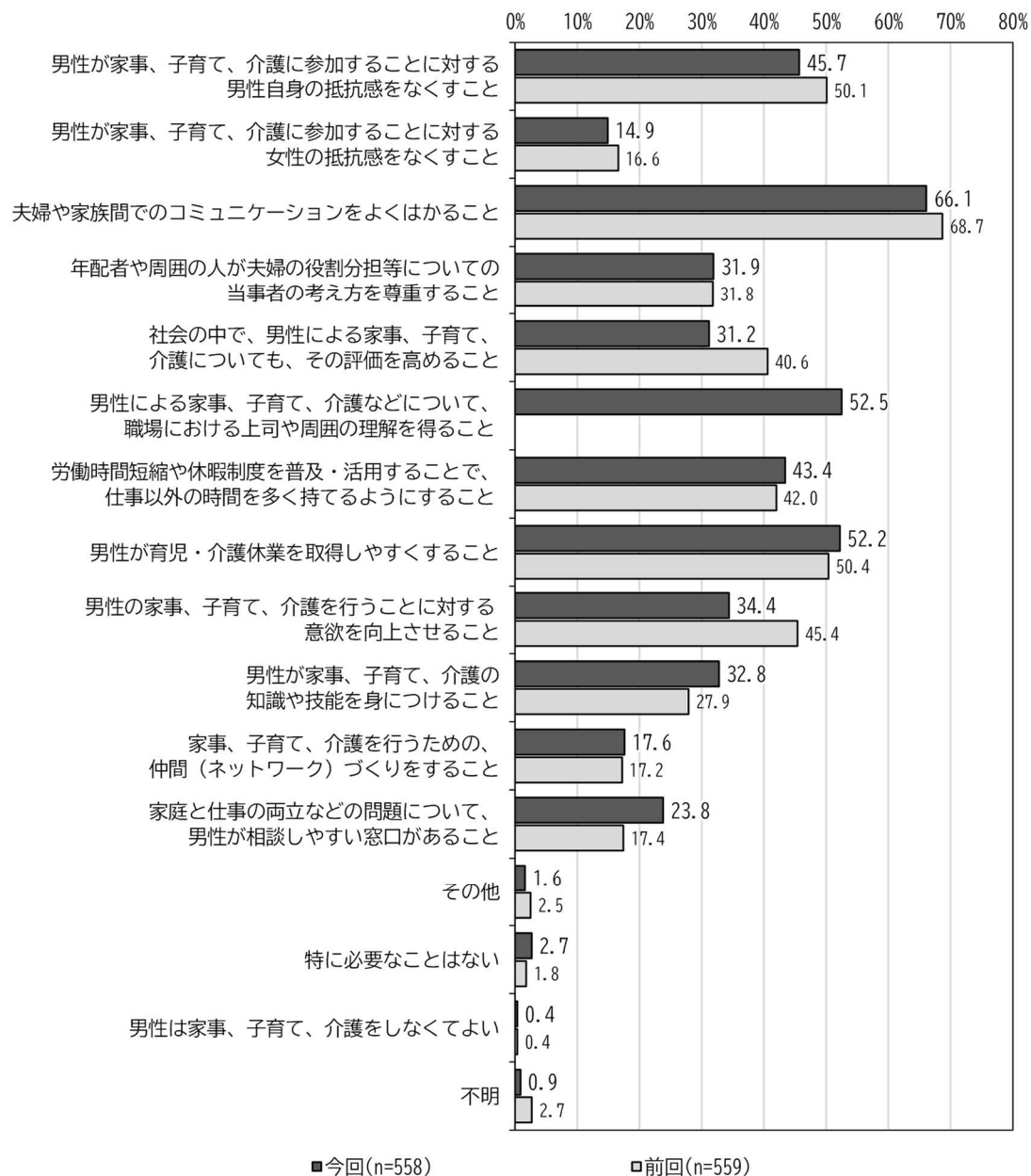
問6 項目別の比較

- 男性・女性それぞれの望ましい仕事と家庭生活、地域活動のバランスについて、男女間で比較すると、【男性にとって】については、『仕事に専念』で差がみられ、【女性にとって】については、『家庭生活・地域活動に専念』で差がみられています。



問7 あなたは、男性が家事、子育て、介護に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が66.1%で最も高く、次いで「男性による家事、子育て、介護などについて、職場における上司や周囲の理解を得ること」が52.5%、「男性が育児・介護休業を取得しやすくすること」が52.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、「家庭と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口があること」が6.4ポイント増加し、「男性の家事、子育て、介護を行うことに対する意欲を向上させること」が11.0ポイント、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についても、その評価を高めること」が9.4ポイント減少しています。
- 性別でみると、女性では「男性が家事、子育て、介護に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「男性による家事、子育て、介護などについて、職場における上司や周囲の理解を得ること」「男性の家事、子育て、介護を行うことに対する意欲を向上させること」が男性に比べてそれぞれ10.3ポイント、10.6ポイント、11.8ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以下では「男性が育児・介護休業を取得しやすくすること」が60%台で、40歳代以上の40～50%台に比べて高くなっています。



■集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別						新潟県・全国との比較			
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	新潟県	差	全国	差
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111				
男性が家事、子育て、介護に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	255 45.7	100 39.7	149 50.0	3 100.0	21 41.2	27 50.0	38 38.8	48 42.9	63 49.6	56 50.5	54.1	-8.4	63.1	-17.4
男性が家事、子育て、介護に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	83 14.9	29 11.5	53 17.8	-	7 13.7	12 22.2	13 13.3	15 13.4	18 14.2	17 15.3	18.9	-4.0	22.7	-7.8
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	369 66.1	160 63.5	202 67.8	3 100.0	33 64.7	39 72.2	64 65.3	75 67.0	79 62.2	76 68.5	66.7	-0.6	60.9	+5.2
年配者や周囲の人が夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	178 31.9	68 27.0	106 35.6	2 66.7	10 19.6	15 27.8	33 33.7	42 37.5	42 33.1	34 30.6	40.4	-8.5	42.3	-10.4
社会の中で、男性による家事、子育て、介護についても、その評価を高めること	174 31.2	65 25.8	106 35.6	1 33.3	16 31.4	16 29.6	30 30.6	41 36.6	40 31.5	30 27.0	39.6	-8.4	47.5	-16.3
男性による家事、子育て、介護などについて、職場における上司や周囲の理解を得ること	293 52.5	117 46.4	170 57.0	3 100.0	24 47.1	27 50.0	49 50.0	69 61.6	68 53.5	54 48.6	60.5	-8.0	67.8	-15.3
労働時間短縮や休暇制度を普及・活用することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること	242 43.4	112 44.4	125 41.9	2 66.7	22 43.1	26 48.1	46 46.9	53 47.3	46 36.2	47 42.3	38.5	+4.9	47.8	-4.4
男性が育児・介護休業を取得しやすくなること	291 52.2	130 51.6	159 53.4	-	35 68.6	33 61.1	48 49.0	53 47.3	64 50.4	57 51.4	-	-	-	-
男性の家事、子育て、介護を行うことに対する意欲を向上させること	192 34.4	70 27.8	118 39.6	-	17 33.3	18 33.3	37 37.8	40 35.7	38 29.9	39 35.1	-	-	-	-
男性が家事、子育て、介護の知識や技能を身につけること	183 32.8	84 33.3	96 32.2	1 33.3	16 31.4	17 31.5	33 33.7	34 30.4	37 29.1	45 40.5	-	-	-	-
家事、子育て、介護を行うための、仲間(ネットワーク)づくりをすること	98 17.6	42 16.7	53 17.8	1 33.3	8 15.7	11 20.4	16 16.3	16 14.3	18 14.2	28 25.2	17.5	+0.1	25.0	-7.4
家庭と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口があること	133 23.8	57 22.6	74 24.8	-	9 17.6	15 27.8	22 22.4	23 20.5	27 21.3	36 32.4	-	-	-	-
その他	9 1.6	4 1.6	5 1.7	-	3 5.9	1 1.9	3 3.1	-	-	1 0.9	3.5	-1.9	-	-
特に必要なことはない	15 2.7	13 5.2	2 0.7	-	3 5.9	2 3.7	5 5.1	1 0.9	2 1.6	2 1.8	3.1	-0.4	-	-
男性は家事、子育て、介護をしなくてよい	2 0.4	2 0.8	-	-	-	-	1 1.0	-	1 0.8	-	-	-	-	-
不明	5 0.9	2 0.8	2 0.7	-	-	-	1 1.0	-	2 1.6	1 0.9	1.6	-0.7	1.8	-0.9

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

※【新潟県・全国との比較】では、新潟県・全国と比べて5.0ポイント以上高い箇所には■、5.0ポイント以上低い箇所には■の色付け

■新潟県・全国との比較■

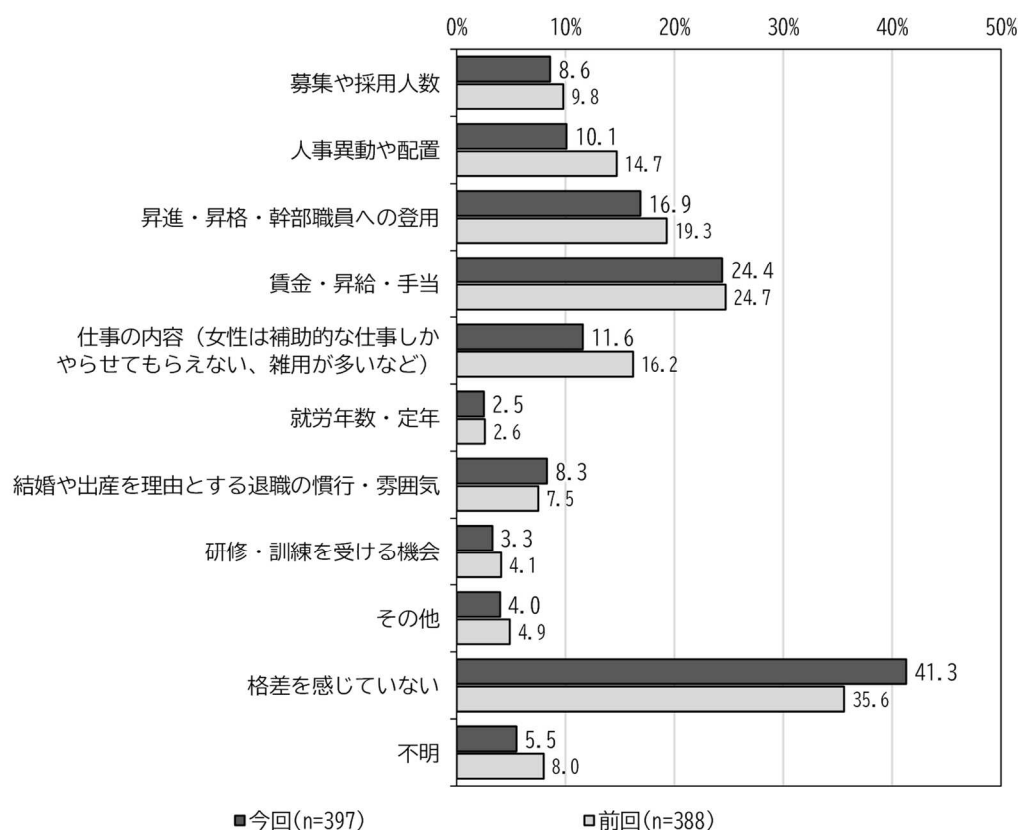
- 新潟県・全国と比較すると、小千谷市では全国に比べて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が高くなっています。

4. 男女の職業生活に対する考え方について

問8 [現在、就労している方におたずねします。]

あなたの今の職場で、仕事の内容や待遇面で、性別による格差を感じていることはどのようなことですか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 「格差を感じていない」が41.3%で最も高く、次いで「賃金・昇給・手当」が24.4%、「昇進・昇格・幹部職員への登用」が16.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、「格差を感じていない」が5.7ポイント増加しています。
- 性別で見ると、男性では「募集や採用人数」「仕事の内容(女性は補助的な仕事しかやらせてもらえない、雑用が多いなど)」が女性に比べてそれぞれ6.4ポイント高く、女性では「格差を感じていない」が男性に比べて6.9ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下では「昇進・昇格・幹部職員への登用」が約30%、50歳代では「人事異動や配置」が約20%で他の年代に比べて高くなっています。



■集計表

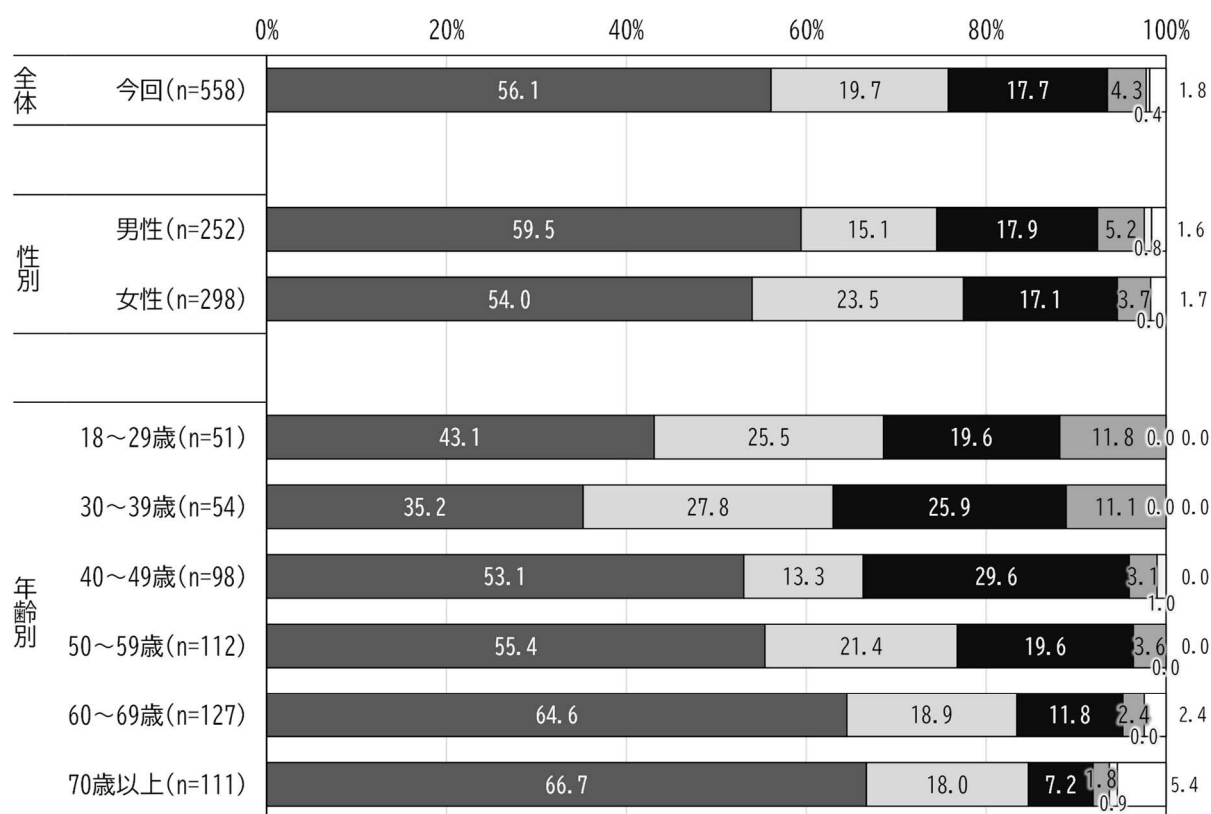
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	397	194	200	3	34	49	88	98	94	34
募集や採用人数	34 8.6	23 11.9	11 5.5	-	4 11.8	4 8.2	5 5.7	9 9.2	9 9.6	3 8.8
人事異動や配置	40 10.1	23 11.9	17 8.5	-	3 8.8	6 12.2	6 6.8	20 20.4	4 4.3	1 2.9
昇進・昇格・幹部職員への登用	67 16.9	30 15.5	37 18.5	-	10 29.4	11 22.4	13 14.8	21 21.4	9 9.6	3 8.8
賃金・昇給・手当	97 24.4	43 22.2	54 27.0	-	8 23.5	9 18.4	19 21.6	30 30.6	26 27.7	5 14.7
仕事の内容(女性は補助的な仕事しかやらせてもらえない、雑用が多いなど)	46 11.6	29 14.9	17 8.5	-	4 11.8	2 4.1	18 20.5	9 9.2	12 12.8	1 2.9
就労年数・定年	10 2.5	5 2.6	5 2.5	-	1 2.9	-	1 1.1	4 4.1	3 3.2	1 2.9
結婚や出産を理由とする退職の慣行・雰囲気	33 8.3	12 6.2	20 10.0	1 33.3	5 14.7	5 10.2	9 10.2	8 8.2	5 5.3	1 2.9
研修・訓練を受ける機会	13 3.3	4 2.1	9 4.5	-	-	-	5 5.7	4 4.1	3 3.2	1 2.9
その他	16 4.0	9 4.6	7 3.5	-	1 2.9	1 2.0	4 4.5	3 3.1	3 3.2	4 11.8
格差を感じていない	164 41.3	73 37.6	89 44.5	2 66.7	16 47.1	19 38.8	38 43.2	35 35.7	44 46.8	12 35.3
不明	22 5.5	13 6.7	9 4.5	-	-	2 4.1	2 2.3	1 1.0	10 10.6	7 20.6

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け(いずれも数値の高い性別に色付け)

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

問9 あなたは、結婚や出産などのライフイベントを経た後の女性の働き方について、どのように思いますか。次の中から特に重要だと感じるものを1つだけお選びください。

- 「出産、子育ての時期にはいったん仕事を離れても、復職や再就職がしやすく、希望すれば働き続けられる社会が望ましい」が56.1%で最も高く、次いで「家事、子育ての負担が女性に偏らない社会づくり」が19.7%、「結婚や出産にかかわらず、働き方は個人が自由に選択できるべき」が17.7%となっています。
- 性別で見ると、男性では「出産、子育ての時期にはいったん仕事を離れても、復職や再就職がしやすく、希望すれば働き続けられる社会が望ましい」が女性に比べて5.5ポイント高く、女性では「家事、子育ての負担が女性に偏らない社会づくり」が男性に比べて8.4ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、概ね年代が上がるにつれて「出産、子育ての時期にはいったん仕事を離れても、復職や再就職がしやすく、希望すれば働き続けられる社会が望ましい」が高くなっており、30歳代の30%台から70歳以上の60%台まで上昇しています。また、30～40歳代で「結婚や出産にかかわらず、働き方は個人が自由に選択できるべき」が20～30%前後と、他の年代に比べて高くなっています。



- 出産、子育ての時期にはいったん仕事を離れても、復職や再就職がしやすく、希望すれば働き続けられる社会が望ましい
- 家事、子育ての負担が女性に偏らない社会づくり
- 結婚や出産にかかわらず、働き方は個人が自由に選択できるべき
- わからない
- その他
- 不明

■集計表

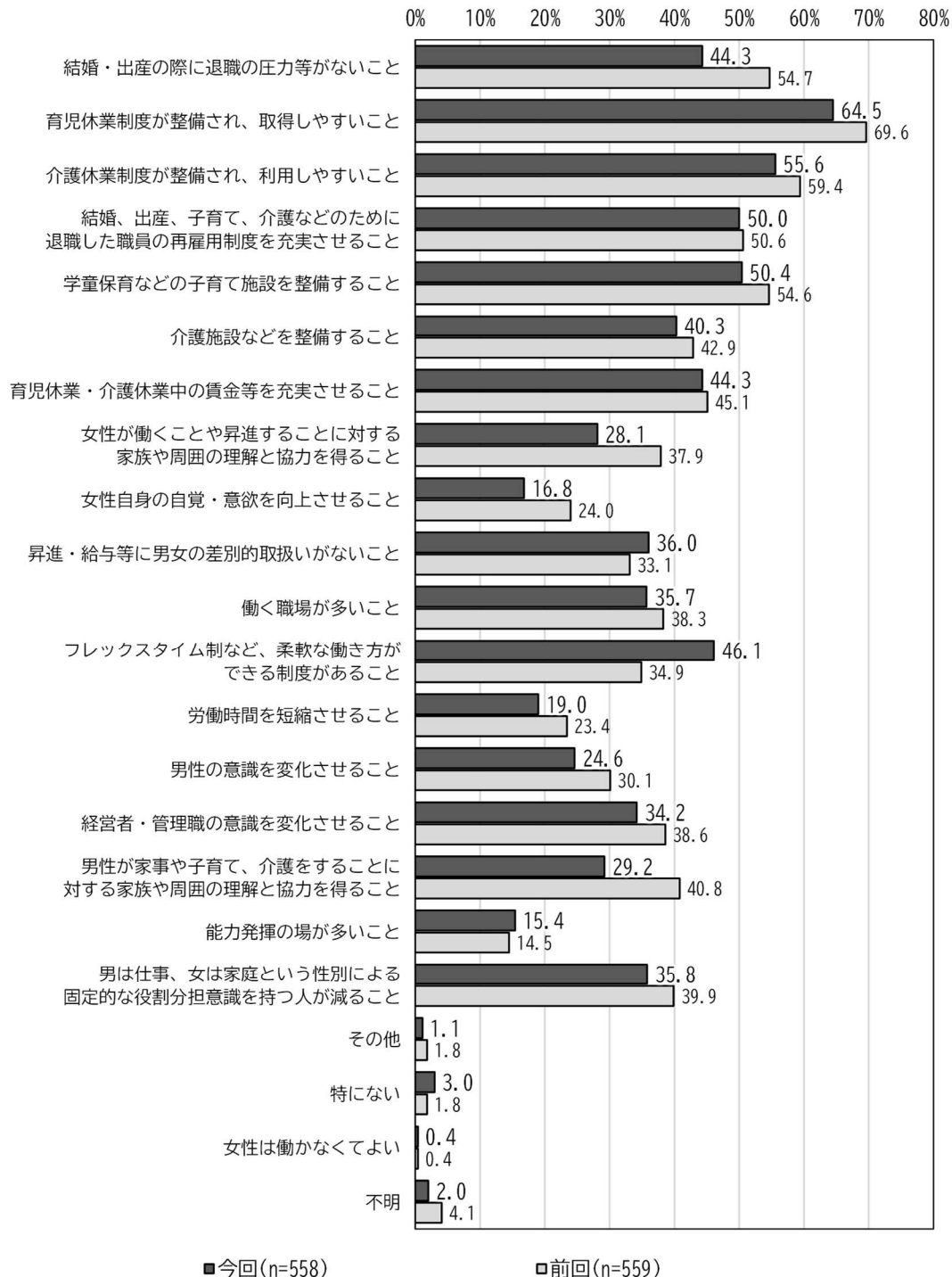
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
出産、子育ての時期にはいったん仕事を離れても、復職や再就職がしやすく、希望すれば働き続けられる社会が望ましい	313 56.1	150 59.5	161 54.0	1 33.3	22 43.1	19 35.2	52 53.1	62 55.4	82 64.6	74 66.7
家事、子育ての負担が女性に偏らない社会づくり	110 19.7	38 15.1	70 23.5	1 33.3	13 25.5	15 27.8	13 13.3	24 21.4	24 18.9	20 18.0
結婚や出産にかかわらず、働き方は個人が自由に選択できるべき	99 17.7	45 17.9	51 17.1	1 33.3	10 19.6	14 25.9	29 29.6	22 19.6	15 11.8	8 7.2
わからない	24 4.3	13 5.2	11 3.7	-	6 11.8	6 11.1	3 3.1	4 3.6	3 2.4	2 1.8
その他	2 0.4	2 0.8	-	-	-	-	1 1.0	-	-	1 0.9
不明	10 1.8	4 1.6	5 1.7	-	-	-	-	-	3 2.4	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

問10 あなたは、女性が働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。

- 「育児休業制度が整備され、取得しやすいこと」が64.5%で最も高く、次いで「介護休業制度が整備され、利用しやすいこと」が55.6%、「学童保育などの子育て施設を整備すること」が50.4%となっています。
- 前回調査と比較すると、「フレックスタイム制など、柔軟な働き方ができる制度があること」が11.2ポイント増加し、「結婚・出産の際に退職の圧力等がないこと」が10.4ポイント、「女性が働くことや昇進することに対する家族や周囲の理解と協力を得ること」が9.8ポイント、「男性が家事や子育て、介護をすることに対する家族や周囲の理解と協力を得ること」が11.6ポイント減少しています。



- 性別で見ると、女性では「介護休業制度が整備され、利用しやすいこと」「男性が家事や子育て、介護をすることに対する家族や周囲の理解と協力を得ること」「男は仕事、女は家庭という性別による固定的な役割分担意識を持つ人が減ること」が男性に比べてそれぞれ10.8ポイント、9.8ポイント、10.5ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代では「育児休業・介護休業中の賃金等を充実させること」が50%台、70歳以上では「女性自身の自覚・意欲を向上させること」が約30%、「男性が家事や子育て、介護をすることに対する家族や周囲の理解と協力を得ること」が40%台と他の年代に比べて高くなっています。

■集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別							新潟県との比較	
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	新潟県	差	
	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111			
結婚・出産の際に退職の圧力等がないこと	247 44.3	122 48.4	122 40.9	1 33.3	23 45.1	26 48.1	45 45.9	45 40.2	52 40.9	55 49.5	-	-	
育児休業制度が整備され、取得しやすいこと	360 64.5	159 63.1	197 66.1	2 66.7	34 66.7	36 66.7	61 62.2	81 72.3	82 64.6	65 58.6	60.3	+4.2	
介護休業制度が整備され、利用しやすいこと	310 55.6	125 49.6	180 60.4	3 100.0	19 37.3	27 50.0	53 54.1	69 61.6	79 62.2	62 55.9	50.2	+5.4	
結婚、出産、子育て、介護などのために退職した職員の再雇用制度を充実させること	279 50.0	130 51.6	144 48.3	1 33.3	26 51.0	26 48.1	50 51.0	50 44.6	65 51.2	58 52.3	57.5	-7.5	
学童保育などの子育て施設を整備すること	281 50.4	120 47.6	157 52.7	1 33.3	27 52.9	28 51.9	52 53.1	56 50.0	66 52.0	50 45.0	52.7	-2.3	
介護施設などを整備すること	225 40.3	94 37.3	129 43.3	-	11 21.6	16 29.6	41 41.8	47 42.0	58 45.7	51 45.9	41.4	-1.1	
育児休業・介護休業中の賃金等を充実させること	247 44.3	106 42.1	138 46.3	1 33.3	27 52.9	31 57.4	44 44.9	51 45.5	50 39.4	43 38.7	41.7	+2.6	
女性が働くことや昇進することに対する家族や周囲の理解と協力を得ること	157 28.1	62 24.6	93 31.2	-	10 19.6	15 27.8	36 36.7	31 27.7	27 21.3	37 33.3	42.3	-14.2	
女性自身の自覚・意欲を向上させること	94 16.8	46 18.3	47 15.8	-	9 17.6	7 13.0	12 12.2	18 16.1	15 11.8	33 29.7	25.2	-8.4	
昇進・給与等に男女の差別的取扱いがないこと	201 36.0	88 34.9	110 36.9	1 33.3	22 43.1	20 37.0	32 32.7	42 37.5	41 32.3	43 38.7	52.0	-16.0	
働く職場が多いこと	199 35.7	91 36.1	105 35.2	1 33.3	18 35.3	19 35.2	36 36.7	45 40.2	36 28.3	44 39.6	42.1	-6.4	
フレックスタイム制など、柔軟な働き方ができる制度があること	257 46.1	109 43.3	143 48.0	2 66.7	22 43.1	29 53.7	51 52.0	59 52.7	53 41.7	41 36.9	38.2	+7.9	
労働時間を短縮させること	106 19.0	48 19.0	56 18.8	1 33.3	12 23.5	13 24.1	15 15.3	28 25.0	19 15.0	19 17.1	26.4	-7.4	
男性の意識を変化させること	137 24.6	58 23.0	73 24.5	2 66.7	14 27.5	12 22.2	17 17.3	32 28.6	29 22.8	30 27.0	24.5	+0.1	
経営者・管理職の意識を変化させること	191 34.2	84 33.3	103 34.6	2 66.7	11 21.6	18 33.3	34 34.7	48 42.9	36 28.3	43 38.7	27.1	+7.1	
男性が家事や子育て、介護をすることに対する家族や周囲の理解と協力を得ること	163 29.2	60 23.8	100 33.6	1 33.3	12 23.5	17 31.5	20 20.4	34 30.4	33 26.0	46 41.4	39.3	-10.1	
能力発揮の場が多いこと	86 15.4	40 15.9	45 15.1	-	8 15.7	9 16.7	17 17.3	18 16.1	14 11.0	20 18.0	32.4	-17.0	
男は仕事、女は家庭という性別による固定的な役割分担意識を持つ人が減ること	200 35.8	75 29.8	120 40.3	2 66.7	17 33.3	22 40.7	38 38.8	39 34.8	43 33.9	39 35.1	46.3	-10.5	
その他	6 1.1	3 1.2	3 1.0	-	1 2.0	-	2 2.0	1 0.9	-	2 1.8	2.0	-0.9	
特になし	17 3.0	12 4.8	5 1.7	-	4 7.8	4 7.4	3 3.1	-	4 3.1	2 1.8	1.3	+1.7	
女性は働かなくてよい	2 0.4	1 0.4	1 0.3	-	1 2.0	1 1.9	-	-	-	-	-	-	
不明	11 2.0	3 1.2	7 2.3	-	-	-	1 1.0	1 0.9	3 2.4	5 4.5	-	+2.0	

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

※【新潟県・全国との比較】では、新潟県・全国と比べて5.0ポイント以上高い箇所には■、5.0ポイント以上低い箇所には■の色付け

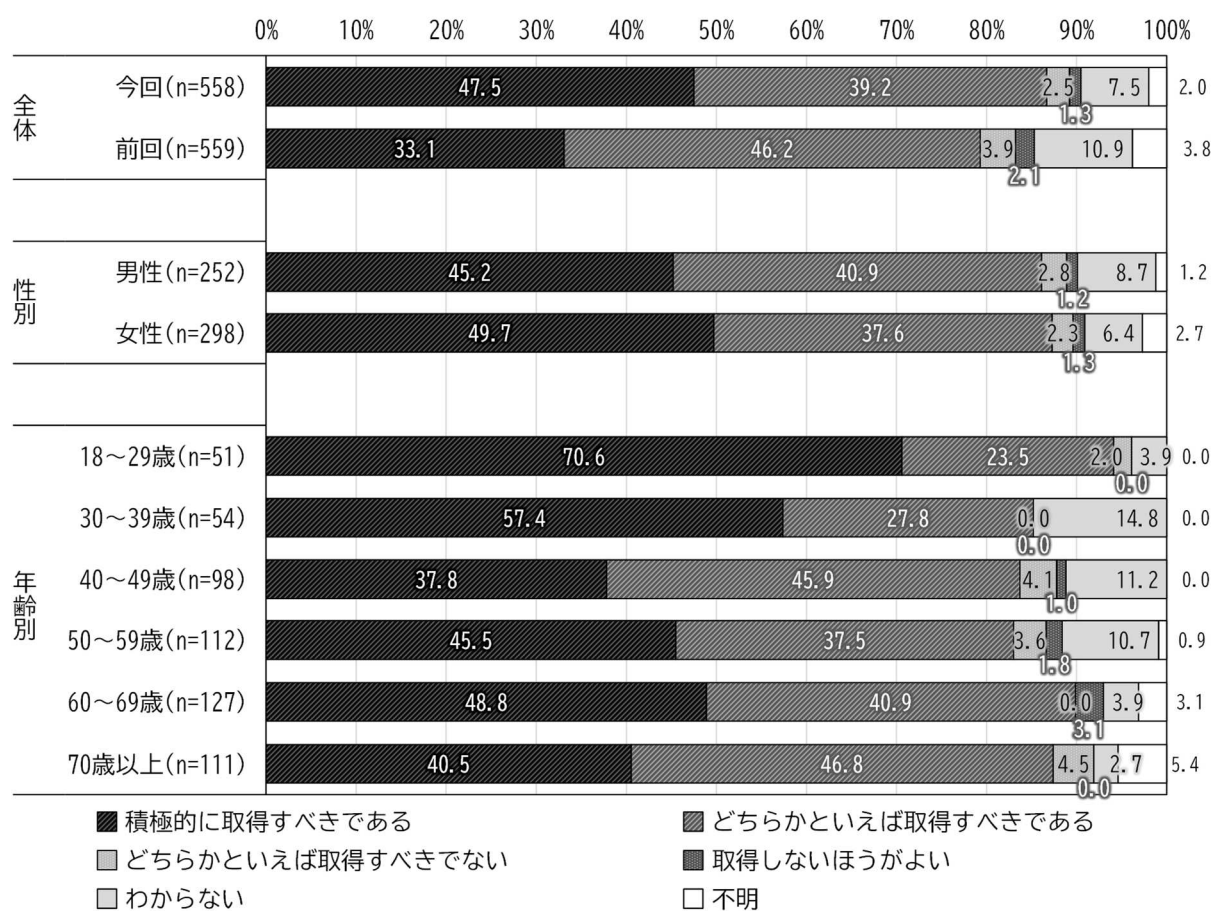
■新潟県との比較■

- 新潟県と比較すると、小千谷市では、「介護休業制度が整備され、利用しやすいこと」「フレックスタイム制など、柔軟な働き方ができる制度があること」「経営者・管理職の意識を変化させること」が新潟県に比べて高くなっています。

問11 あなたは、男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どのように思いますか。1つだけお選びください。

※ 分析にあたって、「積極的に取得すべきである」「どちらかといえば取得すべきである」の合計を『取得すべきである』、「どちらかといえば取得すべきでない」「取得しないほうがよい」の合計を『取得しないほうがよい』と表記します。

- 「積極的に取得すべきである」が47.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば取得すべきである」が39.2%、「わからない」が7.5%となっています。
- 前回調査と比較すると、『取得すべきである』が7.4ポイント増加しています。
- 性別で見ると、概ね同様の傾向となっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下では『取得すべきである』が94.1%と、他の年代に比べて高くなっています。



■集計表

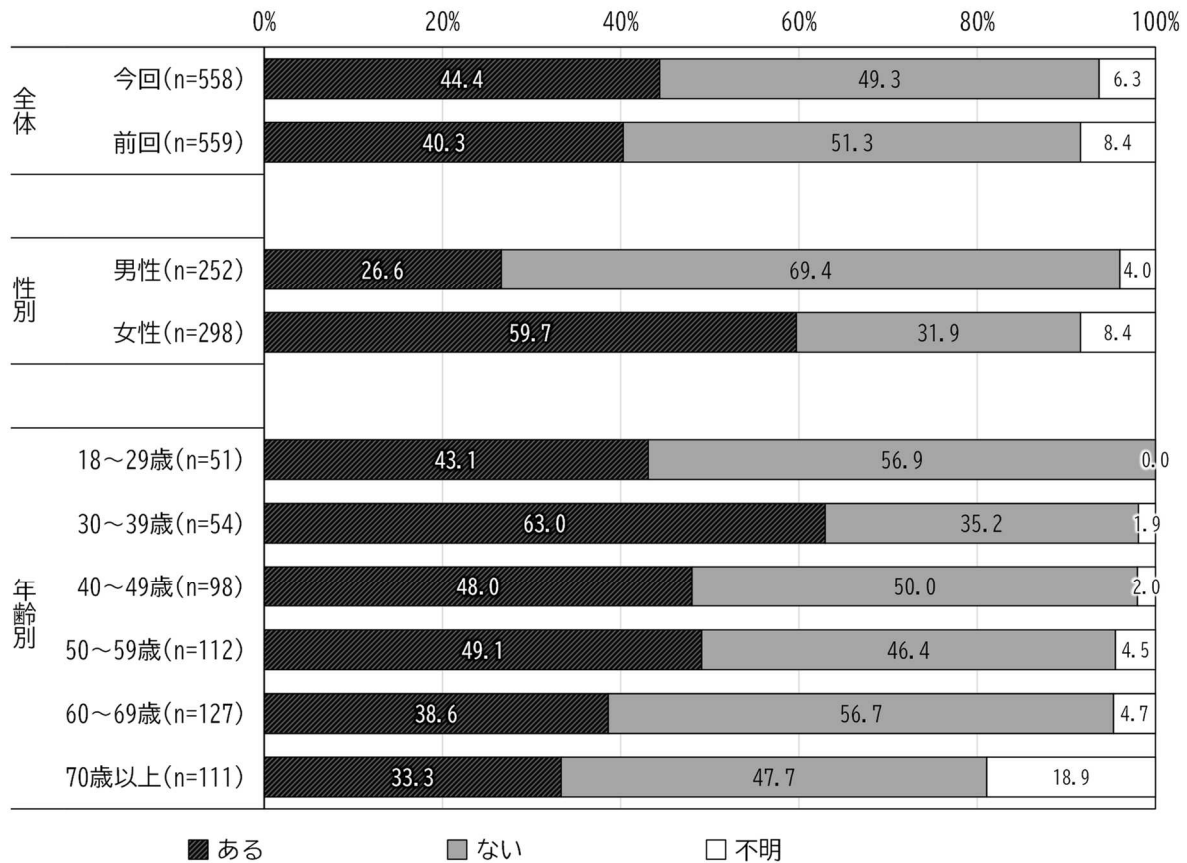
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
積極的に取得すべきである	265 47.5	114 45.2	148 49.7	1 33.3	36 70.6	31 57.4	37 37.8	51 45.5	62 48.8	45 40.5
どちらかといえば取得すべきである	219 39.2	103 40.9	112 37.6	2 66.7	12 23.5	15 27.8	45 45.9	42 37.5	52 40.9	52 46.8
どちらかといえば取得すべきでない	14 2.5	7 2.8	7 2.3	-	1 2.0	-	4 4.1	4 3.6	-	5 4.5
取得しないほうがよい	7 1.3	3 1.2	4 1.3	-	-	-	1 1.0	2 1.8	4 3.1	-
わからない	42 7.5	22 8.7	19 6.4	-	2 3.9	8 14.8	11 11.2	12 10.7	5 3.9	3 2.7
不明	11 2.0	3 1.2	8 2.7	-	-	-	-	1 0.9	4 3.1	6 5.4

※ [性別] では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け (いずれも数値の高い性別に色付け)

※ [年代別] では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

問12 あなたは、育児休業を取得したいと思ったことはありますか。

- 「ない」が49.3%で最も高く、次いで「ある」が44.4%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では「ない」が女性に比べて37.5ポイント高く、女性では「ある」が男性に比べて33.1ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代では「ある」が60%台と他の年代に比べて高くなっています。



■集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	248 44.4	67 26.6	178 59.7	-	22 43.1	34 63.0	47 48.0	55 49.1	49 38.6	37 33.3
ない	275 49.3	175 69.4	95 31.9	3 100.0	29 56.9	19 35.2	49 50.0	52 46.4	72 56.7	53 47.7
不明	35 6.3	10 4.0	25 8.4	-	-	1 1.9	2 2.0	5 4.5	6 4.7	21 18.9

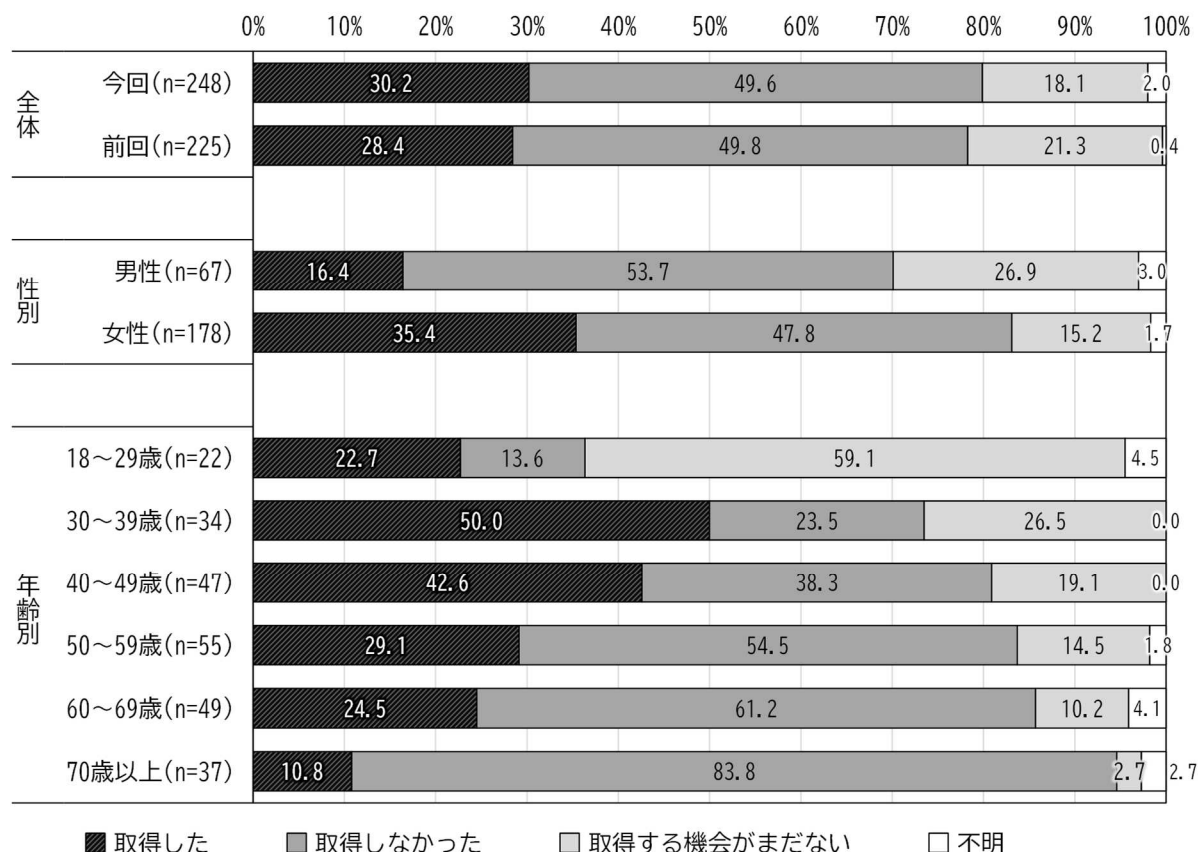
※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

問13 [問12で「1. ある」と答えた方におたずねします]

実際に育児休業を取得しましたか。

- 「取得しなかった」が49.6%で最も高く、次いで「取得した」が30.2%、「取得する機会がまだない」が18.1%となっています。
- 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。
- 性別で見ると、男性では「取得しなかった」が女性に比べて5.9ポイント高く、女性では「取得した」が男性に比べて19.0ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下を除き、年齢が下がるにつれて「取得した」が高くなっており、30歳代では50.0%となっています。



■ 集計表

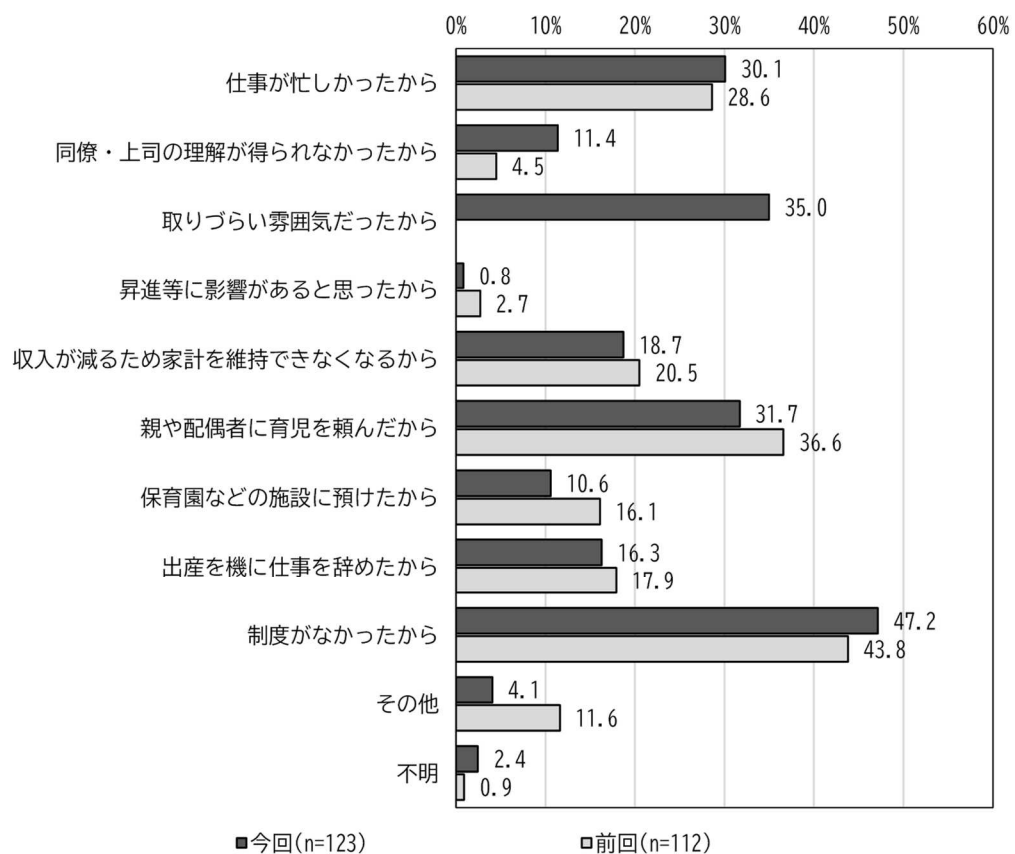
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	248	67	178	-	22	34	47	55	49	37
取得した	75 30.2	11 16.4	63 35.4	-	5 22.7	17 50.0	20 42.6	16 29.1	12 24.5	4 10.8
取得しなかった	123 49.6	36 53.7	85 47.8	-	3 13.6	8 23.5	18 38.3	30 54.5	30 61.2	31 83.8
取得する機会がまだない	45 18.1	18 26.9	27 15.2	-	13 59.1	9 26.5	9 19.1	8 14.5	5 10.2	1 2.7
不明	5 2.0	2 3.0	3 1.7	-	1 4.5	-	-	1 1.8	2 4.1	1 2.7

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

問14 [問13で「2. 取得しなかった」と答えた方におたずねします] 育児休業を取得しなかった理由を次の中から3つ選んでください。

- 「制度がなかったから」が47.2%で最も高く、次いで「取りづらい雰囲気だったから」が35.0%、「親や配偶者に育児を頼んだから」が31.7%となっています。
- 前回調査と比較すると、「同僚・上司の理解が得られなかったから」が6.9ポイント増加し、「保育園などの施設に預けたから」が5.5ポイント減少しています。
- 性別で見ると、男性では「仕事が忙しかったから」「親や配偶者に育児を頼んだから」が女性に比べてそれぞれ22.0ポイント、13.5ポイント高く、女性では「同僚・上司の理解が得られなかったから」「出産を機に仕事を辞めたから」が男性に比べてそれぞれ8.5ポイント、19.6ポイント高くなっています。



■集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	123	36	85	-	3	8	18	30	30	31
仕事が忙しかったから	37 30.1	16 44.4	19 22.4	-	2 66.7	1 12.5	5 27.8	8 26.7	8 26.7	10 32.3
同僚・上司の理解が得られなかったから	14 11.4	2 5.6	12 14.1	-	-	1 12.5	2 11.1	3 10.0	4 13.3	4 12.9
取りづらい雰囲気だったから	43 35.0	11 30.6	30 35.3	-	2 66.7	2 25.0	6 33.3	12 40.0	10 33.3	9 29.0
昇進等に影響があると思ったから	1 0.8	-	1 1.2	-	-	-	-	1 3.3	-	-
収入が減るため家計を維持できなくなるから	23 18.7	9 25.0	13 15.3	-	-	3 37.5	-	6 20.0	5 16.7	8 25.8
親や配偶者に育児を頼んだから	39 31.7	15 41.7	24 28.2	-	2 66.7	1 12.5	3 16.7	7 23.3	12 40.0	14 45.2
保育園などの施設に預けたから	13 10.6	5 13.9	8 9.4	-	1 33.3	1 12.5	1 5.6	2 6.7	2 6.7	6 19.4
出産を機に仕事を辞めたから	20 16.3	1 2.8	19 22.4	-	1 33.3	3 37.5	3 16.7	6 20.0	4 13.3	3 9.7
制度がなかったから	58 47.2	18 50.0	39 45.9	-	1 33.3	1 12.5	8 44.4	15 50.0	15 50.0	17 54.8
その他	5 4.1	2 5.6	3 3.5	-	-	-	2 11.1	3 10.0	-	-
不明	3 2.4	1 2.8	2 2.4	-	-	1 12.5	-	1 3.3	-	1 3.2

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

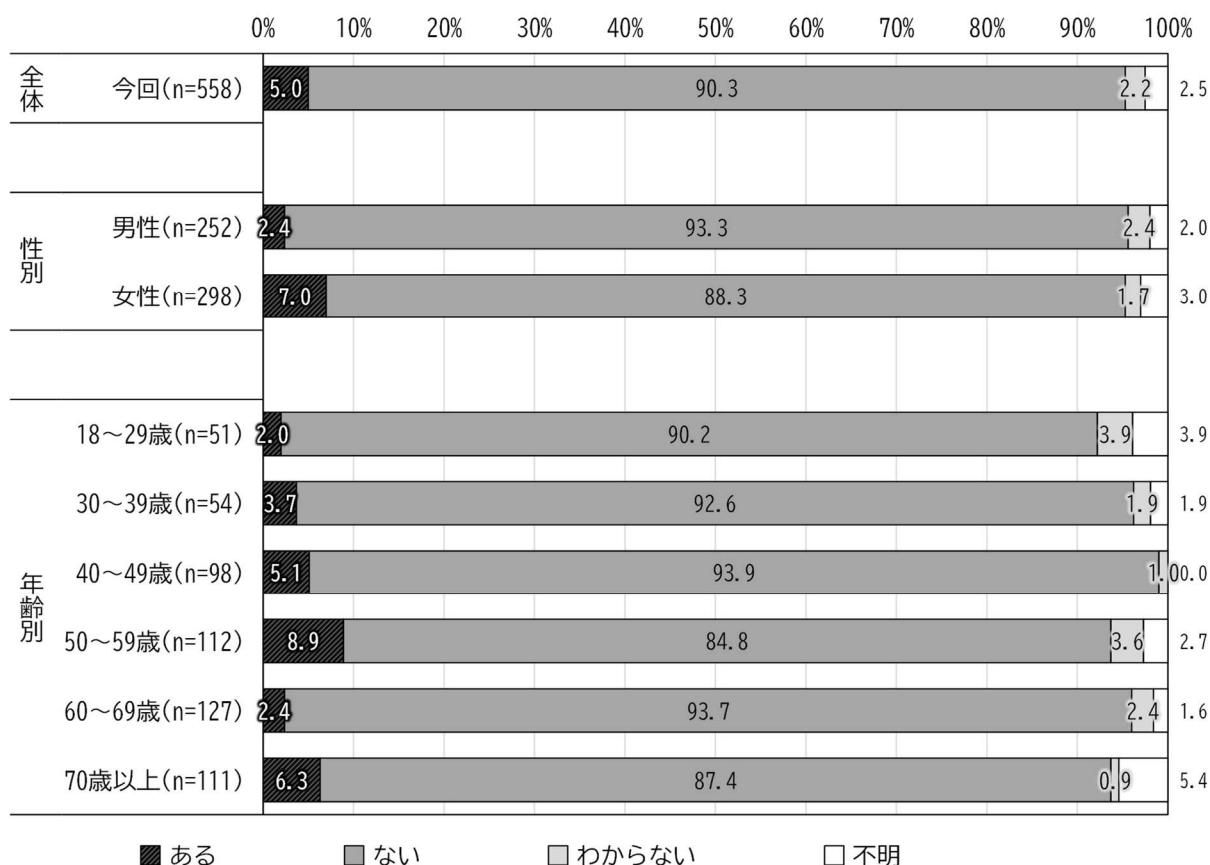
※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

5. 男女の人権について

問15 配偶者やパートナーなどから受ける暴力をドメスティック・バイオレンス (DV) といいます。あなたは、配偶者やパートナーなどから次のようなDVを受けたことがありますか。次のうち、それぞれ最も近いものを選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

(1) 身体的暴力 (殴る、蹴る、物を投げつけるなど)

- 「ある」が5.0%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が男性に比べて4.6ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、50歳代では「ある」が8.9%と他の年代に比べて高くなっています。



■集計表

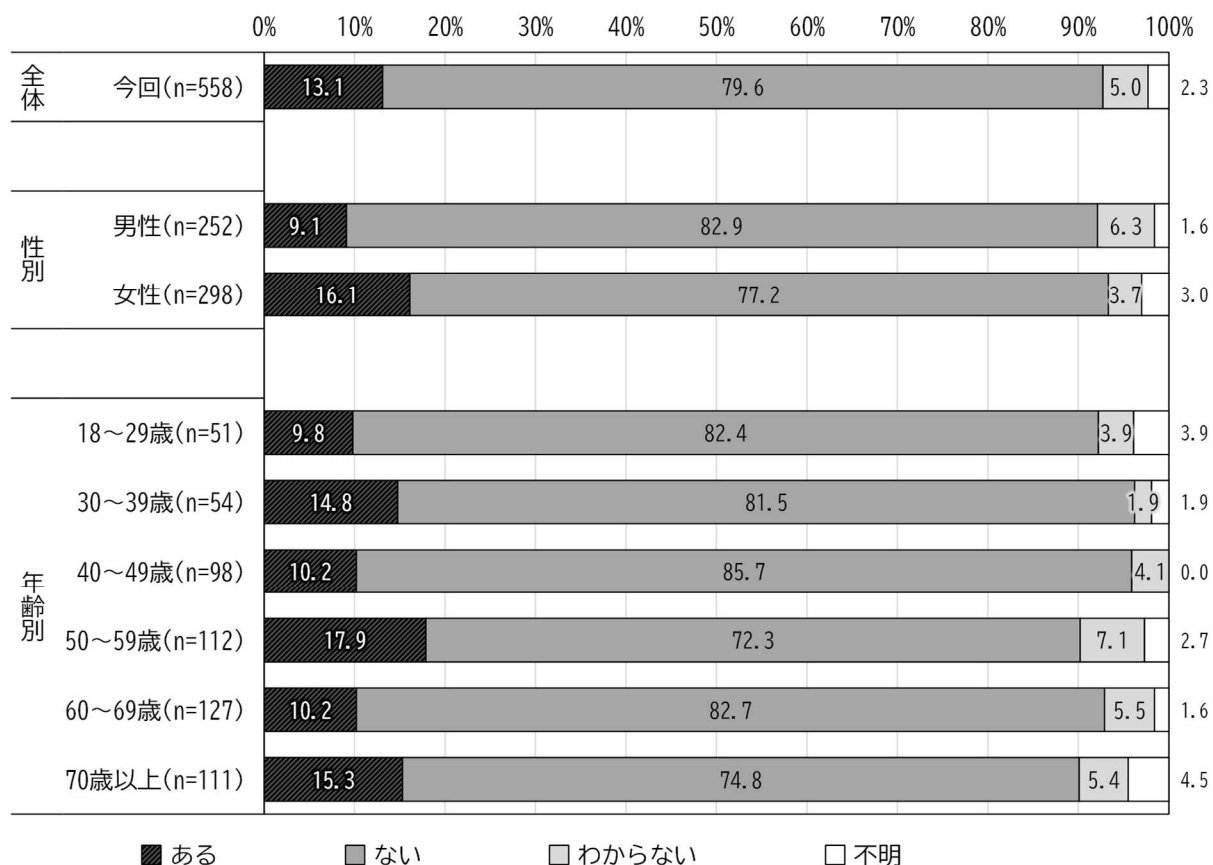
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	28 5.0	6 2.4	21 7.0	-	1 2.0	2 3.7	5 5.1	10 8.9	3 2.4	7 6.3
ない	504 90.3	235 93.3	263 88.3	2 66.7	46 90.2	50 92.6	92 93.9	95 84.8	119 93.7	97 87.4
わからない	12 2.2	6 2.4	5 1.7	1 33.3	2 3.9	1 1.9	1 1.0	4 3.6	3 2.4	1 0.9
不明	14 2.5	5 2.0	9 3.0	-	2 3.9	1 1.9	-	3 2.7	2 1.6	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け (いずれも数値の高い性別に色付け)

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(2) 精神的暴力（脅す、長時間無視する、人格を否定するなど）

- 「ある」が13.1%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が男性に比べて7.0ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代・50歳代・70歳以上で、「ある」が10%台後半で、他の年代に比べて高くなっています。



■集計表

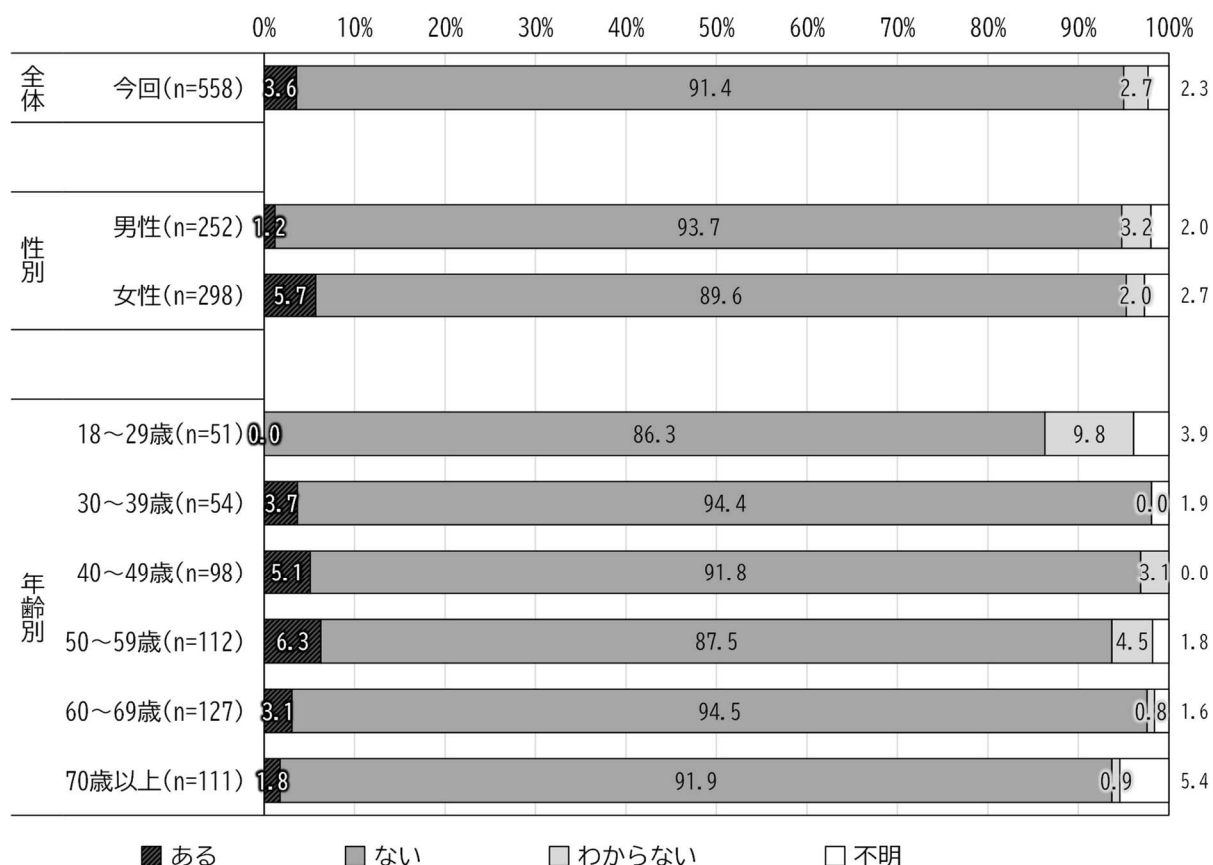
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	73 13.1	23 9.1	48 16.1	1 33.3	5 9.8	8 14.8	10 10.2	20 17.9	13 10.2	17 15.3
ない	444 79.6	209 82.9	230 77.2	1 33.3	42 82.4	44 81.5	84 85.7	81 72.3	105 82.7	83 74.8
わからない	28 5.0	16 6.3	11 3.7	1 33.3	2 3.9	1 1.9	4 4.1	8 7.1	7 5.5	6 5.4
不明	13 2.3	4 1.6	9 3.0	-	2 3.9	1 1.9	-	3 2.7	2 1.6	5 4.5

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(3) 経済的暴力（生活費を渡さない、働くことを妨害するなど）

- 「ある」が3.6%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が男性に比べて4.5ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、40・50歳代で、「ある」が5%前後で、他の年代に比べて高くなっています。



■集計表

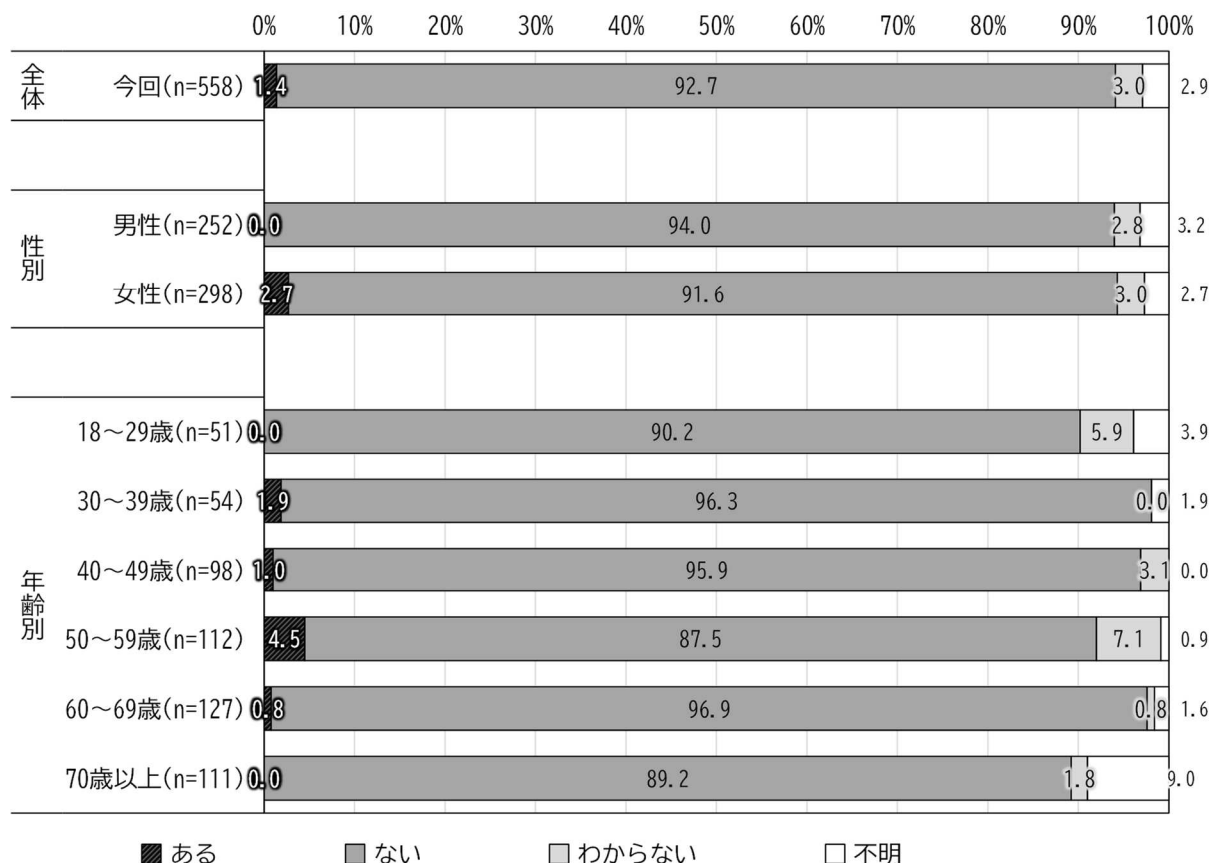
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	20 3.6	3 1.2	17 5.7	-	-	2 3.7	5 5.1	7 6.3	4 3.1	2 1.8
ない	510 91.4	236 93.7	267 89.6	2 66.7	44 86.3	51 94.4	90 91.8	98 87.5	120 94.5	102 91.9
わからない	15 2.7	8 3.2	6 2.0	1 33.3	5 9.8	-	3 3.1	5 4.5	1 0.8	1 0.9
不明	13 2.3	5 2.0	8 2.7	-	2 3.9	1 1.9	-	2 1.8	2 1.6	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(4) 性的暴力（性的な行為を強要する、避妊に協力しないなど）

- 「ある」が1.4%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が2.7%となっています。
- 年齢別にみると、50歳代では「ある」が4.5%と他の年代に比べて高くなっています。



■ 集計表

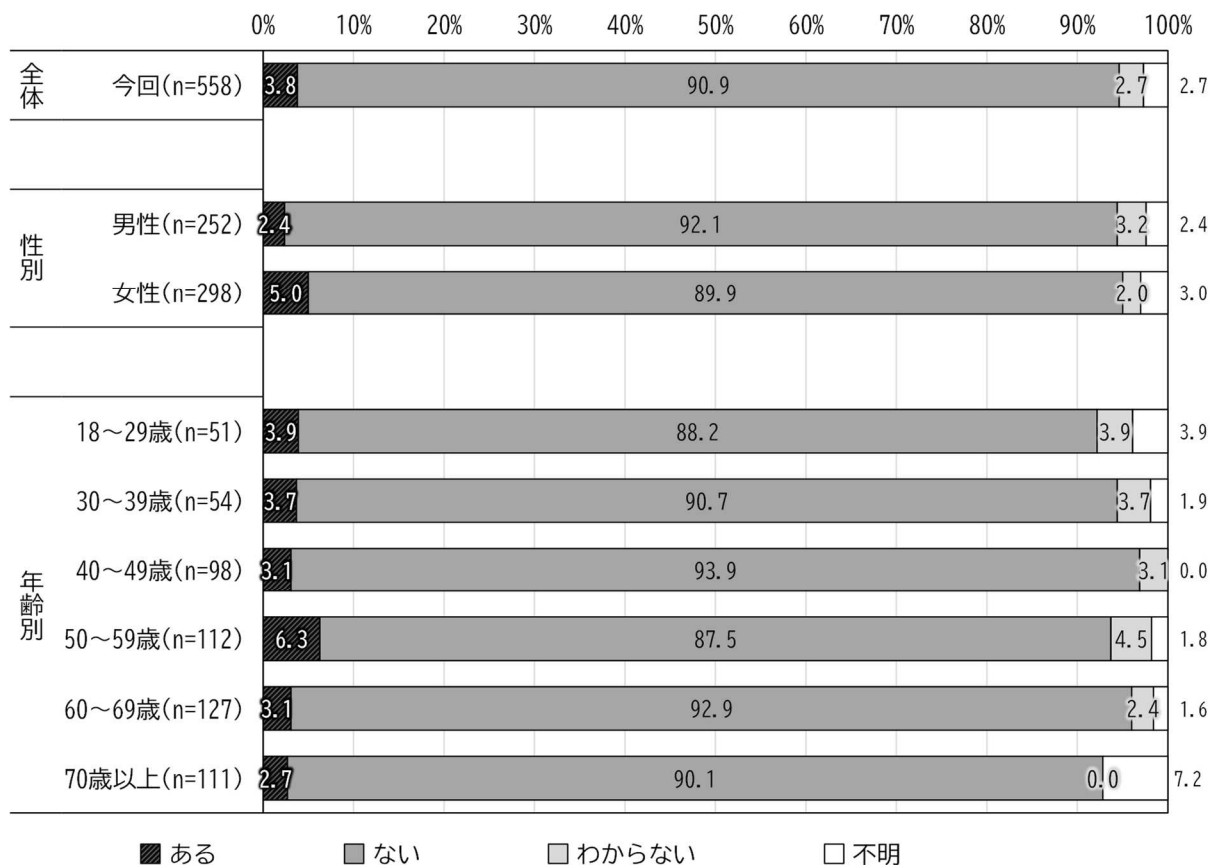
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	8 1.4	-	8 2.7	-	-	1 1.9	1 1.0	5 4.5	1 0.8	-
ない	517 92.7	237 94.0	273 91.6	2 66.7	46 90.2	52 96.3	94 95.9	98 87.5	123 96.9	99 89.2
わからない	17 3.0	7	9 3.0	1 33.3	3 5.9	-	3 3.1	8 7.1	1 0.8	2 1.8
不明	16 2.9	8 3.2	8 2.7	-	2 3.9	1 1.9	-	1 0.9	2 1.6	10 9.0

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(5) 社会的暴力（人間関係や行動を制限する、付き合いや電話・メールを細かく監視するなど）

- 「ある」が3.8%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が男性に比べて2.6ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、50歳代では「ある」が6.3%で他の年代に比べて高くなっています。



■ 集計表

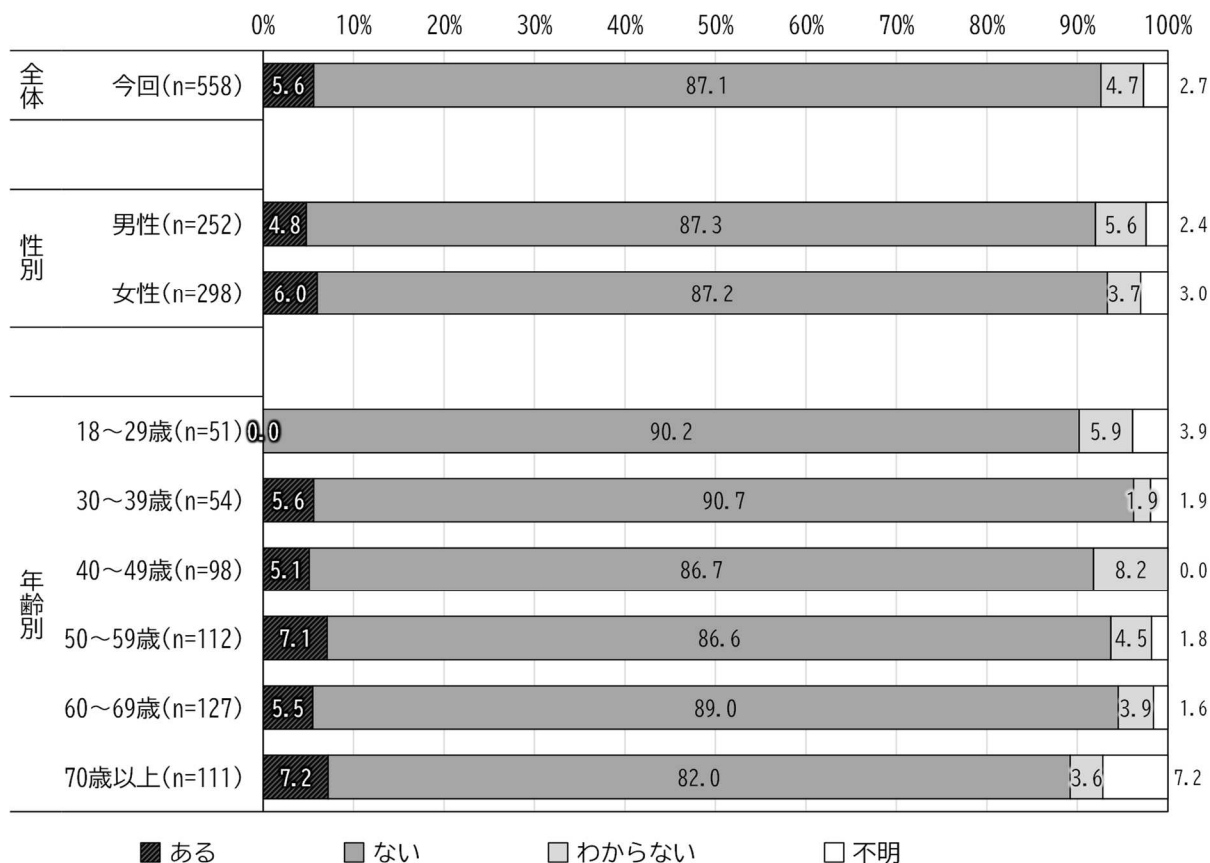
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	21 3.8	6 2.4	15 5.0	-	2 3.9	2 3.7	3 3.1	7 6.3	4 3.1	3 2.7
ない	507 90.9	232 92.1	268 89.9	2 66.7	45 88.2	49 90.7	92 93.9	98 87.5	118 92.9	100 90.1
わからない	15 2.7	8 3.2	6 2.0	1 33.3	2 3.9	2 3.7	3 3.1	5 4.5	3 2.4	-
不明	15 2.7	6 2.4	9 3.0	-	2 3.9	1 1.9	-	2 1.8	2 1.6	8 7.2

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

(6) 子どもに対する暴力（子どもへの直接の暴力、子どもの目の前で配偶者や家族に対して暴力をふるう、ケンカをするなど）

- 「ある」が5.6%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が男性に比べて1.2ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下を除き、「ある」が5～7%となっています。



■ 集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	31 5.6	12 4.8	18 6.0	-	-	3 5.6	5 5.1	8 7.1	7 5.5	8 7.2
ない	486 87.1	220 87.3	260 87.2	2 66.7	46 90.2	49 90.7	85 86.7	97 86.6	113 89.0	91 82.0
わからない	26 4.7	14 5.6	11 3.7	1 33.3	3 5.9	1 1.9	8 8.2	5 4.5	5 3.9	4 3.6
不明	15 2.7	6 2.4	9 3.0	-	2 3.9	1 1.9	-	2 1.8	2 1.6	8 7.2

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

問15 項目別の比較

「ある」の割合の比較

- 項目ごとの「ある」の割合を比較すると、「(2)精神的暴力(脅す、長時間無視する、人格を否定するなど)」が13.1%で最も高く、次いで「(6)子どもに対する暴力(子どもへの直接の暴力、子どもの目の前で配偶者や家族に対して暴力をふるう、ケンカをするなど)」が5.6%、「(1)身体的暴力(殴る、蹴る、物を投げつけるなど)」が5.0%となっています。
- 男女間で比較すると、すべての項目で、男性に比べて女性が高くなっています。特に「(2)精神的暴力(脅す、長時間無視する、人格を否定するなど)」では、他の項目に比べて女性が男性よりも高くなっています。

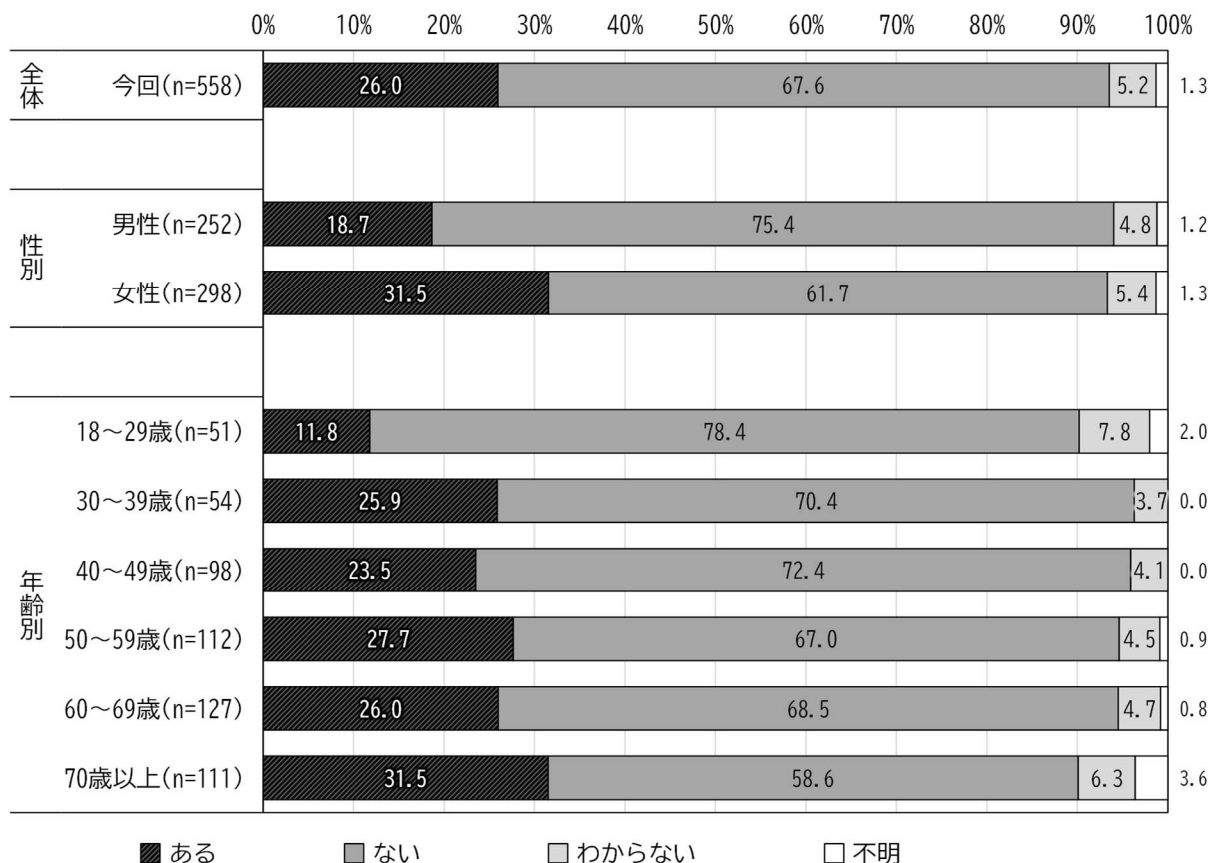
	割合	男女間の差		
		男性	女性	差(男性-女性)
(1) 身体的暴力(殴る、蹴る、物を投げつけるなど)	5.0	2.4	7.0	-4.60
(2) 精神的暴力(脅す、長時間無視する、人格を否定するなど)	13.1	9.1	16.1	-7.00
(3) 経済的暴力(生活費を渡さない、働くことを妨害するなど)	3.6	1.2	5.7	-4.50
(4) 性的暴力(性的な行為を強要する、避妊に協力しないなど)	1.4	0.0	2.7	-2.70
(5) 社会的暴力(人間関係や行動を制限する、付き合いや電話・メールを細かく監視するなど)	3.8	2.4	5.0	-2.60
(6) 子どもに対する暴力(子どもへの直接の暴力、子どもの目の前で配偶者や家族に対して暴力をふるう、ケンカをするなど)	5.6	4.8	6.0	-1.20

※【男女間の差】では、差(男性-女性)が5.0ポイント以上の箇所に■、-5.0ポイント以下の箇所に■の色付け

問16 あなたは、次のような困難な状況を経験したことがありますか。次のうち、それぞれ最も近いものを選んでください。

(1) 経済的な困窮や生活不安に陥ったことがある

- 「ある」が26.0%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が男性に比べて12.8ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下を除いて「ある」が20～30%台となっています。



■ 集計表

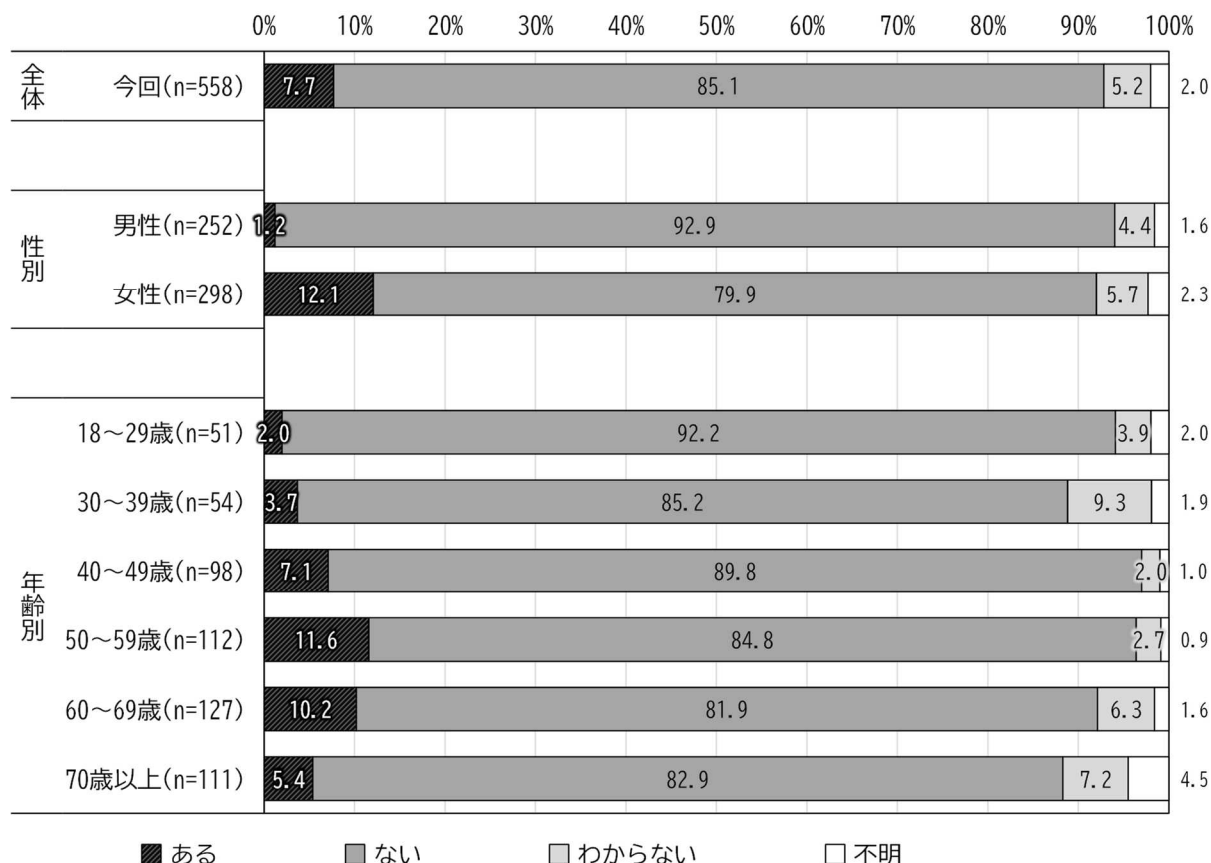
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	145 26.0	47 18.7	94 31.5	2 66.7	6 11.8	14 25.9	23 23.5	31 27.7	33 26.0	35 31.5
ない	377 67.6	190 75.4	184 61.7	1 33.3	40 78.4	38 70.4	71 72.4	75 67.0	87 68.5	65 58.6
わからない	29 5.2	12 4.8	16 5.4	-	4 7.8	2 3.7	4 4.1	5 4.5	6 4.7	7 6.3
不明	7 1.3	3 1.2	4 1.3	-	1 2.0	-	-	1 0.9	1 0.8	4 3.6

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

(2) 子育てや介護によって社会的に孤立したことがある

- 「ある」が7.7%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が男性に比べて10.9ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、50～60歳代で「ある」が10%台となっています。



■ 集計表

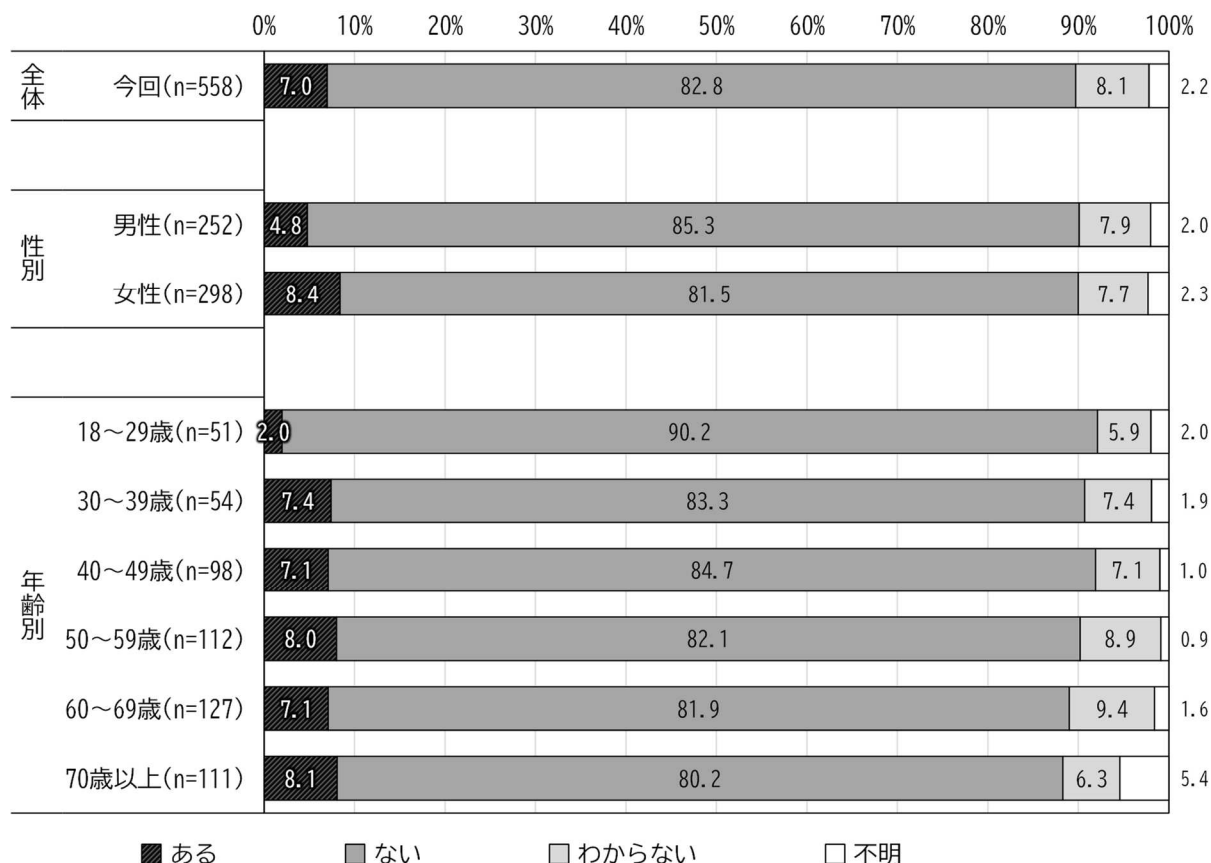
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	43 7.7	3 1.2	36 12.1	2 66.7	1 2.0	2 3.7	7 7.1	13 11.6	13 10.2	6 5.4
ない	475 85.1	234 92.9	238 79.9	1 33.3	47 92.2	46 85.2	88 89.8	95 84.8	104 81.9	92 82.9
わからない	29 5.2	11 4.4	17 5.7	-	2 3.9	5 9.3	2 2.0	3 2.7	8 6.3	8 7.2
不明	11 2.0	4 1.6	7 2.3	-	1 2.0	1 1.9	1 1.0	1 0.9	2 1.6	5 4.5

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(3) 家族や周囲との関係が希薄で支援を得られなかったことがある

- 「ある」が7.0%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が男性に比べて3.6ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下を除いて「ある」が7～8%台となっています。



■ 集計表

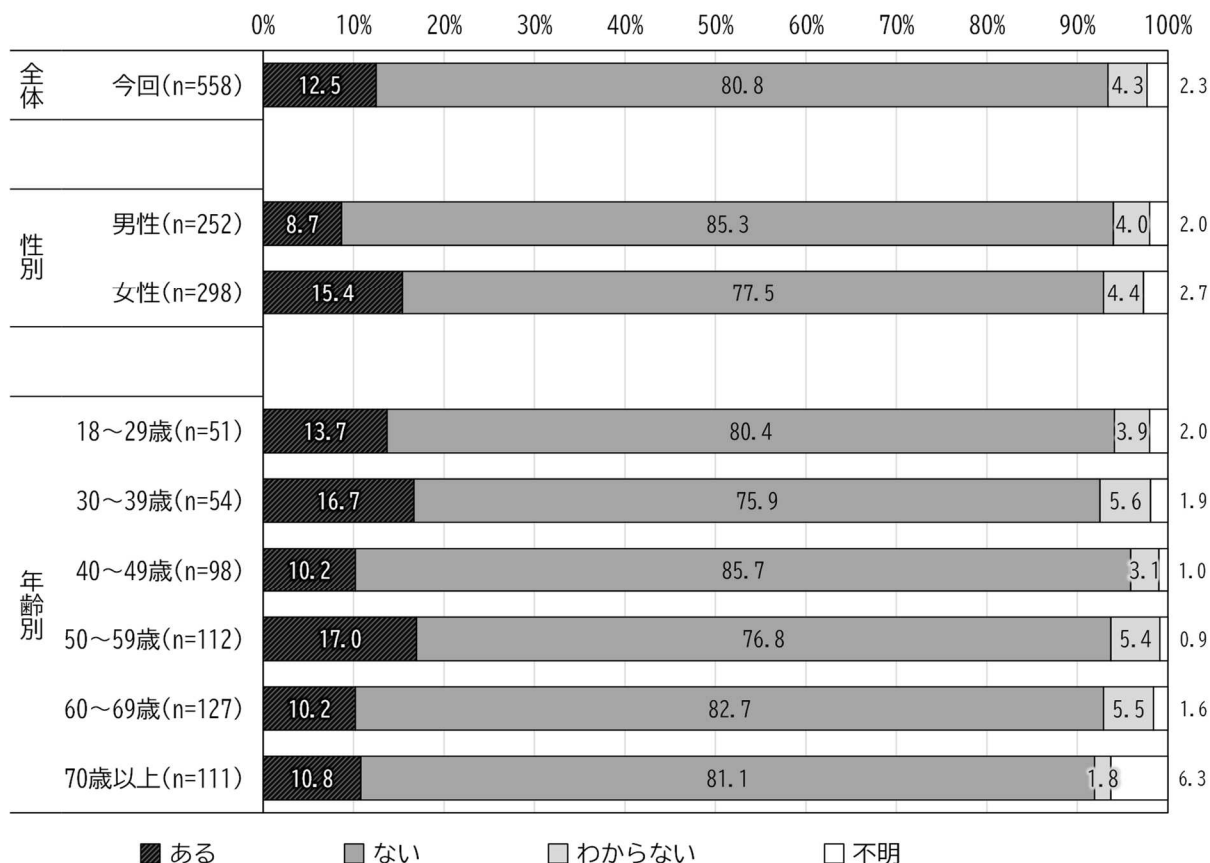
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	39 7.0	12 4.8	25 8.4	1 33.3	1 2.0	4 7.4	7 7.1	9 8.0	9 7.1	9 8.1
ない	462 82.8	215 85.3	243 81.5	2 66.7	46 90.2	45 83.3	83 84.7	92 82.1	104 81.9	89 80.2
わからない	45 8.1	20 7.9	23 7.7	-	3 5.9	4 7.4	7 7.1	10 8.9	12 9.4	7 6.3
不明	12 2.2	5 2.0	7 2.3	-	1 2.0	1 1.9	1 1.0	1 0.9	2 1.6	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(4) 働きたいと思っていたが、仕事が見つからなかったり、身体的・精神的な理由で働けなかったりした経験がある

- 「ある」が12.5%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が男性に比べて6.7ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、いずれも「ある」が10%台となっています。



■ 集計表

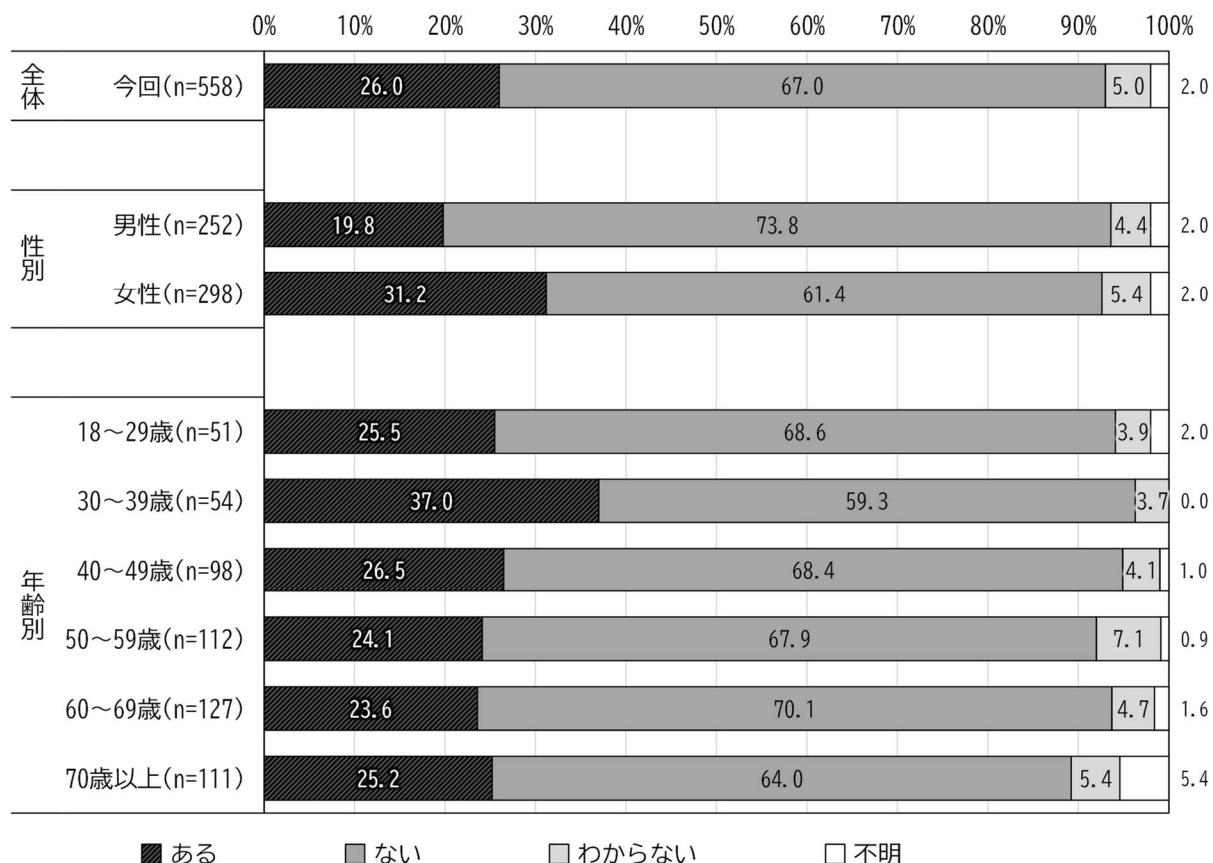
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	70 12.5	22 8.7	46 15.4	1 33.3	7 13.7	9 16.7	10 10.2	19 17.0	13 10.2	12 10.8
ない	451 80.8	215 85.3	231 77.5	2 66.7	41 80.4	41 75.9	84 85.7	86 76.8	105 82.7	90 81.1
わからない	24 4.3	10 4.0	13 4.4	-	2 3.9	3 5.6	3 3.1	6 5.4	7 5.5	2 1.8
不明	13 2.3	5 2.0	8 2.7	-	1 2.0	1 1.9	1 1.0	1 0.9	2 1.6	7 6.3

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

(5) いじめや嫌がらせを受けたことがある

- 「ある」が26.0%となっています。
- 性別で見ると、女性では「ある」が男性に比べて11.4ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代では「ある」が30%台となっています。



■ 集計表

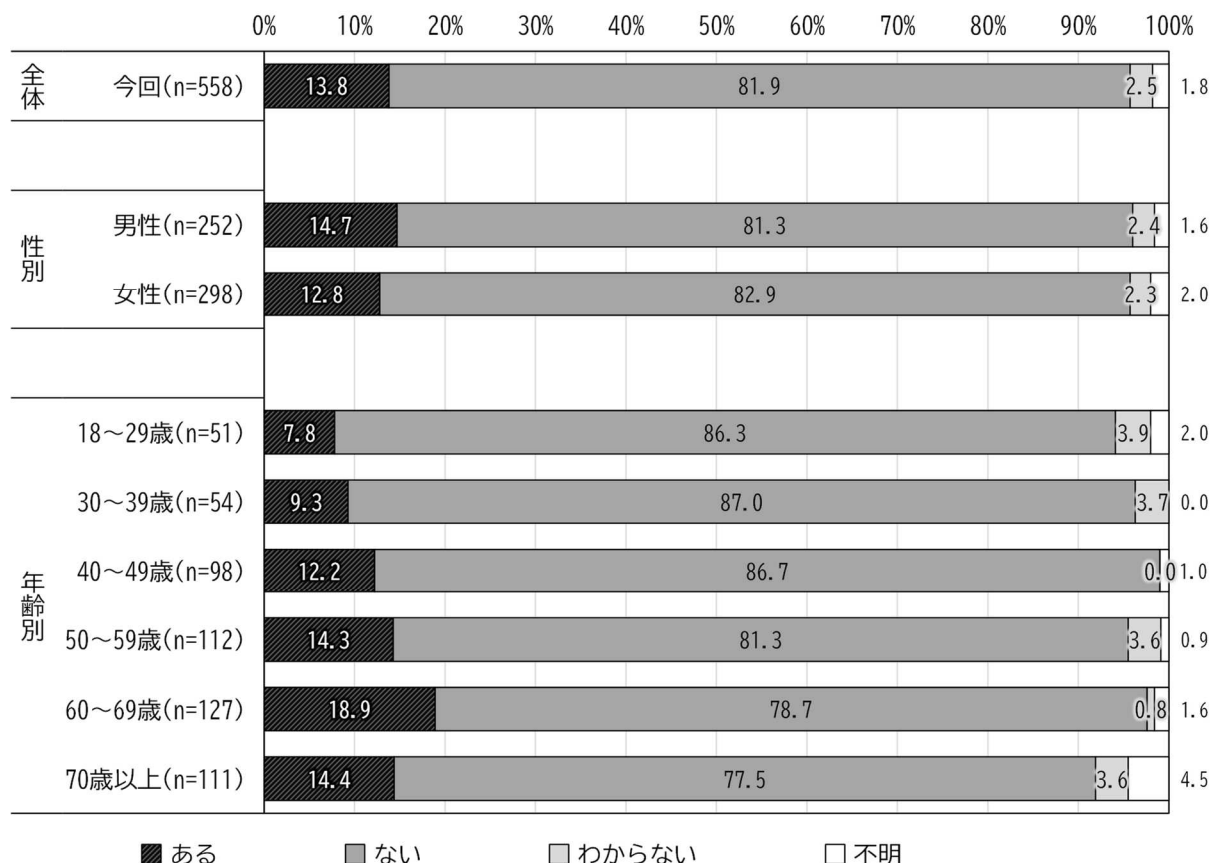
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	145 26.0	50 19.8	93 31.2	1 33.3	13 25.5	20 37.0	26 26.5	27 24.1	30 23.6	28 25.2
ない	374 67.0	186 73.8	183 61.4	1 33.3	35 68.6	32 59.3	67 68.4	76 67.9	89 70.1	71 64.0
わからない	28 5.0	11 4.4	16 5.4	1 33.3	2 3.9	2 3.7	4 4.1	8 7.1	6 4.7	6 5.4
不明	11 2.0	5 2.0	6 2.0	-	1 2.0	-	1 1.0	1 0.9	2 1.6	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(6) 身体的に問題を抱えている（病気、けがなど）

- 「ある」が13.8%となっています。
- 性別で見ると、男性では「ある」が女性に比べて1.9ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、70歳以上を除いて、年代があがるにつれて「ある」が高くなっています。



■ 集計表

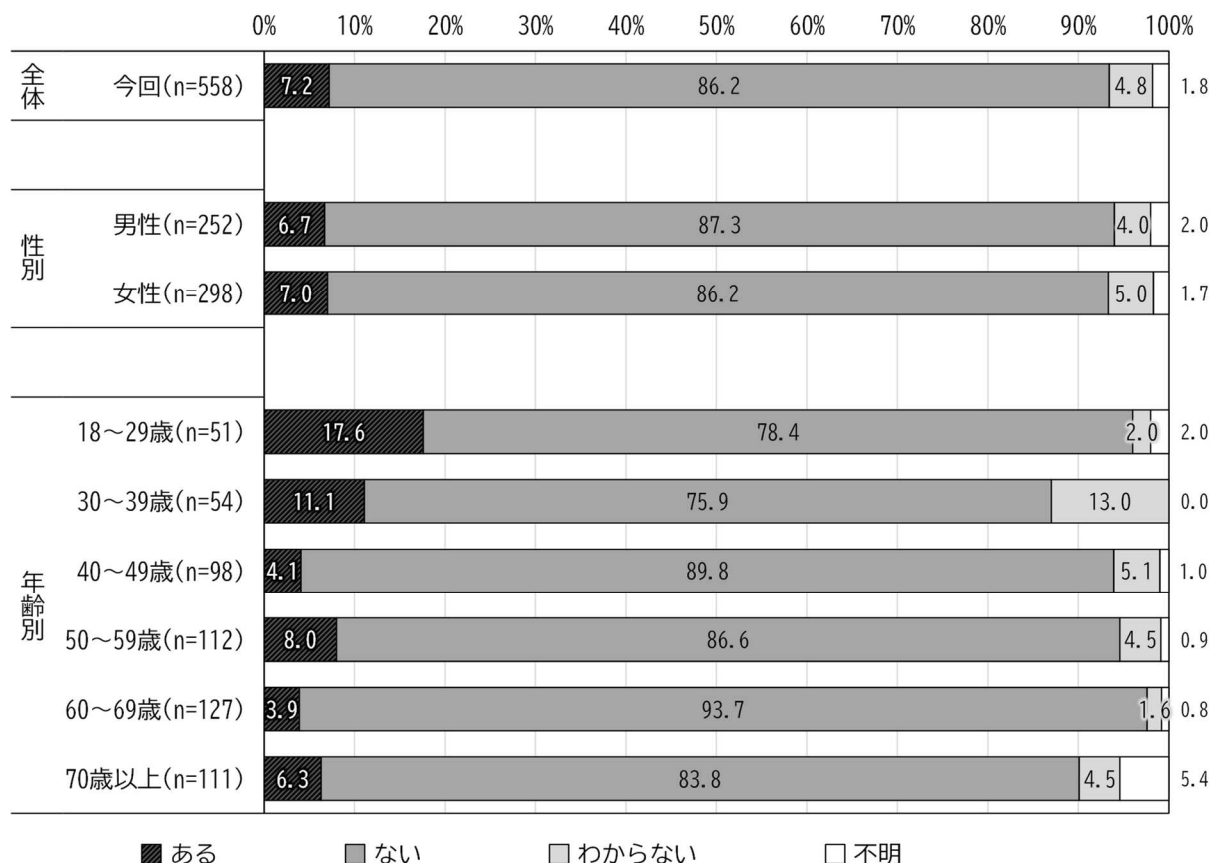
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	77 13.8	37 14.7	38 12.8	2 66.7	4 7.8	5 9.3	12 12.2	16 14.3	24 18.9	16 14.4
ない	457 81.9	205 81.3	247 82.9	1 33.3	44 86.3	47 87.0	85 86.7	91 81.3	100 78.7	86 77.5
わからない	14 2.5	6 2.4	7 2.3	-	2 3.9	2 3.7	-	4 3.6	1 0.8	4 3.6
不明	10 1.8	4 1.6	6 2.0	-	1 2.0	-	1 1.0	1 0.9	2 1.6	5 4.5

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(7) 精神的に問題を抱えている（うつ、依存症、統合失調症など）

- 「ある」が7.2%となっています。
- 性別で見ると、男女ともに「ある」が7%前後となっています。
- 年齢別にみると、30歳代以下では「ある」が10%台となっています。



■ 集計表

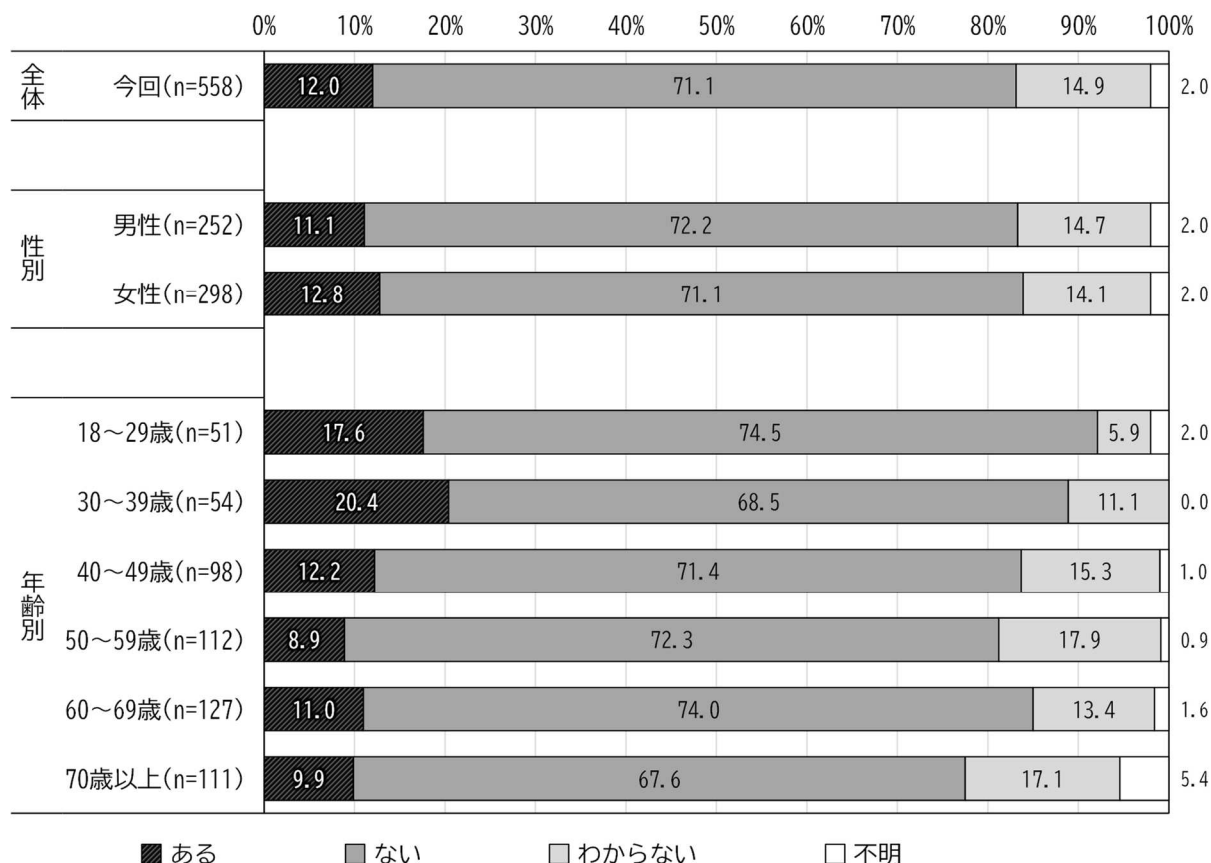
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	40 7.2	17 6.7	21 7.0	1 33.3	9 17.6	6 11.1	4 4.1	9 8.0	5 3.9	7 6.3
ない	481 86.2	220 87.3	257 86.2	2 66.7	40 78.4	41 75.9	88 89.8	97 86.6	119 93.7	93 83.8
わからない	27 4.8	10 4.0	15 5.0	-	1 2.0	7 13.0	5 5.1	5 4.5	2 1.6	5 4.5
不明	10 1.8	5 2.0	5 1.7	-	1 2.0	-	1 1.0	1 0.9	1 0.8	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(8) 人間関係をうまく築けない

- 「ある」が12.0%となっています。
- 性別で見ると、男女ともに「ある」が10%台前半となっています。
- 年齢別にみると、30歳代以下では「ある」が10%台後半～20%台となっています。



■ 集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
ある	67 12.0	28 11.1	38 12.8	1 33.3	9 17.6	11 20.4	12 12.2	10 8.9	14 11.0	11 9.9
ない	397 71.1	182 72.2	212 71.1	1 33.3	38 74.5	37 68.5	70 71.4	81 72.3	94 74.0	75 67.6
わからない	83 14.9	37 14.7	42 14.1	1 33.3	3 5.9	6 11.1	15 15.3	20 17.9	17 13.4	19 17.1
不明	11 2.0	5 2.0	6 2.0	-	1 2.0	-	1 1.0	1 0.9	2 1.6	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

問16 項目別の比較

「ある」の割合の比較

- 項目ごとの「ある」の割合を比較すると、「(1)経済的な困窮や生活不安に陥ったことがある」「(5)いじめや嫌がらせを受けたことがある」が26.0%で最も高く、次いで「(6)身体的に問題を抱えている(病気、けがなど)」が13.8%、「(4)働きたいと思っていたが、仕事が見つからなかったり、身体的・精神的な理由で働けなかったりした経験がある」が12.5%となっています。
- 男女間で比較すると、(6)を除いて、男性に比べて女性が高くなっています。特に「(1)経済的な困窮や生活不安に陥ったことがある」「(5)いじめや嫌がらせを受けたことがある」「(2)子育てや介護によって社会的に孤立したことがある」では、他の項目に比べて女性が男性よりも高くなっています。

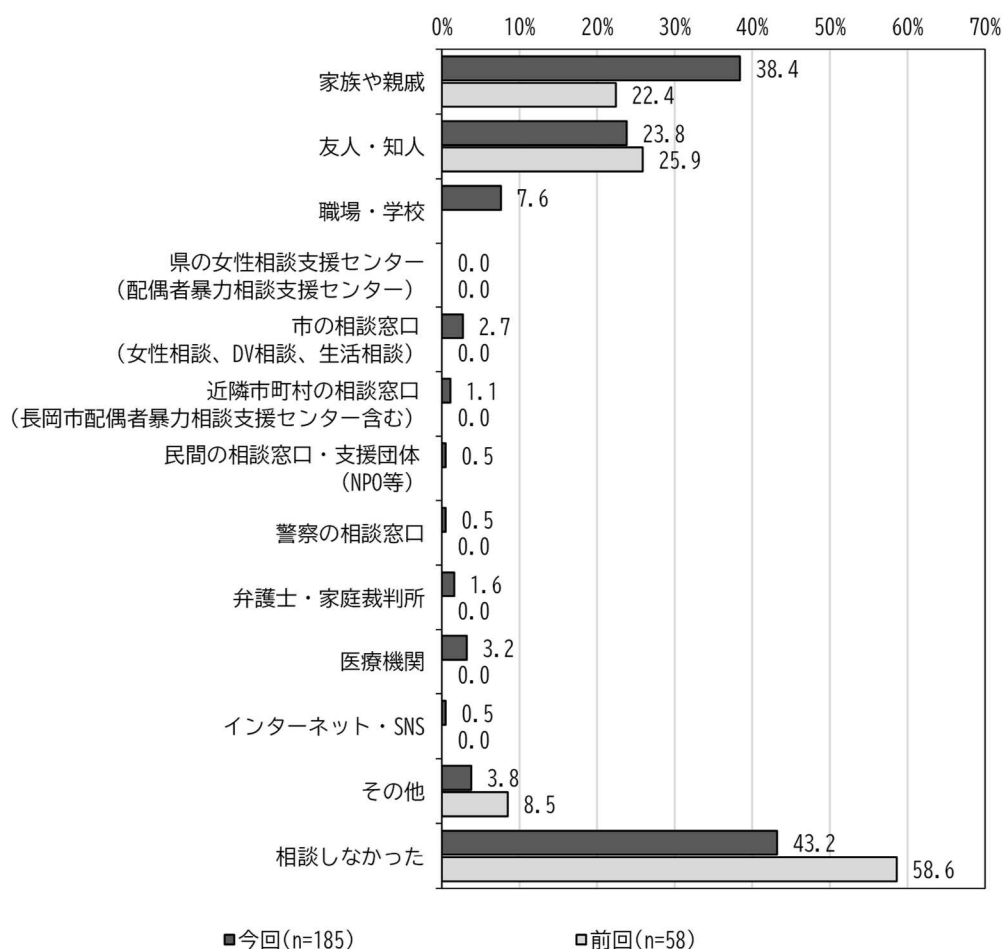
	割合	男女間の差		
		男性	女性	差(男性-女性)
(1) 経済的な困窮や生活不安に陥ったことがある	26.0	18.7	31.5	-12.80
(2) 子育てや介護によって社会的に孤立したことがある	7.7	1.2	12.1	-10.90
(3) 家族や周囲との関係が希薄で支援を得られなかったことがある	7.0	4.8	8.4	-3.60
(4) 働きたいと思っていたが、仕事が見つからなかったり、身体的・精神的な理由で働けなかったりした経験がある	12.5	8.7	15.4	-6.70
(5) いじめや嫌がらせを受けたことがある	26.0	19.8	31.2	-11.40
(6) 身体的に問題を抱えている(病気、けがなど)	13.8	14.7	12.8	+1.90
(7) 精神的に問題を抱えている(うつ、依存症、統合失調症など)	7.2	6.7	7.0	-0.30
(8) 人間関係をうまく築けない	12.0	11.1	12.8	-1.70

※【男女間の差】では、差(男性-女性)が5.0ポイント以上の箇所に■、-5.0ポイント以下の箇所に■の色付け

問17 [問15で「配偶者やパートナーなどから、DVを受けたことがある」、問16で「困難な状況を経験したことがある」と答えた方におたずねします]

あなたは、DV行為を受けていることや困難な状況に陥っていることを、どこか（誰か）に相談しましたか。次の中から該当するものすべてお選びください。

- 回答があった項目について集計すると、「相談しなかった」が43.2%で最も高く、次いで「家族や親戚」が38.4%、「友人・知人」が23.8%となっています。
- 性別でみると、女性では「家族や親戚」「友人・知人」が男性に比べてそれぞれ14.2ポイント、15.4ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、60歳代では「相談しなかった」が52.5%で他の年代に比べて高くなっています。



※サンプル数 (n=307) に対して「不明」が39.7%と多かったため、「不明」を除いて再集計を行った。
 ※前回調査では、「配偶者などからの暴力行為 (DV) の経験」に関する設問において、「精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことがある」または「振るわれたことも、振るったこともある」と回答した方を対象としており、今回調査の設問対象と一部異なる。そのため、前回調査の結果は参考値として表記する。

■集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	185	71	112	2	15	22	33	42	40	33
家族や親戚	71 38.4	21 29.6	49 43.8	1 50.0	6 40.0	12 54.5	15 45.5	13 31.0	14 35.0	12 36.4
友人・知人	44 23.8	10 14.1	33 29.5	1 50.0	6 40.0	6 27.3	9 27.3	7 16.7	8 20.0	8 24.2
職場・学校	14 7.6	10 14.1	4 3.6	-	3 20.0	1 4.5	2 6.1	-	3 7.5	5 15.2
県の女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市の相談窓口(女性相談、DV相談、生活相談)	5 2.7	1 1.4	4 3.6	-	-	1 4.5	2 6.1	2 4.8	-	-
近隣市町村の相談窓口(長岡市配偶者暴力相談支援センター含む)	2 1.1	-	2 1.8	-	-	-	1 3.0	-	-	1 3.0
民間の相談窓口・支援団体(nPO等)	1 0.5	1 1.4	-	-	-	-	1 3.0	-	-	-
警察の相談窓口	1 0.5	-	1 0.9	-	-	-	-	-	-	1 3.0
弁護士・家庭裁判所	3 1.6	1 1.4	2 1.8	-	-	1 4.5	-	1 2.4	-	1 3.0
医療機関	6 3.2	3 4.2	3 2.7	-	1 6.7	1 4.5	1 3.0	2 4.8	-	1 3.0
インターネット・SNS	1 0.5	-	1 0.9	-	1 6.7	-	-	-	-	-
その他	7 3.8	4 5.6	3 2.7	-	-	-	1 3.0	4 9.5	1 2.5	1 3.0
相談しなかった	80 43.2	34 47.9	45 40.2	1 50.0	7 46.7	8 36.4	12 36.4	20 47.6	21 52.5	12 36.4

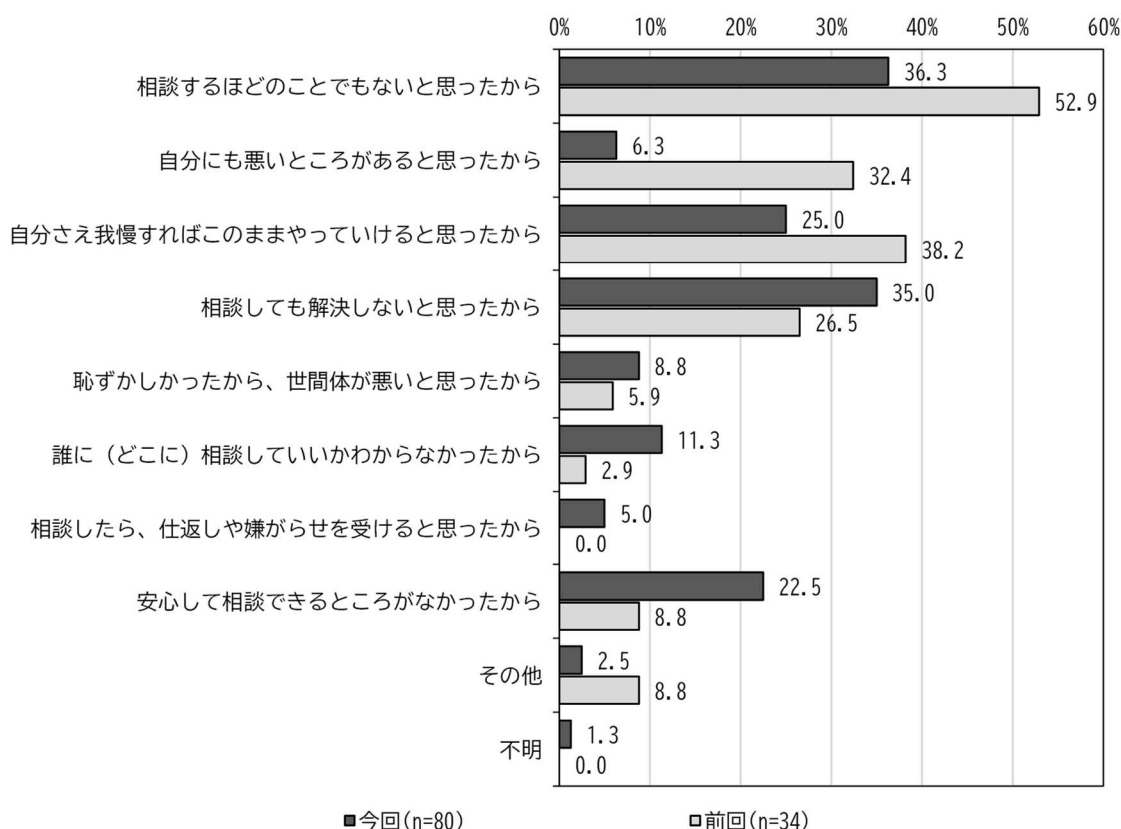
※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け(いずれも数値の高い性別に色付け)

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

問18 [問17で「12. 相談しなかった」と答えた方におたずねします]

相談しなかったのはなぜですか。次の中からいくつでもお選びください。

- 「相談するほどのことでもないと思ったから」が36.3%で最も高く、次いで「相談しても解決しないと思ったから」が35.0%、「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思ったから」が25.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、「安心して相談できるところがなかったから」が13.7ポイント、「相談しても解決しないと思ったから」が8.5ポイント、「誰に(どこに)相談していいかわからなかったから」が8.4ポイント増加し、「相談するほどのことでもないと思ったから」が16.6ポイント、「自分にも悪いところがあると思ったから」が26.1ポイント、「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思ったから」が13.2ポイント減少しています。
- 性別で見ると、男性では「相談するほどのことでもないと思ったから」が女性に比べて10.1ポイント高く、女性では「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思ったから」「恥ずかしかったから、世間体が悪いと思ったから」が男性に比べてそれぞれ16.4ポイント、10.4ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、50歳代・60歳代では「相談しても解決しないと思ったから」が40%前後で、60歳代以上では「相談するほどのことでもないと思ったから」が50%台で他の年代に比べて高くなっています。



■集計表

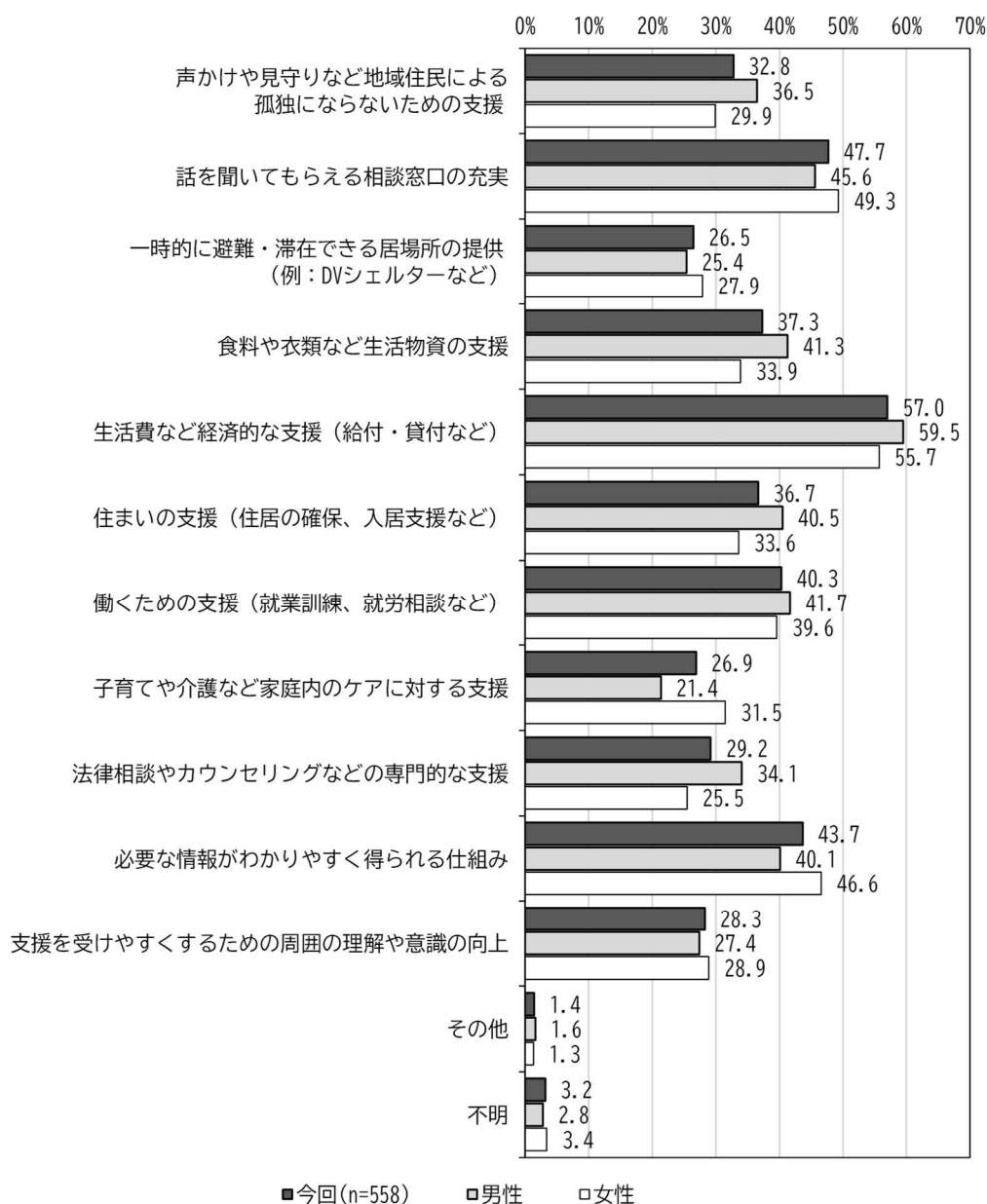
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	80	34	45	1	7	8	12	20	21	12
相談するほどのことでもないと思ったから	29 36.3	14 41.2	14 31.1	1 100.0	2 28.6	3 37.5	2 16.7	4 20.0	11 52.4	7 58.3
自分にも悪いところがあると思ったから	5 6.3	2 5.9	3 6.7	-	2 28.6	-	-	-	2 9.5	1 8.3
自分さえ我慢すればこのままやっていけると思ったから	20 25.0	5 14.7	14 31.1	-	3 42.9	2 25.0	3 25.0	3 15.0	4 19.0	4 33.3
相談しても解決しないと思ったから	28 35.0	11 32.4	16 35.6	-	3 42.9	2 25.0	4 33.3	8 40.0	8 38.1	2 16.7
恥ずかしかったから、世間体が悪いと思ったから	7 8.8	1 2.9	6 13.3	-	-	1 12.5	-	3 15.0	3 14.3	-
誰に(どこに)相談していいかわからなかったから	9 11.3	3 8.8	6 13.3	-	1 14.3	1 12.5	2 16.7	3 15.0	-	2 16.7
相談したら、仕返しや嫌がらせを受けると思ったから	4 5.0	2 5.9	2 4.4	-	1 14.3	1 12.5	-	2 10.0	-	-
安心して相談できるところがなかったから	18 22.5	8 23.5	10 22.2	-	-	-	6 50.0	5 25.0	3 14.3	4 33.3
その他	2 2.5	2 5.9	-	-	-	-	1 8.3	1 5.0	-	-
不明	1 1.3	1 2.9	-	-	-	-	1 8.3	-	-	-

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

問19 あなた自身や身近な人が生活上の困難を抱えたときに、どんな支援を望みますか。次の中からいくつでもお選びください。

- 「生活費など経済的な支援(給付・貸付など)」が57.0%で最も高く、次いで「話を聞いてもらえる相談窓口の充実」が47.7%、「必要な情報がわかりやすく得られる仕組み」が43.7%となっています。
- 性別で見ると、男性では「声かけや見守りなど地域住民による孤独にならないための支援」「食料や衣類など生活物資の支援」「住まいの支援(住居の確保、入居支援など)」「法律相談やカウンセリングなどの専門的な支援」が女性に比べてそれぞれ6.6ポイント、7.4ポイント、6.9ポイント、8.6ポイント高く、女性では「子育てや介護など家庭内のケアに対する支援」「必要な情報がわかりやすく得られる仕組み」が男性に比べてそれぞれ10.1ポイント、6.5ポイント高くなっています。



- 年齢別にみると、20歳代以下では「法律相談やカウンセリングなどの専門的な支援」が40%台、30歳代では「食料や衣類など生活物資の支援」「働くための支援(就業訓練、就労相談など)」「子育てや介護など家庭内のケアに対する支援」が30~50%台、40歳代では「働くための支援(就業訓練、就労相談など)」「住まいの支援(住居の確保、入居支援など)」が50%台、70歳以上では「声かけや見守りなど地域住民による孤独にならないための支援」が50%台と他の年代に比べて高くなっています。

■集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
全体	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
声かけや見守りなど地域住民による孤独にならないための支援	183 32.8	92 36.5	89 29.9	1 33.3	15 29.4	16 29.6	21 21.4	31 27.7	38 29.9	60 54.1
話を聞いてもらえる相談窓口の充実	266 47.7	115 45.6	147 49.3	1 33.3	24 47.1	24 44.4	42 42.9	56 50.0	63 49.6	55 49.5
一時的に避難・滞在できる居場所の提供(例:DVシェルターなど)	148 26.5	64 25.4	83 27.9	-	17 33.3	19 35.2	30 30.6	33 29.5	25 19.7	23 20.7
食料や衣類など生活物資の支援	208 37.3	104 41.3	101 33.9	-	22 43.1	26 48.1	45 45.9	45 40.2	39 30.7	29 26.1
生活費など経済的な支援(給付・貸付など)	318 57.0	150 59.5	166 55.7	-	25 49.0	36 66.7	64 65.3	65 58.0	74 58.3	53 47.7
住まいの支援(住居の確保、入居支援など)	205 36.7	102 40.5	100 33.6	-	18 35.3	22 40.7	50 51.0	47 42.0	38 29.9	28 25.2
働くための支援(就業訓練、就労相談など)	225 40.3	105 41.7	118 39.6	-	18 35.3	29 53.7	52 53.1	56 50.0	39 30.7	30 27.0
子育てや介護など家庭内のケアに対する支援	150 26.9	54 21.4	94 31.5	-	15 29.4	20 37.0	26 26.5	32 28.6	28 22.0	28 25.2
法律相談やカウンセリングなどの専門的な支援	163 29.2	86 34.1	76 25.5	-	21 41.2	20 37.0	31 31.6	36 32.1	29 22.8	25 22.5
必要な情報がわかりやすく得られる仕組み	244 43.7	101 40.1	139 46.6	2 66.7	20 39.2	23 42.6	48 49.0	53 47.3	45 35.4	53 47.7
支援を受けやすくするための周囲の理解や意識の向上	158 28.3	69 27.4	86 28.9	2 66.7	12 23.5	19 35.2	22 22.4	34 30.4	31 24.4	39 35.1
その他	8 1.4	4 1.6	4 1.3	-	-	-	3 3.1	3 2.7	1 0.8	1 0.9
不明	18 3.2	7 2.8	10 3.4	-	-	2 3.7	1 1.0	3 2.7	5 3.9	6 5.4

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け(いずれも数値の高い性別に色付け)

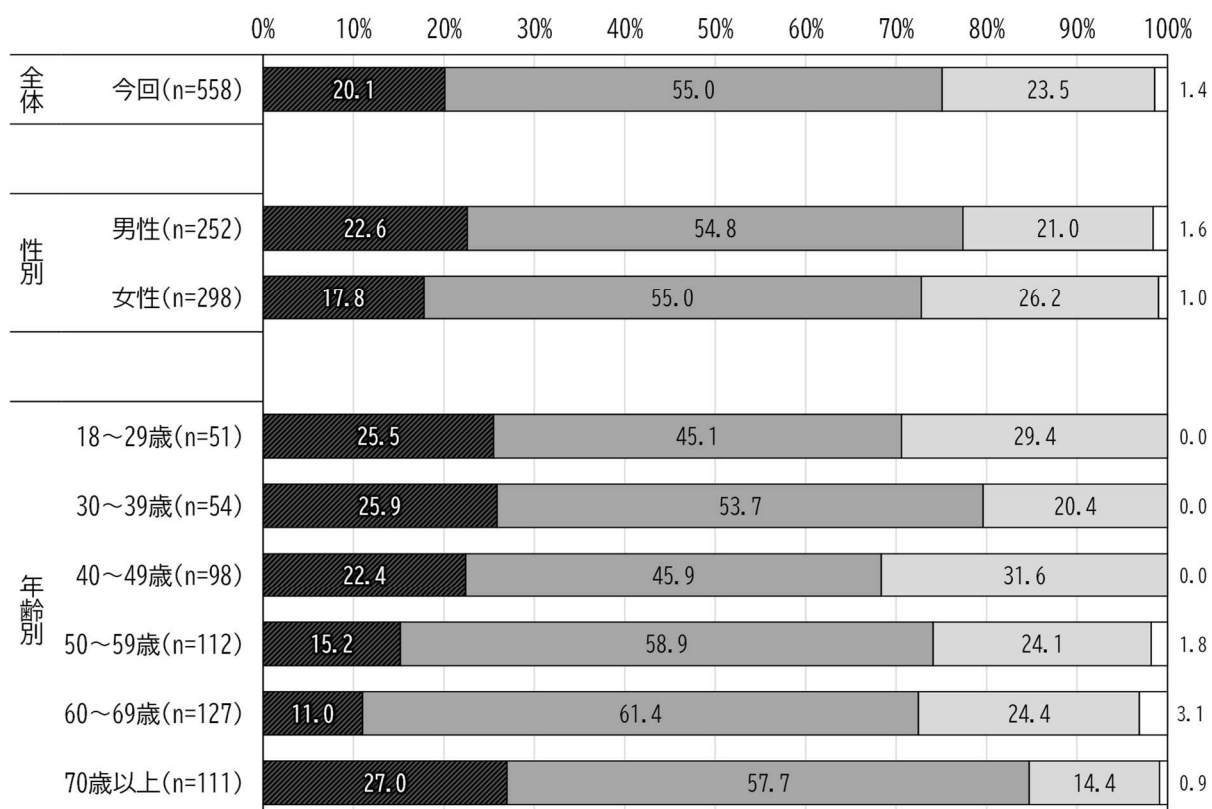
※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

6. 男女共同参画社会の推進に関することについて

問20 あなたは、次の法律や名称を知っていますか。次の中からそれぞれ最も近いものを選んでください。

(1) 男女共同参画社会

- 「内容は知らないが聞いたことはある」が55.0%で最も高く、次いで「聞いたことはない」が23.5%、「内容を知っている」が20.1%となっています。
- 性別で見ると、男性では、「内容を知っている」が女性に比べて4.8ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、50・60歳代で「内容を知っている」が10%台で他の年代に比べて低くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

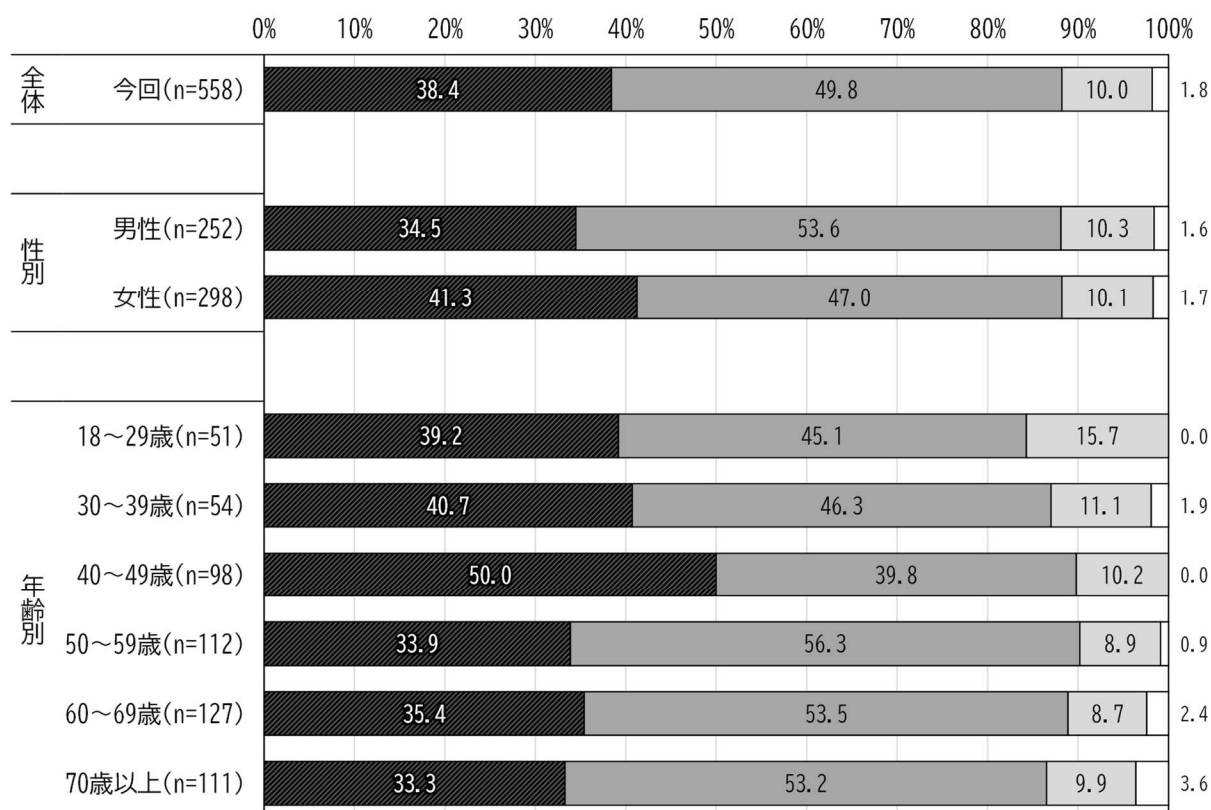
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	112 20.1	57 22.6	53 17.8	-	13 25.5	14 25.9	22 22.4	17 15.2	14 11.0	30 27.0
内容は知らないが聞いたことはある	307 55.0	138 54.8	164 55.0	3 100.0	23 45.1	29 53.7	45 45.9	66 58.9	78 61.4	64 57.7
聞いたことはない	131 23.5	53 21.0	78 26.2	-	15 29.4	11 20.4	31 31.6	27 24.1	31 24.4	16 14.4
不明	8 1.4	4 1.6	3 1.0	-	-	-	-	2 1.8	4 3.1	1 0.9

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(2) 育児・介護休業法

- 「内容は知らないが聞いたことはある」が49.8%で最も高く、次いで「内容を知っている」が38.4%、「聞いたことはない」が10.0%となっています。
- 性別で見ると、女性では、「内容を知っている」が男性に比べて6.8ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、40歳代で「内容を知っている」が50.0%で他の年代に比べて高くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

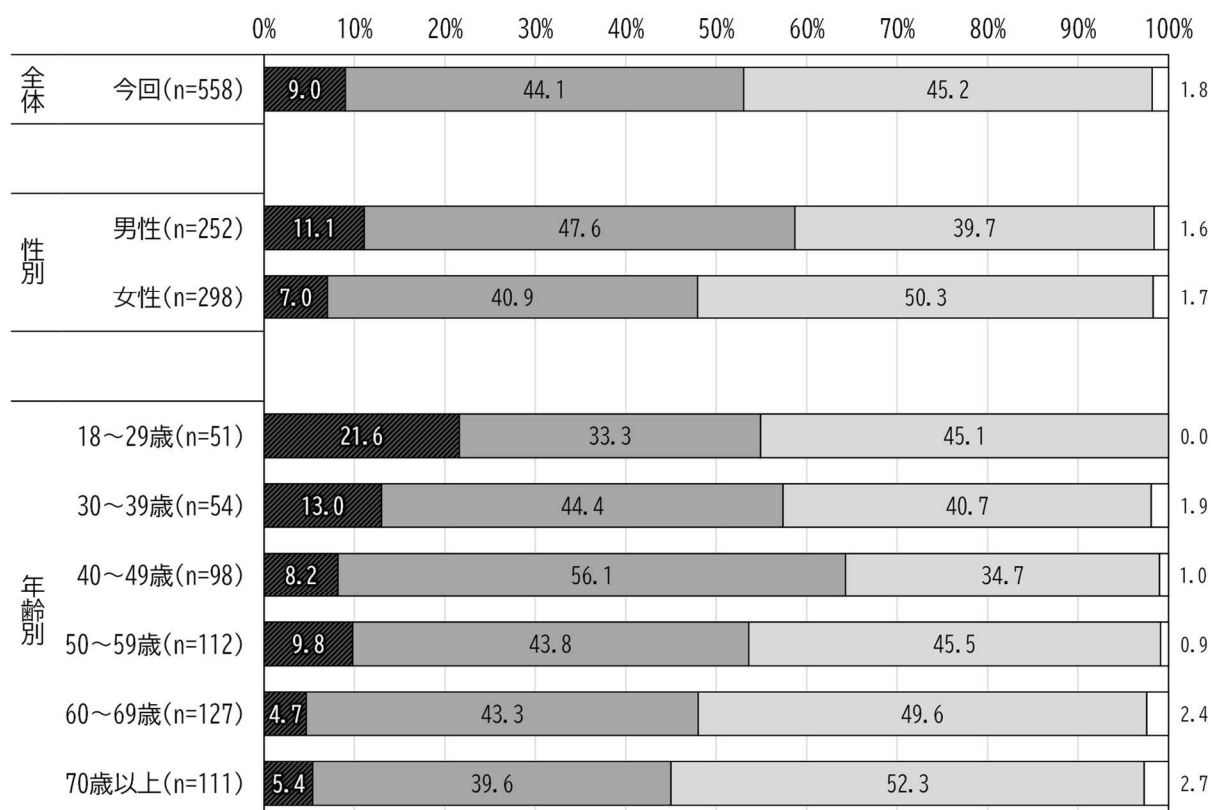
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	214 38.4	87 34.5	123 41.3	2 66.7	20 39.2	22 40.7	49 50.0	38 33.9	45 35.4	37 33.3
内容は知らないが聞いたことはある	278 49.8	135 53.6	140 47.0	1 33.3	23 45.1	25 46.3	39 39.8	63 56.3	68 53.5	59 53.2
聞いたことはない	56 10.0	26 10.3	30 10.1	-	8 15.7	6 11.1	10 10.2	10 8.9	11 8.7	11 9.9
不明	10 1.8	4 1.6	5 1.7	-	-	1 1.9	-	1 0.9	3 2.4	4 3.6

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(3) 女性活躍推進法

- 「聞いたことはない」が45.2%で最も高く、次いで「内容は知らないが聞いたことはある」が44.1%、「内容を知っている」が9.0%となっています。
- 性別で見ると、男性では、「内容を知っている」が女性に比べて4.1ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下で「内容を知っている」が21.6%で他の年代に比べて高くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

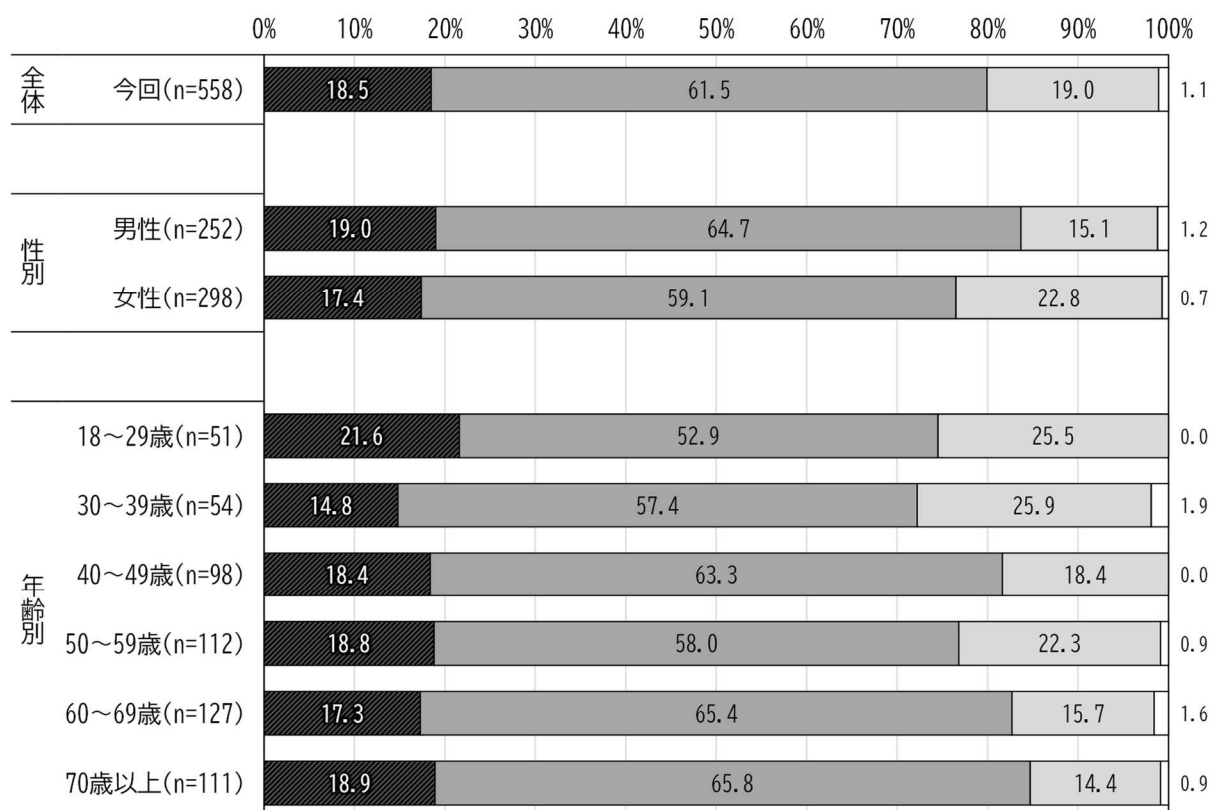
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	50 9.0	28 11.1	21 7.0	1 33.3	11 21.6	7 13.0	8 8.2	11 9.8	6 4.7	6 5.4
内容は知らないが聞いたことはある	246 44.1	120 47.6	122 40.9	2 66.7	17 33.3	24 44.4	55 56.1	49 43.8	55 43.3	44 39.6
聞いたことはない	252 45.2	100 39.7	150 50.3	-	23 45.1	22 40.7	34 34.7	51 45.5	63 49.6	58 52.3
不明	10 1.8	4 1.6	5 1.7	-	-	1 1.9	1 1.0	1 0.9	3 2.4	3 2.7

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(4) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV法)

- 「内容は知らないが聞いたことはある」が61.5%で最も高く、次いで「聞いたことはない」が19.0%、「内容を知っている」が18.5%となっています。
- 性別で見ると、男性では、「内容を知っている」が女性に比べて1.6ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下で「内容を知っている」が21.6%で他の年代に比べて高くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

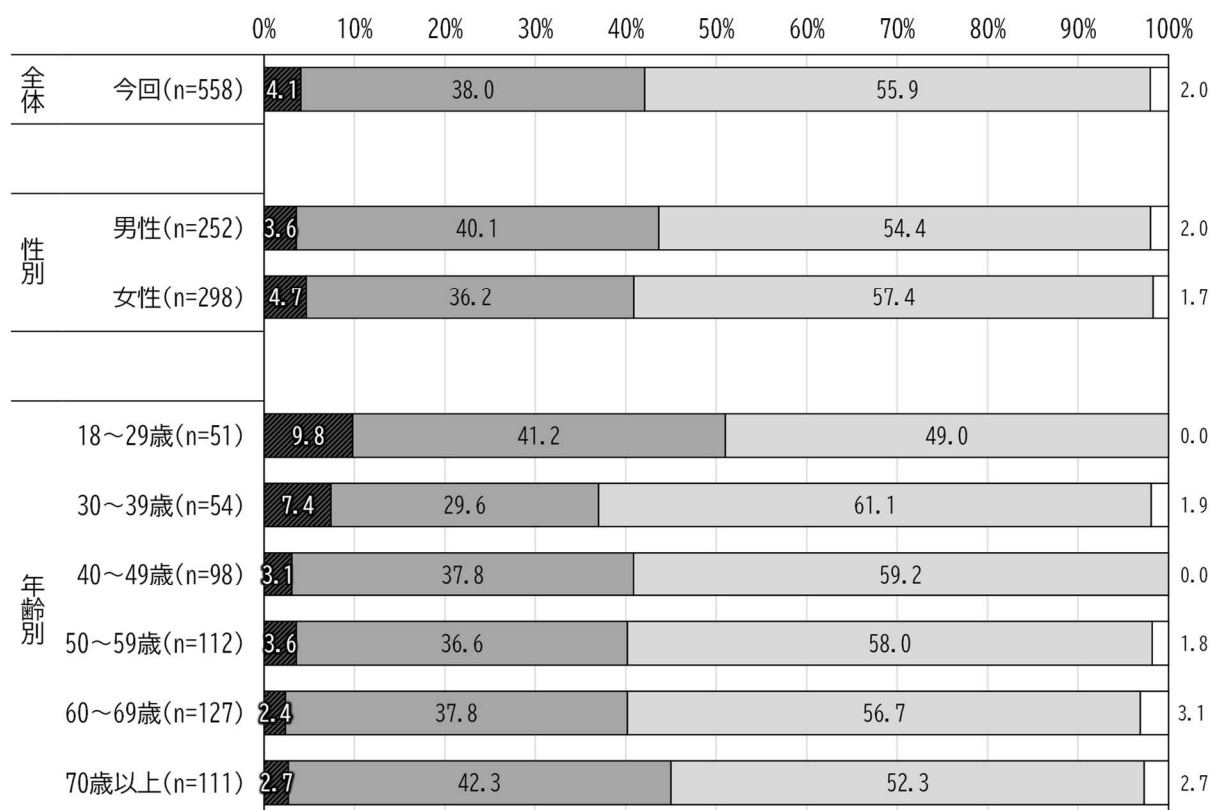
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	103 18.5	48 19.0	52 17.4	2 66.7	11 21.6	8 14.8	18 18.4	21 18.8	22 17.3	21 18.9
内容は知らないが聞いたことはある	343 61.5	163 64.7	176 59.1	1 33.3	27 52.9	31 57.4	62 63.3	65 58.0	83 65.4	73 65.8
聞いたことはない	106 19.0	38 15.1	68 22.8	-	13 25.5	14 25.9	18 18.4	25 22.3	20 15.7	16 14.4
不明	6 1.1	3 1.2	2 0.7	-	-	1 1.9	-	1 0.9	2 1.6	1 0.9

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け (いずれも数値の高い性別に色付け)

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(5) 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援新法）

- 「聞いたことはない」が55.9%で最も高く、次いで「内容は知らないが聞いたことはある」が38.0%、「内容を知っている」が4.1%となっています。
- 性別で見ると、女性では、「内容を知っている」が男性に比べて1.1ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代以下で「内容を知っている」が5～10%で他の年代に比べて高くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

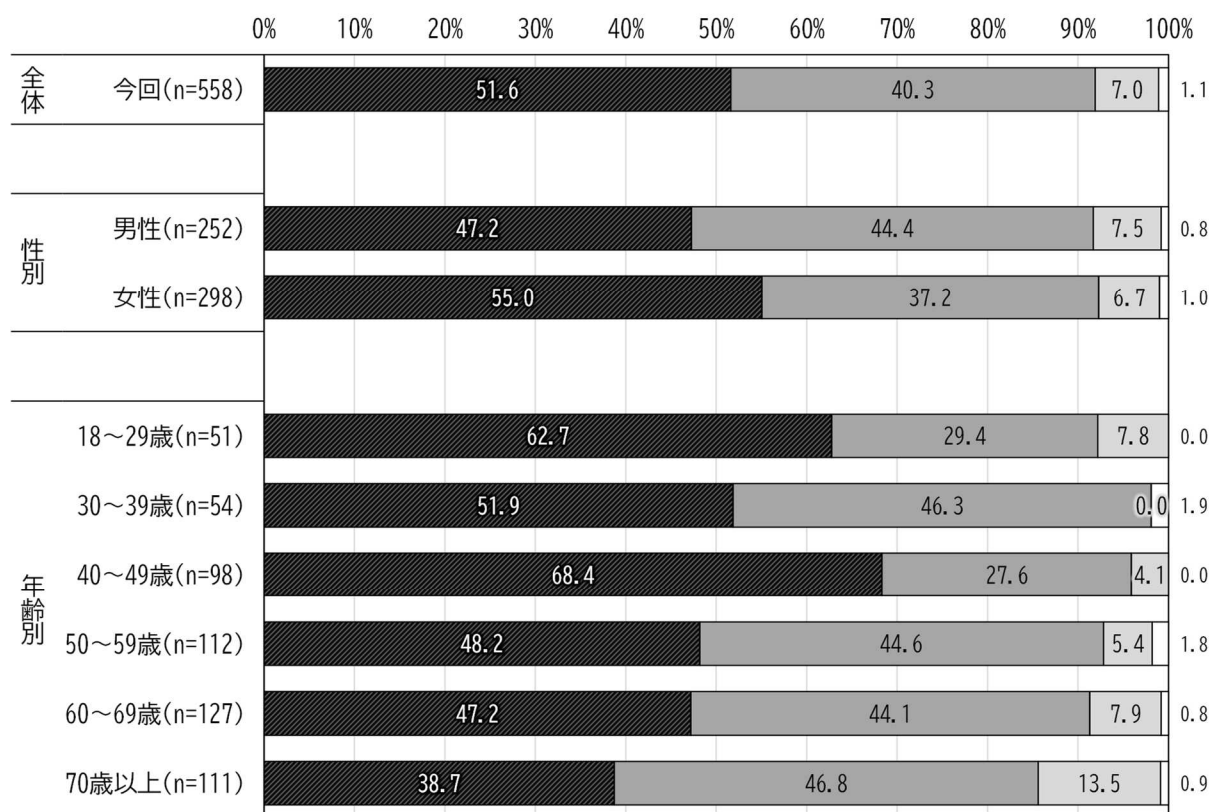
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	23 4.1	9 3.6	14 4.7	-	5 9.8	4 7.4	3 3.1	4 3.6	3 2.4	3 2.7
内容は知らないが聞いたことはある	212 38.0	101 40.1	108 36.2	1 33.3	21 41.2	16 29.6	37 37.8	41 36.6	48 37.8	47 42.3
聞いたことはない	312 55.9	137 54.4	171 57.4	2 66.7	25 49.0	33 61.1	58 59.2	65 58.0	72 56.7	58 52.3
不明	11 2.0	5 2.0	5 1.7	-	-	1 1.9	-	2 1.8	4 3.1	3 2.7

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

(6) ジェンダー

- 「内容を知っている」が51.6%で最も高く、次いで「内容は知らないが聞いたことはある」が40.3%、「聞いたことはない」が7.0%となっています。
- 性別で見ると、女性では、「内容を知っている」が男性に比べて7.8ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下、40歳代で「内容を知っている」が60%台で他の年代に比べて高くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

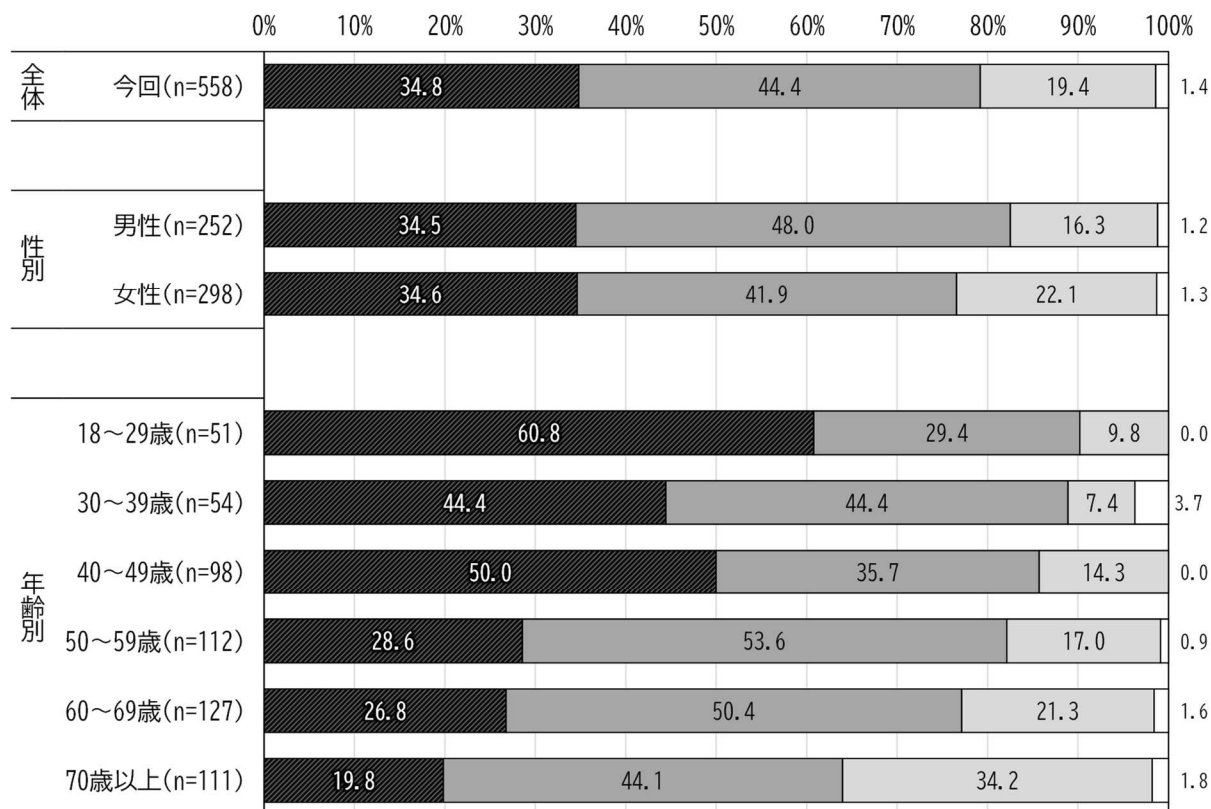
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	288 51.6	119 47.2	164 55.0	2 66.7	32 62.7	28 51.9	67 68.4	54 48.2	60 47.2	43 38.7
内容は知らないが聞いたことはある	225 40.3	112 44.4	111 37.2	1 33.3	15 29.4	25 46.3	27 27.6	50 44.6	56 44.1	52 46.8
聞いたことはない	39 7.0	19 7.5	20 6.7	-	4 7.8	-	4 4.1	6 5.4	10 7.9	15 13.5
不明	6 1.1	2 0.8	3 1.0	-	-	1 1.9	-	2 1.8	1 0.8	1 0.9

※ [性別] では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け (いずれも数値の高い性別に色付け)

※ [年代別] では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(7) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

- 「内容は知らないが聞いたことはある」が44.4%で最も高く、次いで「内容を知っている」が34.8%、「聞いたことはない」が19.4%となっています。
- 性別で見ると、男女ともに約35%となっています。
- 年齢別にみると、40歳代以下で「内容を知っている」が40～60%台で他の年代に比べて高くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

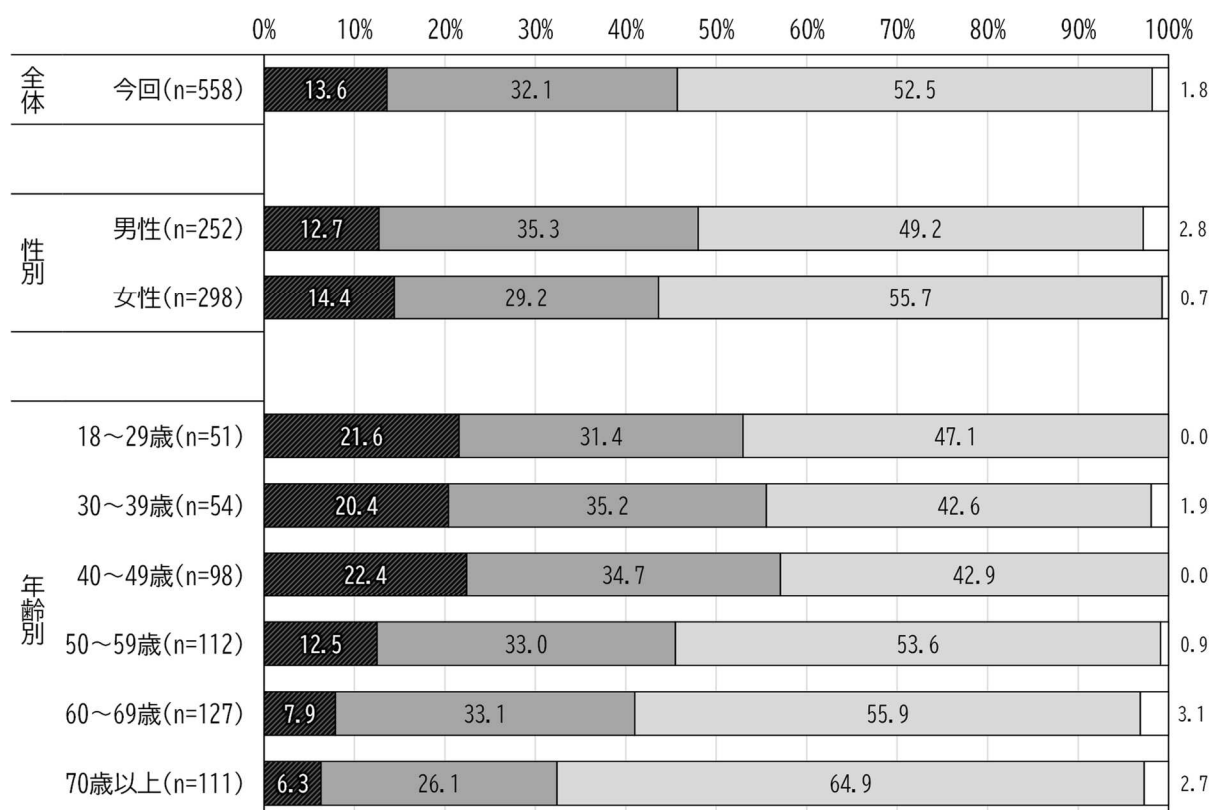
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	194 34.8	87 34.5	103 34.6	2 66.7	31 60.8	24 44.4	49 50.0	32 28.6	34 26.8	22 19.8
内容は知らないが聞いたことはある	248 44.4	121 48.0	125 41.9	1 33.3	15 29.4	24 44.4	35 35.7	60 53.6	64 50.4	49 44.1
聞いたことはない	108 19.4	41 16.3	66 22.1	-	5 9.8	4 7.4	14 14.3	19 17.0	27 21.3	38 34.2
不明	8 1.4	3 1.2	4 1.3	-	-	2 3.7	-	1 0.9	2 1.6	2 1.8

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(8) 無意識な偏見 (アンコンシャス・バイアス)

- 「聞いたことはない」が52.5%で最も高く、次いで「内容は知らないが聞いたことはある」が32.1%、「内容を知っている」が13.6%となっています。
- 性別で見ると、女性では、「内容を知っている」が男性に比べて1.7ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、40歳代以下で「内容を知っている」が20%台で他の年代に比べて高くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

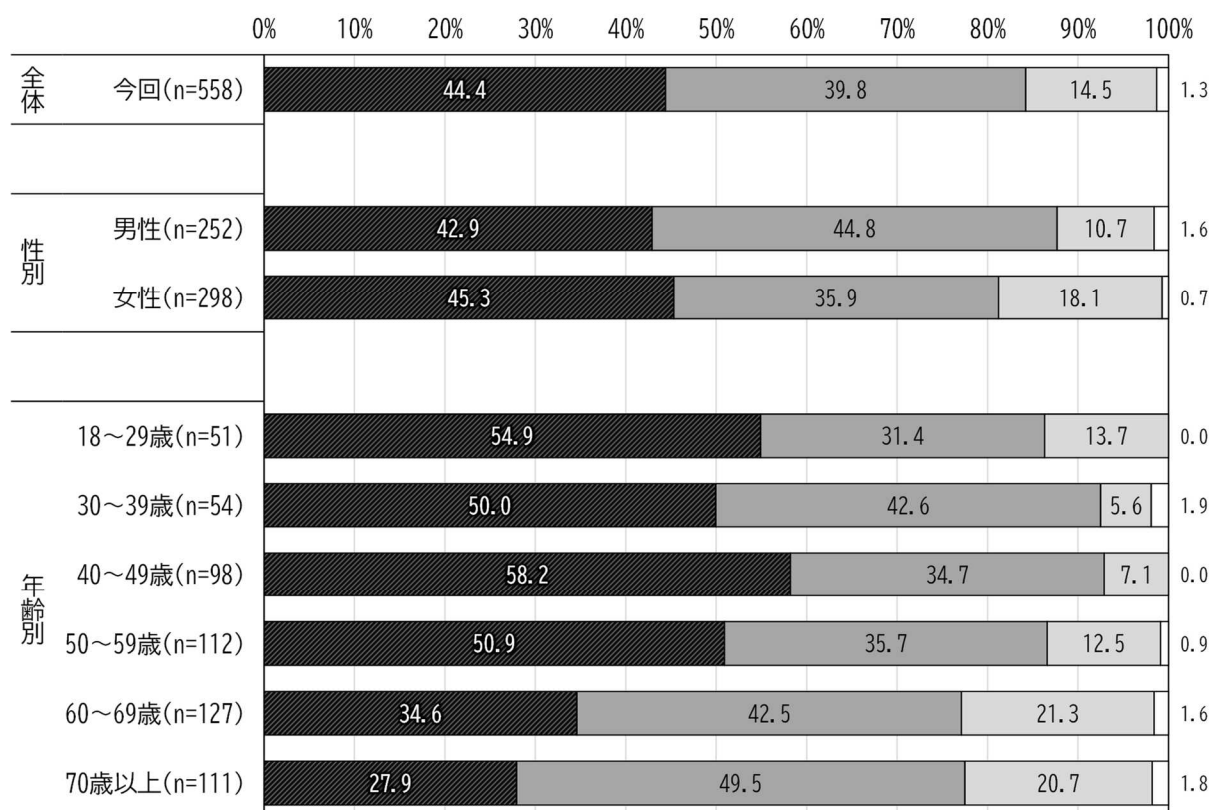
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	76 13.6	32 12.7	43 14.4	-	11 21.6	11 20.4	22 22.4	14 12.5	10 7.9	7 6.3
内容は知らないが聞いたことはある	179 32.1	89 35.3	87 29.2	2 66.7	16 31.4	19 35.2	34 34.7	37 33.0	42 33.1	29 26.1
聞いたことはない	293 52.5	124 49.2	166 55.7	1 33.3	24 47.1	23 42.6	42 42.9	60 53.6	71 55.9	72 64.9
不明	10 1.8	7 2.8	2 0.7	-	-	1 1.9	-	1 0.9	4 3.1	3 2.7

※ [性別] では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け (いずれも数値の高い性別に色付け)

※ [年代別] では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(9) 性的マイノリティ (LGBTQ)

- 「内容を知っている」が44.4%で最も高く、次いで「内容は知らないが聞いたことはある」が39.8%、「聞いたことはない」が14.5%となっています。
- 性別で見ると、女性では、「内容を知っている」が男性に比べて2.4ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、50歳代以下で「内容を知っている」が50%台で他の年代に比べて高くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

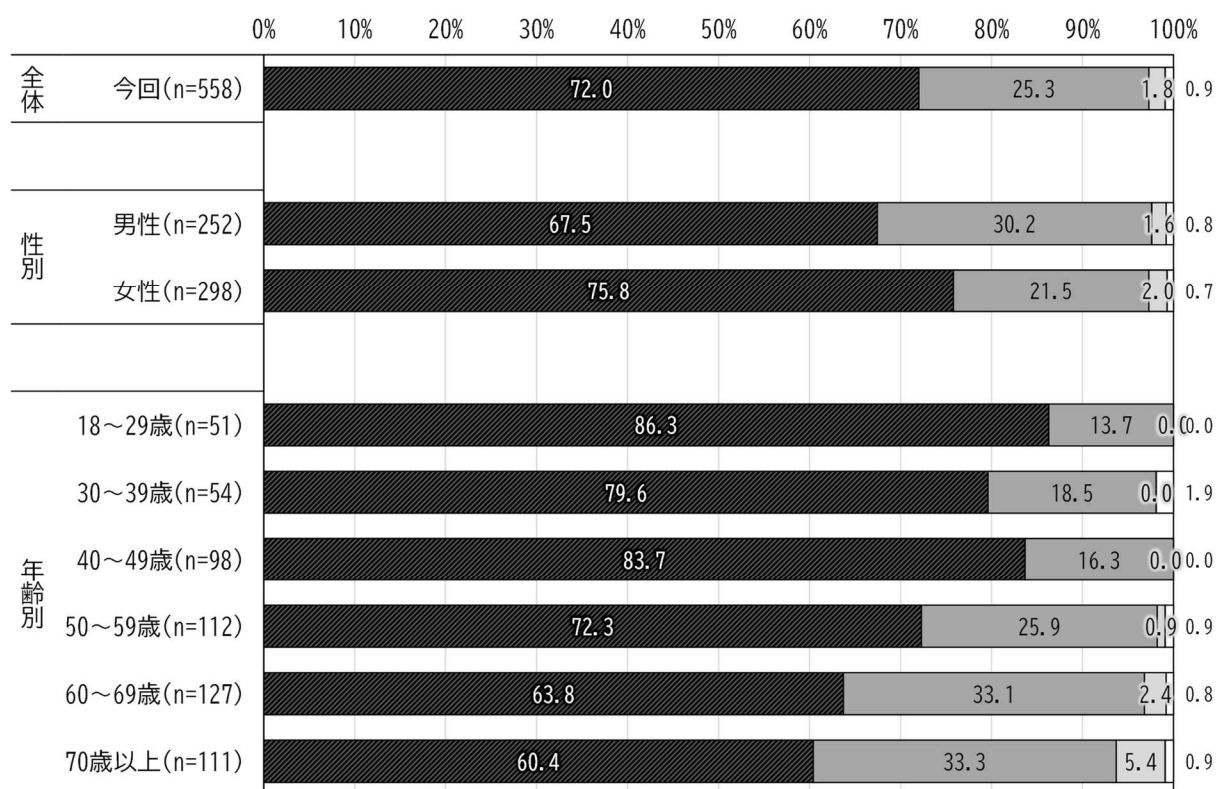
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	248 44.4	108 42.9	135 45.3	2 66.7	28 54.9	27 50.0	57 58.2	57 50.9	44 34.6	31 27.9
内容は知らないが聞いたことはある	222 39.8	113 44.8	107 35.9	1 33.3	16 31.4	23 42.6	34 34.7	40 35.7	54 42.5	55 49.5
聞いたことはない	81 14.5	27 10.7	54 18.1	-	7 13.7	3 5.6	7 7.1	14 12.5	27 21.3	23 20.7
不明	7 1.3	4 1.6	2 0.7	-	-	1 1.9	-	1 0.9	2 1.6	2 1.8

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所に■、5.0ポイント以上の箇所に■の色付け

(10) DV（ドメスティック・バイオレンス）

- 「内容を知っている」が72.0%で最も高く、次いで「内容は知らないが聞いたことはある」が25.3%、「聞いたことはない」が1.8%となっています。
- 性別で見ると、女性では、「内容を知っている」が男性に比べて8.3ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、40歳代以下で「内容を知っている」が70%後半～80%台で他の年代に比べて高くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

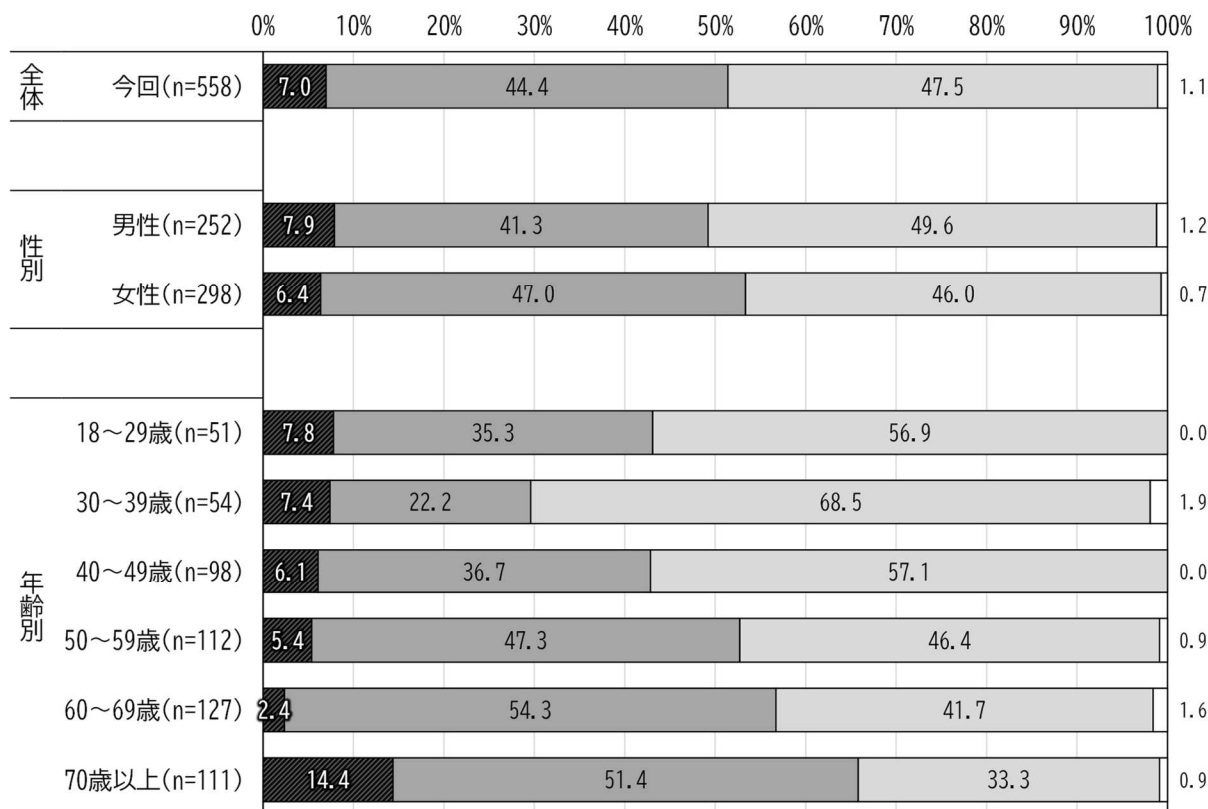
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	402 72.0	170 67.5	226 75.8	3 100.0	44 86.3	43 79.6	82 83.7	81 72.3	81 63.8	67 60.4
内容は知らないが聞いたことはある	141 25.3	76 30.2	64 21.5	-	7 13.7	10 18.5	16 16.3	29 25.9	42 33.1	37 33.3
聞いたことはない	10 1.8	4 1.6	6 2.0	-	-	-	-	1 0.9	3 2.4	6 5.4
不明	5 0.9	2 0.8	2 0.7	-	-	1 1.9	-	1 0.9	1 0.8	1 0.9

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

(11) おぢや男女共同参画プラン

- 「聞いたことはない」が47.5%で最も高く、次いで「内容は知らないが聞いたことはある」が44.4%、「内容を知っている」が7.0%となっています。
- 性別で見ると、男性では、「内容を知っている」が女性に比べて1.5ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、70歳以上で「内容を知っている」が14.4%で他の年代に比べて高くなっています。



■ 内容を知っている ■ 内容は知らないが聞いたことはある □ 聞いたことはない □ 不明

■ 集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
内容を知っている	39 7.0	20 7.9	19 6.4	-	4 7.8	4 7.4	6 6.1	6 5.4	3 2.4	16 14.4
内容は知らないが聞いたことはある	248 44.4	104 41.3	140 47.0	2 66.7	18 35.3	12 22.2	36 36.7	53 47.3	69 54.3	57 51.4
聞いたことはない	265 47.5	125 49.6	137 46.0	1 33.3	29 56.9	37 68.5	56 57.1	52 46.4	53 41.7	37 33.3
不明	6 1.1	3 1.2	2 0.7	-	-	1 1.9	-	1 0.9	2 1.6	1 0.9

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

問20 項目別の比較

「内容を知っている」の割合の比較

- 項目ごとの「内容を知っている」の割合を比較すると、「(10)DV(ドメスティック・バイオレンス)」が72.0%で最も高く、次いで「(6)ジェンダー」が51.6%、「(9)性的マイノリティ(LGBTQ)」が44.4%となっています。
- 男女間で比較すると、特に「(10)DV(ドメスティック・バイオレンス)」「(6)ジェンダー」「(2)育児・介護休業法」では、他の項目に比べて女性が男性よりも高くなっています。

	「内容を知っている」割合	男女間の差			「内容を知っている」「内容は知らないが聞いたことはある」割合	前回調査との比較
		男性	女性	差(男性-女性)		
(1)男女共同参画社会	20.1	22.6	17.8	+4.8	75.1	+33.40
(2)育児・介護休業法	38.4	34.5	41.3	-6.8	88.2	+32.60
(3)女性活躍推進法	9.0	11.1	7.0	+4.1	53.1	+38.10
(4)配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV法)	18.5	19.0	17.4	+1.6	80.0	+39.20
(5)困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(女性支援新法)	4.1	3.6	4.7	-1.1	42.1	-
(6)ジェンダー	51.6	47.2	55.0	-7.8	91.9	+53.30
(7)仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	34.8	34.5	34.6	-0.1	79.2	+56.10
(8)無意識な偏見(アンコンシャス・バイアス)	13.6	12.7	14.4	-1.7	45.7	-
(9)性的マイノリティ(LGBTQ)	44.4	42.9	45.3	-2.4	84.2	-
(10)DV(ドメスティック・バイオレンス)	72.0	67.5	75.8	-8.3	97.3	+20.00
(11)おぢや男女共同参画プラン	7.0	7.9	6.4	+1.5	51.4	+31.40

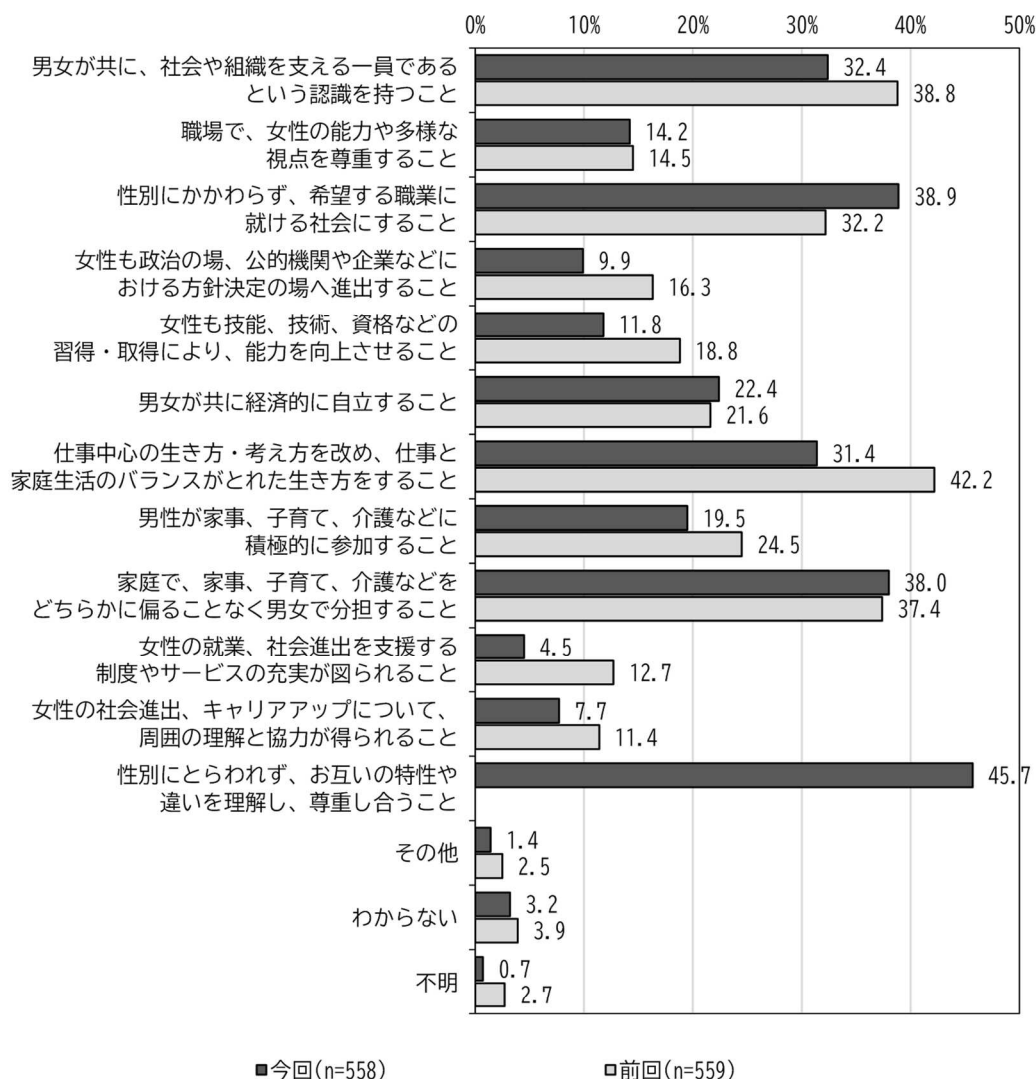
※【男女間の差】では、差(男性-女性)が5.0ポイント以上の箇所に■、-5.0ポイント以下の箇所に■の色付け

※【前回調査との比較】では、差が5.0ポイント以上の箇所に■、-5.0ポイント以下の箇所に■の色付け

※ 前回調査では、「次の法律や名称を知っていますか。」という設問に対して、各項目を選択する形で設計しているため、調査結果の比較は参考値とする。

問21 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、必要なことは何だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- 「性別にとらわれず、お互いの特性や違いを理解し、尊重し合うこと」が45.7%で最も高く、次いで「性別にかかわらず、希望する職業に就ける社会にすること」が38.9%、「家庭で、家事、子育て、介護などをどちらかに偏ることなく男女で分担すること」が38.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、「性別にかかわらず、希望する職業に就ける社会にすること」が6.7ポイント増加し、「仕事中心の生き方・考え方を改め、仕事と家庭生活のバランスがとれた生き方をすること」が10.8ポイント、「女性の就業、社会進出を支援する制度やサービスの充実が図られること」が8.2ポイント減少しています。



- 性別でみると、女性では「仕事中心の生き方・考え方を改め、仕事と家庭生活のバランスがとれた生き方をすること」「家庭で、家事、子育て、介護などをどちらかに偏ることなく男女で分担すること」が男性に比べてそれぞれ7.9ポイント、20.7ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代以下では「男女が共に経済的に自立すること」が30%台、70歳以上では「男女が共に、社会や組織を支える一員であるという認識を持つこと」が40%台と他の年代に比べて高くなっています。

■集計表

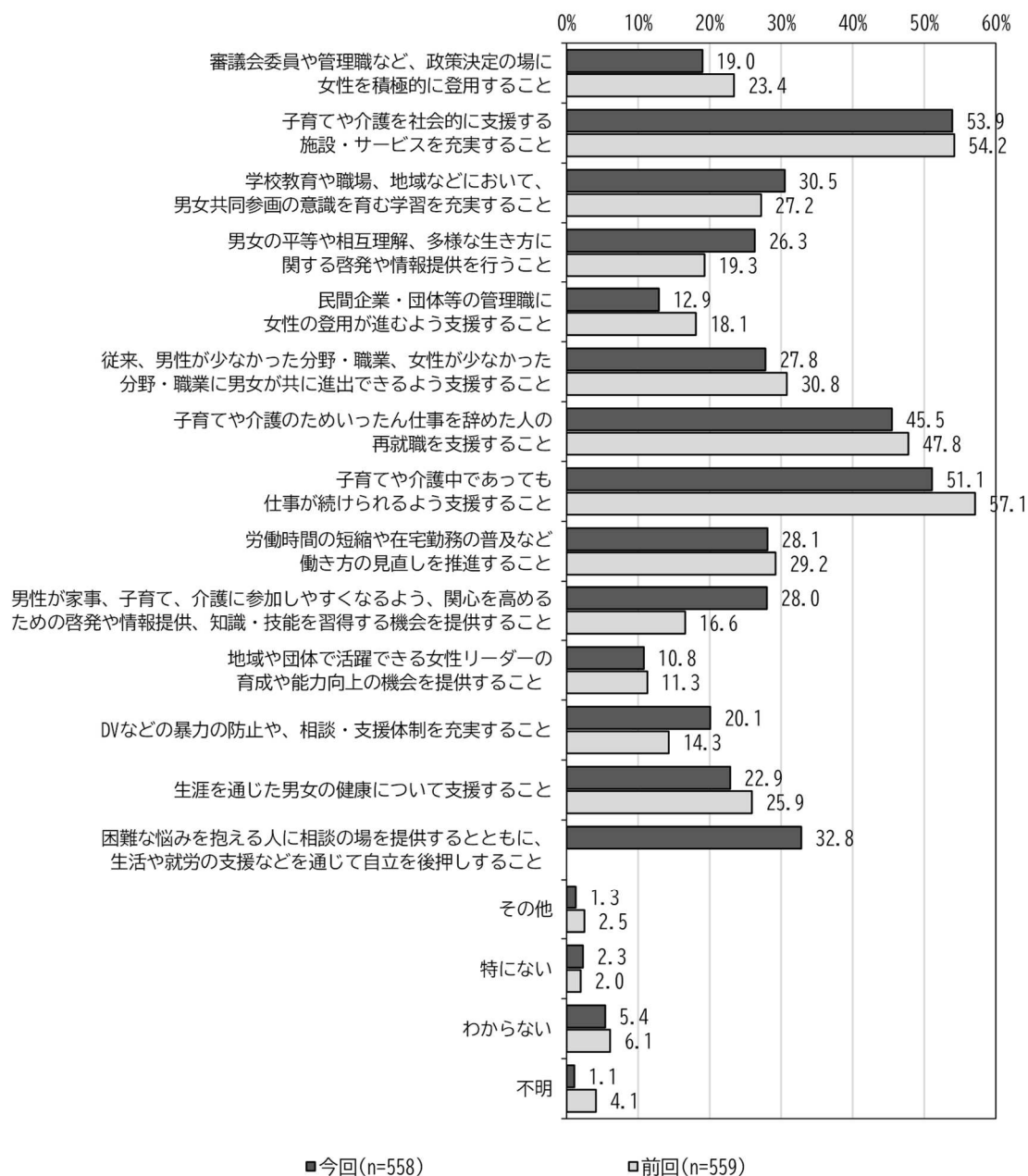
上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
男女が共に、社会や組織を支える一員であるという認識を持つこと	181 32.4	86 34.1	94 31.5	-	10 19.6	16 29.6	28 28.6	29 25.9	42 33.1	54 48.6
職場で、女性の能力や多様な視点を尊重すること	79 14.2	42 16.7	37 12.4	-	4 7.8	4 7.4	16 16.3	22 19.6	18 14.2	14 12.6
性別にかかわらず、希望する職業に就ける社会にすること	217 38.9	104 41.3	110 36.9	1 33.3	23 45.1	26 48.1	37 37.8	49 43.8	49 38.6	31 27.9
女性も政治の場、公的機関や企業などにおける方針決定の場へ進出すること	55 9.9	29 11.5	26 8.7	-	5 9.8	2 3.7	10 10.2	10 8.9	12 9.4	16 14.4
女性も技能、技術、資格などの習得・取得により、能力を向上させること	66 11.8	28 11.1	38 12.8	-	4 7.8	6 11.1	8 8.2	16 14.3	14 11.0	18 16.2
男女が共に経済的に自立すること	125 22.4	49 19.4	71 23.8	2 66.7	17 33.3	12 22.2	20 20.4	26 23.2	28 22.0	19 17.1
仕事中心の生き方・考え方を改め、仕事と家庭生活のバランスがとれた生き方をすること	175 31.4	68 27.0	104 34.9	-	13 25.5	15 27.8	28 28.6	34 30.4	49 38.6	34 30.6
男性が家事、子育て、介護などに積極的に参加すること	109 19.5	48 19.0	60 20.1	-	12 23.5	12 22.2	18 18.4	24 21.4	29 22.8	14 12.6
家庭で、家事、子育て、介護などをどちらかに偏ることなく男女で分担すること	212 38.0	67 26.6	141 47.3	2 66.7	21 41.2	15 27.8	35 35.7	34 30.4	58 45.7	47 42.3
女性の就業、社会進出を支援する制度やサービスの充実が図られること	25 4.5	8 3.2	17 5.7	-	5 9.8	2 3.7	2 2.0	3 2.7	7 5.5	6 5.4
女性の社会進出、キャリアアップについて、周囲の理解と協力が得られること	43 7.7	16 6.3	27 9.1	-	4 7.8	6 11.1	6 6.1	6 5.4	13 10.2	8 7.2
性別にとらわれず、お互いの特性や違いを理解し、尊重し合うこと	255 45.7	115 45.6	135 45.3	2 66.7	22 43.1	27 50.0	38 38.8	53 47.3	52 40.9	60 54.1
その他	8 1.4	5 2.0	3 1.0	-	-	2 3.7	2 2.0	1 0.9	3 2.4	-
わからない	18 3.2	13 5.2	5 1.7	-	3 5.9	3 5.6	6 6.1	1 0.9	4 3.1	1 0.9
不明	4 0.7	2 0.8	2 0.7	-	-	-	-	1 0.9	-	3 2.7

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

問22 あなたは、男女が互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にとらわれず、それぞれが個性や能力を発揮できる「男女共同参画社会」や、女性活躍を推進していくために、小千谷市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。

- 「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること」が53.9%で最も高く、次いで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援すること」が51.1%、「子育てや介護のためいったん仕事を辞めた人の再就職を支援すること」が45.5%となっています。
- 前回調査と比較すると、「男女の平等や相互理解、多様な生き方に関する啓発や情報提供を行うこと」が7.0ポイント、「DVなどの暴力の防止や、相談・支援体制を充実すること」が5.8ポイント増加し、「民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援すること」が5.2ポイント、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援すること」が6.0ポイント減少しています。



- 性別で見ると、男性では「従来、男性が少なかった分野・職業、女性が少なかった分野・職業に男女が共に進出できるよう支援すること」「子育てや介護のためいったん仕事を辞めた人の再就職を支援すること」「生涯を通じた男女の健康について支援すること」が女性に比べてそれぞれ7.5ポイント、7.0ポイント、7.1ポイント高く、女性では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援すること」「男性が家事、子育て、介護に参加しやすくなるよう、関心を高めるための啓発や情報提供、知識・技能を習得する機会を提供すること」「困難な悩みを抱える人に相談の場を提供するとともに、生活や就労の支援などを通じて自立を後押しすること」が男性に比べてそれぞれ9.8ポイント、8.1ポイント、6.9ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代では「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方の見直しを推進すること」が30%後半、70歳以上では「地域や団体に活躍できる女性リーダーの育成や能力向上の機会を提供すること」が20%台、「困難な悩みを抱える人に相談の場を提供するとともに、生活や就労の支援などを通じて自立を後押しすること」が40%台と他の年代に比べて高くなっています。

■集計表

上段:度数 下段:%	合計	性別			年代別					
		男性	女性	選択しない	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
全体	558	252	298	3	51	54	98	112	127	111
審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用すること	106 19.0	53 21.0	52 17.4	1 33.3	7 13.7	5 9.3	16 16.3	19 17.0	30 23.6	29 26.1
子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること	301 53.9	130 51.6	168 56.4	1 33.3	27 52.9	29 53.7	47 48.0	56 50.0	77 60.6	64 57.7
学校教育や職場、地域などにおいて、男女共同参画の意識を育む学習を充実すること	170 30.5	78 31.0	87 29.2	2 66.7	16 31.4	11 20.4	31 31.6	31 27.7	34 26.8	44 39.6
男女の平等や相互理解、多様な生き方に関する啓発や情報提供を行うこと	147 26.3	71 28.2	73 24.5	1 33.3	15 29.4	8 14.8	21 21.4	30 26.8	33 26.0	38 34.2
民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援すること	72 12.9	32 12.7	40 13.4	-	5 9.8	6 11.1	8 8.2	19 17.0	14 11.0	20 18.0
従来、男性が少なかった分野・職業、女性が少なかった分野・職業に男女が共に進出できるよう支援すること	155 27.8	80 31.7	72 24.2	1 33.3	9 17.6	13 24.1	23 23.5	36 32.1	37 29.1	35 31.5
子育てや介護のためいったん仕事を辞めた人の再就職を支援すること	254 45.5	125 49.6	127 42.6	-	20 39.2	29 53.7	42 42.9	51 45.5	60 47.2	50 45.0
子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援すること	285 51.1	115 45.6	165 55.4	1 33.3	21 41.2	28 51.9	43 43.9	63 56.3	76 59.8	51 45.9
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方の見直しを推進すること	157 28.1	65 25.8	88 29.5	2 66.7	16 31.4	21 38.9	27 27.6	35 31.3	33 26.0	24 21.6
男性が家事、子育て、介護に参加しやすくなるよう、関心を高めるための啓発や情報提供、知識・技能を習得する機会を提供すること	156 28.0	60 23.8	95 31.9	1 33.3	14 27.5	16 29.6	22 22.4	34 30.4	35 27.6	35 31.5
地域や団体に活躍できる女性リーダーの育成や能力向上の機会を提供すること	60 10.8	33 13.1	27 9.1	-	5 9.8	6 11.1	6 6.1	10 8.9	9 7.1	24 21.6
DVなどの暴力の防止や、相談・支援体制を充実すること	112 20.1	54 21.4	56 18.8	-	14 27.5	14 25.9	16 16.3	27 24.1	15 11.8	25 22.5
生涯を通じた男女の健康について支援すること	128 22.9	67 26.6	58 19.5	1 33.3	10 19.6	8 14.8	16 16.3	30 26.8	31 24.4	31 27.9
困難な悩みを抱える人に相談の場を提供するとともに、生活や就労の支援などを通じて自立を後押しすること	183 32.8	73 29.0	107 35.9	1 33.3	11 21.6	18 33.3	23 23.5	31 27.7	50 39.4	49 44.1
その他	7 1.3	3 1.2	4 1.3	-	3 5.9	1 1.9	-	2 1.8	1 0.8	-
特になし	13 2.3	10 4.0	3 1.0	-	1 2.0	-	7 7.1	2 1.8	2 1.6	1 0.9
わからない	30 5.4	14 5.6	15 5.0	1 33.3	4 7.8	3 5.6	5 5.1	8 7.1	5 3.9	5 4.5
不明	6 1.1	3 1.2	3 1.0	-	-	-	-	2 1.8	-	4 3.6

※【性別】では、男女差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け（いずれも数値の高い性別に色付け）

※【年代別】では、合計との差が10ポイント以上の箇所には■、5.0ポイント以上の箇所には■の色付け

7. 自由記述

性別	年齢	意見
男性	18・19歳	会社などで女性の管理職が少ないのは確かに男女差別の影響があるかもしれないが、それを理由にして管理職の女性枠を大幅に増設することには反対です。なぜなら、その女性が優秀でもないのにも関わらず女性枠があるからと言って管理職を与えられたのでは企業の質が下がっていくからです。平等であることは大切ですが、市民に影響を与える会社の質を何よりも大切にしていきたいです。
男性	20歳代	出産を機に退職をすると、復職する際のハードルが上がるような気がします。いつでも戻れる環境整備が進むと良いと感じます。
男性	20歳代	男側の意識の向上、変化だけですべてが解決する。自分の価値観を押しつけてくる人々、特に中高年男性には他人がどうであろうと「自分には何の変化も影響もない」ということを理解してもらいたい。(他人のことでヤキモキしないでほしい)
男性	20歳代	男女平等のための行き過ぎた女性優遇を感じるが多々ある。自分の場合は、女性の職場で働いている男性なので、男性だからという理由で仕事を制限されたり、周りに配慮しなければならないことが多い。性別に関わらず同じような方はいると思う。男女問わず希望した職で自分らしく働ける社会づくりをしてほしい。
男性	20歳代	頑張してほしいです。
男性	30歳代	そもそも平等であるべきなのかわからない。
男性	30歳代	女性で仕事に専念する人が増えると、少子化の加速につながってしまうのでは？と思います。
男性	30歳代	男女性別に囚われずとは言うが、少なからず生物学的に思考などに差があると思う。男女としての性差も受け入れて個人として尊重し、自分自身が過ごしやすい社会形成が必要なのではないかとも思う。
男性	40歳代	こんなことよりもっと市民のためになることを優先し、予算を組んだ方が良い。
男性	40歳代	長すぎる。
男性	60歳代	政府自体の考え方が大きく変わることが大切。表向きは「男女共同参画社会の推進」と言っているが、内実が伴っていないと思えない。政治の責任は大きい。
男性	60歳代	古くからある価値観、従来からあるものは遅れていてダメ。新しいもの、改革が良い。変えていくべきという考え方もすべて良いわけではない。その時、その時代に適正なものを見極めていてもらいたいです。
男性	60歳代	人口減少が気がかり。若者が残る、出て行かない、戻ってくる小千谷にしてほしい。
男性	60歳代	男女共同参画社会にとらわれない自由なコミュニケーション力をつけ、おたがいさまという気持ちが必要。あまり力を入れないつきあいが必要。いきすぎないよう気をつけよう。
男性	60歳代	小千谷市に有力な産業がないために若い人(特に女性)が高卒後、県外に出て戻ってこなくなると思う。高校を卒業しても地元で働く場所があまりない。
男性	60歳代	考え方そのものを変えることはとても難しい。特に年配の方は受けてきた教育や家庭環境を押し付けようとしてくる。結婚・出産・働き方等個人の考えが尊重されるような社会になるといいと思う。
男性	60歳代	男女共同参画社会を実現する上での要諦は、意識の変革だ。制度や法律はある程度整ってきているが、まだ保守的な農村地域では、男は仕事、女は家事、育児といった無意識の思い込みが根強く残っている。この意識が変わらない限り、制度や法律上を整えても実際の行動や選択の自由は広がらないと思う。
男性	70歳以上	仕事面においては、男性、女性だからではなく、個人の能力、性格により登用、配置するのが望ましいと思う。また、育児、介護に対する男性の意識が低いのは否めないが、現況の職場環境はまだ理解を得難いのは事実である。
男性	70歳以上	問22、10、男性が家事、子育て…とても立派で近よりがたいです。家事には配膳も有れば、洗い物、かたづけなど、いろいろある。もっと敷居を低くして、誰でも気軽に入っていける玄関にして、助かる人がいるから動くんだけ、みたいな気持ちになるといいと思う。
男性	70歳以上	女性の遠慮、責任逃れなど古い考え方を少しずつ変えていかないと急には変わらないと思う。小、中学校の教育。
男性	70歳以上	高齢者のさまざまな短時間、軽作業での就業支援や情報をもっと提供してほしい。

性別	年齢	意見
女性	20歳代	今回の調査は「お願い」なのに、回答期限と書くのは、いかにも役所目線と思う。「回答は11月14日(金)を目処にご提出ください」を書くべきと思う。今回の調査表は空白が多く、紙を無駄づかいと思う。調査項目を前後させて空白を無くし調査用紙を少なくし「SDGs」に協力しましょう。
女性	30歳代	機会が平等にあり、選択の自由がある日本「小千谷市」になるよう私も頑張ります。何卒よろしく願います。ありがとうございました。
女性	30歳代	問15でDVIについて、DVIは配偶者やパートナーだけから受けるものではないので、質問する時は「配偶者、パートナー、家族から」としないとだめだと思いました。私や親は実際に「家族」からDVを受けたことがあるのでそう思いました。
女性	30歳代	大企業では対応されている様々なことが、市内の中小企業では取り入れられないことが多い。子育て中の女性がフレックスタイムを希望しても「特別扱いはできない」と検討してもらえなかった。法律で定められた男性の育休は対応しているのに…女性は働きづらい。
女性	30歳代	私は離婚の経験のある者なのですが、養育費未払いに対するペナルティがほとんど無いこと、離婚調停(離婚訴訟)中にひとり親と同じように子育てしているのに、ひとり親への支援が全く受けられないこと、児童手当の受け取り口座の変更に時間がかかり、手続きが完了するまでの数ヶ月分を相手に取られてしまったこと、そもそも児童手当の受け取り口座が夫(男性)となり、実際に子どもの為ではない使い道で使われたりしたことなどを経験しました。 今後同じような経験をする女性が一人でも減るよう、早急に対応をお願いしたいです。
女性	40歳代	男女が共同して社会的活動を行うためには、経済的自立が大切だと思うが、現状の小千谷市では厳しいと思う。その中でも、できることを考えながら生活していきたいです。
女性	40歳代	男性がどんな育児・介護に協力したら家族に喜ばれるか分かるような記事を市報にのせてみては？やってみたい人には参考になるし、やる気がない人にも周りはやっているのか…という刺激になるかと。
女性	40歳代	ひとり親制度の医療控除を見直してほしい。頑張って働いて、給料がUPしたと思ったら控除がなくなった。一人で仕事も家事も育児も頑張ってきて突然、もうあなたは控除されなくなりましたと文書が来て困る。精神科にも通って今がある。 物価高の中、食費も高く、子どものためにお金を使い、自分は何も使えない。そんな生活をしているのに医者にかかる、薬をもらう、それだけで助かっていたのにもう病気にもなれない。せめて、子どもが成人するまで医療費控除を受けたかった。不満なら法的に、と書かれていたら従うしかない。すごく不利な社会で生きていけない。ひとり親に厳しい社会。
女性	40歳代	そうはいえども男女が平等になるには意識を変えることも大いに必要。昭和世代と、令和世代ではかなり違う。今の考え方を受容し、嫌われないような意識も必要だと思う。
女性	40歳代	行き過ぎたジェンダーレスにならないように願います。性別は男と女であり、行き過ぎた政策により自分はどっちだろうと迷う元となるようなやり方であってはならない。また、行き過ぎた政策により、ジェンダーレスを利用した性犯罪が起きないように十分注意して頂きたい。
女性	40歳代	それぞれの家庭、家族によって千差万別あるので、これ！といったひとつの方針はあれど、柔軟な対応をして頂きたいです。よろしく願います。
女性	40歳代	男性のみの料理教室の開催。
女性	40歳代	人それぞれ考え方は違うと思うので、それを差別せず、この場合はこの場所など多様な社会になって、それが成り立つといいなと思います。
女性	40歳代	古い考え方の人も多くいるが、男女平等やジェンダーレスの考え方の人も増えている。意識する機会が多く、そういう情報発信や知る機会が増えているのは良いことだ。ただ、若い人は新しい情報を常に取り入れ更新することができるが、歳をとると情報の更新は難しいのが現状だと思う。
女性	50歳代	男女共同参画社会についてのアンケートですが、まずは、個々が働きやすい職場であることが大前提と思っています。ワーク・ライフ・バランスについて考えることが大事。それは会社に求めることもありますが、自己の意識改革も大事だと思います。具体的に休みがとりやすい。悩みが相談しやすいなど…色々考える機会になりました。ありがとうございました。
女性	50歳代	少しずつ意識が変わってきていると思いますが、特に高齢者は男はこうあるべき！男なのに家事させて！男なのに台所に立つなんて！…みたいな考え方があると思います。 夫婦と子だけの世帯なら自分たちだけだから、問題ないと思うが、3世代、4世代の世帯だとなかなかむずかしいかな…結局女性は仕事しながら家事、子育てすることになる。市報などでわかりやすく啓発してください。

性別	年齢	意見
女性	50歳代	バランスのとれた食だとか、こうでなくてはなどの思いこみや周囲やTV番組などの圧力がなくなれば、もう少し生きやすかったりするのかなと思う。
女性	50歳代	個人が偏見にとらわれない思いやりのある社会になれるよう願います。
女性	50歳代	名前は知っているが活動内容がいまいちわかりません。一昨年初めて知りました。小千谷市の取組がもっと市民に周知できたら良いと思いました。また、おそらく数年活動されてるかと思いますが活動の成果はどのように現れているのでしょうか？
女性	50歳代	私の親世代の考え方で女性への偏見がある。人格否定などありました。家事、育児は女性がやることという考えが強く、男女共同参画がもっと広まると願います。
女性	60歳代	「男女共同参画プラン」があったことが知りませんでした。このアンケートで知りましたが、男女が共に理解し、性別にとらわれずに個性や能力を発揮できることは良いことだと思います。もっとアピールしていった方が良いと思います。
女性	60歳代	九州に長期旅行して来ました。女性がとても元気で、ハツラツと働いていました。特に感じたのは、男性が能力を認め、女性に使われる、指示されることに、全く違和感を持たずにいることでした。 女性が存在感や尊重を得るにはまず、女性自身が自分にプライドを持って生きることが大切です。自信を付けるには、体力(健康)があり、自立できる力があることが必要。回りや男性や行政の支援も大切ですが、女性の心、パワーの底上げが大切かと思えます。
女性	60歳代	男、女に関わらず、個々の意識が重要。必要な情報が得られる環境の提供。
女性	60歳代	山本山山頂のトイレ、船岡公園のトイレにおむつ交換用のベッドを安定な状態で。ズボンを下ろす時に子どもがよろけ、紙おむつを履く時には、子どもが親の両肩にしがみついて、片足ずつ上げるのが床に落ちそうでヒヤヒヤしました。トイレの細めな定期清掃を望みます。観光客の小千谷に対する印象が変わり、良くなると思います。
女性	60歳代	厚生、国民年金では生活できません。物価が上がっても年金は変わらず、これだと死ぬまで働かないと食べていけません。昔無駄に年金を使って今しわ寄せがきてます。議員の人たちは、自分のお金ではないので、無駄遣いをし、国民にはがまんしろと。普通に仕事して60歳から最低賃金になります。正社員とかわりなく同じ仕事なのにいかなものか理解できません。
女性	60歳代	小千谷の在り方は昔ながらの考えが続いていて、どうにもならない。
女性	60歳代	男女問わず賃金を上げること。生活水準を上げること。子育て支援の充実。
女性	60歳代	60歳代位までは男女共に就労する時代になり、男性は社会に出て働き、女性は家庭を守るという固定観念はなくなりつつある。女性がキャリアアップできる研修等を推奨したり、子育てや介護の負担を減らすための策が急務。保育園・介護施設の充実や保育士・介護職員の増員が必要だと思う。
女性	70歳以上	子どもから老人まで笑顔で生活できる小千谷市であるよう願っております。
女性	70歳以上	就業における賃金アップを計り働く喜びが実感できること。社会の活性化、個人のキャリアアップにつながる。
女性	70歳以上	特にありません。
女性	70歳以上	働いて家事して育児してそれが女性あたりまえの社会で生きていました。協力してほしいと思った時もありました。意識を育む学習が必要だと思います。
女性	70歳以上	親の介護で体調を崩したが、母親も死亡した。体調はなかなか良くなるらない。
女性	70歳以上	本題とは関係ないかもしれませんが…男女平等とは言っても体の違いもあり、難しい。一概に言えません。ただ人間一人では生きられません。 今核家族が普通になっていますが、できれば親と同居をして育児をサポートしてもらい安心して外で働ける昔ながらのそういう社会であつたらと思います。子育ては本当に大変です。親が子どもに対していらいらすることが少しでも減るよう、同居を提案します。そのために2世帯住宅の補助金、結婚、出産のお祝金などを考えていただけたらと思います。 今、自由を求める若い人達に、結婚を促すような政策を考えていただきたいと思えます。家族の良さなどもアピールして、とにかく人間平等に年をとります。1人では生きられません。それを若い人達にわかっていただきたいと思えます。
女性	70歳以上	人口減に伴って、これからの時代、高齢者が働きたいという意識に力を入れてほしい。
女性	70歳以上	男女平等と言っても、まだまだ家庭、社会はそうでない。昔と比べるとだいぶ良くなったと思うがそうでない。ある程度は男性をとると思うが、女性も認めていただきたいです。

性別	年齢	意見
女性	70歳以上	若い時に男女共同参画社会の研修を受けたことがあります。家業に専念し、また、高齢で働いてるため、あまり考えることはなかったのですが、アンケートを通し考えるきっかけになりました。
女性	70歳以上	男女がお互い信じ合い尊重し、認め協力し合いながら平等に互いの能力、可能性を気兼ねなく発揮できるような世の中になれたらいいと思います。しかし、現実はなかなかそうはいかず、昔ながらの概念を捨てきれずにいる、今の私共でもあります。 ただ、これから世の中に出て活躍してもらわなければならない今の子ども達には押しつけではなく、自然に心にスーツと入っていくことができ、行動できるそんな教えをして行かなければならないと考えます。 それには影響を一番受けやすい親、家族の心の持ちようが大事で、男女問わずお互いを思いやりを持った気持ちで問いかけながら長い目で子どもと共に考えていかなければならないと思います。 いずれ、その子ども達から芽吹いたものが必ずより良い社会を創ってくれるのではないかと思います。
回答しない	60歳代	私の年代は昭和の頃の考えの男性が多く家事をはなから出来ない、やるものでないと思ってる。子ども達の家庭は良く家事を分担して喜ばしいです。

・ 自由意見のまとめ

- 自由意見全体を見ると、男女共同参画に対する関心は幅広い世代に共有されている一方で、その捉え方や課題意識には、性別や世代による違いが見られました。
- 意識や価値観に関しては、男女平等の重要性を認めつつも、「行き過ぎた施策への懸念」や「男女の違いを踏まえた配慮も必要ではないか」といった意見が見られました。一方で、固定的な性別役割分担意識が依然として残っていることへの問題提起も多く、男女共同参画の実現には、制度整備に加え、意識の変革が不可欠であることがうかがえます。
- 就労やキャリア形成については、特に女性から、出産や育児を機に働き続けることの難しさや、中小企業における制度の未整備、管理職登用の壁などが指摘されました。男性からは、能力や適性を重視した評価を求める声や、性別による過度な区分への違和感も見られました。性別にかかわらず、誰もが安心して能力を発揮できる職場環境の整備が求められています。
- 家庭生活や子育てに関しては、家事・育児負担が女性に偏りやすい現状や、ひとり親家庭への支援の不十分さを訴える意見が多く寄せられました。また、男性の育児・家事参加については、意欲はあっても職場や社会の理解が十分でないとの指摘もあり、家庭内の役割分担を個々の選択として尊重する環境づくりの必要性が示されています。
- 制度や支援のあり方については、制度そのものが十分に知られていないことや、実際には利用しづらいと感じている声が見られました。DVや養育費、ひとり親支援など、制度の隙間に課題を感じる意見もあり、ライフステージに応じた切れ目のない支援が求められています。
- また、教育や情報発信に関しては、若い世代への教育の重要性や、高齢世代に対しても無理のない形で理解を深める取組が必要であるとの意見がありました。男女共同参画の取組について、市の施策や成果を分かりやすく伝えることの重要性も指摘されています。
- これらの意見から、男女共同参画は一部の人のための施策ではなく、すべての人が自分らしい生き方や働き方を選択できる社会を実現するための取組であることが改めて示されています。今後は、制度整備と意識啓発の両面から、世代や立場の違いに配慮しつつ、誰もが理解し参加しやすい男女共同参画の推進が求められます。

第4章 事業者アンケート調査結果

1. 事業所について

問1 貴事業所の主な事業内容は何ですか。 ※総務省「日本標準産業分類」

- 「製造業」が43.5%で最も高く、次いで「建設業」が21.0%、「卸売業、小売業」が11.3%となっています。

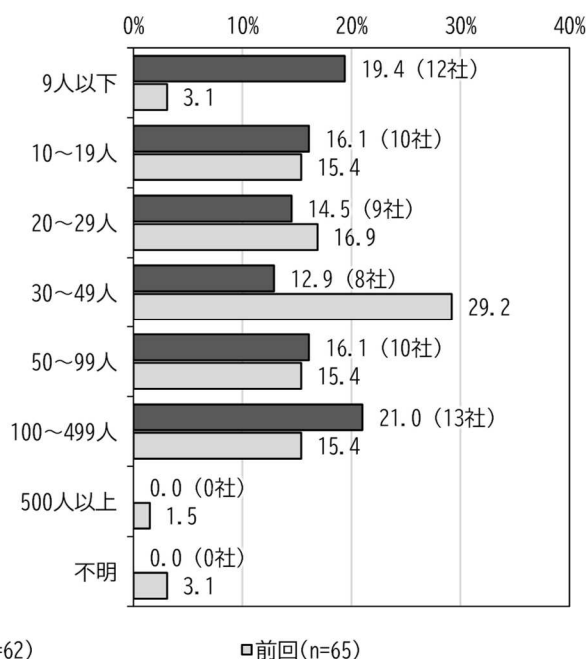


問2 貴事業所の従業員数、管理職は何人ですか。

この調査票が届いた所在地の事業所のみの方の状況をご記入ください。

- 「100～499人」が21.0%で最も高く、次いで「9人以下」が19.4%、「10～19人」「50～99人」が16.1%となっています。
- 雇用形態別の傾向をみると、女性で「正規従業員」が増加しています。

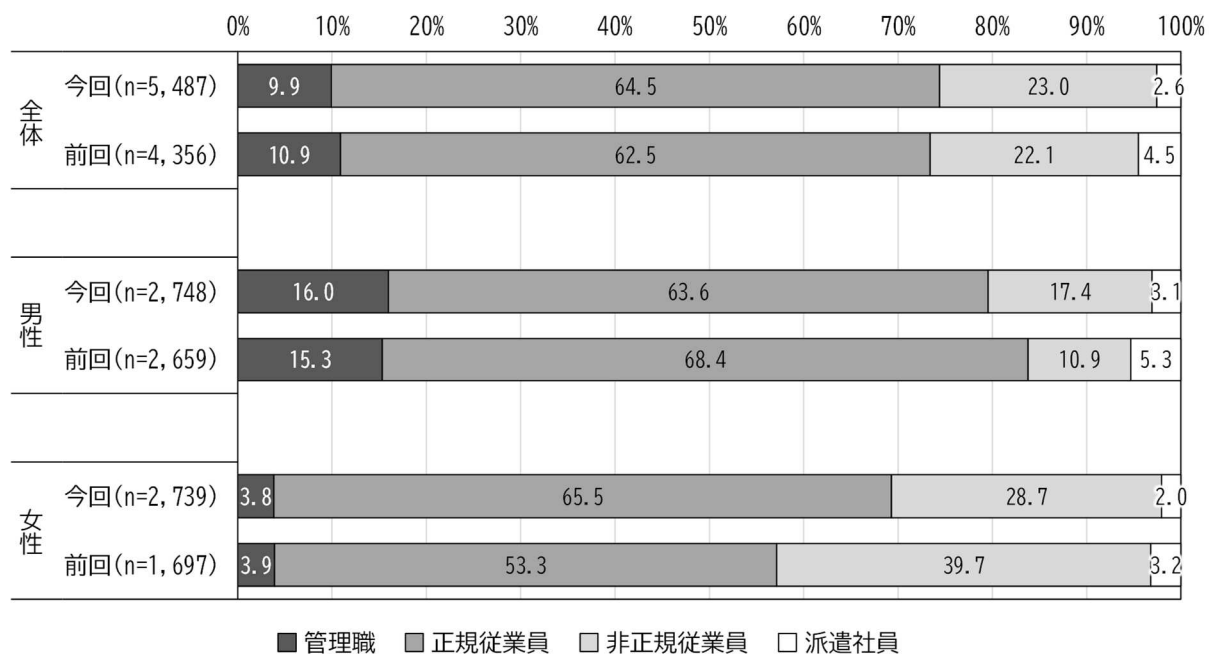
< 総従業員数 >



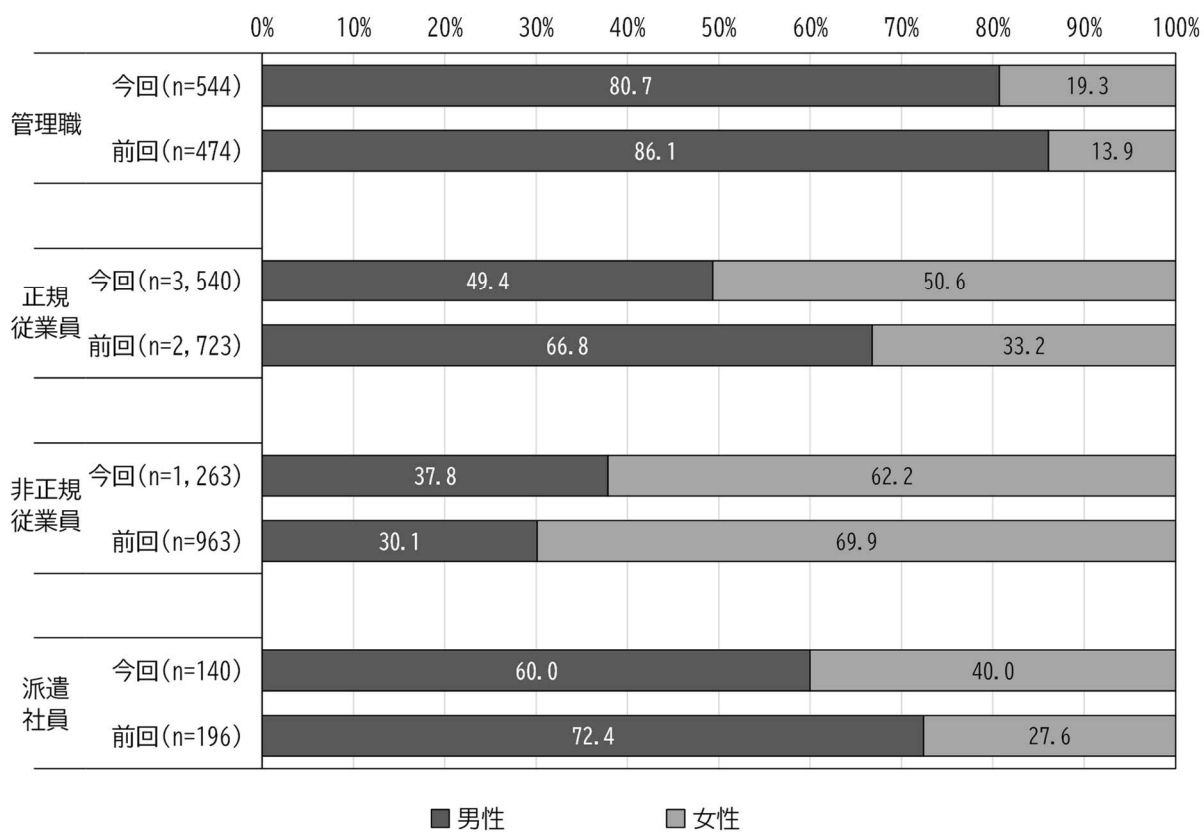
回答事業所数	総数		男性従業員数		女性従業員数		管理職		正規従業員		非正規従業員 (臨時、嘱託、パート等)		派遣(契約)社員	
	割合	社数	割合	社数	割合	社数	割合	社数	割合	社数	割合	社数	割合	社数
9人以下	19.4%	(12社)	19.4%	(12社)	61.3%	(38社)	64.5%	(40社)	19.4%	(12社)	38.7%	(24社)	6.5%	(4社)
10～19人	16.1%	(10社)	22.6%	(14社)	22.6%	(14社)	21.0%	(13社)	11.3%	(7社)	16.1%	(10社)	1.6%	(1社)
20～29人	14.5%	(9社)	16.1%	(10社)	3.2%	(2社)	3.2%	(2社)	9.7%	(6社)	4.8%	(3社)	1.6%	(1社)
30～49人	12.9%	(8社)	17.7%	(11社)	1.6%	(1社)	4.8%	(3社)	11.3%	(7社)	4.8%	(3社)	0.0%	(0社)
50～99人	16.1%	(10社)	12.9%	(8社)	8.1%	(5社)	1.6%	(1社)	8.1%	(5社)	6.5%	(4社)	1.6%	(1社)
100～499人	21.0%	(13社)	11.3%	(7社)	3.2%	(2社)	0.0%	(0社)	3.2%	(2社)	4.8%	(3社)	0.0%	(0社)
500人以上	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)
無回答	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	4.8%	(3社)	37.1%	(23社)	24.2%	(15社)	88.7%	(55社)

回答事業所数	総数		管理職		正規従業員		非正規従業員 (臨時、嘱託、パート等)		派遣(契約)社員									
	割合	社数	男性従業員数	女性従業員数	男性従業員数	女性従業員数	男性従業員数	女性従業員数	男性従業員数	女性従業員数								
9人以下	(2社)	(0社)	75.8%	(47社)	59.7%	(37社)	29.0%	(18社)	33.9%	(21社)	41.9%	(26社)	37.1%	(23社)	9.7%	(6社)	4.8%	(3社)
10～19人	(10社)	(0.2社)	12.9%	(8社)	1.6%	(1社)	27.4%	(17社)	27.4%	(17社)	8.1%	(5社)	16.1%	(10社)	0.0%	(0社)	3.2%	(2社)
20～29人	(11社)	(0.2社)	3.2%	(2社)	1.6%	(1社)	9.7%	(6社)	9.7%	(6社)	1.6%	(1社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	1.6%	(1社)
30～49人	(19社)	(0.3社)	1.6%	(1社)	0.0%	(0社)	16.1%	(10社)	12.9%	(8社)	6.5%	(4社)	3.2%	(2社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)
50～99人	(10社)	(0.2社)	1.6%	(1社)	0.0%	(0社)	11.3%	(7社)	9.7%	(6社)	3.2%	(2社)	8.1%	(5社)	1.6%	(1社)	0.0%	(0社)
100～499人	(10社)	(0.2社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	4.8%	(3社)	4.8%	(3社)	0.0%	(0社)	1.6%	(1社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)
500人以上	(1社)	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)	0.0%	(0社)
無回答	(2社)	(0社)	4.8%	(3社)	37.1%	(23社)	1.6%	(1社)	1.6%	(1社)	38.7%	(24社)	33.9%	(21社)	88.7%	(55社)	90.3%	(56社)

<雇用形態別の傾向>



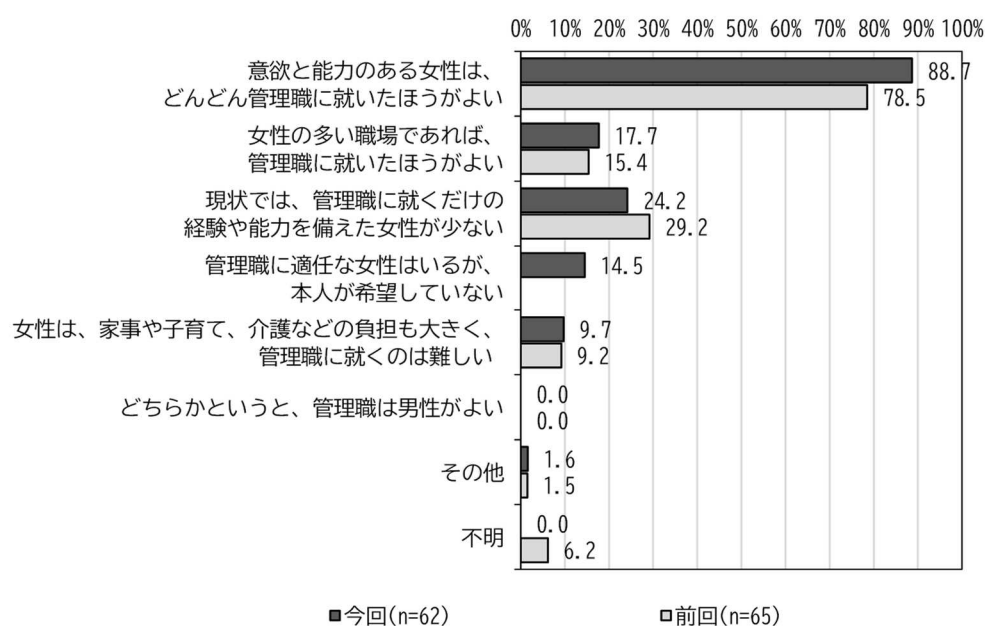
<雇用形態別にみた従業員の男女別比>



2. 女性の活躍推進に向けた取組について

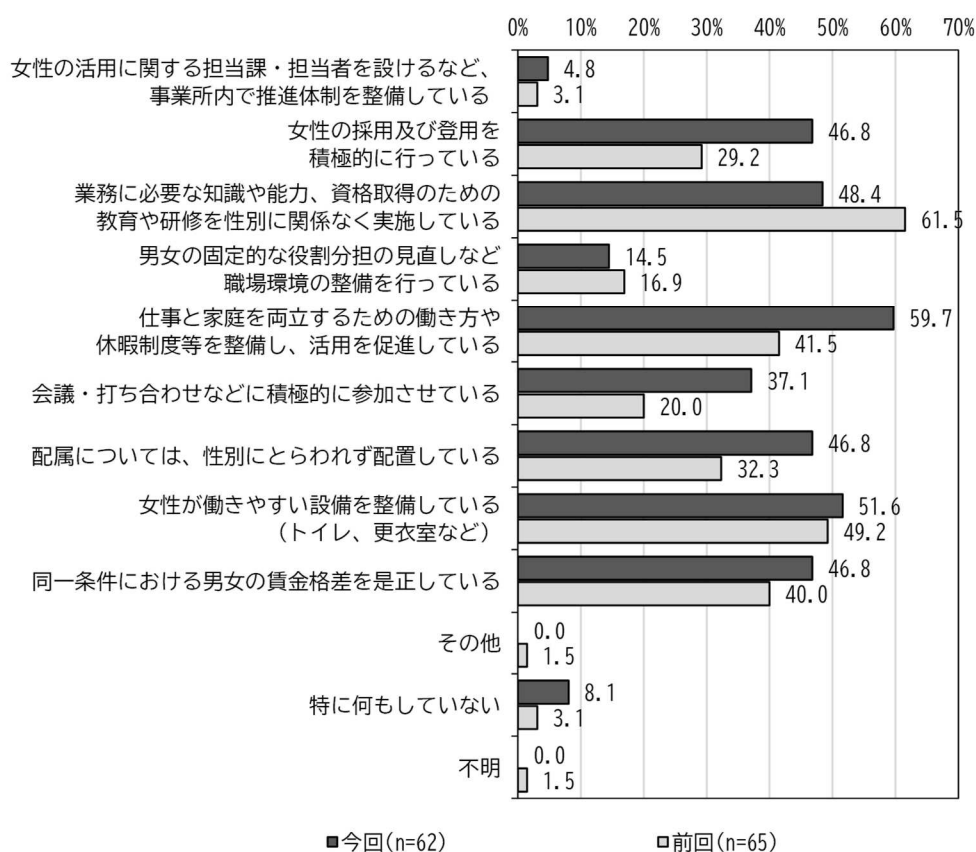
問3 貴事業所では、女性が管理職に就くことについてどう考えていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 「意欲と能力のある女性は、どんどん管理職に就いたほうがよい」が88.7%で最も高く、次いで「現状では、管理職に就くだけの経験や能力を備えた女性が少ない」が24.2%、「女性の多い職場であれば、管理職に就いたほうがよい」が17.7%となっています。
- 前回調査と比較すると、「意欲と能力のある女性は、どんどん管理職に就いたほうがよい」で増加しています。



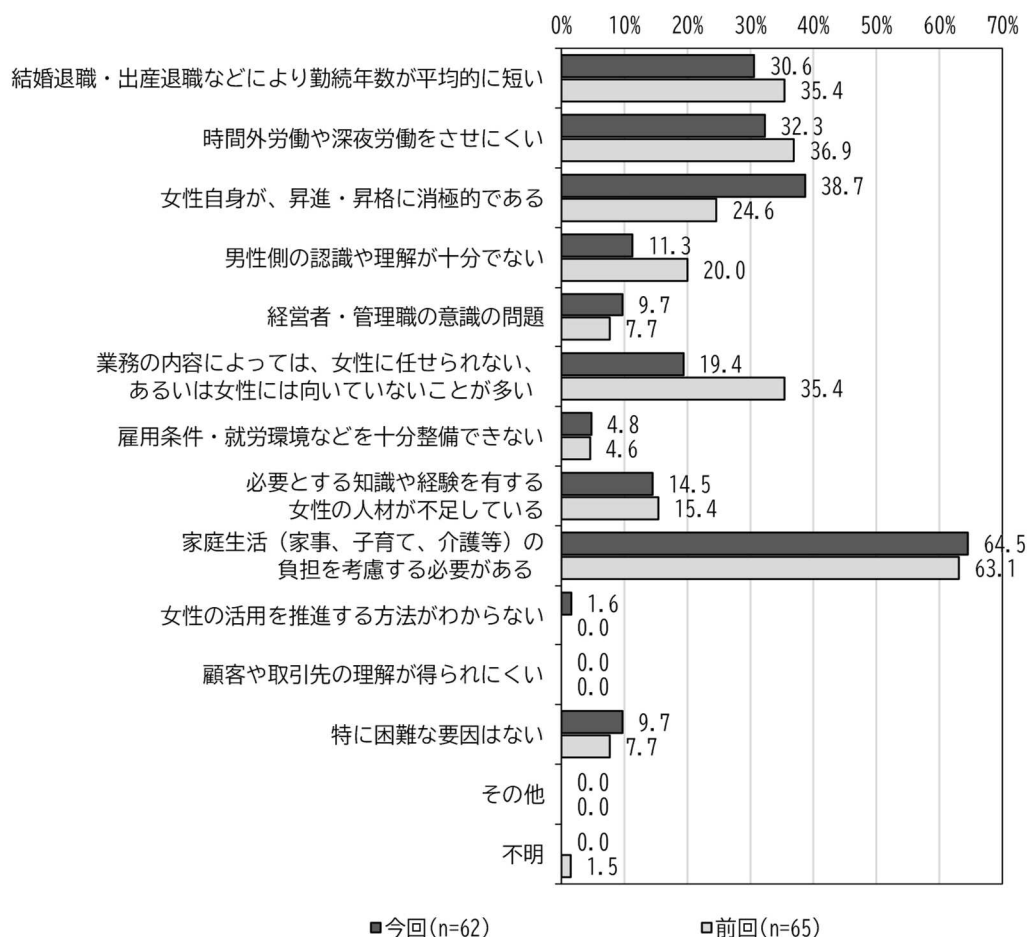
問4 女性従業員の活躍を推進するために、貴事業所ではどのような取組を行っていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 「仕事と家庭を両立するための働き方や休暇制度等を整備し、活用を促進している」が59.7%で最も高く、次いで「女性が働きやすい設備を整備している(トイレ、更衣室など)」が51.6%、「業務に必要な知識や能力、資格取得のための教育や研修を性別に関係なく実施している」が48.4%となっています。
- 前回調査と比較すると、「仕事と家庭を両立するための働き方や休暇制度等を整備し、活用を促進している」「女性の採用及び登用を積極的に行っている」「会議・打ち合わせなどに積極的に参加させている」「配属については、性別にとらわれず配置している」では14～18ポイント増加しています。



問5 貴事業所に限らず、一般的に職場における女性の活用を困難にしている要因は、どのようなところにあると思いますか。次の中から3つまでお選びください。

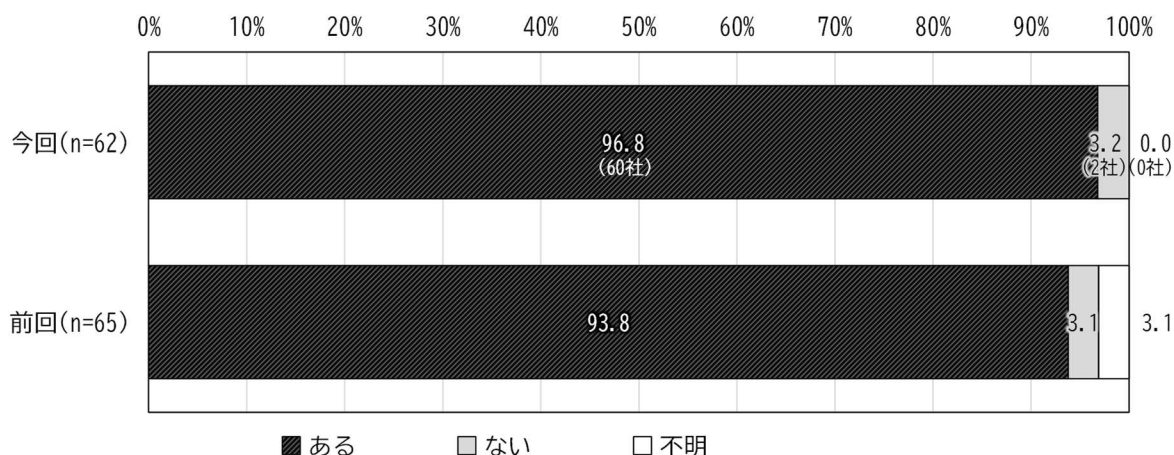
- 「家庭生活(家事、子育て、介護等)の負担を考慮する必要がある」が64.5%で最も高く、次いで「女性自身が、昇進・昇格に消極的である」が38.7%、「時間外労働や深夜労働をさせにくい」が32.3%となっています。
- 前回調査と比較すると、「女性自身が、昇進・昇格に消極的である」で14.1ポイント増加し、「業務の内容によっては、女性に任せられない、あるいは女性には向いていないことが多い」で16.0ポイント、「男性側の認識や理解が十分でない」で8.7ポイント減少しています。



3. 仕事と家庭の両立への支援について

問6 貴事業所の就業規則等に育児休業に関する規定はありますか。

- 「ある」が96.8%、次いで「ない」が3.2%となっています。



問7 [問6で「1. ある」とお答えになった事業所におたずねします。]

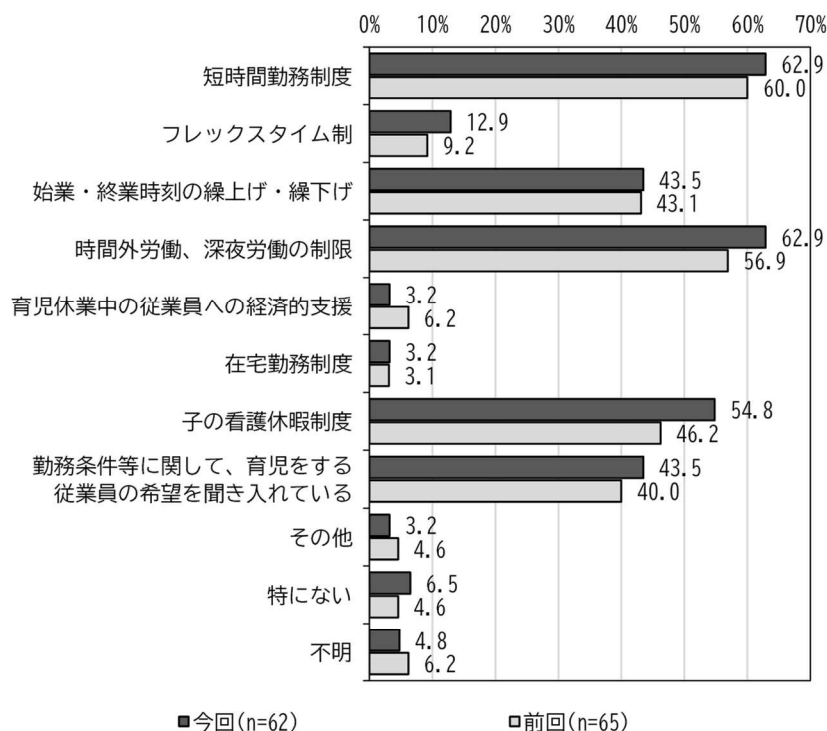
貴事業所で、令和5年4月1日～令和7年3月31日の2年間に出産した従業員、また育児休業を開始した従業員、出産のために退職した従業員、復職状況について、下表の区分により人数をご記入ください。該当者がいない場合は「0」を記入してください。

- 出産した従業員は、女性では「1人」が21.7%で最も高く、次いで「2人」が8.3%となっています。男性(配偶者)では、「1人」が21.7%で最も高く、次いで「2人」が16.7%となっています。
- 育児休業を取得した従業員は、女性では22.5%で前回の32.8%を下回っています。男性では、20.8%で前回の8.2%を上回っています。

		女性					男性(配偶者)				
		0人 (不明含む)	1人	2人	3・4人	5人以上	0人 (不明含む)	1人	2人	3・4人	5人以上
出産した従業員	今回	60.0	21.7	8.3	5.0	5.0	51.6	21.7	16.7	1.7	8.3
	前回	72.1	21.3	3.3	1.6	1.6	65.6	23.0	6.6	0.0	4.9
育児休業を取得した従業員	今回	77.5	15.0	3.3	2.5	1.7	79.2	10.8	5.0	4.2	0.8
	前回	67.2	23.0	4.9	3.3	1.6	91.8	4.9	3.3	0.0	0.0
	正規	68.4	18.3	5.0	5.0	3.3	60.0	20.0	10.0	8.3	1.7
	非正規	86.7	11.7	1.7	0.0	0.0	98.3	1.7	0.0	0.0	0.0
出産した従業員 (出産のために退職した)	今回	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	前回	98.4	1.6	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	正規	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	非正規	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
出産した従業員 (育児休業を終了し復職した)	今回	83.3	10.0	2.5	2.5	1.7	81.7	9.2	4.2	4.2	0.8
	前回	70.5	19.7	3.3	3.3	3.3	93.4	3.3	3.3	0.0	0.0
	正規	73.4	13.3	5.0	5.0	3.3	65.0	16.7	8.3	8.3	1.7
	非正規	93.4	6.7	0.0	0.0	0.0	98.4	1.6	0.0	0.0	0.0

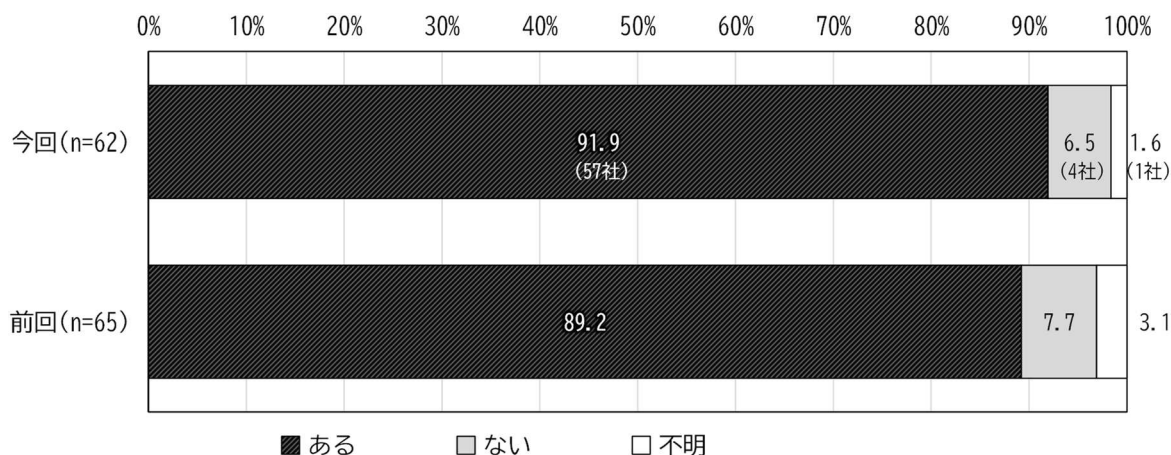
**問8 貴事業所では、育児を行う従業員のためにどのような支援を行っていますか。
あてはまるものをいくつでもお選びください。**

- 「短時間勤務制度」「時間外労働、深夜労働の制限」が62.9%で最も高く、次いで「子の看護休暇制度」が54.8%、「始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ」「勤務条件等に関して、育児をする従業員の希望を聞き入れている」が43.5%となっています。
- 前回調査と比較すると、「子の看護休暇制度」で8.6ポイント、「時間外労働、深夜労働の制限」で6.0ポイント増加しています。



問9 貴事業所の就業規則等に介護休業に関する規定はありますか。

- 「ある」が91.9%、次いで「ない」が6.5%となっています。
- 前回調査と比較すると、「ある」で増加しています。



問10 [問9で「1. ある」とお答えになった事業所におたずねします。]

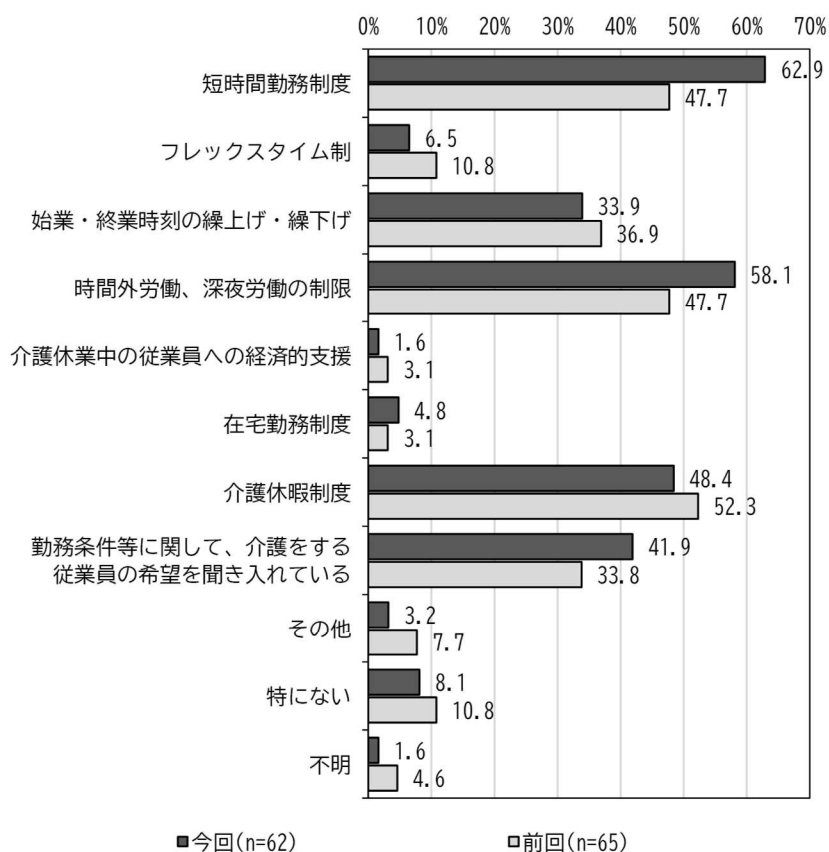
貴事業所で、令和5年4月1日～令和7年3月31日の2年間に介護休業を取得した従業員の人数をご記入ください。該当者がいない場合は「0」を記入してください。

- 女性では8.8%、男性では5.3%介護休業の取得があり、いずれも正社員での取得となっています。

	女性				男性			
	0人 (不明含む)	1人	2人	3人以上	0人 (不明含む)	1人	2人	3人以上
今回	91.2	8.8	0.0	0.0	94.7	3.5	1.8	0.0
前回	93.1	6.9			96.6	3.4		
正規	91.2	8.8	0.0	0.0	100.0	3.5	1.8	0.0
非正規	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

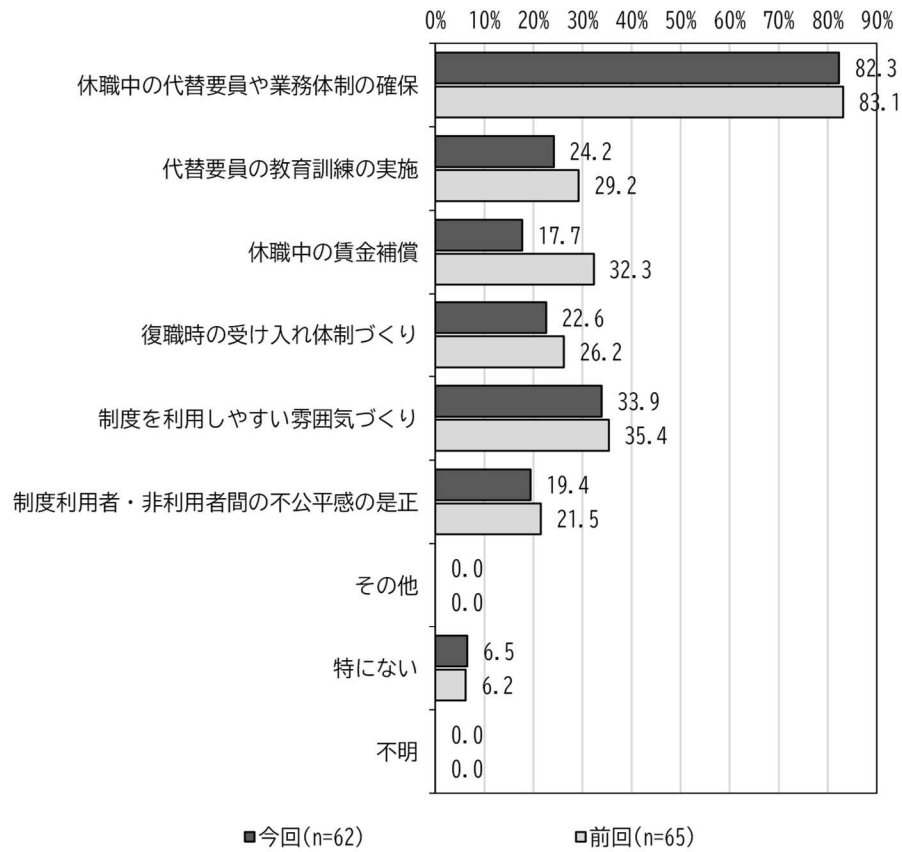
**問11 貴事業所では、介護を行う従業員のためにどのような支援を行っていますか。
あてはまるものをいくつでもお選びください。**

- 「短時間勤務制度」が62.9%で最も高く、次いで「時間外労働、深夜労働の制限」が58.1%、「介護休暇制度」が48.4%となっています。
- 前回調査と比較すると、「短時間勤務制度」で15.2ポイント、「時間外労働、深夜労働の制限」で10.4ポイント、「勤務条件等に関して、介護をする従業員の希望を聞き入れている」で8.1ポイント増加しています。



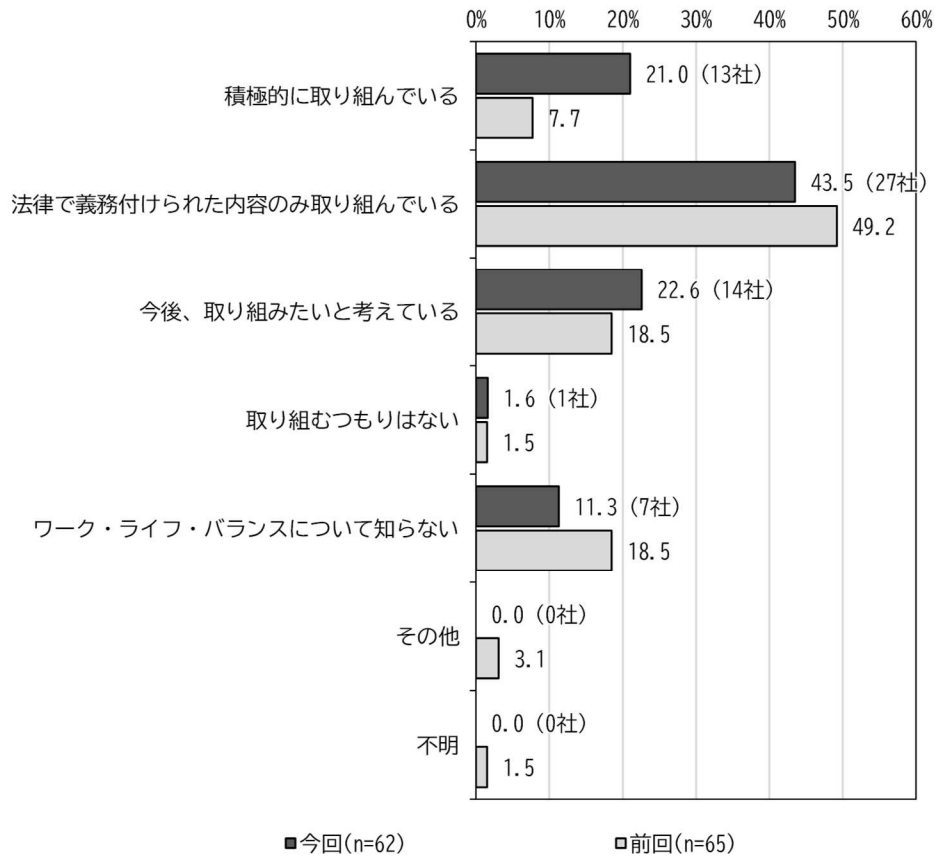
問12 育児休業制度や介護休業制度の活用を進めていくうえで、貴事業所の課題となることはどのようなことですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 「休職中の代替要員や業務体制の確保」が82.3%で最も高く、次いで「制度を利用しやすい雰囲気づくり」が33.9%、「代替要員の教育訓練の実施」が24.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、「休職中の賃金補償」で14.6ポイント減少しています。



問13 貴事業所ではワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組を行っていますか。

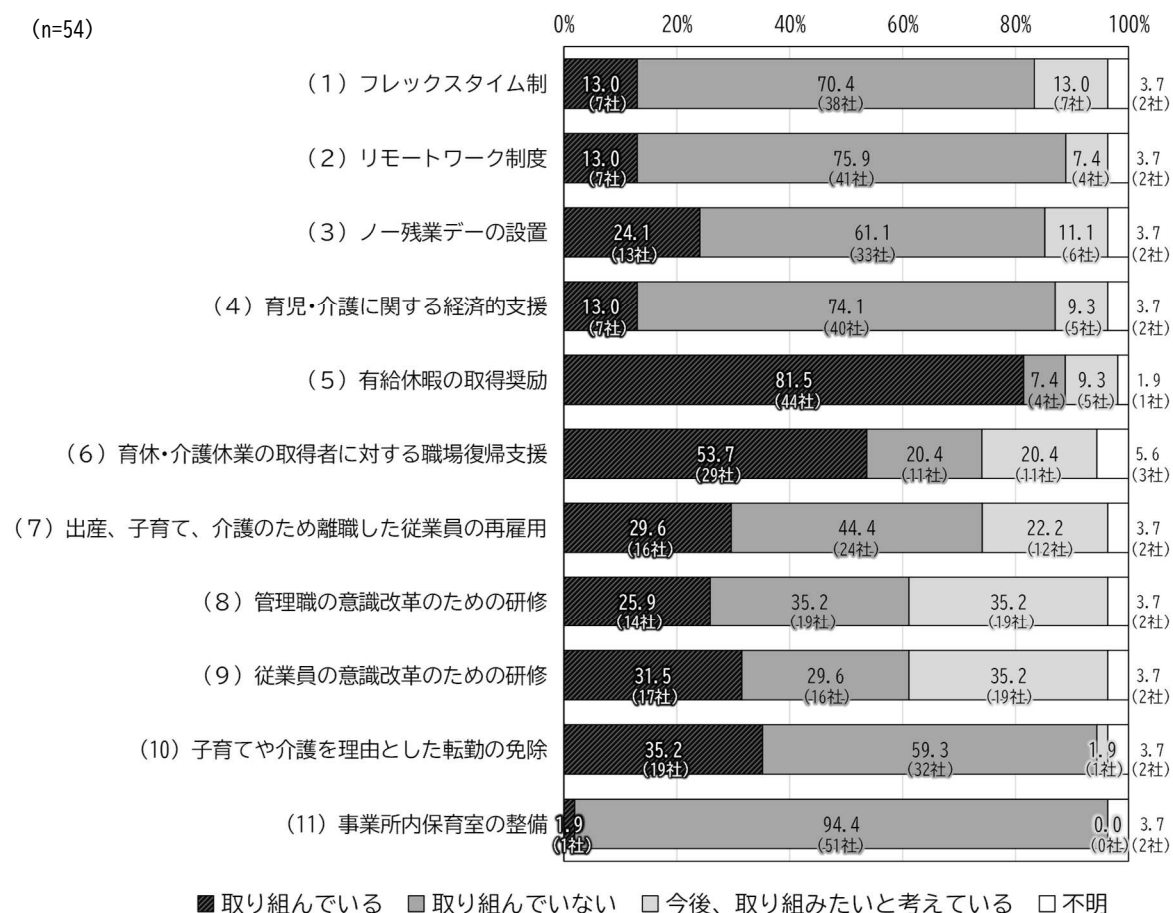
- 「法律で義務付けられた内容のみ取り組んでいる」が43.5%で最も高く、次いで「今後、取り組みたいと考えている」が22.6%、「積極的に取り組んでいる」が21.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、「積極的に取り組んでいる」で13.3ポイント、「今後、取り組みたいと考えている」で4.1ポイント増加しています。



問14 [問13で「1.積極的に取り組んでいる」「2.法律で義務付けられた内容のみ取り組んでいる」「3.今後、取り組みたいと考えている」とお答えになった事業所におたずねします]

次のワーク・ライフ・バランスの具体的な取り組み内容について、それぞれにあてはまるものを1つずつお選びください。

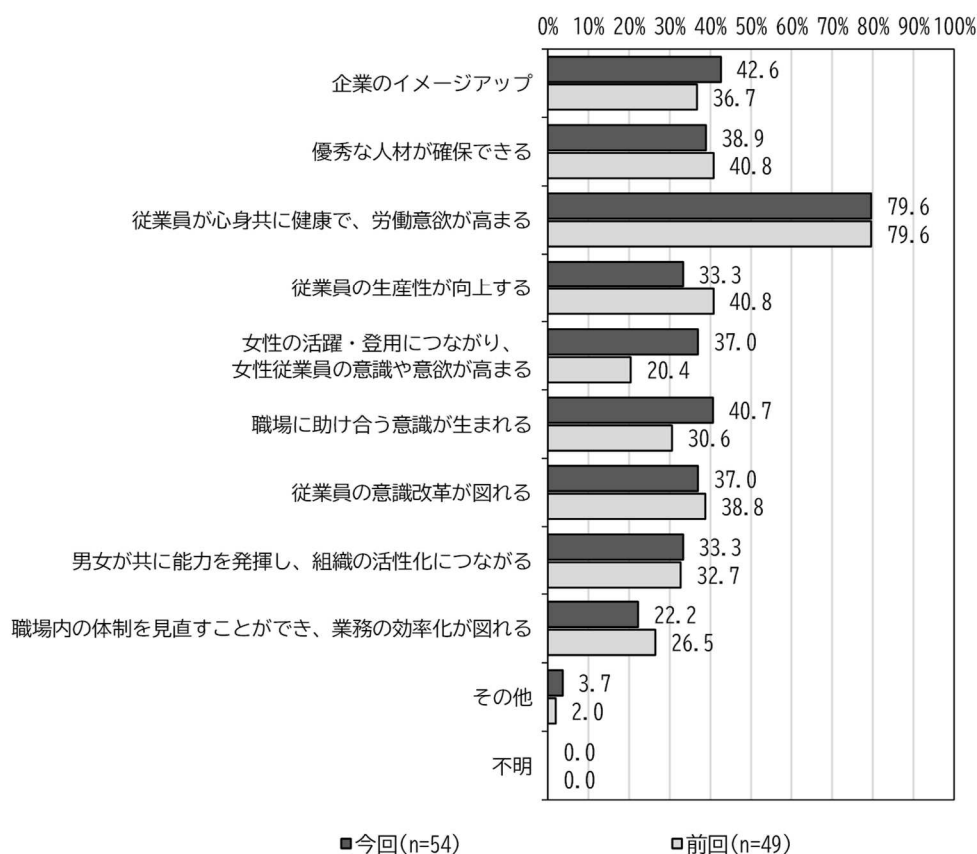
- 項目ごとに比較すると、<(5)有給休暇の取得奨励>で「取り組んでいる」が81.5%で最も高く、次いで、<(6)育休・介護休業の取得者に対する職場復帰支援>が53.7%となっています。



問15 [問13で「1.積極的に取り組んでいる」「2.法律で定められた範囲で取り組んでいる」「3.今後、取り組みたいと考えている」とお答えになった事業所におたずねします]

ワーク・ライフ・バランスを推進することで、どのようなメリットがあると考えますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

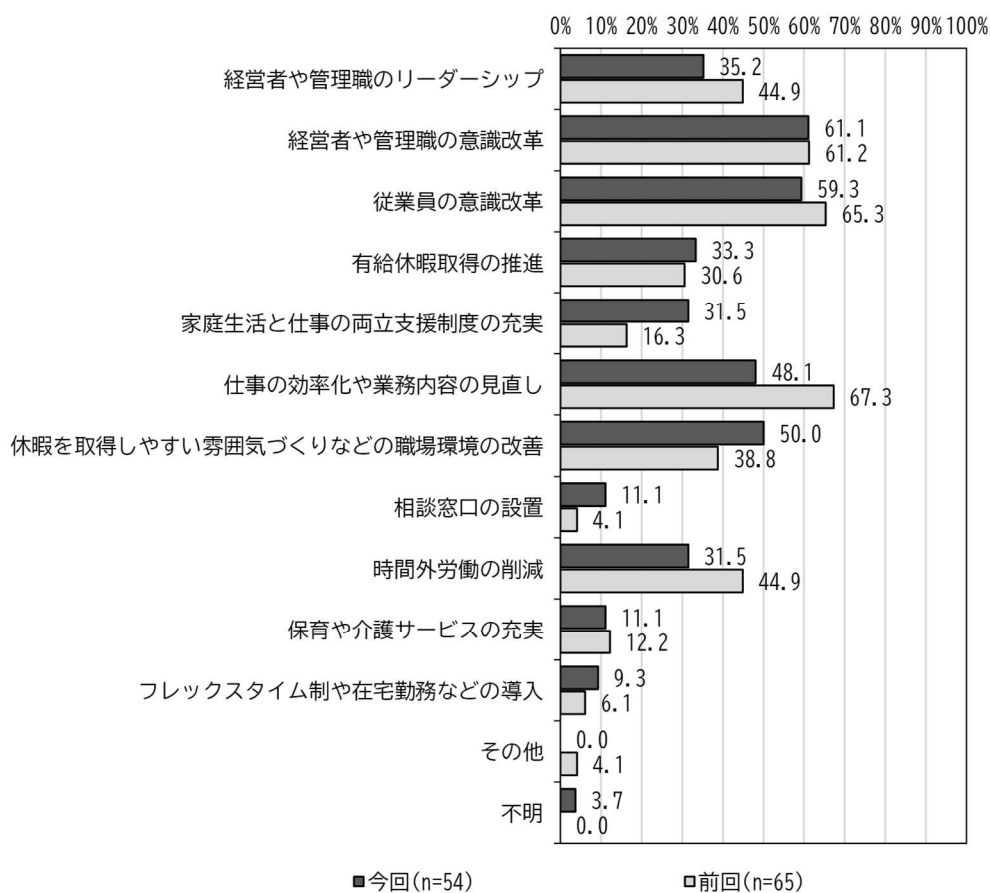
- 「従業員が心身共に健康で、労働意欲が高まる」が79.6%で最も高く、次いで「企業のイメージアップ」が42.6%、「職場に助け合う意識が生まれる」が40.7%となっています。
- 前回調査と比較すると、「女性の活躍・登用につながり、女性従業員の意識や意欲が高まる」で16.6ポイント、「職場に助け合う意識が生まれる」で10.1ポイント増加しています。



問16 [問13で「1.積極的に取り組んでいる」「2.法律で定められた範囲で取り組んでいる」「3.今後、取り組みたいと考えている」とお答えになった事業所におたずねします]

ワーク・ライフ・バランスを推進するために必要なことは何だと思えますか。
あてはまるものをいくつでもお選びください。

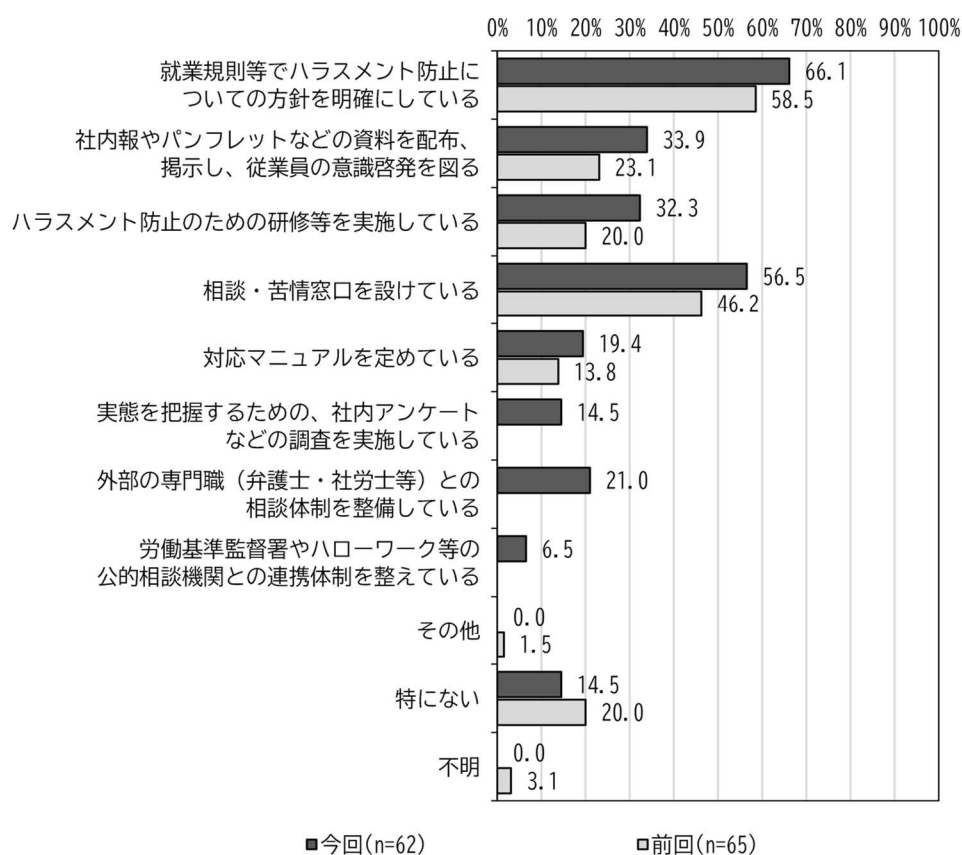
- 「経営者や管理職の意識改革」が61.1%で最も高く、次いで「従業員の意識改革」が59.3%、「休暇を取得しやすい雰囲気づくりなどの職場環境の改善」が50.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、「家庭生活と仕事の両立支援制度の充実」で15.2ポイント、「休暇を取得しやすい雰囲気づくりなどの職場環境の改善」で11.2ポイント増加しています。



4. 職場におけるハラスメントについて

問17 貴事業所では、職場におけるハラスメント（セクハラ・パワハラ等）の問題についてどのような取組を行っていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

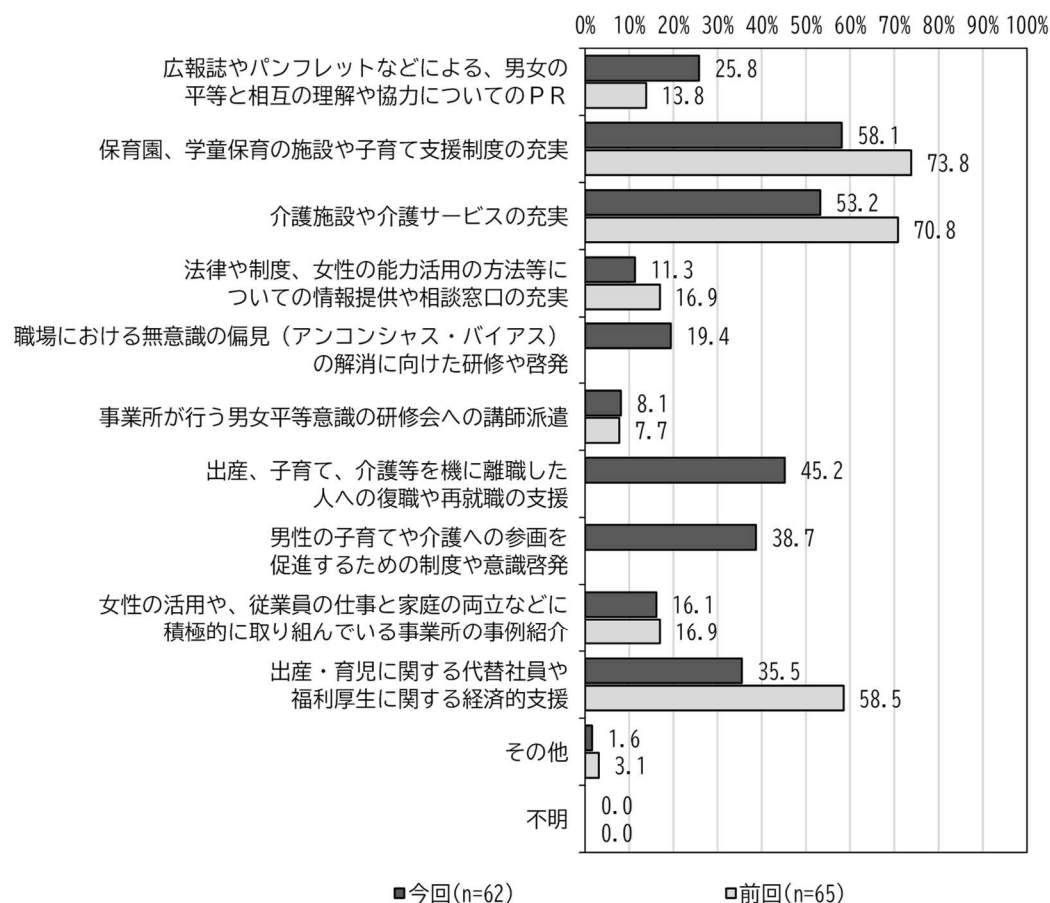
- 「就業規則等でハラスメント防止についての方針を明確にしている」が66.1%で最も高く、次いで「相談・苦情窓口を設けている」が56.5%、「社内報やパンフレットなどの資料を配布、掲示し、従業員の意識啓発を図る」が33.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、「ハラスメント防止のための研修等を実施している」で12.3ポイント、「社内報やパンフレットなどの資料を配布、掲示し、従業員の意識啓発を図る」で10.8ポイント、「相談・苦情窓口を設けている」で10.3ポイント増加しています。



5. 男女共同参画社会の推進に関することについて

問18 男女が共に活躍できる職場づくりを行ううえで、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 「保育園、学童保育の施設や子育て支援制度の充実」が58.1%で最も高く、次いで「介護施設や介護サービスの充実」が53.2%、「出産、子育て、介護等を機に離職した人への復職や再就職の支援」が45.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、「広報誌やパンフレットなどによる、男女の平等と相互の理解や協力についてのPR」で12.0ポイント増加しています。



6. 自由記述

意見
リベラルな方向へ進むのはやめた方が良い。もっと別の事に力を入れましょう。
会社単体だけの問題というよりも社会全体の問題(要素)が大きいです。特に都会と地方での格差は大きいのではないかと。(大手と中小)
調査内容が女性の活用・活躍が困難であるとの前提で作成されているように感じます。性別問わず個人の働く意欲の有無や働き方に対する意識改革が重要ではないかと思われます。
まずは、労働人口が減ることを考えれば、企業としてどのように対応するかが問われます。
市で男女共同参画を推進しているとのことですが、あまり認知度は高くないような… 女性が住みたい、働きたいところに男性はついてくる時代ですので、今後も「現状に則した」施策の推進を期待いたします。 一番難しいけれど必須なのが、一人ひとりの意識改革だと思います。 頑張ってください。

資料編 アンケート調査票

1. 市民アンケート調査票

認証ID：●●●●●●

男女共同参画に関する市民意識調査 ご協力をお願い

日ごろ、市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

小千谷市では、男女が互いにその人権を尊重し、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を目指しています。

令和3年度に策定した「第5次おぢや男女共同参画プラン」が令和8年度で終了することから、令和8年度中に次期プランを策定する予定です。そこで、現行プランの目標達成度の確認と次期プラン策定の参考とするため、市民意識調査を実施いたします。

この調査をお願いする方は、満18歳以上の市民の中から、1,000人の方を無作為に抽出させていただきました。皆さまのご意見は、今後の取組の検討や、誰もが笑顔で安心して暮らせるまちづくりに欠かせない大切なものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年10月

小千谷市長 宮崎悦男

—ご回答にあたってのお願い—

- ご回答いただいた内容は、本調査以外の目的に使用することは一切ありません。また、認証IDによって個人が特定されることはありません。
- 回答は、お送りしたあて名の方ご本人がお答えください。
- 1つだけ選ぶ設問と複数選ぶ設問があります。また、設問によっては一部の方だけが対象となる設問もあります。案内にそってお答えください。
- 質問は全部で22問です。（回答に要する時間：10分～15分程度）

回答期限：11月14日（金）まで（当日消印有効）

【次のいずれかの方法によりご回答をお願いします】

①この調査票に直接記入して回答する場合

- ・ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
- ・設問に対する答えは、用意されている選択肢の番号を○で囲んでください。
- ・ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手はいりません）に入れご投函ください。

②パソコン・スマートフォンから回答する場合

- ・複数回答を防ぐため、右上にある6桁の認証IDを入力してください。
- ・Web回答をしていただいた場合は、調査票の返送は必要ありません。



←アクセスはこちら

専用WebサイトURL：<https://logoform.jp/form/zdEy/1202727>

調査についてご不明な点やご質問がありましたら、下記へお問い合わせください。

【お問い合わせ先】 小千谷市役所 市民生活課 市民係

〒947-8501 小千谷市城内2丁目7番5号

電話：0258 (83) 3509 E-mail：shimin@city.ojiya.niigata.jp

※回答日時点の状況をお答えください。

◆ **あなたご自身についておたずねします。**

(1) あなたの性別をお知らせください。(〇は1つだけ)

1. 男性 2. 女性 3. 選択しない

(2) あなたの年齢はおいくつですか。(〇は1つだけ)

1. 18～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳
4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳
7. 70歳以上

(3) あなたのご職業は何ですか。(〇は1つだけ)

1. 正社員、正職員(会社員・公務員・教員・団体職員など)
2. 派遣社員、契約社員、臨時職員、パート、アルバイト、内職
3. 法人の経営者・役員
4. 自営業・家族従業者(農林漁業)
5. 自営業・家族従業者(商業・工業・サービス業など)
6. その他の自営業(フリーランスを含む)
7. 家事専従者(いわゆる主婦、主夫)
8. 学生
9. 無職
10. その他(_____)

※フリーランス：会社や自治体といった組織に属さず、発注元から個人で仕事を請け負う働き方のこと

(4) あなたのお住まいの地域はどちらですか。(〇は1つだけ)

1. 西小千谷地区 2. 東小千谷地区 3. 山辺地区 4. 吉谷地区
5. 城川地区 6. 千田地区 7. 川井地区 8. 東山地区
9. 岩沢地区 10. 真人地区 11. 高梨、五辺地区 12. 片貝地区

(5) あなたは現在結婚されていますか。(〇は1つだけ)

1. 結婚している(同棲、事実婚を含む) ⇒ (6) へ
2. 結婚していたが、離別・死別した ⇒ (7) へ
3. 結婚していない ⇒ (7) へ

(6) [(5)で「1. 結婚している(同棲、事実婚を含む)」とお答えになった方におたずねします。]

あなたと配偶者(またはパートナー)の就労状況は次のどれにあてはまりますか。(〇は1つだけ)

1. 2人共就労している(パートタイムを含む)
2. 自分のみが働いている
3. 配偶者(またはパートナー)のみが働いている
4. 2人共就労していない(退職した場合を含む)

(7) あなたにはお子さんはいますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 子どもはいない
2. 乳児(1歳未満)
3. 幼児(1歳以上～小学校就学前)
4. 小学生
5. 中学生
6. 高校、大学、大学院生(高専、短大、専門学校生を含む)
7. 上記項目以外(学校は卒業した、既に働いている、結婚した等)

(8) あなたの現在の世帯構成(同居している方のみ)は、次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

1. 単身世帯
2. 夫婦またはパートナーと2人の世帯
3. 親と子の世帯(2世代)
4. 親と子と孫の世帯(3世代)
5. その他(_____)

◆ 男女共同参画に関する意識などについておたずねします。

◎ 男女の地位の平等について

問1 あなたは、(1)～(7)のような場面における男女の地位の平等について、どのように思いますか。それぞれ1つずつお選びください。

(○はそれぞれ1つずつ)	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
(1) 家庭の中で	1	2	3	4	5	6	
(2) 職場の中で	1	2	3	4	5	6	
(3) 社会慣習(しきたり)について	1	2	3	4	5	6	
(4) 法律や制度面で	1	2	3	4	5	6	
(5) 政治・経済活動の場で	1	2	3	4	5	6	
(6) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6	
(7) 地域社会の中で	1	2	3	4	5	6	



◎ 家庭生活・地域活動について

問2 結婚や家庭生活などに関する(1)～(8)の考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれでしょうか。それぞれ1つずつお選びください。

(○はそれぞれ1つずつ)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
(1) 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい	1	2	3	4	5
(2) 男性は男らしく、女性は女らしくした方がよい	1	2	3	4	5
(3) 男性も女性も平等に家事、子育て、介護などをする方がよい	1	2	3	4	5
(4) 子どもが小さいときには母親が子育てに専念する方がよい	1	2	3	4	5
(5) 女性は仕事を持つのはよいが、家事、子育て、介護などをきちんとする方がよい	1	2	3	4	5
(6) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
(7) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
(8) 一般に、今の社会では離婚すると、女性の方が不利である	1	2	3	4	5



問3 家庭生活における役割分担について、以下の家事を主に誰が担当していますか。それぞれ1つずつお選びください。現在行っていない家事（子育てや介護をする状況にない方など）は、行うことになった場合を想定してお答えください。
（単身世帯の方は回答不要です。）

(○はそれぞれ1つずつ)	すべて男性が担当している	主に男性が担当し、女性を手伝う程度	平等に分担している	主に女性が担当し、男性を手伝う程度	すべて女性が担当している
(1) 掃除	1	2	3	4	5
(2) 洗濯	1	2	3	4	5
(3) 食事のしたく	1	2	3	4	5
(4) 食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5
(5) 子育て、子どものしつけや教育	1	2	3	4	5
(6) 家族の介護	1	2	3	4	5
(7) 住居や庭の維持、管理	1	2	3	4	5
(8) 家計の管理	1	2	3	4	5
(9) 町内会などの地域活動	1	2	3	4	5

問4 配偶者（またはパートナー）やあなたの親、家族（同居・別居は問いません）を介護したことはありますか。1つだけお選びください。

1. 介護したことがある（している）
2. 介護したことはないが、将来する可能性がある
3. 介護の可能性はない



問5 あなたは現在、仕事や学業以外に何か活動していることはありますか。次の中から、あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 福祉・ボランティア活動
2. 町内会などの地域活動
3. PTAや子ども会、青少年健全育成に関する活動
4. スポーツや文化、教養などに関する余暇活動
5. 地域イベントやまちづくりに関する活動
6. 防災や地域の安全に関する活動
7. 政治活動や、審議会委員など公的活動
8. その他（ _____ ）
9. 特に何もしていない

問6 あなたは、仕事と家庭生活、地域活動の関係について、どのようなバランスが望ましいと思いますか。次の中からあてはまるものを男性、女性それぞれに1つずつお選びください。

(1) 男性にとって望ましい仕事と家庭生活、地域活動の関係

1. 家庭生活・地域活動よりも仕事に専念する
2. 家庭生活・地域活動にも携わるが、仕事を優先させる
3. 家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる
4. 仕事もするが、家庭生活・地域活動を優先させる
5. 仕事よりも、家庭生活・地域活動に専念する
6. わからない

(2) 女性にとって望ましい仕事と家庭生活、地域活動の関係

1. 家庭生活・地域活動よりも仕事に専念する
2. 家庭生活・地域活動にも携わるが、仕事を優先させる
3. 家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる
4. 仕事もするが、家庭生活・地域活動を優先させる
5. 仕事よりも、家庭生活・地域活動に専念する
6. わからない

問7 あなたは、男性が家事、子育て、介護に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 男性が家事、子育て、介護に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事、子育て、介護に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 年配者や周囲の人が夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護についても、その評価を高めること
6. 男性による家事、子育て、介護などについて、職場における上司や周囲の理解を得ること
7. 労働時間短縮や休暇制度を普及・活用することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること
8. 男性が育児・介護休業を取得しやすくすること
9. 男性の家事、子育て、介護を行うことに対する意欲を向上させること
10. 男性が家事、子育て、介護の知識や技能を身につけること
11. 家事、子育て、介護を行うための、仲間（ネットワーク）づくりをすること
12. 家庭と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口があること
13. その他（_____）
14. 特に必要なことはない
15. 男性は家事、子育て、介護をしなくてよい

◎ 男女の職業生活に対する考え方について

問8 〔現在、就労している方におたずねします。〕

あなたの今の職場で、仕事の内容や待遇面で、性別による格差を感じていることはどのようなことですか。次の中から、いくつでもお選びください。

1. 募集や採用人数
2. 人事異動や配置
3. 昇進・昇格・幹部職員への登用
4. 賃金・昇給・手当
5. 仕事の内容（女性は補助的な仕事しかやらせてもらえない、雑用が多いなど）
6. 就労年数・定年
7. 結婚や出産を理由とする退職の慣行・雰囲気
8. 研修・訓練を受ける機会
9. その他（_____）
10. 格差を感じていない

問9 あなたは、結婚や出産などのライフイベントを経た後の女性の働き方について、どのように思いますか。次の中から特に重要だと感じるものを1つだけお選びください。

1. 出産、子育ての時期にはいったん仕事を離れても、復職や再就職がしやすく、希望すれば働き続けられる社会が望ましい
2. 家事、子育ての負担が女性に偏らない社会づくり
3. 結婚や出産にかかわらず、働き方は個人が自由に選択できるべき
4. わからない
5. その他 (_____)

問10 あなたは、女性が働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。

1. 結婚・出産の際に退職の圧力等がないこと
2. 育児休業制度が整備され、取得しやすいこと
3. 介護休業制度が整備され、利用しやすいこと
4. 結婚、出産、子育て、介護などのために退職した職員の再雇用制度を充実させること
5. 学童保育などの子育て施設を整備すること
6. 介護施設などを整備すること
7. 育児休業・介護休業中の賃金等を充実させること
8. 女性が働くことや昇進することに対する家族や周囲の理解と協力を得ること
9. 女性自身の自覚・意欲を向上させること
10. 昇進・給与等に男女の差別的取扱いがないこと
11. 働く職場が多いこと
12. フレックスタイム制など、柔軟な働き方ができる制度があること
13. 労働時間を短縮させること
14. 男性の意識を変化させること
15. 経営者・管理職の意識を変化させること
16. 男性が家事や子育て、介護をすることに対する家族や周囲の理解と協力を得ること
17. 能力発揮の場が多いこと
18. 男は仕事、女は家庭という性別による固定的な役割分担意識を持つ人が減ること
19. その他 (_____)
20. 特にない
21. 女性は働かなくてよい

問11 あなたは、男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どのように思いますか。1つだけお選びください。

1. 積極的に取得すべきである
2. どちらかといえば取得すべきである
3. どちらかといえば取得すべきでない
4. 取得しないほうがよい
5. わからない

問12 あなたは、育児休業を取得したいと思ったことはありますか。

1. ある ⇒問13へ
2. ない ⇒問15へ

問13 【問12で「1. ある」と答えた方におたずねします】
実際に育児休業を取得しましたか。

1. 取得した ⇒問15へ
2. 取得しなかった ⇒問14へ
3. 取得する機会がまだない ⇒問15へ

問14 【問13で「2. 取得しなかった」と答えた方におたずねします】
育児休業を取得しなかった理由を次の中から3つ選んでください。

1. 仕事が忙しかったから
2. 同僚・上司の理解が得られなかったから
3. 取りづらい雰囲気だったから
4. 昇進等に影響があると思ったから
5. 収入が減るため家計を維持できなくなるから
6. 親や配偶者に育児を頼んだから
7. 保育園などの施設に預けたから
8. 出産を機に仕事を辞めたから
9. 制度がなかったから
10. その他 (_____)

◎ 男女の人権について

問15 配偶者やパートナーなどから受ける暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）といいます。あなたは、配偶者やパートナーなどから次のようなDVを受けたことがありますか。次のうち、それぞれ最も近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)	ある	ない	わからない
(1) 身体的暴力（殴る、蹴る、物を投げつけるなど）	1	2	3
(2) 精神的暴力（脅す、長時間無視する、人格を否定するなど）	1	2	3
(3) 経済的暴力（生活費を渡さない、働くことを妨害するなど）	1	2	3
(4) 性的暴力（性的な行為を強要する、避妊に協力しないなど）	1	2	3
(5) 社会的暴力（人間関係や行動を制限する、付き合いや電話・メールを細かく監視するなど）	1	2	3
(6) 子どもに対する暴力（子どもへの直接の暴力、子どもの目の前で配偶者や家族に対して暴力をふるう、ケンカをするなど）	1	2	3

問16 あなたは、次のような困難な状況を経験したことがありますか。次のうち、それぞれ最も近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)	ある	ない	わからない
(1) 経済的な困窮や生活不安に陥ったことがある	1	2	3
(2) 子育てや介護によって社会的に孤立したことがある	1	2	3
(3) 家族や周囲との関係が希薄で支援を得られなかったことがある	1	2	3
(4) 働きたいと思っていたが、仕事が見つからなかったり、身体的・精神的な理由で働けなかったりした経験がある	1	2	3
(5) いじめや嫌がらせを受けたことがある	1	2	3
(6) 身体的に問題を抱えている（病気、けがなど）	1	2	3
(7) 精神的に問題を抱えている（うつ、依存症、統合失調症など）	1	2	3
(8) 人間関係をうまく築けない	1	2	3

問17 [問15で「配偶者やパートナーなどから、DVを受けたことがある」、問16で「困難な状況を経験したことがある」と答えた方におたずねします]

あなたは、DV行為を受けていることや困難な状況に陥っていることを、どこか（誰か）に相談しましたか。次の中から該当するものすべてをお選びください。

1. 家族や親戚
 2. 友人・知人
 3. 職場・学校
 4. 県の女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）
 5. 市の相談窓口（女性相談、DV相談、生活相談）
 6. 近隣市町村の相談窓口（長岡市配偶者暴力相談支援センター含む）
 7. 民間の相談窓口・支援団体（NPO等）
 8. 警察の相談窓口
 9. 弁護士・家庭裁判所
 10. 医療機関
 11. インターネット・SNS
 12. その他（_____）
 13. 相談しなかった
- ⇒問19へ
- ⇒問18へ

問18 [問17で「12. 相談しなかった」と答えた方におたずねします]

相談しなかったのはなぜですか。次の中からいくつでもお選びください。

1. 相談するほどのことでもないと思ったから
2. 自分にも悪いところがあると思ったから
3. 自分さえ我慢すればこのままやっていけると思ったから
4. 相談しても解決しないと思ったから
5. 恥ずかしかったから、世間体が悪いと思ったから
6. 誰に（どこに）相談していいかわからなかったから
7. 相談したら、仕返しや嫌がらせを受けると思ったから
8. 安心して相談できるところがなかったから
9. その他（_____）



問19 あなた自身や身近な人が生活上の困難を抱えたときに、どんな支援を望みますか。次の中からいくつでもお選びください。

1. 声かけや見守りなど地域住民による孤独にならないための支援
2. 話を聞いてもらえる相談窓口の充実
3. 一時的に避難・滞在できる居場所の提供（例：DVシェルターなど）
4. 食料や衣類など生活物資の支援
5. 生活費など経済的な支援（給付・貸付など）
6. 住まいの支援（住居の確保、入居支援など）
7. 働くための支援（就業訓練、就労相談など）
8. 子育てや介護など家庭内のケアに対する支援
9. 法律相談やカウンセリングなどの専門的な支援
10. 必要な情報がわかりやすく得られる仕組み
11. 支援を受けやすくするための周囲の理解や意識の向上
12. その他（_____）

◎ 男女共同参画社会の推進に関することについて

問20 あなたは、次の法律や名称を知っていますか。次の中からそれぞれ最も近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)	内容を 知っている	内容は 知らないが 聞いたことはある	聞いた ことはない
(1) 男女共同参画社会	1	2	3
(2) 育児・介護休業法	1	2	3
(3) 女性活躍推進法	1	2	3
(4) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV法)	1	2	3
(5) 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律 (女性支援新法)	1	2	3
(6) ジェンダー	1	2	3
(7) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	1	2	3
(8) 無意識な偏見（アンコンシャス・バイアス）	1	2	3
(9) 性的マイノリティ（LGBTQ）	1	2	3
(10) DV（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3
(11) おぢや男女共同参画プラン	1	2	3

問21 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、必要なことは何だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

1. 男女が共に、社会や組織を支える一員であるという認識を持つこと
2. 職場で、女性の能力や多様な視点を尊重すること
3. 性別にかかわらず、希望する職業に就ける社会にすること
4. 女性も政治の場、公的機関や企業などにおける方針決定の場へ進出すること
5. 女性も技能、技術、資格などの習得・取得により、能力を向上させること
6. 男女が共に経済的に自立すること
7. 仕事中心の生き方・考え方を改め、仕事と家庭生活のバランスがとれた生き方をすること
8. 男性が家事、子育て、介護などに積極的に参加すること
9. 家庭で、家事、子育て、介護などをどちらかに偏ることなく男女で分担すること
10. 女性の就業、社会進出を支援する制度やサービスの充実が図られること
11. 女性の社会進出、キャリアアップについて、周囲の理解と協力が得られること
12. 性別にとらわれず、お互いの特性や違いを理解し、尊重し合うこと
13. その他（ _____ ）
14. わからない

問22 あなたは、男女が互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にとらわれず、それぞれが個性や能力を発揮できる「男女共同参画社会」や、女性活躍を推進していくために、小千谷市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。

1. 審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用すること
2. 子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること
3. 学校教育や職場、地域などにおいて、男女共同参画の意識を育む学習を充実すること
4. 男女の平等や相互理解、多様な生き方に関する啓発や情報提供を行うこと
5. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援すること
6. 従来、男性が少なかった分野・職業、女性が少なかった分野・職業に男女が共に進出できるよう支援すること
7. 子育てや介護のためいったん仕事を辞めた人の再就職を支援すること
8. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援すること
9. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方の見直しを推進すること
10. 男性が家事、子育て、介護に参加しやすくなるよう、関心を高めるための啓発や情報提供、知識・技能を習得する機会を提供すること
11. 地域や団体で活躍できる女性リーダーの育成や能力向上の機会を提供すること
12. DVなどの暴力の防止や、相談・支援体制を充実すること
13. 生涯を通じた男女の健康について支援すること
14. 困難な悩みを抱える人に相談の場を提供するとともに、生活や就労の支援などを通じて自立を後押しすること
15. その他（ _____ ）
16. 特にない
17. わからない

- 男女共同参画社会に関する事で、ご意見、ご要望、ご提案などございましたら、自由にご記入ください。

以上でおわりです。ご協力ありがとうございました。



Copyright (C) 2011 Masao-Tanaka All Rights Reserved

2. 事業者アンケート調査票

認証ID：●●●●●●

男女共同参画に関する事業所調査 ご協力をお願い

日ごろ、市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

小千谷市では、男女が互いにその人権を尊重し、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を目指しています。

令和3年度に策定した「第5次おぢや男女共同参画プラン」が令和8年度で終了することから、令和8年度中に次期プランを策定する予定です。そこで、前期プランの目標達成度の確認と次期プラン策定の参考とするため、事業所における取組状況について調査を実施いたします。

この調査は、市内の事業所の中から100事業所を無作為に抽出させていただきました。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年10月

小千谷市長 宮崎悦男

—ご回答にあたってのお願い—

- ご回答いただいた内容は、本調査以外の目的に使用することは一切ありません。
- 回答は、貴事業所の代表者または人事担当者がお答えください。
- 各事業所単位で調査を行います。従業員数をお聞きする設問は、貴事業所のみでお答えください。
- 1つだけ選ぶ設問と複数選ぶ設問があります。また、設問によっては一部の方だけが対象となる設問もあります。案内にそってお答えください。
- 質問は全部で18問です。（回答に要する時間：10分～15分程度）

回答期限：11月14日（金）まで（当日消印有効）

【次のいずれかの方法によりご回答をお願いします】

①この調査票に直接記入して回答する場合

- ・ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
- ・設問に対する答えは、用意されている選択肢の番号を○で囲んでください。
- ・ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手はいりません）に入れご投函ください。

②パソコン・スマートフォンから回答する場合

- ・複数回答を防ぐため、右上にある6桁の認証IDを入力してください。
- ・Web回答をしていただいた場合は、調査票の返送は必要ありません。



←アクセスはこちら

専用WebサイトURL：<https://logoform.jp/form/zdEy/1205826>

調査についてご不明な点やご質問がありましたら、下記へお問い合わせください。

【お問い合わせ先】 小千谷市役所 市民生活課 市民係

〒947-8501 小千谷市城内2丁目7番5号

電話：0258 (83) 3509 E-mail：shimin@city.ojiya.niigata.jp

※令和7年10月1日現在の状況をお答えください。

◎ 貴事業所について

問1 貴事業所の主な事業内容は何ですか。

※総務省「日本標準産業分類」

1. 建設業	9. 学術研究、専門・技術サービス業
2. 製造業	10. 宿泊業、飲食サービス業
3. 電気、ガス、熱供給、水道業	11. 生活関連サービス業、娯楽業
4. 情報通信業	12. 教育、学習支援業
5. 運輸業、郵便業	13. 医療、福祉
6. 卸売業、小売業	14. 複合サービス業
7. 金融業、保険業	15. サービス業
8. 不動産業、物品賃貸業	16. その他（ _____ ）

問2 貴事業所の従業員数、※管理職は何人ですか。

この調査票が届いた所在地の事業所のみ状況をご記入ください。

	男性	女性	計
管理職	人	人	人
正規従業員	人 <small>（令和7年4月1日付採用）</small>	人 <small>（令和7年4月1日付採用）</small>	人 <small>（令和7年4月1日付採用）</small>
非正規従業員 （臨時、嘱託、パート等）	人	人	人
派遣（契約）社員	人	人	人

※管理職とは、部長、課長、係長などの、管理・監督的業務の従事者についてご記入ください。

◎ 女性の活躍推進に向けた取組について

問3 貴事業所では、女性が管理職に就くことについてどう考えていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 意欲と能力のある女性は、どんどん管理職に就いたほうがよい
2. 女性の多い職場であれば、管理職に就いたほうがよい
3. 現状では、管理職に就くだけの経験や能力を備えた女性が少ない
4. 管理職に適任な女性はいるが、本人が希望していない
5. 女性は、家事や子育て、介護などの負担も大きく、管理職に就くのは難しい
6. どちらかという、管理職は男性がよい
7. その他（ _____ ）

問4 女性従業員の活躍を推進するために、貴事業所ではどのような取組を行っていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 女性の活用に関する担当課・担当者を設けるなど、事業所内で推進体制を整備している
2. 女性の採用及び登用を積極的に行っている
3. 業務に必要な知識や能力、資格取得のための教育や研修を性別に関係なく実施している
4. 男女の固定的な役割分担の見直しなど職場環境の整備を行っている
5. 仕事と家庭を両立するための働き方や休暇制度等を整備し、活用を促進している
6. 会議・打ち合わせなどに積極的に参加させている
7. 配属については、性別にとらわれず配置している
8. 女性が働きやすい設備を整備している（トイレ、更衣室など）
9. 同一条件における男女の賃金格差を是正している
10. その他（_____）
11. 特に何もしていない

問5 貴事業所に限らず、一般的に職場における女性の活用を困難にしている要因は、どのようなところにあると思いますか。次の中から3つまでお選びください。

1. 結婚退職・出産退職などにより勤続年数が平均的に短い
2. 時間外労働や深夜労働をさせにくい
3. 女性自身が、昇進・昇格に消極的である
4. 男性側の認識や理解が十分でない
5. 経営者・管理職の意識の問題
6. 業務の内容によっては、女性に任せられない、あるいは女性には向いていないことが多い
7. 雇用条件・就労環境などを十分整備できない
8. 必要とする知識や経験を有する女性の人材が不足している
9. 家庭生活（家事、子育て、介護等）の負担を考慮する必要がある
10. 女性の活用を推進する方法がわからない
11. 顧客や取引先の理解が得られにくい
12. 特に困難な要因はない
13. その他（_____）

◎ 仕事と家庭の両立への支援について

問6 貴事業所の就業規則等に育児休業に関する規定はありますか。

1. ある ⇒問7へ
2. ない ⇒問8へ

問7 「問6で「1. ある」とお答えになった事業所におたずねします。」

貴事業所で、令和5年4月1日～令和7年3月31日の2年間に産した従業員、また育児休業を開始した従業員、産のために退職した従業員、復職状況について、下表の区分により人数をご記入ください。該当者がいない場合は「0」を記入してください。

産した従業員		人	配偶者が産した従業員		人
育児休業を取得した	正規従業員	人	育児休業を取得した	正規従業員	人
	非正規従業員	人		非正規従業員	人
産のために退職した	正規従業員	人	産のために退職した	正規従業員	人
	非正規従業員	人		非正規従業員	人
育児休業を終了し復職した	正規従業員	人	育児休業を終了し復職した	正規従業員	人
	非正規従業員	人		非正規従業員	人

問8 貴事業所では、育児を行う従業員のためにどのような支援を行っていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 短時間勤務制度
2. フレックスタイム制
3. 始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ
4. 時間外労働、深夜労働の制限
5. 育児休業中の従業員への経済的支援
6. 在宅勤務制度
7. 子の看護休暇制度
8. 勤務条件等に関して、育児をする従業員の希望を聞き入れている
9. その他 (_____)
10. 特になし

問9 貴事業所の就業規則等に介護休業に関する規定はありますか。

1. ある ⇒問10へ
2. ない ⇒問11へ

問10 [問9で「1. ある」とお答えになった事業所におたずねします。]

貴事業所で、令和5年4月1日～令和7年3月31日の2年間に介護休業を取得した従業員の人数をご記入ください。該当者がいない場合は「0」を記入してください。

女性従業員	人	男性従業員	人
正規従業員	人	正規従業員	人
非正規従業員	人	非正規従業員	人

問11 貴事業所では、介護を行う従業員のためにどのような支援を行っていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 短時間勤務制度
2. フレックスタイム制
3. 始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ
4. 時間外労働、深夜労働の制限
5. 介護休業中の従業員への経済的支援
6. 在宅勤務制度
7. 介護休暇制度
8. 勤務条件等に関して、介護をする従業員の希望を聞き入れている
9. その他 (_____)
10. 特にない

問12 育児休業制度や介護休業制度の活用を進めていくうえで、貴事業所の課題となることはどのようなことですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 休職中の代替要員や業務体制の確保
2. 代替要員の教育訓練の実施
3. 休職中の賃金補償
4. 復職時の受け入れ体制づくり
5. 制度を利用しやすい雰囲気づくり
6. 制度利用者・非利用者間の不公平感の是正
7. その他 (_____)
8. 特にない

問13 貴事業所ではワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組を行っていますか。

1. 積極的に取り組んでいる	} ⇒問14・問15・問16へ
2. 法律で義務付けられた内容のみ取り組んでいる	
3. 今後、取り組みたいと考えている	
4. 取り組むつもりはない	} ⇒問17へ
5. ワーク・ライフ・バランスについて知らない	
6. その他(_____)	

※ワーク・ライフ・バランス：仕事と生活の両立を目指し、どちらか一方に偏ることなく、バランスの取れた状態を維持すること

問14 [問13で「1. 積極的に取り組んでいる」「2. 法律で義務付けられた内容のみ取り組んでいる」「3. 今後、取り組みたいと考えている」とお答えになった事業所におたずねします] 次のワーク・ライフ・バランスの具体的な取り組み内容について、それぞれにあてはまるものを1つずつお選びください。

(○はそれぞれ1つずつ)	取り組んでいる	取り組んでいない	今後、取り組みたいと考えている
(1) フレックスタイム制	1	2	3
(2) リモートワーク制度	1	2	3
(3) ノー残業デーの設置	1	2	3
(4) 育児・介護に関する経済的支援	1	2	3
(5) 有給休暇の取得奨励	1	2	3
(6) 育休・介護休業の取得者に対する職場復帰支援	1	2	3
(7) 出産、子育て、介護のため離職した従業員の再雇用	1	2	3
(8) 管理職の意識改革のための研修	1	2	3
(9) 従業員の意識改革のための研修	1	2	3
(10) 子育てや介護を理由とした転勤の免除	1	2	3
(11) 事業所内保育室の整備	1	2	3
(12) その他(_____)			

問15 【問13で「1.積極的に取り組んでいる」「2.法律で義務付けられた内容のみ取り組んでいる」「3.今後、取り組みたいと考えている」とお答えになった事業所におたずねします】ワーク・ライフ・バランスを推進することで、どのようなメリットがあると考えますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 企業のイメージアップ
2. 優秀な人材が確保できる
3. 従業員が心身共に健康で、労働意欲が高まる
4. 従業員の生産性が向上する
5. 女性の活躍・登用につながり、女性従業員の意識や意欲が高まる
6. 職場に助け合う意識が生まれる
7. 従業員全体の意識改革が図れる
8. 男女が共に能力を発揮し、組織の活性化につながる
9. 職場内の体制を見直すことができ、業務の効率化が図れる
10. その他（_____）

問16 【問13で「1.積極的に取り組んでいる」「2.法律で義務付けられた内容のみ取り組んでいる」「3.今後、取り組みたいと考えている」とお答えになった事業所におたずねします】ワーク・ライフ・バランスを推進するために必要なことは何だと思えますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 経営者や管理職のリーダーシップ
2. 経営者や管理職の意識改革
3. 従業員の意識改革
4. 有給休暇取得の推進
5. 家庭生活と仕事の両立支援制度の充実
6. 仕事の効率化や業務内容の見直し
7. 休暇を取得しやすい雰囲気づくりなどの職場環境の改善
8. 相談窓口の設置
9. 時間外労働の削減
10. 保育や介護サービスの充実
11. フレックスタイム制や在宅勤務などの導入
12. その他（_____）



◎ 職場におけるハラスメントについて

問17 貴事業所では、職場におけるハラスメント（セクハラ・パワハラ等）の問題についてどのような取組を行っていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 就業規則等でハラスメント防止についての方針を明確にしている
2. 社内報やパンフレットなどの資料を配布、掲示し、従業員の意識啓発を図る
3. ハラスメント防止のための研修等を実施している
4. 相談・苦情窓口を設けている
5. 対応マニュアルを定めている
6. 実態を把握するための、社内アンケートなどの調査を実施している
7. 外部の専門職（弁護士・社労士等）との相談体制を整備している
8. 労働基準監督署やハローワーク等の公的相談機関との連携体制を整えている
9. その他（ _____ ）
10. 特にない

◎ 男女共同参画社会の推進に関することについて

問18 男女が共に活躍できる職場づくりを行ううえで、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 広報誌やパンフレットなどによる、男女の平等と相互の理解や協力についてのPR
2. 保育園、学童保育の施設や子育て支援制度の充実
3. 介護施設や介護サービスの充実
4. 法律や制度、女性の能力活用の方法等についての情報提供や相談窓口の充実
5. 職場における無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）の解消に向けた研修や啓発
6. 事業所が行う男女平等意識の研修会への講師派遣
7. 出産、子育て、介護等を機に離職した人への復職や再就職の支援
8. 男性の子育てや介護への参画を促進するための制度や意識啓発
9. 女性の活用や、従業員の仕事と家庭の両立などに積極的に取り組んでいる事業所の事例紹介
10. 出産・育児に関する代替社員や福利厚生に関する経済的支援
11. その他（ _____ ）

- 男女共同参画社会に関する事で、ご意見、ご要望、ご提案などございましたら、自由にご記入ください。

以上でおわりです。ご協力ありがとうございました。



Copyright (C) 2011 Masao-Tanaka All Rights Reserved

令和7年度
男女共同参画に関する市民・事業所意識調査報告書

令和8年3月発行

小千谷市市民生活課

〒947 - 8501小千谷市城内2丁目7番5号

電話番号 (0258) 83-3509

E-mail : shimin@city.ojiya.niigata.jp
